

# 金井下新田遺跡

《7・8・9区》

一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2022

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 金井下新田遺跡

《7・8・9区》

一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 序

一般国道17号(渋川西バイパス)は渋川市街地の西側に位置し、上信自動車道の一部を構成する道路です。

上信自動車道は渋川西バイパスを起点区間とし、長野県に至る地域の連携強化、活性化等を担う広域ネットワークを形成する地域高規格道路として建設が進んでいます。

渋川西バイパスに連続する金井バイパス建設工事に伴い平成26年度に調査された金井下新田遺跡は、榛名山の噴火に被災した古墳人や馬をはじめとした古墳時代の重要遺構が発見され、全国的に注目を集めました。

今回報告する金井下新田遺跡はその西側の区画であり、同じく榛名山の火山噴出物に覆われた古墳時代の遺構群が発見されました。これらの調査成果は、「甲を着た古墳人」が発見された金井東裏遺跡やすでに調査された金井下新田遺跡と一体のものであることから、“金井遺跡群”として古墳社会の実像を解明するための貴重な遺跡情報が得られることになりました。

本報告書の刊行に至るまでは国土交通省、群馬県、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会および周辺地域の皆さま方に多大なるご尽力、ご協力を賜りました。ここに深く感謝を申し上げます。

この調査成果が、より具体的な古墳時代像の解明に寄与するとともに、人間社会と自然災害の関係を考える歴史資料として広く活用されることを願いまして序といたします。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正



## 例　　言

- 1 本書は、一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴う金井下新田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は下記の通りである。  
群馬県渋川市金井字下新田1639-3、1643-1、1644-5、1644-6、1655-4、1655-5
- 3 事業主体 国土交通省関東地方整備局
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

平成30年度

調査期間 平成30年11月1日～平成31年3月31日

(履行期間 平成30年10月1日～平成31年3月31日)

発掘担当者 上席調査研究員 新井 仁　主任調査研究員 須田正久 佐藤賢一 宮下 寛

専門調査役 間庭 稔

遺跡掘削工事請負 株式会社測研

地上測量委託 技研コンサル株式会社 空中写真撮影委託 技研コンサル株式会社

平成31（令和元）年度

調査期間 平成31年4月1日～令和元年7月31日

(履行期間 平成31年4月1日～令和元年9月30日)

発掘担当者 上席調査研究員 須田正久 専門員 鈴木佑太郎

遺跡掘削工事請負 株式会社測研

地上測量委託 技研コンサル株式会社 空中写真撮影委託 技研コンサル株式会社

- 6 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

(履行期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日)

整理担当者 専門員 鈴木佑太郎 専門調査役 原 雅信

遺物写真撮影 (土器・土製品)専門員 鈴木佑太郎

(石器・石製品)専門調査役 岩崎泰一

遺物保存処理 専門員(主任) 板垣泰之

遺物洗浄・注記業務委託 スナガ環境調査株式会社

テフラ分析委託 株式会社火山灰考古学研究所

畠耕作土の自然科学分析委託 パリノ・サーヴェイ株式会社

炭化材・種実同定委託 株式会社古環境研究所

動物遺体同定分析委託 株式会社古環境研究所

赤色顔料分析委託 株式会社古環境研究所

灰・土壤の自然科学分析委託 株式会社古環境研究所

- 7 出土石製品の石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。

- 8 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 専門員 鈴木佑太郎 専門調査役 原 雅信

- 執筆 専門員 鈴木佑太郎(本文:第4章第10節1(8~11号竪穴建物)、第11節1(12~15号竪穴建物)、第12節1、第13節、第14節)  
藤野一之(第5章第1節)  
専門調査役 原雅信(本文:上記以外、第5章第2節1は飯田陽一と共同執筆)  
専門調査役 大木伸一郎(遺物観察表:弥生土器)  
専門調査役 神谷佳明(遺物観察表:土師器、須恵器)  
専門調査役 岩崎泰一(遺物観察表:石器、石製品)  
専門員(主任) 板垣泰之(遺物観察表:金属製品)
- 9 須恵器については、駒澤大学藤野一之先生にご指導を得ると共に、総括として論考(第5章第1節)を執筆して頂いた。
- 10 古墳時代の遺物整理については、当事業団調査研究アドバイザー飯田陽一に指導・助言を得た。
- 11 発掘調査に伴う記録保存資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 12 発掘調査および報告書作成に際しては、下記の方々・機関にご協力・ご指導いただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不動)
- 国土交通省、群馬県、群馬県教育委員会、渋川市、渋川市教育委員会、群馬県立歴史博物館  
右島和夫、村上恭通、若井明彦、藤野一之、笹澤泰史、飯田陽一

## 凡　例

- 1 本文中に使用した座標・方位はすべて国家座標「世界測地系(測地成果2000／平面直角座標第IX系)」である。また座標北と真北との偏差は調査区中央付近のX=29,100、Y=-76,200で東偏0° 30' 05.61"である。
- 2 遺構挿図中に+と数値を併せて座標値を表した。数値は国家座標値X・Y値の下3桁を用いて表記している。
- 3 遺構の種別および遺構番号は、混乱を避けるため調査時の番号を踏襲することを原則とした。
- 4 遺構断面図に記した数値は、標高(単位:m)を表した。
- 5 遺構図・遺物図の縮率は原則として以下の通りとし、各挿図にスケールを添えた。
- 遺構図 竪穴建物1:60　　掘立柱建物1:60　　平地建物1:60  
　　炉・竈1:30　　溝1:100　　土坑1:40　　墓1:80
- 遺物図 土器1:3(一部1:4)　　銭貨1:1  
　　石製模造品1:2　　白玉1:1　　石器・石製品1:3
- 6 遺物写真是遺物図とおおよそ同縮率となるようにした。
- 7 遺構図内で使用したトーン・記号については各挿図内に凡例を加えた。
- 8 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○° - E、西に傾いた場合はN-○° - Wと表記した。
- 9 住居等の床面積は、デジタルプランニメーターにより1/20縮小打ち出し図上で3回計測し、その平均値を記した。
- 10 本書で掲載した地図は以下の通りである。
- 国土地理院地形図1:25,000 「下室田」(平成14年5月1日発行)、「伊香保」(平成14年9月1日発行)  
国土地理院地形図1:50,000 「榛名山」(平成10年3月1日発行)、「前橋」(平成10年3月1日発行)

# 目 次

## 序

例言

凡例

目次

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯 ······ 1

### 第2節 調査の経過 ······ 2

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境 ······ 4

### 第2節 歴史的環境 ······ 8

## 第3章 調査の方法

### 第1節 基本土層と遺構確認面

#### 1. 基本土層 ······ 21

#### 2. 遺構確認面 ······ 23

#### 3. Hr-FAの降下年代について ······ 25

### 第2節 調査の概要と記録の方法 ······ 25

### 第3節 整理作業の方法と経過 ······ 27

## 第4章 出土した遺構と遺物

### 第1節 遺構確認面の概要 ······ 28

### 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

#### 1. 土坑 ······ 32

#### 2. 挖立柱建物 ······ 60

#### 3. ピット ······ 60

#### 4. 溝 ······ 62

#### 5. 道 ······ 67

#### 6. 烟 ······ 68

#### 7. 遺構外の遺物 ······ 69

### 第3節 第2面(Hr-FP下面)の調査内容

#### 1. 焼土 ······ 70

#### 2. 道 ······ 70

#### 3. 馬蹄跡 ······ 72

### 第4節 第3面(Hr-FA/S<sub>0</sub>面)の調査内容 ······ 81

### 第5節 第4面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査内容 ······ 81

### 第6節 第5面(Hr-FA/S<sub>2</sub>面)の調査内容

#### 1. 衝撃痕 ······ 81

#### 2. 倒木痕 ······ 90

### 第7節 第6面(Hr-FA/S<sub>3</sub>面)の調査内容

#### 1. 人足跡 ······ 91

#### 2. 馬蹄跡 ······ 91

### 第8節 第7面(Hr-FA/S<sub>4</sub>面)の調査内容 ······ 96

### 第9節 第8面(Hr-FA/S<sub>5</sub>下面)の調査内容

#### 1. 祭祀 ······ 100

#### 2. ピット ······ 116

#### 3. 畠 ······ 116

#### 4. 遺物集中 ······ 119

#### 5. 焼土 ······ 119

### 第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容

#### 1. 積穴建物 ······ 121

#### 2. 土坑 ······ 167

#### 3. 遺物集中 ······ 169

#### 4. 焼土 ······ 174

#### 5. 遺構外の遺物 ······ 175

### 第11節 第10面(黒色土2面)の調査内容

#### 1. 積穴建物 ······ 178

#### 2. 挖立柱建物 ······ 200

#### 3. 平地建物 ······ 201

#### 4. 土坑 ······ 204

#### 5. ピット ······ 205

#### 6. 集石 ······ 205

#### 7. 焼土 ······ 208

### 第12節 第11面(黒褐色土面)の調査内容

#### 1. 積穴建物 ······ 209

#### 2. 土坑 ······ 209

#### 3. ピット ······ 212

#### 4. 溝 ······ 214

### 第13節 鉄滓関連

#### 1. 調査の経緯 ······ 215

#### 2. 出土状況 ······ 215

#### 3. 遺物の概要 ······ 215

## 第14節 繩文・弥生時代の遺物

1. 繩文時代	217
2. 弥生時代	224

## 第5章 総括

### 第1節 金井下新田遺跡7区出土の須恵器の様相

駒澤大学 藤野一之

1. 出土遺構と器種構成	225
2. 編年の位置づけ	226
3. 須恵器の生産地	227
4. 須恵器の遺構間接合	227

### 第2節 金井下新田遺跡7区の調査成果

原 雅信 飯田陽一

1. 古墳時代集落の変遷について	231
2. 第8面(Hr-FA埋没面)の遺構について	241

遺構一覧表	248
人足跡・馬蹄跡計測表	252
遺物観察表	263

## 第6章 自然科学分析

1. 火山灰分析	293
2. 畠耕作土の自然科学分析	297
3. 炭化材・炭化種実同定	305
4. 動物遺体同定分析	311
5. 赤色顔料分析	313
6. 灰・土壤の自然科学的分析	315

## 挿図目次

第1図 一般国道17号渋川西バイパスと金井下新田道路	1
第2図 金井下新田遺跡の発掘区	3
第3図 金井下新田遺跡の位置	4
第4図 駒澤県の地形図	5
第5図 標高名・赤城山周辺の等高線図	7
第6図 標高名・赤城山周辺の地質図	9
第7図 金井下新田遺跡周辺の等高線図	10
第8図 金井下新田遺跡周辺の地形図	11
第9図 金井下新田遺跡周辺道路分布図(古墳時代前期～Hr-FA下面)	13
第10図 金井下新田遺跡周辺道路分布図(Hr-FA上面～7世紀)	16
第11図 金井下新田遺跡の基本土層	22
第12図 第1面全体	33
第13図 第1面上坑分布図(a類、b類)	34
第14図 第1面上坑分布図(c類、d類)	35
第15図 7区1～9号土坑平面図	38
第16図 7区10～18号土坑平面図	41
第17図 7区19～27号土坑平面図	43
第18図 7区37～44・46～51号土坑平面図	46
第19図 7区52～59・61号土坑平面図	48
第20図 7区62～70号土坑平面図	51
第21図 7区71号土坑・17～19号土坑平面図	52
第22図 8区1号土坑・9区1～10号土坑平面図	54
第23図 9区11～23号土坑平面図	57
第24図 9区24～34号土坑平面図	59
第25図 9区35号掘立柱建物平面図	61
第26図 7区1・2・5号溝平面図	63
第27図 7区3・4・7号溝平面図	65
第28図 7区8～14号溝平面図	66
第29図 8区1号溝平面図	67
第30図 8区1号道・9区1号道平面図	68
第31図 8区1号烟平面図	69
第32図 7区第1面遺構外出土遺物図	69
第33図 7区1号土綱平面図	70
第34図 第2面全体図	71
第35図 第2面調査状況	72
第36図 7区1～3号道平面図	(折込)
第37図 7区1～3号道断面図	75
第38図 7区馬蹄跡全体図	76
第39図 7区馬蹄跡全体図(1)	(折込)
第40図 7区馬蹄跡全体図(2)	(折込)
第41図 第3面全体図	82
第42図 第4面全体図	83
第43図 第5面全体図	84
第44図 7区衝撃痕全体図	85
第45図 7区1～8・10号線状衝撃痕平面図	86
第46図 7区9・11～15・17号線状衝撃痕平面図	87
第47図 7区19号溝状衝撃痕・20～22号線状衝撃痕平面図	88
第48図 7区23号線状衝撃痕・1～5号円状衝撃痕平面図	89
第49図 7区1号倒木痕平面図・出土遺物図	90
第50図 第6面全体図	92
第51図 7区人足跡・馬蹄跡全体図	93
第52図 7区人足跡全体図	94
第53図 7区3・4・6・9・12・14・16・18号人足跡平面図	95
第54図 7区153～155・241・563・564・573・576・578～580・582・583・627・629・633～637・641号馬蹄跡平面図	96
第55図 7区馬蹄跡全体図	(折込)
第56図 第7面全体図	99
第57図 第8面全体図	101
第58図 7区1号祭祀出土遺物図(1)	102
第59図 7区1号祭祀出土遺物図(2)	103
第60図 7区1号祭祀出土遺物図(3)	104

第61回	7区1号祭祀出土上遺物図(4) ······	105	第1277回	第10全体図 ······	179
第62回	7区1号祭祀出土上遺物図(5) ······	106	第1280回	7区5号祭祀建物平面図(1) ······	180
第63回	7区1号祭祀出土上遺物図(6) ······	107	第1298回	7区5号祭祀建物平面図(2) ······	181
第64回	7区1号祭祀出土上遺物図(7) ······	108	第1308回	7区5号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	182
第65回	7区1号祭祀出土上遺物図(8) ······	109	第1318回	7区5号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	183
第66回	7区1号祭祀出土上遺物図(9) ······	110	第1328回	7区6号祭祀建物平面図 ······	184
第67回	7区1号祭祀平面図(1) ······	(折込)	第1338回	7区6号祭祀建物掘方平面図 ······	185
第68回	7区1号祭祀平面図(2) ······	(折込)	第1348回	7区6号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	186
第69回	白玉分類図 ······	115	第1358回	7区6号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	187
第70回	7区1号ビット平断面図 ······	116	第1368回	7区12号祭祀建物平面図 ······	189
第71回	7区1号高平断面図 ······	117	第1378回	7区12号祭祀建物炉平断面図 ······	189
第72回	7区1号崩出土遺物図 ······	118	第1388回	7区12号祭祀建物設計図 ······	190
第73回	7区5号遺物集中平面図、出土遺物図 ······	119	第1398回	7区12号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	191
第74回	7区3~7号堆土平断面図、5号焼土出土遺物図 ······	120	第1408回	7区12号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	192
第75回	第9面全休復 ······	122	第1418回	7区13号祭祀建物平面図、出土遺物図 ······	193
第76回	7区1号祭祀建物平面図(1) ······	123	第1428回	7区14号祭祀建物平面図 ······	194
第77回	7区1号祭祀建物平面図(2) ······	124	第1438回	7区14号祭祀建物壠平断面図 ······	194
第78回	7区1号祭祀建物断面図 ······	125	第1448回	7区14号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	195
第79回	7区1号祭祀建物断面図 ······	126	第1458回	7区14号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	196
第80回	7区1号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	127	第1468回	7区14号祭祀建物出土上遺物図(3) ······	197
第81回	7区2号祭祀建物平断面図(1) ······	129	第1478回	7区15号祭祀建物平面図 ······	198
第82回	7区2号祭祀建物平断面図(2) ······	130	第1488回	7区15号祭祀建物壠平断面図 ······	199
第83回	7区2号祭祀建物出土上遺物図 ······	131	第1498回	7区15号祭祀建物出土上遺物図 ······	200
第84回	7区3号祭祀建物平断面図 ······	133	第1508回	7区1号掘立柱建物平面図、出土遺物図 ······	202
第85回	7区3号祭祀建物掘方平面図 ······	134	第1518回	7区1号地盤建物平面図 ······	203
第86回	7区3号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	135	第1528回	7区1号地盤建物出土上遺物図 ······	204
第87回	7区3号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	136	第1538回	7区28~29・35・36・45号土坑、 12~24号ビット平断面図、29号土坑出土上遺物図 ······	206
第88回	7区4号祭祀建物平面図 ······	139	第1548回	7区1号石臼平断面図 ······	207
第89回	7区4号祭祀建物掘方平面図 ······	140	第1558回	7区4号石臼平断面図、出土遺物図 ······	208
第90回	7区4号祭祀建物壠平断面図 ······	140	第1568回	第11面全休復 ······	210
第91回	7区4号祭祀建物断面図 ······	141	第1578回	7区7号祭祀建物平面図 ······	211
第92回	7区4号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	142	第1588回	7区7号祭祀建物炉平断面図 ······	211
第93回	7区4号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	143	第1598回	7区7号祭祀建物出土上遺物図 ······	212
第94回	7区8号祭祀建物平面図 ······	144	第1608回	7区46~48号土坑、13・16・23号ビット平断面図 ······	213
第95回	7区8号祭祀建物断面図(1) ······	145	第1618回	7区6号祭祀平断面図 ······	214
第96回	7区8号祭祀建物壠平断面図 ······	146	第1628回	鉄津類の火祭、観察作業の状況 ······	215
第97回	7区8号祭祀建物断面図(2) ······	147	第1638回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(1) ······	217
第98回	7区8号祭祀建物掘方平面図 ······	148	第1648回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(2) ······	218
第99回	7区8号祭祀建物計測図 ······	149	第1658回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(3) ······	219
第100回	7区8号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	150	第1668回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(4) ······	220
第101回	7区8号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	151	第1678回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(5) ······	221
第102回	7区8号祭祀建物出土上遺物図(3) ······	152	第1688回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(6) ······	222
第103回	7区9号祭祀建物平断面図 ······	154	第1698回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(7) ······	223
第104回	7区9号祭祀建物断面図 ······	155	第1708回	7区縄文・弥生時代出土上遺物図(8) ······	224
第105回	7区9号祭祀建物平面図 ······	156	第1711回	金井下新道跡出土の高環形器台 ······	226
第106回	7区9号祭祀建物計測図 ······	157	第1728回	遺構間接合関係図 ······	229
第107回	7区9号祭祀建物出土上遺物図(1) ······	158	第1738回	1・2・3~1段階の土器 ······	233
第108回	7区9号祭祀建物出土上遺物図(2) ······	159	第1748回	3~2・5段階の土器 ······	234
第109回	7区10号祭祀建物平断面図 ······	161	第1758回	1段階の遺構分布(1~7区) ······	235
第110回	7区10号祭祀建物壠平断面図 ······	162	第1768回	2段階の遺構分布(1~7区) ······	236
第111回	7区10号祭祀建物出土上遺物図 ······	163	第1778回	3~1段階の遺構分布(1~7区) ······	237
第112回	7区11号祭祀建物平断面図 ······	164	第1788回	3~2段階の遺構分布(1~7区) ······	238
第113回	7区11号祭祀建物掘方平断面図 ······	165	第1798回	4段階の遺構分布(1~7区) ······	239
第114回	7区11号祭祀建物電平断面図 ······	165	第1808回	5段階の遺構分布(1~7区) ······	240
第115回	7区11号祭祀建物計測図 ······	166	第1818回	7区8面5号遺物集中(南西から) ······	241
第116回	7区11号祭祀建物出土上遺物図 ······	166	第1828回	7区1号祭祀・5区4号遺構 ······	242
第117回	7区30~34・72号土坑平断面図、31号土坑出土上遺物図 ······	168	第1838回	寄斎島の検出状況 ······	245
第118回	7区1号遺物集中平面図、出土上遺物図 ······	169	第1848回	里芋島(伊勢崎市北千町) ······	246
第119回	7区2号遺物集中平面図、出土上遺物図(1) ······	170	第1858回	寄斎島 ······	247
第120回	7区2号遺物集中出土上遺物図(2) ······	171			
第121回	7区3号遺物集中平面図、出土上遺物図(1) ······	172			
第122回	7区3号遺物集中出土上遺物図(2) ······	173			
第123回	7区4号遺物集中平面図、出土上遺物図 ······	174			
第124回	7区2~3号焼土平断面図、出土上遺物図 ······	175			
第125回	7区遺構出土上遺物図(1) ······	176			
第126回	7区遺構出土上遺物図(2) ······	177			

# 表 目 次

第1表 金井下新田道跡西面遺跡一覧表・・・・・・・・	18
第2表 金井下新田道路7~9Km 道構成表・・・・・・・・	27
第3表 跡溝・窓・計測表・・・・・・・・	216
第4表 道構接合が確認された須恵器	228
第5表 道構一覧表・・・・・・・・	248
第6表 第2回馬蹄跡	252
第7表 第6面人足跡・馬蹄跡	257
第8表 遺物觀察表・・・・・・・・	263

13. 7区第1面15号土坑上層断面(東から)	
14. 7区第1面15号土坑全貌(東から)	
15. 7区第1面16号土坑上層断面(東から)	
P.L. 7 1. 7区第1面16号土坑全貌(東から)	
2. 7区第1面17号土坑上層断面(北東から)	
3. 7区第1面18号土坑全貌(東から)	
4. 7区第1面18号土坑上層断面(南東から)	
5. 7区第1面18号土坑全貌(東から)	
6. 7区第1面19号土坑上層断面(北東から)	
7. 7区第1面19号土坑全貌(北東から)	
8. 7区第1面20号土坑上層断面(南東から)	
9. 7区第1面20号土坑遺物出土状況(南東から)	
10. 7区第1面20号土坑全貌(南東から)	
11. 7区第1面21号土坑全貌(西から)	
12. 7区第1面22号土坑上層断面(南東から)	
13. 7区第1面22号土坑全貌(東から)	
14. 7区第1面23号土坑上層断面(南から)	
15. 7区第1面24号土坑全貌(北から)	

# 写 真 目 次

P.L. 1 1. 遺跡遠景(南西上空から望む)	
2. 7区第1面上空から望む(北半部)	
3. 7区第1面上空から望む(南半部)	
4. 7区第2面上空から望む(北半部)	
5. 7区第2面上空から望む(南半部)	
P.L. 2 1. 7区第6面人足跡・馬蹄跡全景(上空からが北合成立写真)	
P.L. 3 1. 7区第6面上空から望む(北半部)	
2. 7区第6面上空から望む(南半部)	
3. 7区第6面南西から望む(南半部)	
4. 7区第6面北東から望む(南半部)	
5. 7区第6面上空から望む(北半部)	
6. 7区第6面上空から望む(北半部)	
7. 7区第6面北西から望む(南半部)	
8. 7区第6面馬蹄跡の状況(北半部)	
P.L. 4 1. 7区第5面上空から望む(北半部)	
2. 7区第5面南側から望む(北半部)	
3. 7区第8面上空から望む(北半部)	
4. 8区第1面・7区第9面南から望む	
5. 7区第9面上空から望む(北半部)	
6. 7区第9面上空から望む(南半部)	
7. 7区第9面南から望む(北半部)	
8. 7区第9面北から望む(南半部)	
P.L. 5 1. 7区第1面1号土坑上層断面(北西から)	
2. 7区第1面1号土坑全貌(北西から)	
3. 7区第1面3・2号土坑上層断面(南西から)	
4. 7区第1面2号土坑全貌(南西から)	
5. 7区第1面3号土坑全貌(南西から)	
6. 7区第1面4号土坑上層断面(南西から)	
7. 7区第1面4号土坑全貌(東から)	
8. 7区第1面5号土坑上層断面(北東から)	
9. 7区第1面5号土坑全貌(北東から)	
10. 7区第1面6号土坑上層断面(北西から)	
11. 7区第1面6号土坑全貌(東から)	
12. 7区第1面7号土坑上層断面(北西から)	
13. 7区第1面7号土坑全貌(東から)	
14. 7区第1面8号土坑上層断面(南東から)	
15. 7区第1面8号土坑全貌(東から)	
P.L. 6 1. 7区第1面9号土坑上層断面(南西から)	
2. 7区第1面9号土坑全貌(南から)	
3. 7区第1面10号土坑上層断面(南西から)	
4. 7区第1面10号土坑全貌(南東から)	
5. 7区第1面11号土坑上層断面(西から)	
6. 7区第1面11号土坑全貌(東から)	
7. 7区第1面12号土坑上層断面(西から)	
8. 7区第1面12号土坑全貌(東から)	
9. 7区第1面13号土坑上層断面(北東から)	
10. 7区第1面13号土坑全貌(東から)	
11. 7区第1面14号土坑上層断面(東から)	
12. 7区第1面14号土坑全貌(東から)	

P.L. 8 1. 7区第1面25号土坑上層断面(北東から)	
2. 7区第1面25号土坑全貌(北東から)	
3. 7区第1面26号土坑全貌(南から)	
4. 7区第1面27号土坑上層断面(東から)	
5. 7区第1面27号土坑全貌(北から)	
6. 7区第1面37号土坑上層断面(南東から)	
7. 7区第1面37号土坑全貌(南東から)	
8. 7区第1面38号土坑上層断面(南東から)	
9. 7区第1面38号土坑全貌(南東から)	
10. 7区第1面39号土坑上層断面(南東から)	
11. 7区第1面39号土坑全貌(南東から)	
12. 7区第1面40号土坑上層断面(南から)	
13. 7区第1面40号土坑全貌(南から)	
14. 7区第1面41号土坑上層断面(南から)	
15. 7区第1面41号土坑全貌(南から)	
P.L. 9 1. 7区第1面42号土坑上層断面(南から)	
2. 7区第1面42号土坑全貌(南から)	
3. 7区第1面43号土坑上層断面(南東から)	
4. 7区第1面43号土坑全貌(南東から)	
5. 7区第1面44号土坑上層断面(南西から)	
6. 7区第1面49号土坑上層断面(南から)	
7. 7区第1面49号土坑全貌(東から)	
8. 7区第1面50号土坑全貌(西から)	
9. 7区第1面51号土坑上層断面(北東から)	
10. 7区第1面51号土坑全貌(北東から)	
11. 7区第1面52号土坑全貌(南西から)	
12. 7区第1面53号土坑上層断面(東から)	
13. 7区第1面53号土坑全貌(南西から)	
14. 7区第1面54号土坑上層断面(南東から)	
15. 7区第1面55号土坑上層断面(南東から)	
P.L. 10 1. 7区第1面54・55号土坑全貌(南西から)	
2. 7区第1面56号土坑上層断面(東から)	
3. 7区第1面56号土坑全貌(東から)	
4. 7区第1面57号土坑上層断面(東から)	
5. 7区第1面57号土坑全貌(東から)	
6. 7区第1面58号土坑上層断面(東から)	
7. 7区第1面58号土坑全貌(西から)	
8. 7区第1面59号土坑上層断面(南から)	
9. 7区第1面59号土坑全貌(北から)	
10. 7区第1面61号土坑上層断面(東から)	
11. 7区第1面61号土坑全貌(東から)	
12. 7区第1面62号土坑上層断面(北から)	
13. 7区第1面62号土坑全貌(北から)	
14. 7区第1面63号土坑上層断面(南から)	
15. 7区第1面63号土坑全貌(北から)	

P.L. 11 1. 7区第1面64号土坑上層断面(東から)	
2. 7区第1面64号土坑全貌(東から)	
3. 7区第1面65号土坑上層断面(南東から)	

4. 7区第1面65号土坑全景(南東から)  
 5. 7区第1面66号土坑上層断面(東から)  
 6. 7区第1面66号土坑全景(西から)  
 7. 7区第1面67・68号土坑上層断面(南東から)  
 8. 7区第1面67号土坑上層断面(南東から)  
 9. 7区第1面68号土坑上層断面(南東から)  
 10. 7区第1面67・68号土坑全景(北東から)  
 11. 7区第1面69号土坑上層断面(北東から)  
 12. 7区第1面69号土坑全景(北東から)  
 13. 7区第1面70号土坑上層断面(南東から)  
 14. 7区第1面70号土坑全景(北西から)  
 15. 7区第1面71号土坑全景(西から)
- P L. 12 1. 8区第1面1号土坑上層断面(東から)  
 2. 8区第1面1号土坑全景(北から)  
 3. 9区第1面1号土坑全景(東から)  
 4. 9区第1面2号土坑上層断面(北東から)  
 5. 9区第1面2号土坑全景(北東から)  
 6. 9区第1面3号土坑上層断面(南西から)  
 7. 9区第1面3号土坑全景(南西から)  
 8. 9区第1面4号土坑上層断面(北東から)  
 9. 9区第1面4号土坑全景(北東から)  
 10. 9区第1面5号土坑上層断面(東から)  
 11. 9区第1面5号土坑全景(東から)  
 12. 9区第1面6号土坑上層断面(東から)  
 13. 9区第1面6号土坑全景(東から)  
 14. 9区第1面7号土坑上層断面(北東から)  
 15. 9区第1面7号土坑全景(北東から)
- P L. 13 1. 9区第1面8号土坑上層断面(東から)  
 2. 9区第1面8号土坑全景(東から)  
 3. 9区第1面9号土坑上層断面(東から)  
 4. 9区第1面10号土坑上層断面(東から)  
 5. 9区第1面8～11号土坑全景(東から)  
 6. 9区第1面12号土坑上層断面(北西から)  
 7. 9区第1面12号土坑全景(北東から)  
 8. 9区第1面13号土坑上層断面(東から)  
 9. 9区第1面13号土坑全景(東から)  
 10. 9区第1面14号土坑全景(東から)  
 11. 9区第1面15号土坑上層断面(東から)  
 12. 9区第1面15号土坑全景(東から)  
 13. 9区第1面16号土坑上層断面(南東から)  
 14. 9区第1面16号土坑全景(東から)  
 15. 9区第1面17号土坑全景(東から)
- P L. 14 1. 9区第1面18号土坑上層断面(北西から)  
 2. 9区第1面18号土坑全景(東から)  
 3. 9区第1面19号土坑全景(東から)  
 4. 9区第1面20号土坑上層断面(南から)  
 5. 9区第1面20号土坑全景(南東から)  
 6. 9区第1面21号土坑上層断面(南から)  
 7. 9区第1面21号土坑全景(南から)  
 8. 9区第1面22号土坑上層断面(南から)  
 9. 9区第1面22号土坑全景(南から)  
 10. 9区第1面23号土坑上層断面(北東から)  
 11. 9区第1面23号土坑全景(東から)  
 12. 9区第1面24号土坑全景(北東から)  
 13. 9区第1面25号土坑全景(東から)  
 14. 9区第1面26号土坑上層断面(南西から)  
 15. 9区第1面26号土坑全景(南西から)
- P L. 15 1. 9区第1面27号土坑全景(南から)  
 2. 9区第1面28号土坑全景(西から)  
 3. 9区第1面29号土坑上層断面(南から)  
 4. 9区第1面29号土坑全景(南から)  
 5. 9区第1面30号土坑上層断面(西から)  
 6. 9区第1面30号土坑全景(東から)  
 7. 9区第1面31号土坑全景(南から)  
 8. 9区第1面32号土坑上層断面(東から)  
 9. 9区第1面32号土坑全景(東から)
- P L. 16 1. 7区第9面30号土坑上層断面(北から)  
 2. 7区第9面30号土坑全景(東から)  
 3. 7区第9面31号土坑上層断面(北東から)  
 4. 7区第9面31号土坑全景(東から)  
 5. 7区第9面32号土坑上層断面(東から)  
 6. 7区第9面32号土坑全景(東から)  
 7. 7区第9面33号土坑上層断面(北東から)  
 8. 7区第9面33号土坑全景(北から)  
 9. 7区第9面34号土坑上層断面(西から)  
 10. 7区第9面34号土坑全景(東から)  
 11. 7区第9面72号土坑上層断面(北東から)  
 12. 7区第9面72号土坑全景(北東から)  
 13. 7区第10面28号土坑上層断面(南東から)  
 14. 7区第10面28号土坑全景(北東から)  
 15. 7区第10面29号土坑上層断面(東から)
- P L. 17 1. 7区第10面29号土坑全景(南から)  
 2. 7区第10面35号土坑上層断面(南東から)  
 3. 7区第10面35号土坑全景(南東から)  
 4. 7区第10面36号土坑上層断面(南東から)  
 5. 7区第10面36号土坑全景(南東から)  
 6. 7区第10面45号土坑上層断面(南西から)  
 7. 7区第10面45号土坑全景(南西から)  
 8. 7区第11面46号土坑上層断面(北東から)  
 9. 7区第11面46号土坑全景(北東から)  
 10. 7区第11面47号土坑上層断面(南から)  
 11. 7区第11面47号土坑全景(南から)  
 12. 7区第11面48号土坑上層断面(北から)  
 13. 7区第11面48号土坑全景(北から)  
 14. 7区第11面73号土坑上層断面(北東から)  
 15. 7区第11面73号土坑全景(北東から)
- P L. 18 1. 7区1号堅穴建物全景(北西から)  
 2. 7区1号堅穴建物掘出1状況(北西から)  
 3. 7区1号堅穴建物掘方(北西から)  
 4. 7区1号堅穴建物S被覆状況  
 5. 7区1号堅穴建物埋没上層(南東から)
- P L. 19 1. 7区1号堅穴建物 P 1上層断面(北西から)  
 2. 7区1号堅穴建物 P 1全景(南東から)  
 3. 7区1号堅穴建物 P 2上層断面(北西から)  
 4. 7区1号堅穴建物 P 2上層断面(南東から)  
 5. 7区1号堅穴建物 P 3上層断面(北西から)  
 6. 7区1号堅穴建物 P 3全層(南東から)  
 7. 7区1号堅穴建物 P 4上層断面(南から)  
 8. 7区1号堅穴建物 P 4全層(南から)  
 9. 7区1号堅穴建物 P 5上層断面(南から)  
 10. 7区1号堅穴建物 P 5全層(南から)  
 11. 7区1号堅穴建物 P 6上層断面(南から)  
 12. 7区1号堅穴建物 P 6全層(南から)  
 13. 7区1号堅穴建物 P 7上層断面(南から)  
 14. 7区1号堅穴建物 P 7全層(南から)  
 15. 7区1号堅穴建物遺物出土状況(西から)
- P L. 20 1. 7区2号堅穴建物遺物出土状況(北西から)  
 2. 7区2号堅穴建物焼上焼出状況(北東から)  
 3. 7区2号堅穴建物焼上焼出状況(北西から)  
 4. 7区2号堅穴建物焼上焼出状況(南から)  
 5. 7区2号堅穴建物上層断面(南西から)
- P L. 21 1. 7区2号堅穴建物上層断面 A(南西から)  
 2. 7区2号堅穴建物上層断面 A(南西から)  
 3. 7区2号堅穴建物掘方上層断面(西から)  
 4. 7区2号堅穴建物掘方全景(北西から)  
 5. 7区2号堅穴建物掘方全景(南東から)

6. 7区2号窓穴建物全景(北西から)  
 7. 7区2号窓穴建物全景(北東から)  
 8. 7区2号窓穴建物遺物出土状況(東から)  
 9. 7区2号窓穴建物P1上層断面(南東から)  
 10. 7区2号窓穴建物P1全景(南東から)  
 11. 7区2号窓穴建物P2上層断面(南東から)  
 12. 7区2号窓穴建物P2全景(南東から)  
 13. 7区2号窓穴建物P3上層断面(南西から)  
 14. 7区2号窓穴建物P3全景(南東から)  
 15. 7区2号窓穴建物P3全景(西から)
- P.L. 22 1. 7区3号窓穴建物全景(東上空から)  
 2. 7区3号窓穴建物全景(北西から)  
 3. 7区3号窓穴建物全景(東から)  
 4. 7区3号窓穴建物掘方全景(北から)  
 5. 7区3号窓穴建物掘方全景(南西から)  
 6. 7区3号窓穴建物P1全景(北から)  
 7. 7区3号窓穴建物P2全景(北から)  
 8. 7区3号窓穴建物焼土1全景(北から)  
 P.L. 23 1. 7区4号窓穴建物遺物出土状況(北東から)  
 2. 7区4号窓穴建物全景(北東上空から)  
 3. 7区4号窓穴建物遺物出土状況(北東から)  
 4. 7区4号窓穴建物使用面全景(北東から)  
 5. 7区4号窓穴建物焼土内埴輪出土状況(東から)  
 P.L. 24 1. 7区4号窓穴建物焼土内埴輪出土状況(東から)  
 2. 7区4号窓穴建物焼土検出状況(南西から)  
 3. 7区4号窓穴建物上層断面A(北東から)  
 4. 7区4号窓穴建物遺物出土状況(北東から)  
 5. 7区4号窓穴建物遺物出土状況(西から)  
 6. 7区4号窓穴建物貯蔵穴全景(北東から)  
 7. 7区4号窓穴建物上坑1全景(南西から)  
 8. 7区4号窓穴建物掘方上坑1(東から)  
 9. 7区4号窓穴建物掘方上層断面B(南東から)  
 10. 7区4号窓穴建物掘方上層断面D(北東から)  
 11. 7区4号窓穴建物掘出状況(北東から)  
 12. 7区4号窓穴建物調査風景(東から)  
 13. 7区4号窓穴建物焼成材検出状況  
 14. 7区4号窓穴建物掘方全景(北東から)  
 15. 7区4号窓穴建物掘方全景(南西から)
- P.L. 25 1. 7区8号窓穴建物全景(北東上空から)  
 2. 7区8号窓穴建物遺物全景(南落北東から)  
 3. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(北東から)  
 4. 7区8号窓穴建物掘全景(北東から)  
 5. 7区8号窓穴建物掘全景(北東から)
- P.L. 26 1. 7区8号窓穴建物焼成材-土焼出状況(北から)  
 2. 7区8号窓穴建物焼成材-土焼出状況(北から)  
 3. 7区8号窓穴建物焼成材焼出状況(北から)  
 4. 7区8号窓穴建物周上層断面(南から)  
 5. 7区8号窓穴建物西壁(南東から)  
 6. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(南東から)  
 7. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(東から)  
 8. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(東から)  
 9. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(北から)  
 10. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(南から)  
 11. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(南から)  
 12. 7区8号窓穴建物遺物出土状況(南から)  
 13. 7区8号窓穴建物寶玉出土状況(西から)  
 14. 7区8号窓穴建物袋帯出土状況(東から)  
 15. 7区8号窓穴建物ベンガラ検出状況(東から)
- P.L. 27 1. 7区8号窓穴建物P1上層断面(南東から)  
 2. 7区8号窓穴建物P1全景(北西から)  
 3. 7区8号窓穴建物P2上層断面(南東から)  
 4. 7区8号窓穴建物P2全景(東から)  
 5. 7区8号窓穴建物P3全景(東から)  
 6. 7区8号窓穴建物P4上層断面(南東から)  
 7. 7区8号窓穴建物P4全景(南から)  
 8. 7区8号窓穴建物P5上層断面(南東から)
9. 7区8号窓穴建物P5全景(南東から)  
 10. 7区8号窓穴建物P6上層断面(北東から)  
 11. 7区8号窓穴建物P6全景(北東から)  
 12. 7区8号窓穴建物P7上層断面(南から)  
 13. 7区8号窓穴建物P7全景(東から)  
 14. 7区8号窓穴建物P8上層断面(南東から)  
 15. 7区8号窓穴建物P8全景(南東から)
- P.L. 28 1. 7区8号窓穴建物P9上層断面(南東から)  
 2. 7区8号窓穴建物P9全景(南東から)  
 3. 7区8号窓穴建物P10上層断面(南から)  
 4. 7区8号窓穴建物P10全景(東から)  
 5. 7区8号窓穴建物P11上層断面(南東から)  
 6. 7区8号窓穴建物P11全景(南東から)  
 7. 7区8号窓穴建物上坑1上層断面(北から)  
 8. 7区8号窓穴建物上坑1全景(東から)  
 9. 7区8号窓穴建物上坑2上層断面(北から)  
 10. 7区8号窓穴建物上坑2出土物出土状況(北東から)  
 11. 7区8号窓穴建物貯藏穴上層断面(北東から)  
 12. 7区8号窓穴建物貯藏穴全景(北東から)  
 13. 7区8号窓穴建物全景(北から)  
 14. 7区8号窓穴建物全景(北から)  
 15. 7区8号窓穴建物全景(北から)
- P.L. 29 1. 7区9号窓穴建物掘方全景(西から)  
 2. 7区9号窓穴建物上層断面(南から)  
 3. 7区9号窓穴建物掘方全景(南から)  
 4. 7区9号窓穴建物遺物出土状況(北から)  
 5. 7区9号窓穴建物遺物出土状況(北から)  
 6. 7区9号窓穴建物遺物出土状況(北から)  
 7. 7区9号窓穴建物遺物出土状況(北から)  
 8. 7区9号窓穴建物上坑1(防蔵)上層断面(西から)
- P.L. 30 1. 7区9号窓穴建物上坑1(防蔵)全景(西から)  
 2. 7区9号窓穴建物上坑2上層断面(北西から)  
 3. 7区9号窓穴建物上坑2全景(南から)  
 4. 7区9号窓穴建物上坑3上層断面(南東から)  
 5. 7区9号窓穴建物上坑3全景(南から)  
 6. 7区9号窓穴建物P1上層断面(南から)  
 7. 7区9号窓穴建物P2上層断面(南から)  
 8. 7区9号窓穴建物P3上層断面(南から)  
 9. 7区9号窓穴建物P4・P5上層断面(南から)  
 10. 7区9号窓穴建物P6上層断面(南から)  
 11. 7区9号窓穴建物P6全景(東から)  
 12. 7区9号窓穴建物P7上層断面(東から)  
 13. 7区9号窓穴建物P7全景(東から)  
 14. 7区9号窓穴建物P9全景(東から)  
 15. 7区9号窓穴建物P10全景(東から)
- P.L. 31 1. 7区10号窓穴建物全景(南西から)  
 2. 7区10号窓穴建物遺物出土状況(南東から)  
 3. 7区10号窓穴建物上層断面A(南西から)  
 4. 7区10号窓穴建物遺物出土状況(南西から)  
 5. 7区10号窓穴建物掘全景(南西から)
- P.L. 32 1. 7区10号窓穴建物焼成材検出状況(西から)  
 2. 7区10号窓穴建物上坑1(防蔵)上層断面(南西から)  
 3. 7区10号窓穴建物上坑1(防蔵)全景(南西から)  
 4. 7区10号窓穴建物上坑2上層断面(南東から)  
 5. 7区10号窓穴建物上坑2全景(南西から)  
 6. 7区10号窓穴建物P1上層断面(南西から)  
 7. 7区10号窓穴建物P1全景(南西から)  
 8. 7区10号窓穴建物P2上層断面(南西から)  
 9. 7区10号窓穴建物P2全景(南西から)  
 10. 7区10号窓穴建物P4上層断面(西から)  
 11. 7区10号窓穴建物P4全景(西から)  
 12. 7区10号窓穴建物P5上層断面(南西から)  
 13. 7区10号窓穴建物P5全景(南西から)  
 14. 7区10号窓穴建物P6上層断面(南西から)  
 15. 7区10号窓穴建物P6全景(南西から)
- P.L. 33 1. 7区10号窓穴建物P7上層断面(南西から)

2. 7区10号型穴建物 P 7 全景(南西から)  
 3. 7区10号型穴建物 P 8 上層断面(西から)  
 4. 7区10号型穴建物 P 8 全景(西から)  
 5. 7区10号型穴建物 P 9 上層断面(西から)  
 6. 7区10号型穴建物 P 9 全景(西から)  
 7. 7区10号型穴建物 P 10 上層断面(西から)  
 8. 7区10号型穴建物 P 10 全景(西から)  
 9. 7区10号型穴建物 P 11 上層断面(南西から)  
 10. 7区10号型穴建物 P 11 全景(南西から)  
 11. 7区10号型穴建物 P 12 上層断面(南西から)  
 12. 7区10号型穴建物 P 12 全景(南西から)  
 13. 7区10号型穴建物 P 13 上層断面(南西から)  
 14. 7区10号型穴建物 P 13 全景(南西から)  
 15. 7区10号型穴建物 撫方全景(南西から)
- P L . 34 1. 7区11号型穴建物 全景(北から)  
 2. 7区11号型穴建物 撫方全景(北から)  
 3. 7区11号型穴建物 上層断面 A(東から)  
 4. 7区11号型穴建物 使用面全景(北から)  
 5. 7区11号型穴建物 上層断面(北から)  
 6. 7区11号型穴建物 使用面全景(北から)  
 7. 7区11号型穴建物 P 1 全景(南から)  
 8. 7区11号型穴建物 P 2 全景(北西から)
- P L . 35 1. 7区5号型穴建物 遺物出土状況(南から)  
 2. 7区5号型穴建物 全景(東から)  
 3. 7区5号型穴建物 上層断面 A(南西から)  
 4. 7区5号型穴建物 遺物出土状況(南から)  
 5. 7区5号型穴建物 土坑 1 調査上段(南から)  
 6. 7区5号型穴建物 土坑 1 繰り上げ後遺物出土状況(南から)  
 7. 7区5号型穴建物 P 2 遺物出土状況(北から)  
 8. 7区5号型穴建物 P 3 周辺遺物出土状況(東から)
- P L . 36 1. 7区6号型穴建物 遺物出土状況(北西から)  
 2. 7区6号型穴建物 遺物出土状況(南東から)  
 3. 7区6号型穴建物 燃上 1 横断面(北西から)  
 4. 7区6号型穴建物 燃上 1 上層断面 F(南から)  
 5. 7区6号型穴建物 燃上 1 全景(北東から)  
 6. 7区6号型穴建物 P 1 全景(南東から)  
 7. 7区6号型穴建物 P 2 全景(南東から)  
 8. 7区6号型穴建物 撫方全景(北西から)
- P L . 37 1. 7区12号型穴建物 炉全景(北東から)  
 2. 7区12号型穴建物 炉全景(北西から)  
 3. 7区12号型穴建物 燃上 横断面(北西から)  
 4. 7区12号型穴建物 上層断面 A(北東から)  
 5. 7区12号型穴建物 撫方全景(北東から)
- P L . 38 1. 7区12号型穴建物 遺物出土状況(南から)  
 2. 7区12号型穴建物 遺物出土状況(南から)  
 3. 7区12号型穴建物 ベン ガラ検出状況  
 4. 7区12号型穴建物 P 1 上層断面(北東から)  
 5. 7区12号型穴建物 P 1 全景(北東から)  
 6. 7区12号型穴建物 P 3 上層断面(北東から)  
 7. 7区12号型穴建物 P 3 全景(北東から)  
 8. 7区12号型穴建物 P 4 上層断面(北西から)  
 9. 7区12号型穴建物 P 4 全景(南西から)  
 10. 7区12号型穴建物 P 5 上層断面(北西から)  
 11. 7区12号型穴建物 P 5 全景(北東から)  
 12. 7区12号型穴建物 P 7 上層断面(南西から)  
 13. 7区12号型穴建物 P 7 全景(北東から)  
 14. 7区12号型穴建物 土坑 1 上層断面(南西から)  
 15. 7区12号型穴建物 土坑 1 全景(北東から)
- P L . 39 1. 7区13号型穴建物 撫方全景(北西から)  
 2. 7区13号型穴建物 撫方全景(南から)  
 3. 7区13号型穴建物 撫方全景(南から)  
 4. 7区13号型穴建物 P 1 上層断面(南西から)  
 5. 7区13号型穴建物 P 1 全景(南西から)
- P L . 40 1. 7区14号型穴建物 全景(東から)  
 2. 7区14号型穴建物 上層断面 B(北から)  
 3. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)
4. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 5. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 6. 7区14号型穴建物 檢出状況(東から)  
 7. 7区14号型穴建物 檢出状況(東から)  
 8. 7区14号型穴建物 上層断面 B(南から)
- P L . 41 1. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 2. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 3. 7区14号型穴建物 檢出状況(東から)  
 4. 7区14号型穴建物 上層断面 A(東から)  
 5. 7区14号型穴建物 上層断面 A(東から)  
 6. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 7. 7区14号型穴建物 遺物出土状況(東から)  
 8. 7区14号型穴建物 上層断面 B(南から)
- P L . 42 1. 7区15号型穴建物 蘆椚方状況(西から)  
 2. 7区15号型穴建物 全景(西から)
- P L . 43 1. 7区15号型穴建物 上層断面 B(南から)  
 2. 7区15号型穴建物 全景(南から)  
 3. 7区15号型穴建物 遺物出土状況(西から)  
 4. 7区15号型穴建物 檢出状況(西から)  
 5. 7区15号型穴建物 蘆椚方全景(西から)  
 6. 7区15号型穴建物 上層断面 C(北から)  
 7. 7区15号型穴建物 P 1 上層断面(北から)  
 8. 7区15号型穴建物 P 1 全景(南から)  
 9. 7区15号型穴建物 P 2 上層断面(北西から)  
 10. 7区15号型穴建物 P 2 全景(南から)  
 11. 7区15号型穴建物 P 3 上層断面(南東から)  
 12. 7区15号型穴建物 P 3 全景(南東から)  
 13. 7区15号型穴建物 P 4 上層断面(南東から)  
 14. 7区15号型穴建物 P 4 全景(南から)  
 15. 7区15号型穴建物 撫方全景(南から)
- P L . 44 1. 7区1号平地建物 斧断面 A(南西から)  
 2. 7区1号平地建物 遺物出土状況(南東から)  
 3. 7区1号平地建物 上層断面 D(南東から)  
 4. 7区1号平地建物 遺物出土状況(南東から)  
 5. 7区1号平地建物 遺物出土状況(北東から)  
 6. 7区1号掘立柱建物 全景(北西から)  
 7. 7区1号掘立柱建物 全景(北西から)  
 8. 7区1号掘立柱建物 全景(南東から)
- P L . 45 1. 7区7号型穴建物 全景(南東から)  
 2. 7区7号型穴建物 土坑 A(南東から)  
 3. 7区7号型穴建物 入口検出状況(南東から)  
 4. 7区7号型穴建物 上層断面 A(南から)  
 5. 7区7号型穴建物 石器表面土層上状況(南から)
- P L . 46 1. 7区7号型穴建物 P 1 上層断面(南東から)  
 2. 7区7号型穴建物 P 2 上層断面(南から)  
 3. 7区7号型穴建物 P 3 遺物出土状況(南東から)  
 4. 7区7号型穴建物 5 上層断面(南東から)  
 5. 7区7号型穴建物 P 6 上層断面(南東から)  
 6. 7区7号型穴建物 P 7 土層全景(南から)  
 7. 7区7号型穴建物 P 8 P 6 全景(北西から)  
 8. 7区7号型穴建物 撫方全景(南東から)
- P L . 47 1. 7区32面馬蹄跡 上空から  
 2. 7区32面馬蹄跡 1 南東から  
 3. 7区32面馬蹄跡 5 (北西から)  
 4. 7区32面馬蹄跡 11 南東から  
 5. 7区32面馬蹄跡 14・15 (東から)  
 6. 7区32面馬蹄跡 18 (北東から)  
 7. 7区32面馬蹄跡 19・20 (南から)  
 8. 7区32面馬蹄跡 21・22 (東から)  
 9. 7区32面馬蹄跡 25・26 (南から)  
 10. 7区32面馬蹄跡 27 (北から)  
 11. 7区32面馬蹄跡 28 (東から)  
 12. 7区32面馬蹄跡 34 (東から)  
 13. 7区32面馬蹄跡 36・37 (北西から)  
 14. 7区32面馬蹄跡 38・39 (北西から)  
 15. 7区32面馬蹄跡 41・43 (北西から)
- P L . 48 1. 7区32面馬蹄跡 41 (北西から)  
 2. 7区32面馬蹄跡 38・39 (南から)  
 3. 7区32面馬蹄跡 37 (南から)

4. 7区第2面馬蹄跡386(南から)  
 5. 7区第2面馬蹄跡393(南から)  
 6. 7区第2面馬蹄跡406(南から)  
 7. 7区第2面馬蹄跡408(南から)  
 8. 7区第2面馬蹄跡421(南から)  
 9. 7区第2面馬蹄跡422(南から)  
 10. 7区第2面馬蹄跡424・422(南から)  
 11. 7区第2面馬蹄跡464(南から)  
 12. 7区第2面馬蹄跡465(南から)  
 13. 7区第2面馬蹄跡468(南から)  
 14. 7区第2面馬蹄跡469(南から)  
 15. 7区第2面馬蹄跡470(南から)
- P.L. 49 1. 7区第6面馬蹄跡57(南から)  
 2. 7区第6面馬蹄跡60(南から)  
 3. 7区第6面馬蹄跡62(南から)  
 4. 7区第6面馬蹄跡70(南から)  
 5. 7区第6面馬蹄跡72(南から)  
 6. 7区第6面馬蹄跡80(南から)  
 7. 7区第6面馬蹄跡83(南から)  
 8. 7区第6面馬蹄跡108(南から)  
 9. 7区第6面馬蹄跡137(南から)  
 10. 7区第6面馬蹄跡138(南から)  
 11. 7区第6面馬蹄跡155(南から)  
 12. 7区第6面馬蹄跡162・163(北から)  
 13. 7区第6面馬蹄跡183(南から)  
 14. 7区第6面馬蹄跡188・189(南から)  
 15. 7区第6面馬蹄跡185(南から)
- P.L. 50 1. 7区第6面馬蹄跡228(南東から)  
 2. 7区第6面馬蹄跡241(東から)  
 3. 7区第6面馬蹄跡563・564上断面(南東から)  
 4. 7区第6面馬蹄跡571上断面(南東から)  
 5. 7区第6面馬蹄跡579(南東から)  
 6. 7区第6面馬蹄跡580上断面(南から)  
 7. 7区第6面馬蹄跡581(南から)  
 8. 7区第6面馬蹄跡583上断面(南東から)  
 9. 7区第6面馬蹄跡583(南東から)  
 10. 7区第6面馬蹄跡584・583(南東から)  
 11. 7区第6面馬蹄跡600・608(南から)  
 12. 7区第6面馬蹄跡622(南から)  
 13. 7区第6面馬蹄跡629(南から)  
 14. 7区第6面馬蹄跡639(南から)  
 15. 7区第6面馬蹄跡641(南から)
- P.L. 51 1. 7区第6面人足跡遠景(北西から)  
 2. 7区第6面人足跡(西から)  
 3. 7区第6面人足跡1(北東から)  
 4. 7区第6面人足跡2(東から)  
 5. 7区第6面人足跡3(北東から)  
 6. 7区第6面人足跡5(西から)  
 7. 7区第6面人足跡7(西から)  
 8. 7区第6面人足跡11・38(西から)  
 9. 7区第6面人足跡15(北東から)  
 10. 7区第6面人足跡17(東から)  
 11. 7区第6面人足跡20(南から)  
 12. 7区第6面人足跡33(北西から)  
 13. 7区第6面人足跡35(北西から)  
 14. 7区第6面人足跡37(南から)  
 15. 7区第6面人足跡40(北東から)
- P.L. 52 1. 7区第8面1号祭祀焼出状況(南西から)  
 2. 7区第8面1号祭祀上断面(東から)  
 3. 7区第8面1号祭祀全景(東から)  
 4. 7区第8面1号祭祀全景(南から)  
 5. 7区第8面1号祭祀焼出状況(東から)  
 6. 7区第8面1号祭祀焼出状況(東から)  
 7. 7区第8面1号祭祀焼出状況(東から)  
 8. 7区第8面1号祭祀焼出状況(西から)
- P.L. 53 1. 7区第8面1号祭祀焼出状況(東から)  
 2. 7区第8面1号祭祀焼出状況(北西から)  
 3. 7区第8面1号祭祀焼出状況(北東から)  
 4. 7区第8面1号祭祀焼出状況(西から)  
 5. 7区第8面1号祭祀焼出状況(南から)  
 6. 7区第8面1号祭祀焼出状況(東から)  
 7. 7区第8面1号祭祀焼出状況(北西から)  
 8. 7区第8面1号祭祀焼出状況(北から)
- P.L. 54 1. 7区第8面1号窓全景(西上空から)  
 2. 7区第8面1号窓(上空から)  
 3. 7区第8面1号窓(北上空から)  
 4. 7区第8面1号窓垣の窓枠状況(南西から)  
 5. 7区第8面1号窓破損断面状況(西から)
- P.L. 55 1. 7区1号ビット全景(北から)  
 2. 7区2号ビット全景(南から)  
 3. 7区3号ビット全景(南から)  
 4. 7区4号ビット全景(北東から)  
 5. 7区5号ビット全景(西から)  
 6. 7区6号ビット全景(西から)  
 7. 7区7号ビット全景(東から)  
 8. 7区8号ビット全景(西から)  
 9. 7区9号ビット全景(南から)  
 10. 7区10号ビット全景(南から)  
 11. 7区11号ビット全景(南から)  
 12. 7区12号ビット全景(南から)  
 13. 7区13号ビット全景(南から)  
 14. 7区16号ビット全景(北から)  
 15. 7区17号ビット全景(北から)
- P.L. 56 1. 7区18号ビット全景(東から)  
 2. 7区19号ビット上断面(南東から)  
 3. 7区19号ビット全景(南東から)  
 4. 7区20・21号ビット上断面(北東から)  
 5. 7区20・21号ビット全景(東から)  
 6. 7区22号ビット上断面(北東から)  
 7. 7区22号ビット全景(北東から)  
 8. 7区23号ビット上断面(北東から)  
 9. 7区23号ビット全景(北東から)  
 10. 7区24号ビット上断面(北から)  
 11. 7区24号ビット全景(北から)  
 12. 7区25号ビット上断面(北から)  
 13. 7区25号ビット全景(北西から)  
 14. 7区26号ビット上断面(北から)  
 15. 7区26号ビット全景(北から)
- P.L. 57 1. 7区第10面1号集石焼出状況(北東から)  
 2. 7区第10面1号集石焼出状況(西から)  
 3. 7区第10面1号集石焼出状況(北東から)  
 4. 7区第10面1号集石焼出状況(南東から)  
 5. 7区第10面1号集石焼出状況(北東上空から)  
 6. 7区第10面1号集石焼出状況(南東から)  
 7. 7区第10面1号集石焼出状況(北東から)  
 8. 7区第10面1号集石全景石除去後(北東から)
- P.L. 58 1. 7区第9面1号遺物集中上断面(南東から)  
 2. 7区第9面1号遺物集中全景(東から)  
 3. 7区第9面2号遺物集中上断面(南から)  
 4. 7区第9面3号遺物集中上断面(南から)  
 5. 7区第9面3号遺物集中遺物出土状況(南から)  
 6. 7区第9面4号遺物集中全景(東から)  
 7. 7区第9面4号遺物集中遺物出土状況(東から)  
 8. 7区第8面5号遺物集中遺物出土状況(西から)
- P.L. 59 1. 7区第2面1号燒上断面状況(北から)  
 2. 7区第2面1号燒上断面(北から)  
 3. 7区第9面2号燒上全景(北西から)  
 4. 7区第9面2号燒上断面(北西から)  
 5. 7区第9面3号燒上断面(西から)  
 6. 7区第9面3号燒上断面(東から)  
 7. 7区第10面4号燒上断面状況(北から)  
 8. 7区第10面4号燒上断面状況(北から)

9. 7区第10面4号土壠出狀況(南西から)  
 10. 7区第8面5号土壠出狀況(西から)  
 11. 7区第8面5号遺物出土状況(西から)  
 12. 7区第8面6号土壠出狀況(南から)  
 13. 7区第8面6号燒土配方全景(南から)  
 14. 7区第8面7号燒土上層斷面(西から)  
 15. 7区第8面7号燒土上層出狀況(南から)
- P.L. 60 1. 7区第1面7・8号溝(西上空から)  
 2. 7区第1面1～5号溝(西上空から)  
 3. 7区第1面1号溝上層断面(北西から)  
 4. 7区第1面3号溝上層断面(南東から)  
 5. 7区第1面3号溝全貌(北西から)  
 6. 7区第1面4号溝上層断面(南東から)  
 7. 7区第1面4号溝全景(北から)  
 8. 7区第1面5号溝上層断面(北西から)
- P.L. 61 1. 7区第1面7号溝全貌(西から)  
 2. 7区第1面8号溝上層断面(東から)  
 3. 7区第1面8号溝全景(東から)  
 4. 7区第1面9号溝全貌(西から)  
 5. 7区第1面10号溝上層断面(東から)  
 6. 7区第1面10・11号溝上層断面(西から)  
 7. 7区第1面10・11号溝上層断面(西から)  
 8. 7区第1面10・12・13号溝上層断面(西から)
- P.L. 62 1. 7区第1面12号溝上層断面(北西から)  
 2. 7区第1面12号溝全景(西から)  
 3. 7区第1面13号溝全景(北から)  
 4. 7区第1面14号溝上層断面(南東から)  
 5. 7区第1面14号溝全景(南東から)  
 6. 7区第11面6号溝全景(北から)  
 7. 7区第11面6号溝全貌(北から)  
 8. 7区第11面6号溝全景(南から)
- P.L. 63 1. 8区第1面1号道(北上空から)  
 2. 9区第1面1号道概方全景(西から)  
 3. 7区第2面1号道上層断面(北から)  
 4. 7区第2面1号道全景(北から)  
 5. 7区第2面1号道全貌(北から)  
 6. 7区第2面1号道概方全景(北から)  
 7. 7区第2面1号道全景(南から)  
 8. 7区第2面1号道全景(南から)
- P.L. 64 1. 7区第5面上から望む(北半部)  
 2. 7区第5面南から望む(北半部)  
 3. 7区第5面5号柱状衝撃底全景(東から)  
 4. 7区第5面5号柱状衝撃底全景(西から)  
 5. 7区第5面19号溝状・20号縦状衝撃底全景(南から)  
 6. 7区第5面19号溝状衝撃底全景(南から)  
 7. 7区第5面1号倒木痕上層断面(南から)  
 8. 7区第5面1号倒木痕上層断面(南から)
- P.L. 65 7区第1面道構外・1号倒木痕・1号祭祀
- P.L. 66 7区1号祭祀
- P.L. 67 7区1号祭祀
- P.L. 68 7区1号祭祀
- P.L. 69 7区1号祭祀・1号晶
- P.L. 70 7区5号遺物集中・5号焼土・1号豊穴建物
- P.L. 71 7区3・2号豊穴建物
- P.L. 72 7区3・4号豊穴建物
- P.L. 73 7区4・8号豊穴建物
- P.L. 74 7区8・9号豊穴建物
- P.L. 75 7区9・10号豊穴建物
- P.L. 76 7区11号豊穴建物・31号土坑・1・2号遺物集中
- P.L. 77 7区2・3号遺物集中
- P.L. 78 7区4号遺物集中・2・3号焼土・道構外
- P.L. 79 7区道構外・5号豊穴建物
- P.L. 80 7区5・6号豊穴建物
- P.L. 81 7区6号豊穴建物
- P.L. 82 7区6・12号豊穴建物
- P.L. 83 7区12～14号豊穴建物
- P.L. 84 7区14号豊穴建物
- P.L. 85 7区15号豊穴建物・1号掘立柱建物・1号平地建物・29号土坑・4号焼土・7号豊穴建物
- P.L. 86 7区礎文・弥生時代
- P.L. 87 7区礎文・弥生時代
- P.L. 88 7区礎文・弥生時代
- P.L. 89 7区礎文・弥生時代
- P.L. 90 7区礎文・弥生時代



# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

一般国道17号渋川西バイパスは、利根川・吾妻川と山間地に挟まれた渋川市街地の西側に位置し、地域高規格道路でもある上信自動車道の一部を構成する道路である。上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近と長野県東御市の上信越自動車道の東部湯の丸インターチェンジ付近とを結ぶ、計画延長約80kmの地域高規格道路で、平成6年度に計画路線指定された。また、群馬県が推進する「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」の「吾妻軸」を担う路線として、群馬県から長野県にかけての交流促進、そして、吾妻地域内の連携強化及び地域の農業・観光・医療・物流等をはじめとした広域ネットワークの形成に寄与する基幹路線として位置づけられている。

渋川西バイパスは、この上信自動車道の起点区间にあたり、重要路線として平成16年度に事業化された。同路線は現道拡幅区间、現道活用区间およびバイパス区间に

より構成されている。バイパス区间は延長1.9kmで主要地方道渋川東吾妻線架橋部で金井バイパスに連続する。この金井バイパスに接する部分が周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれることから、事業主体である国土交通省関東地方整備局からの依頼により群馬県教育委員会文化財保護課(以下、県文化財保護課)が試掘・確認調査を実施し事業地内に埋蔵文化財包蔵地が含まれることが確認され、発掘調査が必要と判断した。

その結果、県道に接する4,314mが調査対象地となっている。発掘調査は工事工程の関係により、平成30年度及び令和元年度に実施される計画となった。

その後、県文化財保護課の調整を経て、平成30年10月1日付けで国土交通省関東地方整備局長と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結され、平成30年11月1日から平成31年3月31日の期間で2,369m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を実施した。調査区は、金井バイパス建設に伴い実施した金井下新田遺跡1区から6区に連続する遺跡であるこ



第1図 一般国道17号渋川西バイパスと金井下新田遺跡

とから7区とした。

令和元年度は平成31年4月1日から令和元年7月31日の調査期間で1,945m<sup>2</sup>を対象として、発掘調査を実施した。7区に加え、埋蔵文化財包蔵地の広がりから8区、9区も調査区として加えられている。

なお、以上の発掘調査により、渋川西バイパス関連の埋蔵文化財調査は全て完了したことになる。

## 第2節 調査の経過

金井下新田遺跡は、上信自動車道金井バイパス建設に伴って平成26年度から平成29年度にかけて発掘調査が実施されている。同発掘調査では、調査区内に存在する生活道等により区画された範囲を調査区として設定し調査を進め、1区～6区が調査終了していることから、県道渋川東吾妻線を挟む本調査区については7区として調査に着手した。

(平成30年度)

調査区は7区となるが、工事工程との調整により平成30年度は同区南半部を調査対象として平成30年11月1日から平成31年3月31日を調査期間として実施した。

発掘調査は11月1日から着手し、表土をバックホーにより掘削しながら、第1面のHr-FP上面の遺構検出を行った。表土層にはHr-FPが多量に混入することから、耕作等に伴い搅乱を継続的に受けているものとみられ、表土直下がHr-FP層になる。同区画は宅地等として利用されていたことから、Hr-FP層への搅乱も目立つものであった。この面では、土坑、溝等が確認されるが、各遺構形成時の旧地表面はすでに遺失している。なお、表土掘削時及び遺構確認等に伴い、鉄滓も採取されている。

その後、12月には第2面Hr-FP下面の調査を行っている。Hr-FP層もバックホーにより掘削し、6世紀中葉に降下した同軽石層に被覆された古墳時代の旧地表面の検出を行った。この面では、道及び馬蹄跡が検出されている。また、南北方向に走行をもつ道は、旧地表面を溝状に掘り込み、底面は継続的な歩行により硬化し、傾斜部には階段状の段も確認された。南に推定される沢に向かうものとみられるが、踏み分け道ではなく、溝状に掘削することで、通行時の傾斜を調整した可能性がある。馬蹄跡も旧地表面上に分布することが確認されている。1

月以降は6世紀初頭に降下したHr-FA層を層位的に調査を実施した。Hr-FAは15回の噴火を繰り返し、火山灰や火碎流を流出させていることが火山学や発掘調査成果により検証されている。この噴出物は降下順にS<sub>1</sub>～S<sub>6</sub>に分層され、噴火経過の指標とされている。すでに実施した金井下新田遺跡の発掘調査では、S<sub>6</sub>、S<sub>5</sub>、S<sub>4</sub>、S<sub>3</sub>、S<sub>1</sub>が特徴的に確認され、遺構の被災経緯や被災者の発見に注意してきた。すなわち、Hr-FAという火山噴出物についても、古墳時代の遺構等に直接影響を与えたながら、当時の被災状況を留めていることが確認されていることから、各噴出物層の調査は人力掘削により進め、詳細な記録保存に努めた。

特に第6面であるS<sub>1</sub>面では、噴火に際して避難する人足跡や馬蹄跡も検出されている。馬蹄跡は、すでに調査が終了している5区で確認された馬蹄跡に連続するものとみられる。2月には第8面のHr-FA下の旧地表面の調査を行っている。6世紀初頭の火山噴出物に被覆される古墳時代の旧地表面であるが、團いを伴う畠等を検出すると共に、くぼみとして残る埋没窓穴建物も確認した。畠は円錐状の歛により形成されるタイプで、「寄歛」と遺構名称を付した特徴的な畠である。

引き続き第9面として黒色土中の5世紀後半の古墳時代集落の調査を行い、竪穴建物、土坑等の調査を行った。さらに3月にかけて、第10面として下層の古墳時代竪穴建物の確認、調査を行っている。調査に伴い、黒色土中から弥生土器の出土も認められたが、遺構は存在しなかった。第11面として縄文時代後期の竪穴建物を検出した。

なお、ローム層中の旧石器確認のためトレンチによる調査を実施したが、遺構、遺物は認められていない。

調査面は計11面となり、各面での写真撮影、図面作成を行い記録保存とした。また、適宜ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影も実施し、俯瞰写真的撮影も実施した。

以上で平成30年度に予定した発掘調査が全て完了した。調査面積は2,369m<sup>2</sup>である。

(令和元年度)

平成31年4月1日～令和元年7月31日の計画で発掘調査を実施した。調査対象区は、平成30年度調査の7区北半部となる。なお、7区西側と北側に追加調査区が設定

され、それぞれ8区、9区とした。この8区、9区は第1面Hr-FP上面を調査対象として計画されている。

発掘調査は7区が中心になるが、調査工程については平成30年度実績に沿って計画されている。調査対象になる遺構面は、計11面を想定している。

4月1日から調査着手し、表土をバックホーにより掘削し第1面Hr-FP上面の遺構確認を行った。南半部と同様に土坑、溝等が確認されている。各遺構には伴出遺物が少ないと、周辺には近世を主とする陶器片が出土することから、土坑等も近世以降の可能性が高い。8区では烟、道が確認され、9区では土坑が検出されている。なお、第1面調査で採取された鉄滓から製鉄関連遺構も想定されたが、確認はされなかった。

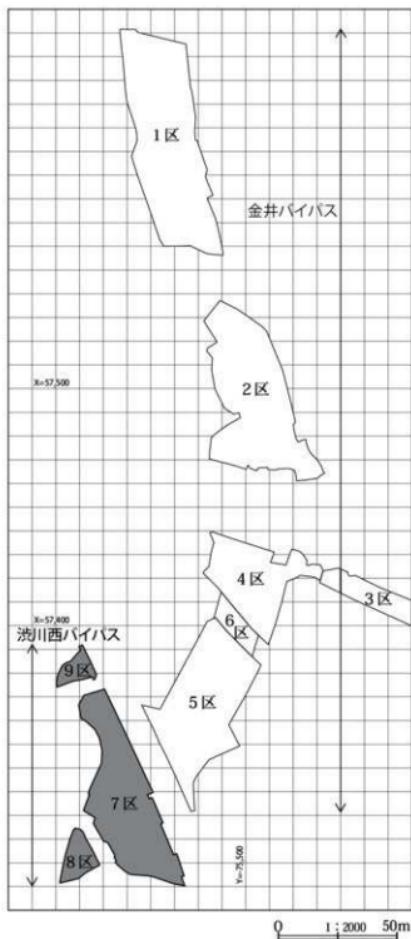
8区、9区については第1面調査終了後埋め戻し、以降は7区が調査対象となる。

5月には第2面Hr-FP下面の調査を行い、馬蹄跡と共に南半部から継続する1号道の延長部分も検出された。引き続き第3面S<sub>1</sub>面、第4面S<sub>2</sub>面の調査を行い、第5面S<sub>3</sub>面では火碎流による衝撃痕が確認された。6月は第6面S<sub>4</sub>面で南半部から継続する馬蹄痕を検出している。この馬蹄跡は西から東へ移動するもので、金井バイパスに伴う調査で実施した5区で確認された馬蹄跡に連続するものと考えられる。なお、人足跡は認められていない。さらに、第7面S<sub>5</sub>面を調査後、第8面S<sub>6</sub>下の旧地表面の遺構確認を実施し、1号祭祀が確認された。また、凹地状として残存する埋没竪穴建物の存在も確認されている。7月にかけて継続的に調査を進め、古墳時代の集落である第9面及び第10面で5世紀代の竪穴建物群の調査を行った。第9面の竪穴建物は重複関係が認められることから、さらに複数の時期変遷が存在することになる。第11面では細文土器や弥生土器が出土したが遺構は認められていない。

なお、ローム層中の旧石器確認調査でも遺物等の出土はなかった。

調査面は計11面となり、各面での写真撮影、図面作成を行い記録保存とし、適宜ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影も実施し、俯瞰写真の記録保存も行った。

7月末で予定した発掘調査が全て完了した。調査面積は1,945m<sup>2</sup>である。



第2図 金井下新田遺跡の発掘区

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

#### 1. 遺跡の位置

金井下新田遺跡は、関東地方の西北に位置する群馬県渋川市に所在し、渋川市中心部から北へ3kmほどのところにある(第3図)。

三国山脈から流下する利根川と西の草津方面から流入する吾妻川の合流点から、2kmほど吾妻川を遡った右岸段丘上に位置する。榛名山の二ツ岳火口から北東へ8kmのところにあり、「甲を着た古墳」が発見された金井東裏遺跡、匂い状遺構が検出された金井下新田遺跡の西側に連続する。遺跡周辺の標高は230mほどで、扇状地は北西から南東方向に緩やかに傾斜する広い平坦面を形成している。西側の山麓からは谷水が期待でき、遺跡立地

には格好の地点である。東の段丘崖下にも吾妻川までの間に広い平坦面があり、現状は圃場整備された農地が広がっている。

遺跡地周辺は現在、榛名山噴火による厚い火山灰や火砕流堆積物に覆われてなだらかな被野が形成されているが、その下層には山麓を開析する河川が刻まれ、帯状低地が形成されていたと推定される。後述するように、遺跡が位置する渋川地域は、6世紀代に2度噴火した榛名山の火山噴出物に被覆されていることから、軽石層や火砕流堆積物下に検出される古墳時代の遺跡が注目されていた場所である。6世紀中葉の軽石層に覆われた国指定史跡黒峯遺跡、6世紀初頭の火砕流堆積物に覆われた県指定史跡中筋遺跡をはじめ、集落や古墳、田畠、馬の放牧地など古墳社会の姿が具体的に調査されていること



第3図 金井下新田遺跡の位置

から、極めて豊富な歴史情報を提供する地域となつてゐる。

ここでは、金井下新田遺跡の地理的環境について、関東平野、榛名山および金井下新田遺跡近郊の順に記す。

## 2. 関東平野

関東地方は、北部と西部を山岳により画されており、東部と南部は太平洋に臨んでいる。北部の山塊を東から見ると、東北地方から延びた阿武隈山地、八溝山、越後山脈、群馬県に入ると三国山脈、さらに草津白根山や浅間山などが並んで北との境界となる。西部の山塊は、北から四阿山、浅間山に統いて関東山地が聳え、その南に丹沢山地から箱根山が並び、西の区切りとなる。北と西の山塊により区画された中に関東平野がある。

関東平野は、1.5万㎢にも及ぶ日本最大の平野である。平野の中には、低地・台地・丘陵・山麓などの地を含んでいる。平野の台地には、関東ローム層と呼ばれる火山灰土が堆積している。北部は赤城・榛名・浅間山、南部は富士・箱根山の火山灰が西風により運ばれたものである。

関東平野には、三国山脈を源流とする利根川とその支流の川筋に人々の多くが生活を営んできた。

群馬県は、海に面しない内陸県である。北は三国山脈・草津白根山により新潟県・長野県北部との境界となり、西は浅間山や関東山地により長野県中部と区画される。南は利根川により埼玉県と区画され、東は栃木・茨城・埼玉県と接するように、渡良瀬川の遊水地に向かって突き出ている。中央部には赤城山と榛名山の2つの大きな火山が位置している。

三国山脈の大水上山を源流にした利根川は赤谷川・片品川・吾妻川を合流し、現在の広瀬川の流路を流れて、烏川等と合流し、古墳時代には現在の江戸川とほぼ同じ流路を流れていた。渡良瀬川は古墳時代には、別の流路を流れていたものと推定されている。

## 3. 榛名山北東麓

金井下新田遺跡のある渋川市は関東平野全体でみると広大な関東平野最奥部にあたる位置でもある。遺跡は関東平野の西北隅に聳える榛名山の北東麓にある。榛名山



第4図 群馬県の地形図

の北を長野県境の鳥居峠付近を源流として西から東へ流れ下る吾妻川の右岸に位置する(第4図)。

利根川が、遺跡地の東を北から南へ流れ、さらに利根川を隔てて東に赤城山がある。遺跡の北には、吾妻川を挟んで、子持山・小野子山が並んでいる(第5図)。

これらの山はいづれも火山であり、4つの火山に囲まれ、利根川と吾妻川の合流地点からやや北西部に遺跡は立地する。長野県に抜ける吾妻渓谷への入口であり、北上すれば新潟県に通じるという交通路の重要な拠点と考えられる

#### 4. 棚名山の活動

ここでは、遺跡の地形環境を理解するために、棚名山とその活動について簡単に述べる。現在の棚名山は直径25kmの成層火山体と山頂部に発達する溶岩ドーム群からなる。棚名山の成層火山体には放射状の浸食谷が多数発達しており、遺跡地を形成した登沢川の西隣の沼尾川には大規模な浸食谷がある。

棚名火山の活動は外輪山形成の数十万年前から始まる古期の活動と、中央火口丘や寄生火山を作った新期活動に大別できる。

古期の活動は、2000m級の円錐形の成層火山が形成された後に山体崩壊を起こし、その残骸が現在の外輪山の一部である。その後5万年前に爆発を起こして軽石が降下、火碎流堆積物が流下している(Hr-HP八崎テフラ)。この際にできたのが現在の山頂カルデラである。

新期の活動は、山頂カルデラ内に溶岩ドームの棚名富士などの中央火口丘が生まれその後相馬山、水沢山などのドームが誕生した。そして棚名山の最新の活動として、古墳時代に3度にわたる噴火が起きたのである。うち、初回の噴火による5世紀の棚名有馬テフラ(Hr-AA)は小規模で、限られた地域で確認できるのみのため、今回は取り上げない。この後に2度の規模の大きな噴火があった。

棚名山の1回目の規模の大きな噴火では(6世紀初頭)棚名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)を噴出した。マグマ水蒸気爆発で火山灰が降下した後、高温の火山灰と火碎流が北東に向かって高速で流れ下るもので、東麓の沼尾川、大輪沢川、登沢川、平沢川、黒沢川にも多く流れ、谷を埋めて当時の吾妻川にまで達するものであった。

その後(6世紀前半)に、棚名山は2回目の規模の大きな噴火を起こし、棚名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)を噴出した。大量の軽石を噴き上げ沼尾川、大輪沢川、滝沢川の谷は火碎流で埋め尽くされた。この2回目の噴火により、二ツ岳に爆裂火口ができるが、そこに粘性の高い溶岩が盛り上がってできたのが現在の二ツ岳である。この火山活動を最後に棚名山は噴火を停止している。

#### 5. 金井下新田遺跡周辺の地質について

棚名山及びその付近の地質について簡単に記す。地質図を見ることで、棚名山の火山噴火の様子が窺えるとともに、遺跡地周辺の地質の特性がわかる(第6図)。棚名山は第四紀火山である。それは、東の対岸にある赤城山も、北の対岸にある子持山・小野子山も同様である。山体の南～西～北にかけて、紫蘇輝石普通輝石安山岩及び火碎物からなる棚名第1期の古期の噴出物(Hr-1)が堆積する。これら山麓傾斜地に分布する各種の火碎流堆積物の多くは、山頂カルデラ形成期以前に噴出したものである。古墳時代に噴火した棚名山二ツ岳は、角閃石ディサイトから成る、棚名5期二ツ岳溶岩円頂丘(Hr-h)の3つの溶岩ドームがある。また北東～東南方向に向かって、棚名山起源の小河川沿いの渓谷に、第5期二ツ岳渋川火碎流(Hr-FA)が流走し、薄く覆っている。金井下新田遺跡もまさにこの火碎流の下にある。さらに、棚名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)の軽石は、北東方向に降下した。また、第四紀更新世～完新世の山麓堆積物も金井下新田遺跡南方に認められる。行幸田付近には、棚名第5期行幸田・陣馬岩肩なだれ堆積物が認められる。東側対岸の赤城山は、古期成層火山を形成した安山岩質と、新規成層火山を構成したディサイト質の火碎流堆積物で構成されている。金井下新田遺跡との対岸部分である山体南西側は、赤城第3期大胡・棚下・糸井火碎流堆積物で埋め尽くされている。一部には赤城第2期土石流がみられる。これらの赤城山の堆積物の上に、棚名山から飛んだHr-FAの火山灰やHr-FPの軽石が薄く堆積している。南側の白川流域は、泥流堆積物が堆積している。

北側の吾妻川対岸は、後期更新世のローム層が堆積した長坂面(黒井峰遺跡が位置する地形面)を中心である。子持山は第四紀更新世中期の成層火山で、開析が進んでいる。子持山末期活動期の安山岩溶岩と火碎岩からなる



第5図 案名・川上村付近の地形図

火砕流堆積物が山側にある。北岸西よりの小野子山も、ほぼ子持山と同時期の活動期で、山頂及び南東側には紫蘇輝石安山岩からなる小野子山頂溶岩と、同じく紫蘇輝石安山岩とかんらん石輝石安山岩及び火碎物からなる小野子成層火山噴出物がある。川沿いには、第四紀前期更新世の凝灰角礫岩、砂岩及び泥岩からなる小野上層がある。

## 6. 金井下新田遺跡周辺の地形

金井下新田遺跡は、吾妻川南岸に形成された段丘面上に位置する(第7図)。約5万年前に形成された長坂面に対応する面と想定される(吉田2019)。また、榛名山により形成された古い火山麓扇状地を開析した登沢川が段丘上に小扇状地を形成したものと思われる。

以上のように遺跡周辺の土壤は、基本的に利根川・吾妻川の低地の堆積物などを除くと榛名山に由来していることが分かる。

## 7. 金井東裏遺跡・金井下新田遺跡の立地

このように地形・地質を見てみると、榛名山・赤城山・子持山・小野子山の4火山の噴出物による、第四紀火山及びその火碎物で構成される地質が遺跡の四方にあることが分かる。まさしく火山で囲まれた立地にある遺跡と考えて良い。遺跡立地点は、吾妻川の河岸段丘として形成されたもので、それに火山麓扇状地を開析した登沢川の小扇状地が段丘上に形成されたものと考える。細かな地形の形成については、『金井東裏遺跡発掘調査報告書

古墳時代編』(2019)掲載の吉田英嗣「金井東裏遺跡周辺の地形について」を参照されたい。遺跡のすぐ東には比高20mほどの段丘崖の段差がある。登沢川が吾妻川に向かって流れ出る北側から南西にかけて続いており、金井下新田遺跡はその南端にあたり、比高も数mとかなり縮まる。上信自動車道は、段丘面の東端近くを通るので、崖線に沿って調査を行なった。金井東裏遺跡の調査では、遺跡の西北から西にかけての山麓にかつて湧水が存在したことを踏査で確認した。一部は畑の灌漑に使用していたとのことである。現在は確認できないので、これらの湧水が、層厚2.5m以上に及ぶ火砕流・軽石降下前に湧出していたのかどうか特定できないが、榛名山麓から流下する湧水が遺跡内を数箇所流れていた可能

性は考えられる。これらの湧水を利用して、飲料水や畠の耕作などを行なったものと考えている。また、西方の金井占墳付近の和尚沢からも湧水があり、現在も遺跡地南側に流れている。このような地形環境の中で金井下新田遺跡の立地をみると、東側は比高差のある段丘崖に区切られ、1区と2区間、2区と4区間に東西方向の小谷地があり、段丘面を開析している。7区南西部には和尚沢から流下する小河川により扇状地端部が区切られることになる。なお、今回の調査では古墳時代の流路の特定には至らなかった。金井下新田遺跡は、このような榛名山北東麓に開析された東西方向の小谷地に区切られた段丘面上に立地しているのである。(第8図)

## 第2節 歴史的環境

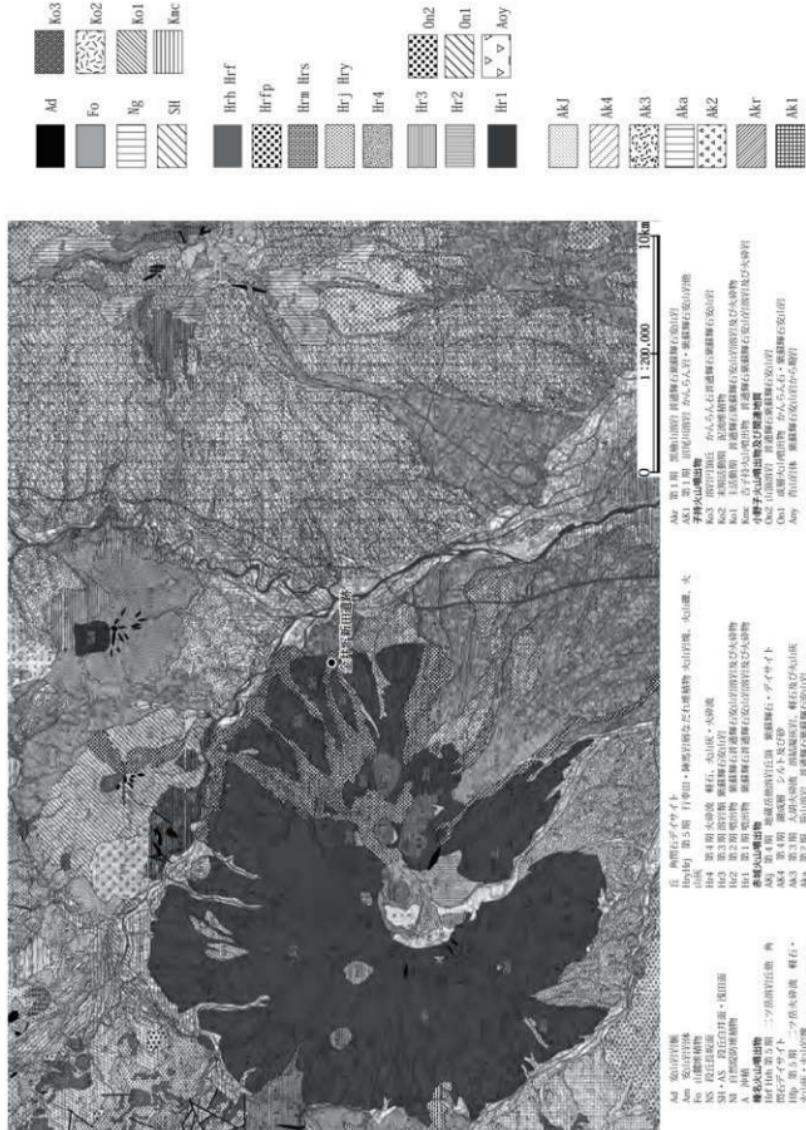
### 1. 地域設定

金井下新田遺跡は、地形的環境で述べたように、榛名山北東麓で、利根川合流前の吾妻川を上流側に遡った吾妻川南岸の河岸段丘面上に位置している。この地点は、北の利根地域を通り越後に至るルートと、西の吾妻を通じ信濃あるいは越後につながるルートの両方のルートを見下ろせる地点である。特に吾妻から信濃へのルートの要衝にあたる重要な拠点ともいえる。

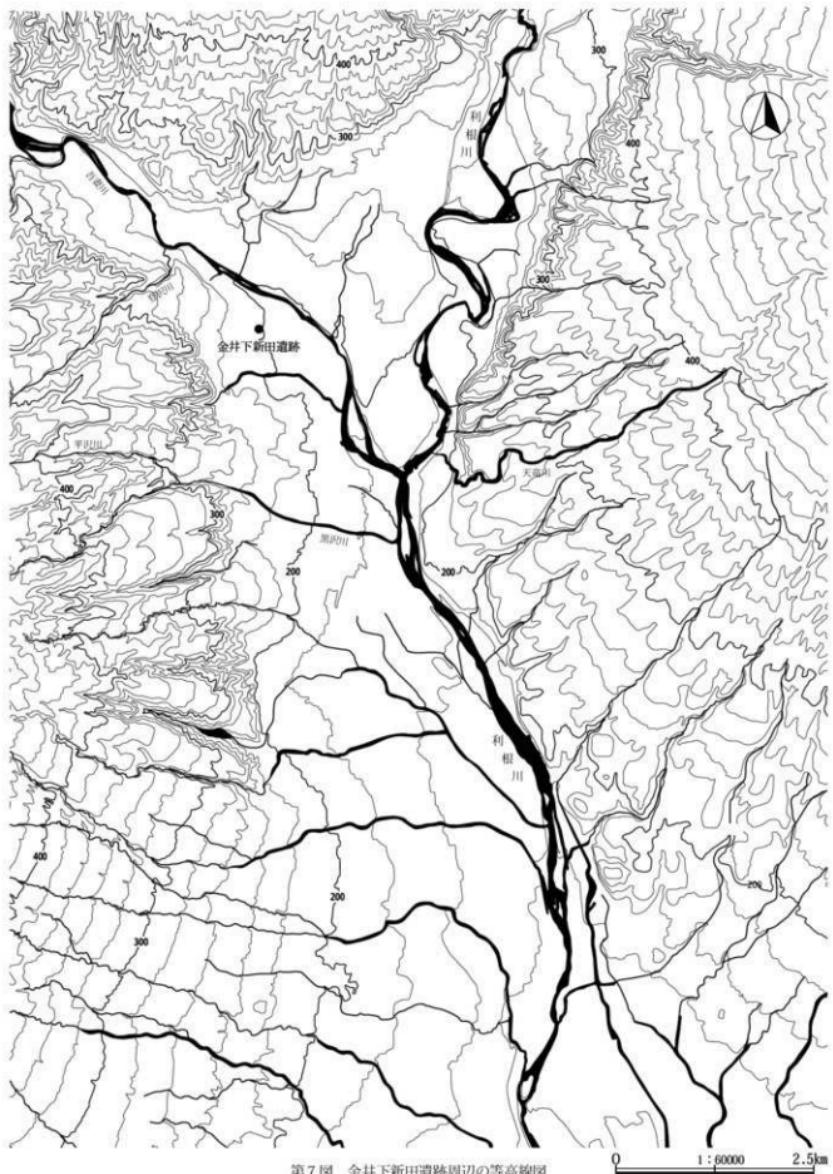
この地域周辺は、大きく3つのエリアに分かれます。  
地域A：金井下新田遺跡がある地域。榛名山北東麓から吾妻川南岸まで、榛名山東麓から利根川西岸までの地域。  
地域B：旧子持村にあたる地域。利根川と吾妻川に挟まれている。吾妻川北岸側と利根川西岸側で様相が異なる。  
地域C：利根川東岸で、赤城山西麓にあたる地域。

それぞれの地域差を考慮しながら、以下簡単に旧石時代から弥生時代まで歴史的な背景を述べる。古墳時代の榛名火山の爆発の時期を中心とした古墳時代についてはやや詳しく歴史をたどる。以降の奈良時代～江戸時代については、歴史の流れを示すものとしたい。

なお、遺跡分布図は古墳時代のみの分布図(第9、10図)を作成した。第9図は古墳時代前期～Hr-FA降下まで、第10図はHr-FA降下以降～7世紀までの遺跡分布図となる。なお、分布図には主要遺跡のみ取り上げ、参考文献も分布図に掲載した古墳時代の遺跡のみに限定した。



第61図 横名山・赤城山周辺の地質図（群馬県10万分の1地図図 1969 群馬県地質調査委員会



第7図 金井下新田遺跡周辺の等高線図



第8図 金井下新田遺跡周辺の地形図

## 2. 旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物は金井下新田遺跡、金井東裏遺跡とともに認められなかったが、遺跡周辺からは、石器群の調査事例が確認されている。As-BP下からは、中郷遺跡、吹屋犬子塚遺跡、上白井西伊熊遺跡、As-Sr下からは吹屋犬子塚遺跡、上白井西伊熊遺跡、As-YP下からは、吹屋遺跡、吹屋中原遺跡に出土例がある。

## 3. 縄文時代

金井下新田遺跡では、前期～後期の竪穴建物や土坑が1区を中心に検出された。北側に隣接する金井東裏遺跡からは、前期～後期までの竪穴建物等が出土している（2018『金井東裏遺跡近世・弥生・縄文時代編』）。

周辺の縄文時代遺跡分布は下記の通りである。

**草創期** 利根川西岸の旧流水域に接した河岸段丘上に立地している。隆起線文・爪形文・多縄文土器や有舌尖頭器などの石器が出土している。

**早期** 赤城山山西麓、子持山南東麓、榛名山東麓等広域に分布が認められる。草創期の河岸段丘上の遺跡分布が丘陵地形に移行している。竪穴建物による集落の形成がはじまる。赤城山山西麓に数多くの遺跡がある。

**前期** 他の時期に比べて遺跡数が急激に増加する。子持山東麓や赤城山南麓での調査によりこの時期の様相が明らかになってきている。関山・黒浜式期に増加し、諸磯b式期に最多となり、諸磯c式期には減少し、十三菩提式期には激減するという極端な動向を示している。

**中期** 山麓末端の台地や丘陵上に、阿玉台II式期以降に、集落数が急激に増加し、加曾利E3式期には大規模環状集落の形成が認められて頂点に達する。しかし、加曾利E4式期になると急激に小規模集落主体に変化する。

**後・晚期** 集落の減少傾向はさらに進展し、集団墓が集落とは別に形成される。一方で、明瞭な集落跡はこの周辺では確認できていない。

## 4. 弥生時代

金井下新田遺跡では中期前半、中期後半、後期初頭の竪穴建物群が調査されている。金井東裏遺跡では中期前半～後期中頃の遺構・遺物が出土している。周辺の弥生時代遺跡分布は下記の通りである。

**前期** 押手遺跡で東海系の条痕文系土器と共に、遠賀川

式系土器が出土している。南大塚遺跡では条痕文系土器を利用した再葬墓が確認されている。

**中期** 金井東裏遺跡からは、中期前半から後半にかけての筒形土器や石鍬などの遺物と壺棺墓・土坑などが出土している。半田南原遺跡から、土器とともに石鍬が出土する。行幸田山遺跡からは岩棚山式土器が出土している。この時期の土器に押の圧痕が残る例が指摘され、稲作の存在を想定させる。中村遺跡、有馬条里遺跡からは櫛描文系の栗林式（竜見町式）土器が出土し、環濠集落が出現する。利根川西岸の低位段丘面上に立地している。

**後期** 金井下新田遺跡では後期初頭の竪穴建物群、金井東裏遺跡では後期前半から中頃にかけての竪穴建物等が検出され、人形土器も出土している。

渋川市周辺では、榛名山麓部や、吾妻川南岸、利根川西岸の段丘上や、利根川東岸の赤城山西麓に、急速に遺跡数が増えてくる。櫛描文系の櫛式土器の標識遺跡である櫛遺跡の他、中筋遺跡、有馬条里遺跡などからは建物が、有馬条里・有馬・中村・石原田中遺跡からは礫床墓が検出され、鉄器やガラス小玉が副葬されている有馬遺跡の例も知られる。有馬・押手遺跡等からは方形周溝墓、空沢・中村遺跡などでは円形周溝墓が確認されている。人形土器は、有馬遺跡以外にも長野原からの出土例があり分布圏を形成する。水田遺構については現状では確認されていない。

## 5. 古墳時代

金井下新田遺跡では、金井東裏遺跡同様に、中期中頃～後期前半の時期の遺物・遺構が出土している。

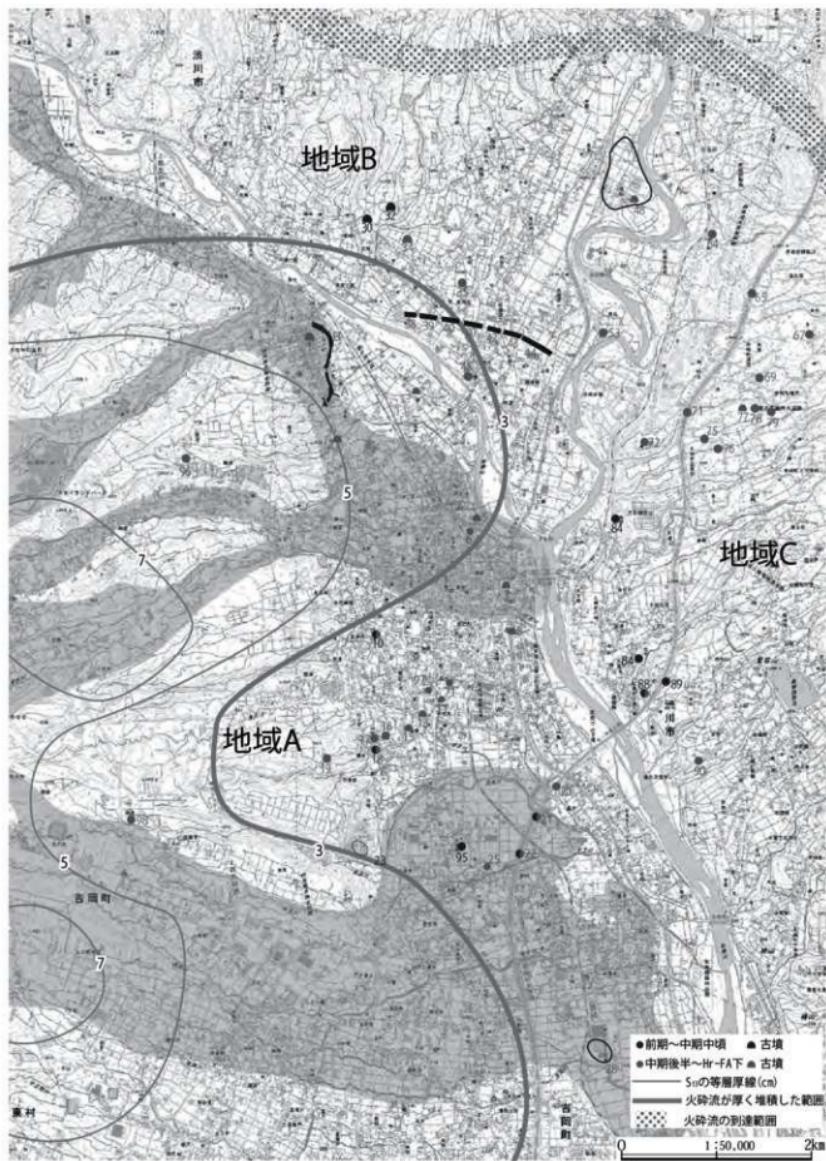
(1)古墳時代前期～中期後半(3世紀後半～5世紀前半)

金井下新田遺跡・金井東裏遺跡では、この時期の遺構は調査では確認されていない(第9図)。

**集落** 地域Aの利根川西岸の有馬条里遺跡、地域Bの吾妻川北岸の中郷恵久保遺跡、吹屋稻戸遺跡、中郷田尻遺跡、白井北中道III遺跡、地域Cの利根川東岸の北町遺跡等がある。そのうち、継続して集落を維持するのが、地域Aの有馬条里遺跡である。

**生産地** 畠が3世紀末に浅間山の噴火で降下した軽石(As-C)下から、地域Aの有馬条里遺跡で検出されている。

**古墳** 地域Aの行幸田遺跡A区1号墳は前期後半の小型



第9図 金井下新田遺跡周辺遺跡分布図(古墳時代前期～Hr-FA下面)

の方墳で、銅鏡や鉄劍などを副葬し、渋川地区の最初期の古墳である。有馬条里遺跡等継続的に集落を維持できる地域であることから、この時期の渋川地域で唯一の古墳が構築できたものと推定できる。

他に低墳丘墓・方形周溝墓としては、地域Aの空沢遺跡、中村遺跡、地域Bの田尻遺跡、押手遺跡、黒井峯遺跡、地域Cの見立溜井遺跡がある。古墳は構築できなくとも低墳丘墓なら構築できたものと想定される。

#### (2) 古墳時代中期後半(5世紀中頃～後半)

金井下新田遺跡では、この時期の豎穴建物群が形成されることが判明した。金井東裏遺跡でもこの時期に集落形成が始まり、20棟以上の豎穴建物が建てられた。畠の痕跡もあり、豎穴系の埋葬主体部をもつ古墳も築かれた。(第9図)

**集落** 前期から継続して居住する地域Aの有馬条里遺跡もあるが、全体的に上位段丘に集落が移り豎穴建物の数も急激に増加する。地域Aでは、中筋遺跡、高源地東I遺跡があり、地域Bの吾妻川北岸には中郷田尻遺跡、中郷恵久保遺跡、吹屋糀屋遺跡などがある。地域Cでも、見立溜井遺跡、三原田三反田遺跡などがある。いずれの地域でも遺跡数・建物数が急激に増加するのがこの時期の特徴である。

**生産地** 水田・畠遺構としては、明瞭に調査で確認例は認められない。ただし、次のHr-FA下で確認される水田・畠遺構は、遅ってこの時期に耕作が開始されたことも推測できる。

**古墳** 豊穴系の主体部を持つ古墳が造営される。地域Aの吾妻川南岸の金井丸山古墳、金井諏訪古墳、金井前原古墳、坂下町古墳群、東町古墳、利根川西岸の大崎古墳群、石原東古墳群、空沢古墳群等である。特に坂下町古墳群や東町古墳は積石塚系の方墳で、いずれも河川沿いの縁辺部に築造される点は、他地域の積石塚と近似する立地傾向があり注目される。また大崎古墳群には、くびれを有する古墳があり、前方後円墳の可能性も説かれており、注視する必要がある。地域Aの優勢が古墳の状況から認められる。

#### (3) 古墳時代後期初頭(6世紀初頭Hr-FA直下)

金井下新田遺跡では、匂い状遺構や祭祀関連遺構、平

地建物群等が、金井東裏遺跡では、屋敷地や3号祭祀遺構及び数棟の平地建物・掘立柱建物、甲着装人骨等が発見された。両遺跡で初めて調査されたS2上面の人足跡・馬蹄跡などもこの時期に含める(第9図)。

**集落** Hr-FAで被災した地域Aの中筋遺跡がある。豎穴建物や垣根・祭祀跡が検出されている。火碎流により、ムラは被災没している。地域Bの中郷田尻遺跡では、豎穴建物3棟にHr-FA降下時に上屋があったと考えられている。

**生産地** 地域Aの吾妻川南岸の渋川坂之下遺跡、利根川西岸の中村遺跡、地域Bの吾妻川北岸の中郷恵久保遺跡、中郷田尻遺跡、吹屋糀屋塚遺跡、吹屋糀屋遺跡、北牧大境遺跡、地域Cの田ノ保遺跡では水田が検出されている。

また、地域Aの金井東裏・金井下新田遺跡以外にも高源地東I遺跡、中筋遺跡、有馬条里遺跡などから、地域Bの吹屋糀屋遺跡、吹屋中原遺跡、地域Cの宮田諏訪原遺跡からHr-FAに埋没した畠が検出されている。各地域で、古墳時代後期初頭には、広く水田・畠の耕作が行われていたことが分かる。

さらに、Hr-FA下の水田面から馬蹄跡が検出されている。地域Aの利根川西岸の行幸田城山遺跡、地域Bの吾妻川北岸では、吹屋糀屋遺跡、中郷田尻遺跡、北牧大境遺跡、地域Cの利根川東岸の田ノ保遺跡で馬蹄跡が確認されている。地域Bの吾妻川北岸、地域Aの利根川西岸から榛名山北東麓、地域Cの利根川東岸から赤城山西麓の広範囲に馬がいたことを馬蹄跡から確認できる。

なおS2上面で、人足跡と馬蹄跡を地域Aの行幸田城山遺跡で確認している。この層位での検出は、金井遺跡群以外では初例である。

#### (4) 古墳時代後期前半(6世紀前半Hr-FA上～Hr-PP下)

金井下新田遺跡・金井東裏遺跡は、Hr-FAの火碎流で被災しているが、數十年後のHr-PP降下直前には、上層に腐食土(表土)が形成され、馬蹄跡や道等が確認されている。

この時期はHr-FA災害が甚大であった榛名山北東麓以外では、継続して集落が營まれ、水田・畠・牧が復旧されている。さらに古墳もHr-PP下からいくつか確認できる(第10図)。

**集落** 地域AのHr-FA被害を受けた中筋遺跡の7号平地

建物では、避難者の動きを示す情報も認められている。他に火碎流で被災した地域Aでは、この時期の人の動きが確認された例は確認されていない(第10図)。

一方、Hr-FAの被害が深刻ではなかった地域Bの吾妻川北岸の旧子持村付近は、集落全体がHr-FPにより埋没している。これらの災害遺跡から得られた調査情報は多岐にわたり、当時の景観が復元される国指定史跡黒井峯遺跡をはじめ、西組遺跡、田尻遺跡、八幡神社遺跡等でHr-FPに埋没する集落でも被災状況が確認されている。

遺跡は、豊富な湧水が利用できる上位段丘面に多く、堅穴建物、平地建物、高床建物、家畜小屋等で構成され、周辺には畠、下位段丘には水田が造成されていた。中郷田尻遺跡Ⅲ区ではHr-FA上面で複数棟の様々な形態の平地建物が検出された。Hr-FA降下後も垣根に囲まれた平地建物や掘立柱建物が造られていたことが判明した。

他に押手遺跡、吹屋恵久保遺跡、浅田遺跡等で同様にHr-FA降下後の集落が明らかになっている。

**生産地** 地域Aの利根川西岸の有馬条里遺跡で、Hr-FA降下前は畠であった地点が、火山性泥流堆積後に水田として利用されていた。土地利用が変化して、水田として復興したことがわかる。地域Bの吾妻川側北岸に面した白井面には、湧水からの豊富な水が供給されているため、水田は広範囲にある。吹屋糀屋遺跡でも、畠が水田化されていた。下位の浅田面では、吹屋糀屋遺跡・鯉沢糀屋遺跡においてHr-FP下の水田が検出されている。この地域の水田はHr-FA被災後、水田が復旧されていることが判明した。他に中郷恵久保遺跡、北牧大境遺跡、吹屋糀屋遺跡等がある。地域Bでも利根川に面した白井面の浅田遺跡でHr-FP下の水田が検出されているのみである。畠は、地域Bの吾妻川側の雙林寺面・長坂面の遺跡で検出されている。下位段丘の白井面では中郷田尻遺跡や吹屋糀屋遺跡のように、一部が畠となっている。他に宇津野・有瀬遺跡、白井北中道Ⅱ遺跡、中郷恵久保遺跡、黒井峯遺跡、館野遺跡、西組遺跡、八幡神社遺跡等から畠が検出されている。

馬の放牧地は、Hr-FP下の地表面に多数の馬蹄跡が集中することから確認できる。地域Bにおける放牧地の北限は、利根川の谷が狭く深い尻平沢が想定されている。

**白井・吹屋遺跡群**での膨大な数の馬蹄跡に示されるように、白井面に広大な放牧地があったと推定され、その

面積は5.80kmに及ぶという想定もある(斎藤聰2010)。

馬蹄跡は白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡、白井丸岩遺跡、白井北中道遺跡、白井北中道Ⅲ遺跡、白井十二遺跡、白井南中道遺跡、白井大宮遺跡、白井大宮Ⅱ遺跡、白井佐又遺跡、白井佐又Ⅱ遺跡、吹屋伊勢森遺跡、中郷遺跡、上白井西伊熊遺跡で検出されている。

地域Cの利根川東岸でも、宮田諭訪原遺跡、滝沢御所遺跡で馬蹄跡が確認されている。また、地域Aの利根川西岸でも、榛名山東麓端部にある行幸田城山遺跡等から馬蹄跡が検出されている。滝沢御所遺跡や行幸田城山遺跡の他、子持山のHr-FP採取に伴う調査から、山間部からも馬蹄跡と畦状遺構が確認されており、山間部や丘陵上等で馬の放牧がなされていた可能性がある。

馬遺存体も、中郷田尻遺跡のHr-FP下水田耕土から3才の幼齢馬骨が出土している。馬蹄跡から見ると、それぞれの地域で広範囲の放牧がなされていた可能性が高い。

**古墳** 地域Bでは吾妻川北岸の雙林寺面で中ノ峯古墳、長坂面で田尻2号墳、利根川西岸側の西伊熊面で宇津野・有瀬古墳群がある。有瀬I、II号墳で、初期の無袖形横穴式石室や小型積石塚が出土しており、中ノ峯古墳・伊熊古墳でも無袖形横穴式石室が出土している。地域Aには火碎流の被害を受けた北側には古墳はほとんど認められない。地域Cには、無袖形横穴式石室を持つ津久田甲子塚古墳がある。横穴式石室の初現型式の無袖形石室が数多く現れる注目すべき地域である。

#### (5)古墳時代後期後半～終末期(6世紀中頃～7世紀)

金井下新田遺跡では、金井東裏遺跡と同様にHr-FP堆積後は、近世まで遺構の検出が認められない。この時期は、2m近く軽石が堆積した地域ではほとんど遺跡が確認できないが、Hr-FP降下量があまり多くない榛名山北東麓以外の地域には遺跡分布が認められる(第10図)。

**集落** 地域Aでは、軽石降下量の少ない南部で中村遺跡、有馬後田東遺跡等がある。地域Bは、軽石降下量が多い地域であるが、その中でも軽石降下がそれほど多くない地域では、白井掛岩遺跡、白井南中道遺跡、白井二位屋遺跡等で6世紀後半～7世紀の遺構分布がある。いずれも1mほどの軽石層が堆積しているが、堅穴内の軽石を除去しHr-FP面を床面として堅穴建物を構築している。



第10図 金井下新田道路周辺遺跡分布図(Hr-FA上面～7世紀) 0 1:50,000 2km

地域Cでは、やはり軽石降下が少ないため、三原田諷訪上遺跡、見立峯遺跡、房谷戸遺跡、水泉寺地区遺跡群などの集落遺跡が認められる。

**古墳** 地域Bの中ノ峯古墳や宇津野・有瀬遺跡の伊熊古墳などではHr-FP降下後に追葬が行われた痕跡がある。また、軽石を埴丘にする白井北中道Ⅲ遺跡例がある。火山災害後に被災地に戻り、死者を埋葬したものである。

地域Bは、先ほどの白井北中道Ⅲ遺跡も含まれる白井古墳群がある。地域Aの軽石が多く降下した北部では金井古墳・虚空巖塚古墳がある。いずれも埴丘の下及び埴丘の一部に軽石が使用されている。軽石降下の少ない地域A南部では、半田南原遺跡、有馬堂山古墳群等があり、南部の吉岡町方面にかけて膨大な古墳が構築されている。地域Cでは、やはり軽石の降下が少なく、水泉寺地区遺跡群他多くの古墳がある。地域A北部及び地域B

では、軽石降下が多く、古墳の築造は少なくなり、構築する際に軽石を埴丘に利用するといった工夫も認められる。地域A南部や地域Cでは、多くの古墳(群集墳)の築造が行われ、特に南部の吉岡町には非常に多くの古墳が構築された。被災地域からの人の移動も考える必要があると思われる。

**生産遺跡** この時期の水田・畠・放牧地は、遺構を覆う堆積物がないため、確認が困難である。大量の降下軽石の堆積の影響で、水田・畠の耕作や馬の飼育作業に困難が伴い、遺構自体がなかった可能性もある。しかし、地域Bの白井二位屋遺跡の7世紀後半～10世紀の竪穴建物から、馬歯・馬骨片が出土しており、この時期に集落内に馬の存在が推定できる。

## 6. 奈良・平安時代(8世紀～12世紀)

金井下新田遺跡では、1区北端部で平安時代前半期の炭窯8基が検出されている。金井東裏遺跡では、この時期の遺構は見つかっていない。

**集落** 地域Aの渋川南部地域では中村遺跡、有馬遺跡、有馬条里遺跡、半田南原遺跡、中筋遺跡、行幸田畠中B遺跡等多くの遺跡が認められる。地域Bの吾妻川北岸では白井面で多く認められ、白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡、中郷田尻遺跡、北牧大境遺跡等がある。地域Cでは三原田三反田遺跡、分郷八崎遺跡等がある。

渋川域は古代の群馬郡有馬郷の一部に比定されている。

**寺院** 有馬庵寺が建立される。上野国分寺式瓦を持つ。 **鉄生産** 製鉄遺跡が急激に出現し、地域Aで金井製鉄遺跡、半田中原・南原遺跡、空沢遺跡、有馬条里遺跡等で製鉄遺構が検出されている。

**水田** 水田は、地域Aの八木原沖田遺跡、半田薺師遺跡、地域Bの田ノ保遺跡から検出されている。軽石降下の多い地域からの検出は難しい。

**牧**『延喜式』には、御牧(勅旨牧)が甲斐・武藏・信濃・上野の4ヶ国に32ヶ所設置されており、上野では、利刈・有馬嶋・沼尾・押志・久野・市代・大藍・塙山・新屋の9ヶ所ある。うち、利刈牧・有馬嶋牧・沼尾牧の3ヶ所が遺跡の所在する渋川周辺にあったものと推定されている。半田中原遺跡では、広大な土地区画溝と推定される溝が検出され、馬を飼育する有馬嶋牧の可能性が推定されている。

## 7. 中世(鎌倉～戦国時代 13世紀～16世紀)

金井下新田遺跡・金井東裏遺跡では、この時期の遺構は確認されていない。渋川地域では、鎌倉時代に源氏系の渋川氏と足利系渋川氏という二系統の渋川氏が活動し、やがて室町時代に至り長尾氏(白井長尾氏)が上野守護代として白井城に入る。白井城の一部が白井北中道遺跡で確認されている。二位屋城の跡が白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡で確認されている。なお、白井城は近世初期に白井藩の藩庁として使用されている。

## 8. 近世(江戸時代 17世紀～19世紀末)

金井下新田遺跡・金井東裏遺跡では、土地区画に関係する溝遺構や、畠跡の可能性のある畝状遺構、土坑墓がいくつか検出されている。

近世の金井村は高崎藩領から安中藩領を経て幕府直轄領になった。畠作中心の村であったが、元和8年(1622)頃に、越後と本庄を結ぶ三国街道の宿駅として、金井宿が成立した。本陣・脇本陣を置く宿であった。北側すぐの吾妻川を渡り越後に抜ける南牧村に壱ヶ橋閘所が設置されている。また、金井宿は祖母島村へと通じる吾妻道の宿でもあった

## 第2章 遺跡の立地と環境

第1表 金井下新田遺跡周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡種類・内容												文獻 記載 番号	備考	
		建物・集落			墓・古墳			水田			島			馬蹄跡・放牧地		
		近明 Y	5C後 Y	Br-1A Y	Br-TP Y	Br-1A Y	Br-TP Y	Br-1A Y	Br-TP Y	Br-TP Y	Br-1A Y	Br-TP Y	Br-TP Y	Br-1A Y	Br-TP Y	
C	金井下新田遺跡 7~9世紀	○			○						○		○	○	○	本音 A
A	金井下新田遺跡 1~6世紀	○									○		○	○	○	FAS上の人足跡、馬蹄跡 B
B	金井東裏遺跡	○			○						○		○	○	○	
1	金井丸山古墳															1
2	金井前原古墳															2
3	金井瀬訪古墳															3
4	金井古墳															4
5	坂下町古墳群															5
6	坂之下遺跡								○							6
7	東町古墳															7
8	大崎古墳群															8
9	虚空塚原古墳							○								9
10	高源地東I遺跡	○	○					○			○	○				10
11	田中遺跡	○														11
12	瀬訪ノ木V遺跡						○									12
13	石原東古墳群		○	○												13
14	石原東遺跡							○								14
15	空沢遺跡	○	○	○												15
16	梯屋遺跡	○														16
17	行幸田西遺跡	○														17
18	中筋遺跡	○		○?			○			○						18
19	行幸田城山遺跡		○				○	○								19
20	中村遺跡		○				○	○								20
21	有馬条里遺跡	○	○					○	○	○						21
22	有馬遺跡	○							○							22
23	行幸田山遺跡			○												23
24	有馬堂山古墳群						○									24
25	有馬後田東遺跡	○	○													25
26	有馬久宮前I遺跡		○													26
27	有馬寺道遺跡			○												27
28	平田南原遺跡			○			○	○								28
29	中ノ峯古墳					○	追葬									29
30	丸子山古墳		○	○												30 方形周溝 集積石塚
31	北牧相ノ田遺跡							○								31
32	押手遺跡	○	○							○						32
33	西組遺跡			○												33
34	黒井峯遺跡		○	○				○		○		○				34
35	田尻遺跡	○		○				○								35
36	八幡神社遺跡			○						○						36
37	吹屋庚久保遺跡			○						○						37
38	北牧大境遺跡					○	○	○								38
39	吹屋糲屋遺跡					○	○	○		○						39
40	中郷田尻遺跡	○	○				○	○		○		○				40
41	吹屋三角遺跡						○	○			○					41
42	中郷庚久保遺跡	○					○	○		○		○				42
43	吹屋中原遺跡									○	○					43
44	吹屋天子塚遺跡		○				○	○								44
45	鶴沢瓜田遺跡 吹屋瓜田遺跡						○	○								45
46	宇津野・有瀬遺跡											○				46
47	伊熊・有瀬古墳群					○										47
48	浅田遺跡											○				48
49	中郷遺跡											○				49
50	吹屋遺跡											○				50
51	吹屋伊勢森遺跡											○				51
52	白井十二遺跡											○				52
53	白井佐又遺跡											○				53

No	遺跡名	遺跡種類・内容												文献番号	備考
		建物・集落			墓・古墳			水田			畠				
		近期 ～ 中期 中期 後期	5C 5D 6C 6D 7C 7D 8C 8D 9C 9D 10C 10D 11C 11D 12C 12D 13C 13D 14C 14D 15C 15D 16C 16D 17C 17D 18C 18D 19C 19D 20C 20D 21C 21D 22C 22D 23C 23D 24C 24D 25C 25D 26C 26D 27C 27D 28C 28D 29C 29D 30C 30D 31C 31D 32C 32D 33C 33D 34C 34D 35C 35D 36C 36D 37C 37D 38C 38D 39C 39D 40C 40D 41C 41D 42C 42D 43C 43D 44C 44D 45C 45D 46C 46D 47C 47D 48C 48D 49C 49D 50C 50D 51C 51D 52C 52D 53C 53D 54C 54D 55C 55D 56C 56D 57C 57D 58C 58D 59C 59D 60C 60D 61C 61D 62C 62D 63C 63D 64C 64D 65C 65D 66C 66D 67C 67D 68C 68D 69C 69D 70C 70D 71C 71D 72C 72D 73C 73D 74C 74D 75C 75D 76C 76D 77C 77D 78C 78D 79C 79D 80C 80D 81C 81D 82C 82D 83C 83D 84C 84D 85C 85D 86C 86D 87C 87D 88C 88D 89C 89D 90C 90D 91C 91D 92C 92D 93C 93D 94C 94D 95C 95D 96C 96D 97C 97D 98C 98D												
54	白井北中道遺跡III				○									○	54
55	白井北中道遺跡II												○	○	55
56	白井北中道遺跡												○	○	56
57	白井大宮遺跡												○	○	57
58	白井掛岩遺跡	○			○								○	○	58
59	白井道路群												○	○	59
60	白井古墳群				○										60
61	白井二位屋遺跡III		○										○	○	61
62	白井二位屋遺跡4		○										○	○	62
63	津久田甲子塚古墳			○											63
64	宮田諷訪原遺跡	○	○												64
65	勝保沢中ノ川遺跡	○													65
66	寺内遺跡	○													66
67	寺内(勝保沢城)遺跡	○	○												67
68	勝保沢城刀削道路		○												68
69	滝沢天神道路		○												69
70	見立八幡遺跡			○											70
71	見立溜井遺跡		○												71
72	見立相好遺跡		○												72
73	諷訪西道路			○											73
74	中畦道路			○											74
75	三原田諷訪上道路		○												75
76	三原田三反田遺跡		○												76
77	見立清水遺跡		○												77
78	滝沢石器時代遺跡		○	○											78
79	滝沢日向塚遺跡		○												79
80	見立峯道路		○												80
81	滝沢御所遺跡												○	○	81
82	上三原田大島遺跡		○												82
83	上三原田東峯道路		○												83
84	勝舟戸遺跡	○													84
85	房谷戸遺跡I		○												85
86	房谷戸遺跡II		○												86
87	北町遺跡	○													87
88	田ノ保道路			○	○	○									88
89	分郷八幡道路	○													89
90	下遠原道路	○													90
91	水泉寺地区遺跡群		○					○							91
92	K0076道路		○												92
93	八木原沖田道路							○							93
94	津久田高梨北原道路							○							94
95	愛宕塚遺跡	○													95
96	金鳥村第7号墳				○										96
97	久保貝道ノ遺跡		○												97
98	五輪平道路		○												98

## 参考文献

- A 「金井下新田遺跡(古墳時代以降編)」(公財)群理文 2021  
B 「金井東裏遺跡Ⅱ甲皆装入骨等詳細調査報告書」群馬県教委 2017  
C 「金井東裏遺跡発掘調査報告書(古墳時代編)」(公財)群理文 2019  
D 「丸山古墳発掘調査報告書」(渋川市教委 1978)  
E 「20世紀後半の古墳」(渋川市 1993)  
F 「渋川市南北道路Ⅸ」(渋川市教委 2016)  
G 「尾崎高橋・松本洗一「金井古墳」」(群馬県史資料編3.)群馬県 1981  
H 「尾崎高橋「古墳文化」」(北群馬・渋川の歴史) 1971  
I 「山本良和「東町古墳」」(群馬県史資料編3.) 1981  
J 「「北町古墳」」(渋川市誌 第二巻)渋川市 1993  
K 「上毛古墳群」群馬県 1938  
L 「渋川市誌 第二巻」渋川市 1993
- 10『高源地東Ⅰ遺跡』(財)群理文 2006  
11『田中遺跡』(渋川市教委 1999)  
12『渋川市内遺跡Ⅳ』(渋川市教委 1999)  
13『石原東遺跡D区・諷訪ノ木V遺跡』(財)群理文 2005  
14『石原東古墳群』(渋川市教委 1997)  
15『渋川市内発掘調査報告書(石原西面遺跡3・石原東古墳群2・八崎大官跡2・中筋跡13次・白井中戸谷遺跡)』(渋川市教委 2014)  
16『石原東・中村日燒田遺跡』(渋川市教委 1991)  
17『石原東古墳』(中村日燒田遺跡) (渋川市教委 1991)  
18『石原東遺跡』(渋川市教委 1994・1995)  
19『石原東遺跡D区・諷訪ノ木V遺跡』(財)群理文 2005  
20『石原東遺跡E区』(渋川市教委 2001)  
21『空沢遺跡』(渋川市教委 1978)  
22『空沢遺跡』(渋川市教委 1994)  
23『空沢遺跡』(渋川市教委 1994)  
24『空沢遺跡』(渋川市教委 1995)  
25『空沢遺跡』(渋川市教委 1995)  
26『空沢遺跡』(渋川市教委 1996)  
27『空沢遺跡』(渋川市教委 1996)  
28『空沢遺跡』(渋川市教委 1997)  
29『空沢遺跡』(渋川市教委 1997)  
30『空沢遺跡』(渋川市教委 1998)  
31『空沢遺跡』(渋川市教委 1998)  
32『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
33『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
34『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
35『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
36『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
37『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
38『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
39『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
40『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
41『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
42『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
43『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
44『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
45『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
46『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
47『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
48『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
49『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
50『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
51『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
52『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
53『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
54『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
55『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
56『空沢遺跡』(渋川市教委 1999)  
57『FA火砂流による倒木』(渋川市教委 1999)  
58『FA火砂流による倒木』(渋川市教委 1999)  
59『FA火砂流による倒木』(渋川市教委 1999)

## 第2章 遺跡の立地と環境

- ~1991  
 「空沢遺跡O地点」(渋川市教委 1987)  
 「市内遺跡V・VI・VII」(渋川市教委 1992・1993・2000)  
 「市内遺跡VI」(渋川市教委 1993)  
 16 「市内遺跡発掘調査報告書」(渋川市教委 1988)  
 17 「市内遺跡V」(渋川市教委 1992)  
 18 「市内遺跡」(渋川市教委 1987)  
 「中筋遺跡第2次」、5次、7次～9次、11次・12次発掘調査概要報告書」  
 渋川市教委 1988・1991・1993・1995・1996  
 「市内遺跡III・IV」(渋川市教委 1990・1991)  
 「渋川市内発掘調査報告書(石原西湖遺跡3・石原東古墳群2・八崎大宮遺跡2・中筋遺跡13・白井夙谷(?)遺跡)」(渋川市教委 2014)  
 19 「行幸田城山遺跡3・笠原山遺跡」(渋川市教委 2018)  
 20 「中村遺跡」(渋川市教委 1986)  
 21 「有馬条里遺跡」(渋川市教委 1983)  
 22 「有馬条里遺跡I・II」(財)群理文 1989・1991  
 23 「行幸田山遺跡」(渋川市教委 1987)  
 24 「有馬堂山(?)遺跡」(渋川市教委 1999)  
 25 「市内遺跡発掘調査報告書」(渋川市教委 1988)  
 「市内遺跡VI」(渋川市教委 1993)  
 「市内遺跡VII」(渋川市教委 2006)  
 26 「有馬久宮原(?)遺跡」(渋川市教委 1997)  
 「西川市内遺跡X」(渋川市教委 1998)  
 「市内遺跡XII」(渋川市教委 2000)  
 27 「市内遺跡XIII」(渋川市教委 2000)  
 「有馬寺遺跡」(渋川市教委 2014)  
 28 「半田南原遺跡」(渋川市教委 1994)  
 29 「中ノ峰古墳群発掘調査報告書」(子持村教委 1980)  
 30 「丸子山道跡」(子持村教委 2005)  
 31 「北牧(?)山道跡」(子持村教委 2000)  
 32 「押手遺跡発掘調査概報」(子持村教委 1987)  
 33 「西組遺跡発掘調査報告書」(子持村教委 1985)  
 34 「黒井峠遺跡I」(子持村教委 1985)  
 「黒井峠遺跡発掘調査報告書」(子持村教委 1991)  
 35 「田尻遺跡-第11地点」(子持村教委 2005)  
 36 「年报11」(財)群理文1992  
 37 「吹屋恵久保道路」(渋川市教委 2006)  
 38 「白井北中道II遺跡・吹屋犬塚遺跡・吹屋中原遺跡」(財)群理文  
 1996・1998  
 39 「吹屋桜尾遺跡」(財)群理文 2007  
 40 「中郷原丘遺跡」(財)群理文 2007  
 41 「吹屋三角遺跡」(財)群理文 2007  
 42 「中郷恵久保道路」(財)群理文 2006  
 43 「白井北中道II遺跡・吹屋犬塚遺跡・吹屋中原遺跡」(財)群理文  
 1996・1998  
 44 「白井北中道II遺跡・吹屋犬塚遺跡・吹屋中原遺跡」(財)群理文  
 1996・1998  
 45 「吹屋瓜田遺跡」(財)群理文 1996  
 「鰐塚瓜田遺跡」(子持村教委 2000)  
 46 「下津野・有瀬道路」(子持村教委 2005)  
 47 「子持村誌」(子持村教委 2005)  
 48 「鳴火で埋められた古代の村(浅田遺跡・宇津野・有瀬道路)」(子持村教委  
 2002)  
 49 「中郷遺跡(1)・古墳時代以降編」(財)群理文 2008  
 「吹屋遺跡」(財)群理文 2007  
 51 「吹屋伊勢森遺跡」(財)群理文 2006  
 52 「白井十二道跡」(財)群理文 2008  
 53 「白井左又道路」(子持村教委 2005)  
 「白井左又道路発掘調査報告書」(子持村教委 2005)  
 「白井北中道II遺跡」(渋川市教委 2010)  
 「白井北中道II遺跡(1)・(2)」(財)群理文 2009  
 「白井北中道II遺跡・吹屋犬塚遺跡・吹屋中原遺跡」(財)群理文  
 1996・1998  
 56 「白井遺跡群(白井二位屋遺跡・白井中道遺跡・白井丸岩遺跡・白井  
 北中道遺跡)」(財)群理文 1997  
 57 「白井大宮遺跡」(財)群理文 1993  
 「白井大宮II遺跡」(財)群理文 2002  
 58 「白井掛原遺跡」(渋川市教委 2016)  
 59 「白井遺跡群-古墳時代編-(白井二位屋遺跡・白井中道遺跡・白井  
 丸岩遺跡・白井北中道遺跡)」(財)群理文 1997  
 60 「白井北中道II遺跡(1)・(2)」(財)群理文 2009  
 「上毛古墳群」(群馬県)1938  
 「群馬県古墳統覧」(群馬県教委 2017)  
 61 「白井二位屋遺跡」(子持村教委 2005)  
 62 「白井二位屋遺跡4」(有)毛野考古学研究所 2012  
 63 「律久甲子塚古墳」(赤城村教委 2005)  
 64 「宮田瀬原道路III・猫持久保道路」(赤城村教委 2004)
- 「宮田瀬原道路I・II・IV」(赤城村教委 2005)  
 65 「勝保沢(?)山遺跡I」(財)群理文 1988  
 66 「寺内遺跡」(赤城村教委 1975)  
 67 「寺内(勝保沢城)」(勝保沢城調査概報)赤城村教委 1996  
 68 「勝保沢月刀窪遺跡」(赤城村教委 1999)  
 69 「滝沢天神遺跡-A地点」・「棚下ひばり塚」(赤城村教委 2005)  
 「滝沢天神遺跡-B地点」(赤城村教委 2005)  
 70 「見立湖遺跡」(赤城村教委 2005)  
 71 「見立湖片遺跡・見立大久保遺跡」(赤城村教委 1985)  
 「見立湖片II遺跡」(赤城村教委 2005)  
 72 「見立相手遺跡I・II・III」(赤城村教委 2005)  
 73 「中畦遺跡・諏訪西遺跡」(財)群理文 1986  
 「中畦遺跡・諏訪西遺跡」(赤城村教委 2000)  
 74 「中畦遺跡・諏訪西遺跡」(財)群理文 1986  
 「中畦遺跡・諏訪西遺跡」(赤城村教委 2000)  
 75 「三原田遺跡I-N」(赤城村教委 2004・2005)  
 「三原田遺跡IV・V」(南宮諏訪遺跡)渋川市教委  
 76 「三原田三段丘遺跡」(赤城村教委 2001)  
 77 「見立清水遺跡」(渋川市教委 2007)  
 78 「史跡藏の石器時代道路」・「II」(渋川市教委 2008)  
 79 「見立堀跡II」(滝沢山の堀遺跡)赤城村教委 2003  
 80 「上三原田山向遺跡・上三原田大宮遺跡・上三原山中坪前遺跡・見立峯  
 遺跡I」(赤城村教委 2002)  
 81 「滝沢御所遺跡」(公財)群理文 2014  
 82 「上三原田大宮遺跡」(赤城村教委 2005)  
 83 「上三原田東家遺跡I・II」(赤城村教委 2001・2002)  
 84 「櫛舟(?)門跡」(赤城村教委 1999)  
 85 「房谷(?)門跡I」(財)群理文 1989  
 86 「北柿橋(?)山遺跡III」(北柿橋教委 1995)  
 87 「北町遺跡・田ノ保道跡」(北柿橋教委 1996)  
 88 「北町遺跡・田ノ保道跡」(北柿橋教委 1996)  
 「田ノ保道跡III」(北柿橋教委 2001)  
 89 「分郷八幡遺跡」(北柿橋教委 1986)  
 90 「下遠原遺跡A・C区」(渋川市教委 2010)  
 「群馬用木分郷八崎遺跡・滝原遺跡・下遠原遺跡E区・八幡山遺跡・真  
 驅山遺跡・重久保遺跡・西浦遺跡・水泉寺遺跡B区」(渋川市教委  
 2012)  
 91 「水泉寺地区遺跡群」(北柿橋教委 1995)  
 「群馬用木分郷八崎遺跡・滝原遺跡・下遠原遺跡E区・八幡山遺跡・  
 真駆山遺跡・重久保遺跡・西浦遺跡・水泉寺遺跡B区」(渋川市教委  
 2012)  
 92 「渋川市内遺跡12」(渋川市教委 2019)  
 93 「渋川市内遺跡12」(渋川市教委 2019)  
 94 「渋川市内遺跡13」(渋川市教委 2020)  
 95 「渋川地区遺跡調査報告書」(1) (渋川市教委 2020)  
 96 「渋川地区遺跡調査報告書」(1) (渋川市教委 2020)  
 97 「渋川地区遺跡調査報告書」(1) (渋川市教委 2020)  
 98 「渋川地区遺跡調査報告書」(1) (渋川市教委 2020)

## 第3章 調査の方法

### 第1節 基本土層と遺構確認面

県文化財保護課の試掘調査および金井東裏遺跡、金井下新田遺跡の発掘調査成果から、表土下に1～2m前後のHr-FAが堆積し、その下層にHr-FA認められることが把握されていた。Hr-FA上面には土坑類が集中し、Hr-FAに埋没する旧地表面には馬蹄跡、道及び畦状遺構等が確認されていること、Hr-FA埋没面には被災した集落と共に人や馬等の生物痕跡も確認される可能性があること等が調査の前提であり、この地域の最大の特徴であることが理解されていた。

特にHr-FA堆積層中には噴火経過に伴う複数の遺構確認面が存在することがこれまでの発掘調査成果により判明していることから、層位的段階的な記録保存の必要性が注意されていた。そのため火山噴出物の堆積状況を確認しながら調査を進めることができるとともに、火山堆積物の層位を把握しながら調査を実施する工程としている。

なお、火山噴出物の同定に際しては、専門研究者による観察も考慮し、必要に応じて科学的分析調査を委託することも検討するものとした。

特にHr-FA埋没面の遺構群は残存状況が良好である可能性が高いことから、各火山噴出物層と人間行動の関連性を把握することが重要であり、情報量も多岐にわたることから慎重な発掘調査が求められた。

#### 1. 基本土層

金井下新田遺跡は、榛名山北東麓末端に形成された山麓扇状地の扇端部南東隅に立地する。この地域の堆積土層の層序は共通しているが、近接した地点でも層厚等に相違が認められる場合もある。以下に基本土層の概要を示す。

**1層 表土。** Hr-FA混じりの暗褐色土で、層厚は30～40cmである。耕作及び生活行動に伴う土地改変により下層の軽石を擾乱することで形成される。

**2層 榛名二ツ岳伊香保テフラHr-FA層。** 地点によって

擾乱及び採取等の影響により層厚は異なり、1.3～2.2mと幅がある。この地域は榛名二ツ岳の北東方向で、最も多く軽石が降下した地域にある。降下年代については、これまでの調査研究により6世紀中葉に比定されている。

**3層 層厚10cm前後の腐植土層。** Hr-FAに被覆された旧地表面で、金井遺跡群では馬蹄跡及び畝状遺構等が確認されているが、大規模な古墳時代集落は確認されていない。軟弱な土層で、Hr-FA堆積層上に形成され、6世紀中葉の遺構面となる。

**4層 榛名二ツ岳渋川テフラHr-FA層。** 地点により層厚が異なり、金井遺跡群では0.25～1.20m前後が計測されている。

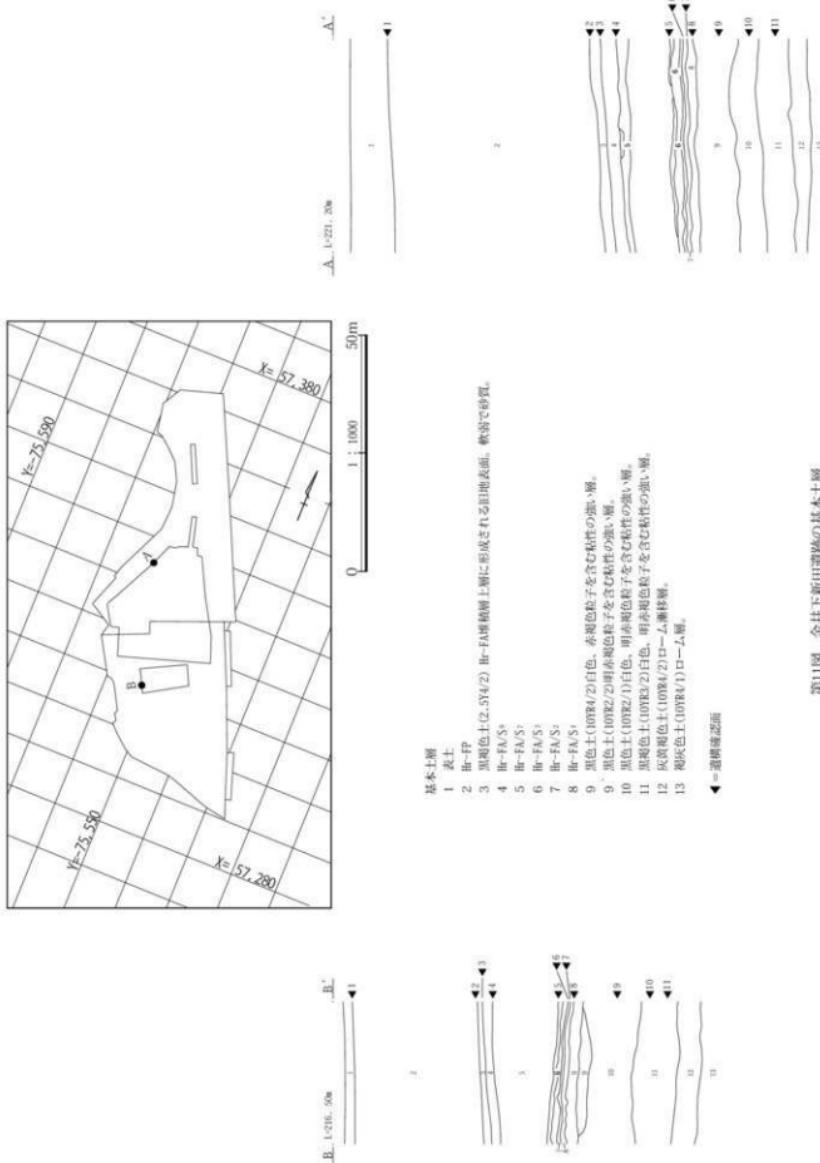
Hr-FAは、火山灰や火砕流等の堆積状況の分析から15層(S<sub>1</sub>～S<sub>15</sub>)区分されているが(soda 1996)、金井下新田遺跡ではS<sub>9</sub>・S<sub>1</sub>・S<sub>2</sub>・S<sub>3</sub>・S<sub>4</sub>が確認され、調査面もそれぞれの火山堆積層上としている。

S<sub>9</sub>：細粒の成層化した黄褐色火山灰層。層厚は5cmほどである。

S<sub>1</sub>：成層した厚い火砕流堆積物で、層厚は全体としては北から南に下がるにつれ厚くなるが、地点により極端に薄くなったり、厚くなったりするところもある。該当地点の地形に応じた火砕流の複雑な動きを示しているものと考えられる。また、部分的には線状衝撃痕等の火山痕跡を残している。

S<sub>2</sub>：成層した火砕流堆積物で、金井遺跡群ではS<sub>2</sub>が人間生活や古墳集落に最も大きな影響をおよぼしている。近年では、堆積層が細分され3波のフローユニットから構成されていることが分かっている。継起的に流下した火砕流であり、分層が可能の場合には、S<sub>1-1</sub>、S<sub>1-2</sub>、S<sub>1-3</sub>と表記される。この火砕流により人馬は被災し、建物は倒壊することになる。

S<sub>3</sub>：降下火山灰。金井遺跡群では、S<sub>2</sub>面上を移動する人足跡や馬蹄跡が確認されている。基本的に西から東への移動であり、火山噴火に伴う避難行動と考えられる。S<sub>2</sub>降下後に認められる行動であり、同時間帯のなかでの継



第111図 金井下新田道路の基盤土層

起したとも推定できることから、齊一的な避難の可能性もうかがうことができる。

S<sub>1</sub> : Hr-FA最初の噴火による降下火山灰。アズキ色細粒火山灰層で、層厚は5cm前後で旧地表面を一樣に被覆している。水分を多量に含有し、流动性が高く粘性をもつ。この性状を強調して「泥雨状」という表現も示されている。これまでの調査では、S<sub>1</sub>面を人や馬が移動する痕跡は確認されていない。

5層 黒褐色土(10YR4/2)直径1~2mmの灰白色(10YR8/1)軽石が混入する。この軽石は5世紀代の榛名山噴火に伴い降下した有馬軽石(Hr-AA)の可能性がある。浅間山の噴火で3世紀末に降下したと推定されている浅間C軽石(As-C)もわずかに含む。5世紀中頃~後半の遺構がこの層で確認される。さらに弥生時代の遺物出土も認められる。

6層 黒褐色土(10YR3/2)直径1~2mmの明黄褐色(2.5Y7/6)粒を混入する。縄文時代、弥生時代の遺物出土も確認される。

7層 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム漸移層。

8層 褐灰色土(10YR4/1)ローム粒を含む。

## 2. 遺構確認面

以上のような基本土層をもとに、これまでの調査実績を参考に検討した結果、次の11面を遺構確認面とするものとした。

Hr-FAに被覆される遺構面については、火山噴出物層中にも埋没状態を留める遺構情報があり、同一遺構であっても確認面を異にすることに注意をする必要がある。Hr-FAは15回にわたる噴火を繰り返すことから、繰り起的に火山灰や火碎流を噴出させているため、それぞれの火山噴出層に被覆された遺構情報が残存している場合が多いためである。このことが火山噴火に被災した痕跡の特徴であり、遺構の調査方法や記録方法にも注意する必要が生じる。

通常では「遺構面」として同一面上で認識できる遺構群が、金井下新田遺跡では立体的な情報が残存するため、同一遺構であっても複数の「遺構面」として把握されることになる。すなわち、火山噴出物に埋没する遺跡の記録保存については、遺構の面的広がりと共に立体的構造の把握が不可欠の要素となることを理解をする必要があ

る。

なお、すでに報告書が刊行された『金井下新田遺跡古墳時代以降編』における遺構確認面は基本的に連続するが、調査面数に相違が生じている。これは、調査工程上の相違によるもので、遺構面の異動はない。

### (1) 第1面(Hr-FP上面)

表土を除去しHr-FP上面を精査して、軽石層を掘り込む遺構を検出した。伴出遺物が乏しく、遺構時期について特定できないが、被覆土層中からは近世以降の陶磁器、寛永通宝等の古錢等が出土することから遺構についてもやはり近世以降の可能性が高い。

### (2) 第2面(Hr-FP下面)

Hr-FPに埋没する6世紀中葉の旧地表面が第2面となる。これまでの金井遺跡群の調査事例では馬蹄跡、畝状遺構、道等が検出されている。

### (3) 第3面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)

黄褐色砂質細粒火山灰層S<sub>1</sub>上面で遺構検出を実施している。この地点で確認できるHr-FA最上層の堆積面であり、噴火前の動向を確認することを目的とした。

### (4) 第4面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)

桃灰色火碎流堆積物で、Hr-FA最大規模の火碎流として地域一帯を埋めつくした火山堆積物である。

この堆積物中にも人間行動の痕跡および被災遺構の埋没情報が残されている可能性を考慮して、遺構確認作業を実施した。結果として人的活動痕跡、遺構埋没情報は未検出であったが、土器片、獸骨等を確認した。断片的な遺跡情報であるが調査区下層に存在する遺構の関連も想定されることから確認・記録作業を行った。

なお、5区では、この調査時点で囲い状遺構の炭化痕跡を見出している。なお、火碎流堆積物中に火山弾などの物体の痕跡として掘り込まれた衝撃痕も検出された。

### (5) 第5面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)

火碎流堆積物S<sub>1</sub>は、金井遺跡群では古墳社会に直接的に甚大な被害を与えている。金井遺跡群で確認された6体の古墳人、馬はこのS<sub>1</sub>により被災し、囲い状遺構も倒

### 第3章 調査の方法

壊せている。また、この面では火山弾等の影響による衝撃痕も確認され、倒木も検出している。

なお、今回の調査区内ではS<sub>1</sub>に直接被災した人等の生物痕跡や建物等の倒壊痕跡は検出されていない。

#### (6) 第6面(Hr-FA/S<sub>2</sub>面)

S<sub>2</sub>を除去し、S<sub>2</sub>上面を精査して遺構が確認される面である。これまでの一連の調査でもS<sub>2</sub>を踏み込んで移動する人足跡・馬蹄跡が確認されている。これらはS<sub>2</sub>で埋没することから、S<sub>2</sub>火砕流が発生するまでの時間内に火山灰上を移動する人や馬の移動痕跡である。噴火2回目の降下火山灰S<sub>2</sub>堆積時点での西から東への移動が行われたことになる。最初の噴火後には行動痕跡は現状では認められないことから推定すると、2回目の噴火後に一時に避難行動が開始されたものと考えられる。

7区では南西から北東方向に移動する複数頭の馬蹄跡が確認された。この馬蹄跡列は、すでに調査終了した5区の馬蹄跡に連続することが確認された。馬蹄跡のみの移動であることから、馬のみであるのかもしくは騎乗者が存在したのか、いずれの可能性もあるが特定できる調査情報は得られていない。

また、南東隅には西から東に移動する人足跡も確認された。歩行状態を示す移動痕跡である。

遺構としては、柵上の匂いを有する寄歯タイプの畠が埋没することが確認されている。

#### (7) 第7面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)

Hr-FA最初の噴火による降下火山灰であり、地域一帯を被覆している。水分を多く含み、泥雨状とも表現される火山灰であり、この面での人や馬の行動痕跡や遺構情報の検出に努めた。古墳集落に最初に降下した火山灰であることから、何らかの行動痕跡、避難行動等の情報が遺存する可能性が高いが、関連する情報は未検出である。この最初の噴火に伴う降下火山灰上に避難行動を含めた痕跡が確認されていないことも、当時の自然災害時的人的動向を探る課題が存在する。

#### (8) 第8面(Hr-FA/S<sub>1</sub>下面)

Hr-FAに埋没する遺構面であり、S<sub>1</sub>に被覆される6世紀初頭の旧地表面ということになる。金井下新田遺跡で

は、首長層に関連する匂い状遺構、祭祀遺構等の重要な遺構が発見されたことから一躍注目されることになった。

7区では、祭祀遺構1基、柵に囲まれた寄歯タイプの畠が検出されたが、他には認められていない。下層に埋没する竪穴建物の窪みが残存することから、この面での整地もしくは造成行為も認められない。また、人や馬の移動に伴う道も未検出であり、頻繁に多人数が移動していたような痕跡も認めない。少なくとも匂い状遺構に関連する通路の存在は、7区には認められないと考えることができる。

#### (9) 第9面(黒色土1面)

Hr-FA下の黒色土層を掘り込んで造られた5世紀後半の竪穴建物を中心とする遺構確認面である。竪穴建物は重複関係を有することから、複数の時期が含まれることになる。すなわち、火山噴出物に被覆される遺構確認面とは異なり、同一確認面で複数の遺構が検出される。建物間の重複状況から、少なくとも3時期の遺構が存在するものと考えられる。

#### (10) 第10面(黒色土2面)

黒色土1面の遺構調査に伴い、さらに竪穴建物等の遺構及び遺物出土が確認された。この経過で検出された遺構群を黒色土2面として調査を進めている。竪穴建物6棟をはじめ掘立柱建物、平地建物及び土坑、ピットが検出されている。竪穴建物は古墳時代に位置づけられることから、古墳集落形成期の遺構といえる。なお、いずれの遺構も黒色土中に検出されるもので、旧地表面の特定は困難なものとなる。おそらく古墳時代の旧地表面はHr-FAに被覆される黒色土面に近いと推定される。継続的、連続的な集落造営により旧地表面は消失したのも考えられる。調査時に1号平地建物とした遺構も旧地表面の特定が困難であることを考えれば、竪穴建物の可能性を考慮する必要があるかも知れない。

なお、黒色土中には弥生土器の出土も確認されていて、遺構については認められていない。

#### (11) 第11面(黒褐色土面)

第10面黒色土2面の調査と共に下層の黒褐色土面での遺構、遺物の確認を行った。7区南端部の傾斜面で繩文

時代後期の柄鏡形竪穴建物1棟を確認した。他には土坑、ピットも認めている。なお、弥生時代については、土器片を中心とした遺物出土が認められたが、遺構は検出されていない。調査区北西側に集落が存在する可能性が想定できる。

### 3. Hr-FAの降下年代について

Hr-FAの降下年代については、6世紀初頭という年代観が示されてきた。Hr-FAの降下年代は、古墳時代集落の変遷を理解する重要な指標であることから、着目されている。金井東裏遺跡及び金井下新田遺跡調査段階からこのHr-FAの降下年代について注視しながら、出土資料の分析、検討を進めてきた。『金井東裏遺跡 古墳時代編』(2019)、『金井下新田遺跡 古墳時代以降編』(2021)では、炭素14年代測定、酸素同位体比年輪年代測定等の年代分析と考古学的年代研究の現状を踏まえ、年代学的に5世紀末という判断が確実にできない段階では、従来の6世紀初頭を降下年代としている。

本報告書も金井遺跡群として金井東裏遺跡、金井下新田遺跡と連続する遺跡であり、関連して分析する必要があることからHr-FAの降下年代については「6世紀初頭」との見解を踏襲するものとした。

## 第2節 調査の概要と記録の方法

発掘調査については、前記の遺構確認面を前提に火山噴出物との関連性を充分確認しながら行った。ここでは調査と記録の方法について遺構確認面に記載する。

なお、各調査面とも10cm単位の等高線による全体図(1/200)を作成し記録した。遺構が確認された場合はそれぞれの遺構に応じて図面記録している。

### (1) 第1面(Hr-FP上面)の調査

Hr-FP上面の調査は、まず地表面をバックフォーにて掘削し近世の土坑・溝等を検出した。表土層にもHr-FPが混入することから、継続的な擾乱を受けていたものとみられ、検出遺構の構築面は遺失していることになる。なお、奈良時代・平安時代・中世の遺構・遺物は発見されなかった。

また、鉄滓が表土層を含め調査面から出土したが、関

連遺構や年代を特定できる情報は得られていない。

調査の記録は全遺構面共通して埋土の観察と記録として上層断面を1/20で図化し、全掘したのち全体形状をデジタル平面測量をした。写真は断面・平面の撮影を基本とし、火山噴出物の特徴的な堆積や、遺物の出土状況等を必要に応じてデジタルカメラで撮影した。

遺構確認面ごとに地上全景写真及び空中写真を撮影した。遺構の表記については、確認できた遺構から調査順に区ごとに通番を付した。

なお、7区は調査年度が分割されるが、遺構番号は連続するものとした。

Hr-FP上面の調査終了後、Hr-FPをバックホールにて掘削した。Hr-FP中に遺構・遺物が検出される可能性もあることから、慎重に掘り進めたが、遺跡全域でHr-FP中の遺構・遺物は出土しなかった。

### (2) 第2面(Hr-FP下面)の調査

Hr-FPをバックホールにておおむね除去した後に人力掘削作業によりHr-FPを除去し、Hr-FPで覆われた面を精査した。この面は、Hr-FAの火山災害後、数十年後に植物が生育し、それが腐植して形成された黒色土層の上面である。この面の状況からHr-FP噴火前にはある程度の復旧がされていたことがわかる。

この面では馬蹄跡と道が確認された。この面の馬蹄跡はHr-FPで被覆されることから軽石を除去して検出した。状態のよい馬蹄跡は個別に写真撮影と断面図作成を実施し、全体の列状の分布がわかる平面図を作成、全景写真を撮影した。

### (3) 第3面(Hr-FA/S<sub>0</sub>面)の調査

Hr-FAに関連する調査では、金井東裏遺跡で「甲を着た古墳人」をはじめとした被災人骨が発見されたことから、火砕流堆積物および火山灰を人力掘削作業で堆積ごとに調査を進めている。また、金井下新田遺跡では火砕流堆積物中に被災建物の痕跡が確認されることも明らかになり、より慎重で丁寧な調査が求められることになった。

S<sub>0</sub>は遺跡で確認されるHr-FA最上位層で、降下火山灰層である。土器片の出土は認められたが、遺構及び人間活動の痕跡は確認されていない。

### 第3章 調査の方法

#### (4) 第4面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査

Hr-FA中、最大規模の火碎流堆積物であり一帯の古墳集落を埋没させている。この火碎流は、榛名山北東麓を流下するため、炭化した立木や植物茎痕等が含まれる。これらの自然物痕跡に加え、これまでの調査事例では、Hr-FAに埋没する建物の被災痕跡も認められることから慎重に調査を進めた。土器片、骨片及び炭化材は認められたが、遺構関連の痕跡は検出されていない。

#### (5) 第5面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査

この地域の古墳集落に甚大な被害を及ぼした火碎流堆積物で、これまで発見された被災古墳人や建物はこの火碎流が直接的な影響を与えたことになる。S<sub>1</sub>は粗粒火山灰層と細粒火山灰層のユニットにより構成され、3波が継起的に流走したと考えられている。また、火山弾等の飛来による衝撃痕が残されているが、S<sub>1</sub>に伴うものも含まれる。倒木痕が1か所で確認されているが、この周辺での確認例は少ない。集落形成に関連して、立木類は除去されたことによるものかも知れない。

#### (6) 第6面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査

S<sub>1</sub>面の調査を進めながら、S<sub>2</sub>面を精査すると人足跡、馬蹄跡を確認した。火山噴火後の行動痕跡であり金井遺跡群で多数検出されるが、大半は西から東方向に移動していることがわかる。噴火災害に伴う避難行動と考えてよいだろう。この行動痕跡は列状に確認されるが、人足跡のみの場合、人足跡と馬蹄跡が並列する場合、馬蹄跡のみの場合がみられる。金井遺跡群で確認されるこのような行動痕跡は全てS<sub>2</sub>面上に限定されることから、同一時間帯での移動行動であるとみられる。災害時の避難行動を示す貴重な資料であることから番号を付し、全景写真、個別写真及び図面記録を行った。なお、遺存状態の良好な人足跡、馬蹄跡は断面図を記録し、計測可能な場合は長さ、幅を計測した。

#### (7) 第7面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査

S<sub>2</sub>を掘り下げ、S<sub>1</sub>上面の状況を確認した。Hr-FA最初の噴火による降下火山灰であり、噴火直後の動向について調査を実施した。S<sub>2</sub>面には人足跡や馬蹄跡が多数残されているが、S<sub>1</sub>面には行動痕跡が確認されていないが、

金井東裏遺跡3号祭祀遺構ではS<sub>1</sub>面での人的行動の可能性が指摘されている。今回の調査でもこの点を確認するために面的調査を行ったが、人の行動を示す痕跡は確認されなかった。しかし、S<sub>1</sub>に被覆された1号畠を囲む垣の存在を確認した。S<sub>1</sub>降下時点では、畠の周囲に垣が巡らされていたことがわかった。

#### (8) 第8面(Hr-FA/S<sub>1</sub>下面)の調査

S<sub>1</sub>を人力掘削作業により除去しながら、Hr-FAに被覆された旧地表面を検出した。この黒色土面が6世紀初頭の地表面であり、古墳集落の形成面となる。5区で調査された匂い状遺構や祭祀遺構群もこの面の遺構群となり、金井遺跡群の中心的存在といえる。7区では、匂い状遺構に関連する遺構は認められていないが、垣を伴う寄歛タイプの畠と祭祀遺構1基が検出されている。5区との間には道の存在も想定されたが、7区の調査ではその存在は把握できていない。なお、この面では竪穴建物は存在しないが、埋没した竪穴を示す窟みが数か所で確認された。黒色土中に竪穴建物群が造営されることが把握できる。

#### (9) 第9面(黒色土1面)の調査

第8面で確認された埋没竪穴を示す窟みに応じて調査を進め、5世紀後半を中心とする竪穴建物等を黒色土1面として検出した。竪穴部の窟みと周囲には周堤の痕跡が認められる建物も存在した。さらに重複竪穴も存在することから複数の時期の集落変遷があったことがわかる。検出された竪穴建物には規模差が明瞭で、一辺10m前後の大型竪穴建物、6m前後の中型竪穴建物、4m前後の小型竪穴建物に分類することが可能である。

なお、竪穴建物には焼失建物も存在し、廃絶行為による可能性も推定する必要がある。

#### (10) 第10面(黒色土2面)の調査

黒色土1面の調査進捗に伴い、さらに竪穴建物の埋没が確認された。古墳時代に属する建物であることから、この遺跡における古墳集落形成段階の竪穴建物といえる。すでに集落の継続的造営により旧地表面は消失し、遺存状況も不良であるが、この面でも竪穴間に重複が認められている。黒色土1面及び2面によりさらに詳細な

古墳集落の変遷が理解される可能性がある。

なお、古墳時代の評価については東接する金井下新田遺跡及び金井東裏遺跡の調査成果を含め検討する必要があるだろう。

#### (11) 第11面(黒褐色土面)の調査

黒色土中の調査終了に伴い、さらに下層の黒褐色土面の遺構確認を行った。すでに、黒色土中からも繩文土器や弥生土器が出土していることから、これらの遺物に伴う遺構の存在を確認することを目的とした。その結果、繩文時代後期の柄鏡形竪穴建物1棟を検出した。金井下新田遺跡では、繩文時代前期・中期の遺構の確認は行われていたが、後期に属する遺構としては今回が初例となる。なお、弥生時代については遺物のみの確認に止まり、遺構については検出されていない。

#### (12) 繩文時代以前の調査

この後、黒色土下層・褐色土層を掘り下げ調査を実施した。各区で関東ローム層が検出されたので、旧石器時代の遺物の有無について確認調査を実施したが、旧石器の出土は確認されなかった。

### 第3節 整理作業の方法と経過

整理・報告書刊行業務は、整理計画に沿って平成3年4月から平成4年3月までの期間で実施した。

第2表 金井下新田遺跡7~9区 遺構構成表

遺構種別	調査面											総数
	第1面	第2面	第3面	第4面	第5面	第6面	第7面	第8面	第9面	第10面	第11面	
竪穴建物	-	-	-	-	-	-	-	-	8	6	1	15
掘立柱建物	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
平地建物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
土坑	92	-	-	-	-	-	-	-	6	5	4	107
ヒット	3	-	-	-	-	-	-	1	-	19	3	26
溝	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
集石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
道	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
壁	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
生垣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥(寄巣)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
祭祀	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
その他の遺物集中	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	5
壙土	-	1	-	-	-	-	-	3	2	1	-	7
人足跡	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
馬蹄跡	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
波状衝撃痕	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
円状衝撃痕	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
溝状衝撃痕	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
倒木痕	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1

## 第4章 出土した遺構と遺物

### 第1節 遺構確認面の概要

本報告書で対象とする金井下新田遺跡7～9区の発掘調査は、一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴い実施された。すでに金井下新田遺跡1～6区については、上信自動車道金井バイパス建設事業に伴い平成26年度から平成29年度にかけて発掘調査が実施されている。また、これに先行して北側に連続する金井東裏遺跡の発掘調査も実施され、榛名山噴火による火山噴出物に被覆された地域的にも連続する「金井遺跡群」として理解されている。もとより平成24年度には金井東裏遺跡から「甲を着た古墳人」が発見されるという重要な調査成果が得られ、金井下新田遺跡4～6区では古墳時代首長に関連する「團い状遺構」も確認されたことから埋蔵文化財包蔵地としてもその注目度は一層高まることになった。

今回の調査対象である金井下新田遺跡7～9区は「團い状遺構」が確認された5区の西側に隣接する区画であり、基本的に金井東裏遺跡および金井下新田遺跡で実践された調査方法や内容を前提とすることが埋蔵文化財の記録保存上も必要なものとなった。同時に、県文化財保護課による試掘調査により榛名山噴火に伴うHr-FPおよびHr-FAの堆積状況や遺構確認面に関する情報を得られたこともあり、これまでの調査方法を踏まえ、堆積する火山噴出物の層序に沿って発掘調査を進めるものとしている。

なお、金井東裏遺跡の発掘調査の進展に伴い被覆する火山噴出物についてより詳細な分析も行われてきてている。特に、金井遺跡群を特徴づける榛名二ッ岳渋川テフラ(Hr-FA)に関しては遺構との関連を含め火山学との連携により進展している経緯もある。

まず、今回の発掘調査による遺構確認面の概要を示した後に遺構や遺物の調査状況を説明するものとしたい。

#### 1. 第1面(Hr-FP上面)の概要

表土掘削後のHr-FP層上面を調査面としている。調査対象区は7区、8区、9区が該当する。

表土層にはHr-FPが混入することから、耕作等の影響により継続的な擾乱を受けていることから軽石上層は当初の堆積状態を保っていない。また、軽石が掘り取られたような擾乱も認められるが、特に7区南半部では著しい。擾乱範囲が広がることから、この部分に存在した遺構は遺失しているものとみられる。

第1面の標高は9区で222.70m前後で7区南側に向かって傾斜し217.30m前後となり、最大で5.4m程度の比高差が生じている。これは、金井扁状地西南端部に接した位置に遺跡が立地することによるもので、扁状地形に沿ったものといえる。

なお、8区および9区は第1面が調査対象となることから、第2面以降は7区のみが調査対象区となる。

第1面で確認された遺構は土坑、ピット、溝、烟、道であり、流路状の痕跡も認められている。

しかし、確認面はHr-FP上面であるがこの軽石面を構築面とする遺構は認められず、上層に継続的に形成される表土層である黒褐色土層から掘り込まれている。時期的には近世を主としたものとみられ、遺構の検出状態からは居住域としての利用は認められない。8区で烟が部分的に確認されていることから、耕作域としての土地利用はあったものとみられる。主体的な遺構は土坑であるが、共伴遺物は認められず掘削時期や性格については不明である。また、土坑には人骨もしくは墓壙を示すような遺物も出土していないことから、墓壙と判断できるものも認められないため、墓域の可能性はないものと考えられる。

検出された遺構の概要については次のとおりである。

土坑は、7区57基、8区1基、9区34基の計92基が確認された。調査区全域に分布し、偏在する傾向は顕著ではない。7区南半部に土坑分布が希薄な範囲があるが、この部分は擾乱を受けていることから遺構が遺失する可能性があり、分布傾向を把握しにくいものとしている。土坑間の重複も認められるが2から3程度の重複にとどまり、継続的・集中的な土坑掘削は行われない状態を示している。

溝は14条が検出されている。7区、8区では地形の傾斜に沿った走行を示す溝が確認されている。北西側から南東方向に向かう溝で、おそらく流下に伴い形成されたものとみられる。7区西側には現状でも沢が存在し、湧出水が流下するが、各溝はこの沢に近接した場所でもあることから沢水の利用を促すための水路であった可能性が高い。時期は特定できる情報に乏しいが、近世以降と推定される。近世とすれば旧三国街道沿いの金井宿に近接する地域に相当することから、扇状地盤丘面下への農業用水の確保を目的とした水路の可能性もあるが、生活利用の用水の可能性も考えられる。

また、7区北側では地形に沿う走行を示さず、東西方向に走行する溝が確認されている。やはり時期を特定できる出土遺物や調査所見は得られていない。さらに調査範囲が限定されるため不明ながら、東側の既発掘調査区の状態を含めると土地区画に関わる溝とみることが可能である。

道は、8区東端部で確認されている。地形の傾斜に沿って形成される道で、北西から南東方向に走行する。ちょうど、周辺で確認された溝と同様の走行であり、構築時期は特定できないが、検出状況から同時代の可能性が窺われる。

畑は、8区で確認された1例のみである。1号溝と重複し、耕作地が溝で切られている。すなわち、耕作地としての土地利用の後、溝(水路)が形成されたことになり、土地利用の変遷の一端を現しているのかも知れない。

なお、流路として確認された自然痕跡は7区中央西端部に位置するが、2面以下の遺構面ではその痕跡が残存しない。このことから流路として水流が生じたのは短期間であり、自然流路として常時存在したものとみることはできない。Hr-FP堆積以降に突発的な水流により形成された痕跡と判断できるものといえる。

## 2. 第2面(Hr-FP下面)の概要

軽石層に被覆される黒褐色土層面であり、6世紀中葉と推定される旧地表面にあたる。

吾妻川対岸の黒井峰遺跡では同軽石層に被覆された古墳時代集落・白井遺跡群では広大な平坦部に馬飼育に関わる放牧地が検出される等、古墳や水田等の生産遺構が集中することから、この地域では埋蔵文化財の重要な鍵

層となる火山噴出層である。

金井遺跡群では、この軽石層下に遺構は確認されるが集落の形成は認められず、道、畠状遺構及び馬蹄跡などが散発的に確認されている。居住域としての土地利用は活発ではないが、何らかの人的活動が行われることは確実である。6世紀初頭と推定されるHr-FA降下から數十年経過し、表土である黒褐色土がHr-FA上に5cm前後堆積した地表面上に道及び馬蹄跡が形成される。

1号道は7区を北西から南東方向に走り、南端部にあたる傾斜部分ではV字形の掘り込みを伴う。斜面部の道底面には小穴が連続して掘削され、黒褐色土が埋め戻され路面としている。路面は硬化面が形成されることから、道として利用されたことが認められる。この連続する小穴の存在は斜面部のみに認められる構造であることから傾斜面の通行利便性、傾斜路面の保全等を目的としたことも推定可能であるが、具体的な用途は不明である。北西部から直線的に傾斜部に延長し、おそらく沢に通じる道と考えられるが、単なる踏み分け道ではなく通路の確保を目的とした構造物の造成とみてよいものだろう。そう考えると、継続的な通行を必要とする状態が7区北西側に存在したということであろうか。2号道は、1号道に付随するように確認されたもので、硬化した路面として連続する。3号道は、蛇行しながら東西方向に走行する道で部分的に分岐も認められる。1号道と重複する部分あるが、3号道が横切るように確認されているが同時に存在を否定するものとはいえないと思われる。

これらの道の周囲に馬蹄跡とみられる円形痕跡が確認される。すべてHr-FPに埋没するもので、これまでの金井遺跡群で確認されたHr-FP下面での馬蹄跡と同様の検出状態である。馬の存在について、飼育状況等に関する有効な調査成果は認められていないが、6世紀中葉という時期に金井遺跡群では馬飼育に関わる行為が存在した可能性が高いとみられる。吾妻川対岸の白井遺跡群における大規模な馬の放牧地の形成と呼応した動向と推定ができるだろう。

## 3. 第3面(Hr-FA/S<sub>9</sub>面)

第3面は、黄褐色砂質細粒火山灰層S<sub>9</sub>上面を対象としている。S<sub>9</sub>は降下火山灰層であり、金井遺跡群の調査でもHr-FAの上位堆積火山灰層として認識されるものであ

る。しかし、安定した堆積層ではなくこれまでの調査でも $S_1$ もしくは $S_2$ 等との混入も観察されている。今回の調査でも、降下火山灰 $S_1$ の堆積も一部で観察された。

なお、第3面も地形に沿って北西から南東にかけて傾斜し、7区西北部で220.20m、南東部で216.00m前後となり4.2m前後の比高差が生じている。第2面はHr-FA堆積層上に形成された層厚5cm程度の黒褐色土(旧地表面)であることから、第3面とは地形上及び標高値も大きな差異は生じていない。遺構は検出されないが、土器片及び獸骨が層中に認められた。小片であることから詳細は不明であるが、火山噴出物の堆積経緯から判断すれば、北西側から流入したものと推定できる。

#### 4. 第4面(Hr-FA/ $S_1$ 面)

火砕流堆積層である $S_1$ 上面を対象としている。桃灰色火砕流堆積物である $S_1$ は、金井遺跡群全域で確認され、この地域の古墳集落に壊滅的な被害を及ぼしたHr-FAの噴火の中で最大の火砕流となっている。この面でも遺構は認められず、土器片、獸骨片がわずかに混入していたのみである。

なお、これまでの発掘調査成果によれば、Hr-FA埋没する古墳時代集落において、上屋等の施設が残存する場合、この面で痕跡が確認される場合があるが、7区ではその痕跡は認められていない。あわせて、火砕流であることから、北西側からの流入の可能性も注視したが人、馬もしくは建物等も確認されていない。

標高は北西側で220.00m前後、南東側で216.00m前後を測り、やはり4m前後の比高差が存在する。

#### 5. 第5面(Hr-FA/ $S_2$ 面)

火砕流堆積層である $S_2$ 上面を対象としている。金井遺跡群では、この火砕流が直接的に古墳集落に被害を及ぼしたことがわかっている。金井東裏遺跡では「甲を着た古墳人」をはじめ3人の古墳人が、金井下新田遺跡では馬と共に被災した古墳人2人が $S_2$ により被災していた。また、建物も $S_2$ により倒壊していることも確認されている。確認される遺構としては、建物上屋が存在する場合、その痕跡が火砕流中に残存する可能性があることと、人もしくは馬が被災していれば、その状態も確認できることになる。東側に位置する金井下新田遺跡5区では、堅

穴建物や掘立柱建物等の主柱が火砕流により倒壊、炭化した状態が遺存していたため、7区でも慎重な調査が求められた。7区では遺構の検出は認められていないが、噴火に伴う火山衝撃痕が多数確認された。衝撃痕は、火砕流 $S_1$ 発生に伴い噴出した火山弾等の飛来物が地表面に衝突することで形成される痕跡で、直線的な痕跡について「線状衝撃痕」と呼んでいる。すでにこれまでに多数検出され、金井下新田遺跡では北西から南東方向に走行を示す線状衝撃痕が確認されている。7区では北半部で痕跡が確認され、南半部に比すると大多数を占める。傾斜地である7区の高位部である北半部に多く残り、傾斜面にあたる南側には飛来物が接することなく流出してしまったと考えられる。

なお、7区では線状衝撃痕とは異なる形態の火山痕跡である円状衝撃痕と溝状衝撃痕が検出されている。

円状衝撃痕は、線状衝撃痕と同様の形成過程によるものとみられるが、飛来物の地表面への衝突角度による相違、飛来物の形態もしくは性質の相違であるのか特定できないが、不定形な円状痕を示すことから線状衝撃痕とは相違する火山痕跡とみられる。

溝状衝撃痕は7区中央付近で検出された火山痕跡で、 $S_1$ により形成されたものである。幅0.2m前後、深さ0.1m前後、延長6m程度溝状に連続する痕跡で、溝両側には飛来物が走行した際、押し出された堆積層が盛り上がりとなって残存する。飛来物の点的衝撃ではなく、地表面を数メートルにわたり移動することで形成された痕跡とみられる。

いずれも火砕流の流下に伴い形成された火山痕跡であり、飛来物の形状、性質及び衝突時の状態等の差異により形態差が生じるものと思われる。

また、火山痕跡として倒木痕が確認されている。第5面である $S_2$ 上面で確認されることから、火砕流 $S_1$ の威力により倒壊したことになる。倒木状態を示す堆積層の逆転層及び流入層が確認されたが、炭化木は出土していないことから、被熱せず堆積層中に腐朽分解したものとみられる。

#### 6. 第6面(Hr-FA/ $S_2$ 面)

金井遺跡群では、Hr-FAに伴う生物痕跡として降下火山灰 $S_1$ 上面で人足跡、馬蹄跡が検出されている。 $S_1$ は水

分が多く含み「泥雨状」とも表現されるが、S<sub>1</sub>は細粒砂質層で踏み込まれた足跡形状が保持される性状をもつ。この面で確認される人足跡や馬蹄跡をみると、踏み込む際に生じる繊細な亀裂が残っていることがわかる。表面は乾燥ぎみで、流動性は乏しく柔軟ではあるものの軟弱ではない面が形成されていたことがわかる。この足跡類がS<sub>1</sub>により被覆されている。

S<sub>1</sub>は、火山灰研究の成果により3波の火砕流が連続的に発生したことが確認されている。この火砕流に人や馬も被災し、建物の倒壊も引き起こしているが、地表面に残る足跡群への影響は認められない。地表付近では火砕流に伴う火山灰が流下する過程で地表面の変形等を生じさせる衝撃がほとんどなかったと考えることができる。このような状態で確認される人足跡、馬蹄跡であるが、基本的に西から東への移動として認められる。S<sub>1</sub>面上の移動であることから、噴火によるS<sub>1</sub>降下後に行動が開始されていることになる。

7区でも南端部で人足跡が西から東へ移動する状態が確認された。確認範囲が狭いため詳細は不明であるが、傾斜面を上りながらの移動であるとみられる。

この人足跡と離れた位置になるが、馬蹄跡が列状に確認されている。複数の馬が西から東に移動していることがわかるが、この馬蹄跡はすでに調査されている金井下新田遺跡5区に連続していることが確認されている。馬蹄跡は形状がS<sub>1</sub>面に明瞭に残り歩行状態を示していることがわかる。このことは連続する5区の状態も同様であり、蹄を蹴上げたりするような痕跡を残す走行行為や不規則行動は認められない。馬蹄跡のみの移動痕跡であり、人足跡は認められないことから人の同行はないといえる。しかし、これまでの調査例では人と共に移動することが確認されていることから、火山噴火時に馬のみが移動したとみるよりは、人の騎乗を想定することも可能である。馬蹄跡は直線的ではなく蛇行しながら西から東方向へ移動しているが、歩行(常足)状態を保ったままであることも、騎乗者により制御されながらの行動との推定もできる。

なお、1号畠もS<sub>1</sub>に被覆された状態で確認することができる。

標高は、7区北西部で219.45m前後で傾斜しながら南東部では215.20m前後となり、4.25m程度の比高差が生

じている。

## 7. 第7面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)

榛名山噴火による最初の噴出物である降下火山灰の面となる。S<sub>1</sub>は金井遺跡群全域で確認される火山灰で、古墳集落及び旧地表面を直接被覆している。水分を多く含む火山灰であり、小動物の地下巣窟への流入も観察することができる。S<sub>1</sub>面では1号畠の埋没痕跡が認められるのみで、これまでの調査事例と同様に人や馬の移動に伴う痕跡等も存在しない。標高は北西部で219.40m前後、南端部で215.20m前後となり比高差4.2m程度を測る。

## 8. 第8面(Hr-FA/S<sub>1</sub>下面)

S<sub>1</sub>に被覆される旧地表面であり、これまで金井遺跡群(金井東裏遺跡・金井下新田遺跡)の調査では古墳時代の重要遺構が確認されている。

7区東側の県道を挟む5区では、古墳時代の首長関連施設である「囲い状遺構」や大規模な祭祀遺構等が発見されていることから、今回の調査区でも関連する遺構の検出が想定された。囲い状遺構とは30~35m程度の近距離であり、関連遺構面として把握する必要があるといえる。

調査によって、1号祭祀及び1号畠が検出された他、遺物が散発的に出土するが、特徴的な遺構は認められていない。1号祭祀は5区での調査事例に比較すると小規模なもので、土器や白玉等の出土量、種類も少ない。さらに礫が複数出土する点も、これまでの祭祀関連遺構例とは異なる。1号畠は埋没竪穴建物の窪地を中心に形成される「寄歛」タイプの畠である。このタイプの畠はこれまで金井遺跡群で確認されているが、いずれも埋没竪穴建物部分に形成されるという特徴をもつ。盛土上の歛は形状を保っていることから、収穫前の状態を保持しているものと観察される。作物調査のため歛の縦横断面観察を行ったところ、歛中央に茎状の痕跡が確認されたが、歛内部には作物痕跡を示す情報は得られていない。また、畠耕作土により珪酸体分析や種実遺体分析の科学分析も実施した。

なお、この面で下層に存在する竪穴建物の埋没痕跡が認められている。

標高は7区北側で219.40m、南側で215.20m前後で4.2

m程度の比高差を計測する。

この調査面はHr~FAに被覆されることから、最終的には6世紀初頭の地表面となるが、この面及び下層の調査に伴い弥生土器が出土している。黒色土中及び古墳時代遺構の埋没土に混入した状態で確認される。調査区内に遺構は未検出であることから、近接して弥生集落が存在する可能性があろう。

### 9. 第9面(黒色土1面)

第9面から第11面の調査面は黒色土層中に確認される遺構面であり、上層の火山堆積物を基準とした旧地表面の確認に伴う調査面とは異なる。遺構検出に伴い、重複関係を確認しながら順次進捗することで各遺構面としている。特に第9面と第10面は継続する時間的経緯の中で形成された古墳時代集落であると考えられる。

第9面では、竪穴建物8棟、土坑6基の他、焼土及び遺物の集中出土が認められている。

竪穴建物は1号・2号竪穴建物が単体で確認されたが、他の6棟は建物間重複をもつ。すなわち、第9面は単一時期ではなく、建物重複が生じる時間的な幅を有することになる。これは建物が集中するということに加え、連続する時間的経過により形成されたことを示しているものといえる。

また、西端部には和尚沢から流下する現水路が設置されるが、この部分にも3号・4号竪穴建物が接していることから、沢水が流出する谷地形はさらに西側であった可能性が考えられる。

### 10. 第10面(黒色土2面)

第9面の下層で検出された遺構群であり、基本的に古墳時代集落を構成する一群である。竪穴建物6棟、掘立柱建物1棟の他、土坑やピット、焼土、集石等が確認されている。この調査面でも竪穴建物、掘立柱建物間の重複が認められることから、少なくとも3時期の遺構が含まれていることになる。つまり、第10面も複数の時期の遺構が同一面で確認されることから、すでに旧地表面は遺失しているといえる。

なお、調査時に1号平地建物とした遺構については可能性は否定できないが、少なくとも旧地表面の特定ができていないことから竪穴建物の床面部であることも考え

られる。

### 11. 第11面(黒褐色土面)

黒色土層下の黒褐色土層で検出される遺構であり、遺構検出面としては最下面にあたる。竪穴建物1棟、土坑4基の他、ピット、溝が確認されている。

7号竪穴建物は縄文時代後期に位置づけられる柄鏡形竪穴建物で、出入口となる柄部が南東側である傾斜面に設置されている。周囲の土坑、ピット等については時期が特定できないことから、縄文時代の遺構はこの竪穴建物のみである。

## 第2節 第1面(Hr~FP上面)の調査内容

表土下のHr~FP上面であるが、表土には同軽石が多く混入することから継続的な擾乱をうけているものと考えられる。そのため、検出遺構の上部は遺失すると共に、遺構壁・床面は軽石層に形成されることから崩落も認められ、遺構形態が保持されにくい傾向がある。いずれも近世以降と推定されるが、土坑、ピット、溝、道が検出されている。

なお、第1面調査に伴い大量の鉄滓が表土中から出土しているが遺構については確認されていない。鉄滓については、第13節に概要を報告する。

### 1. 土坑

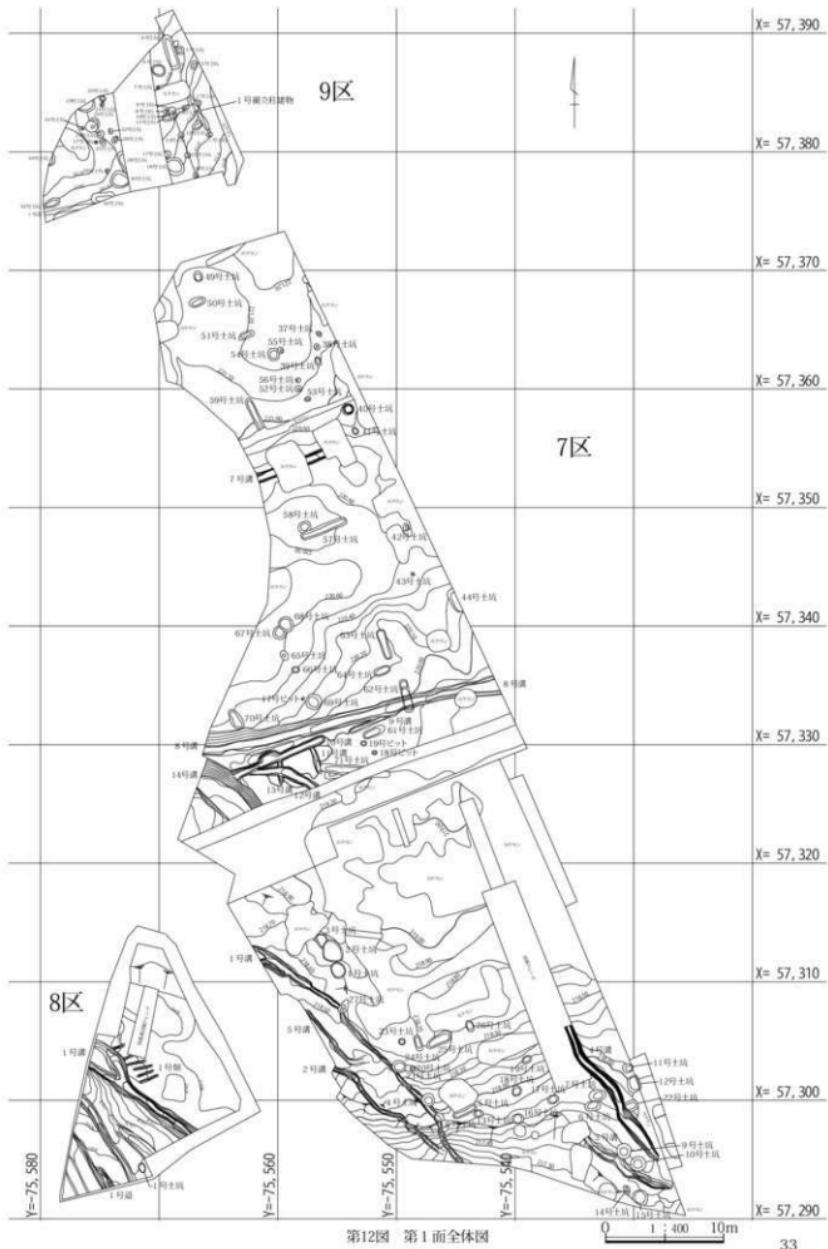
土坑は計92基確認された。伴出遺物は出土していないが、表土中に含まれる陶器類は近世以降であることから、各土坑も近世以降の所産と推定される。

調査区全域に分布し、平面形態には円形や長円形等が認められ、その特徴から分類が可能である。分類基準を上端径による短軸：長軸比として次のa類からd類の4形態とした。

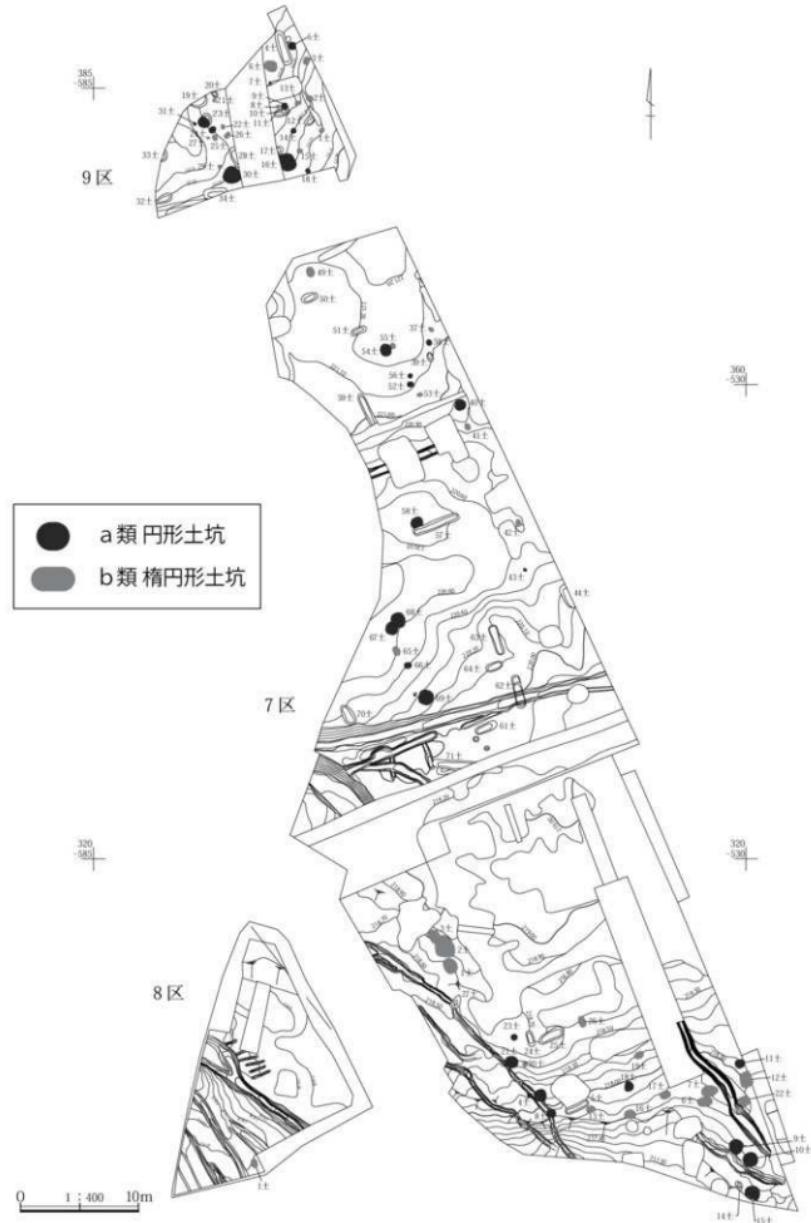
なお、重複や調査区外に延長する等、計測不可となる土坑については形態の類例比較により推定できる場合については分類対象としている。

a類 短軸：長軸比1:1～1:1.1を示す土坑。円形土坑とする。

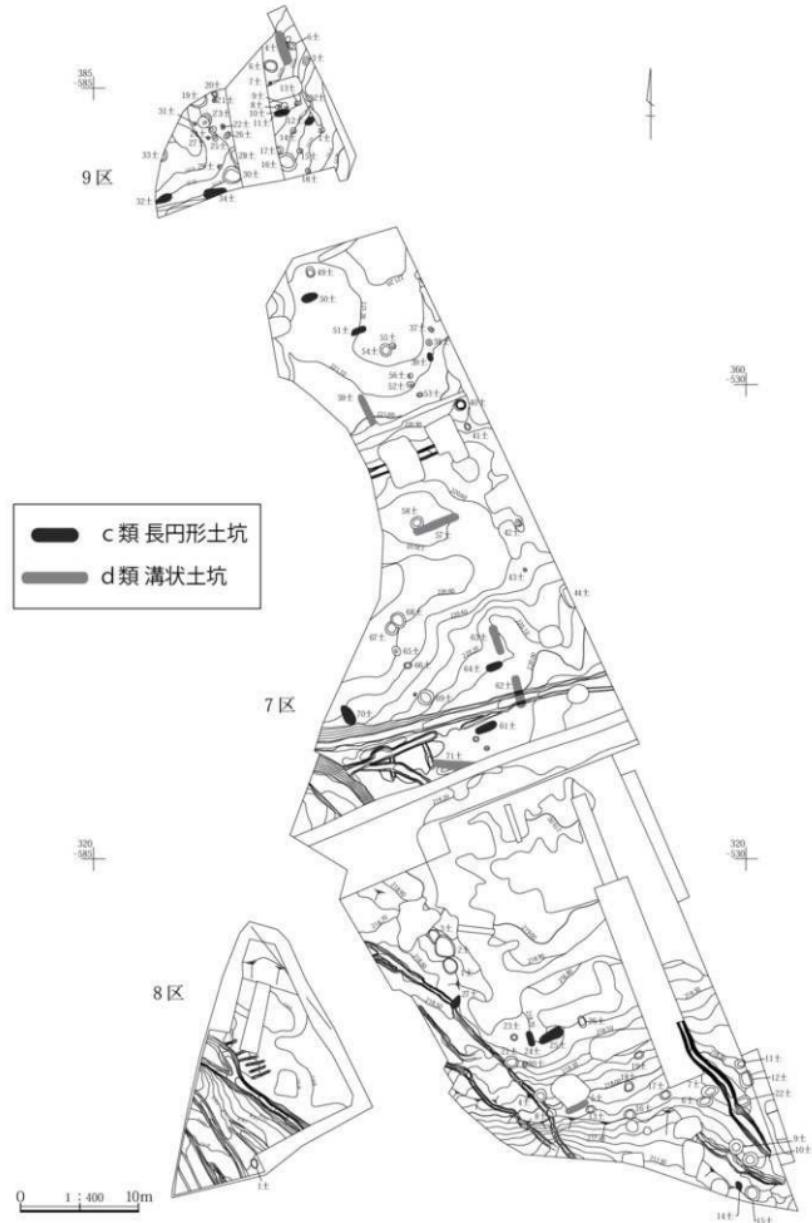
形態上の特徴は円形を示す点にある。7区40号土坑では、底面に桶底部の痕跡である円形の溝痕跡



第12図 第1面全体図



第13図 第1面土坑分布図(a類、b類)



第14図 第1面土坑分布図(c類、d類)

#### 第4章 出土した遺構と遺物

(径0.8)mが確認されることから、径1m前後の規模をもつ円形土坑は桶理置土坑の可能性も推定できる。しかし、他例では平・断面に同痕跡は観察されていないため不明である。

また、出土遺物が認められないため、用途等に関する特定できる情報がない。

b類 短軸：長軸比1:1.2～1:1.5を示す土坑。楕円形土坑とする。

調査区全域に分布するが、9区および7区南部に偏在する傾向がある。9区は調査区内で標高が高く222.50m前後であり、7区南部は扇状地南端部に接する傾斜地にあたる。楕円形土坑の機能に関わる可能性もあるが、この偏在傾向を示す以外の情報はない。

c類 短軸：長軸比1:1.6以上を示す土坑。長円形土坑とする。

土坑長軸が等高線に沿うもしくは直交するように位置する傾向がある。長軸方向が平行もしくは直交するように分布し、なんらかの土地区分間に連して掘削された可能性がある。

d類 短軸：長軸比1:3.0以上を示す土坑。溝形土坑とする。

土坑長軸が等高線に沿うもしくは直交するように位置する傾向がある。その長軸方向がある程度一定するように分布する傾向はc類の長円形土坑と類似する。すでに調査された5区の成果によれば土地区分に応じて掘削された土坑の可能性が高い。耕作域に伴う保存・貯蔵目的の室(むろ)の可能性も推定できる。

c類長円形土坑も類似する分布傾向を示すことから、耕作域に伴う室の可能性があろう。

なお、長円形土坑と溝形土坑間の重複は認められないことから、時期を異にして利用された可能性が推定できる。

#### 7区1号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57310～57312・Y=-75554～-75556

重複 重複関係は示さないが、2号土坑と接する。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-31°-W

規模 長軸1.40m 短軸1.15m 深さ0.57m

検出・埋没状況 7区南端部の傾斜部に位置する。遺存状況は不良であるが、断面確認により0.50mの深さを確認した。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 2号・3号土坑が南接して分布することから、一連の土坑とみられるが性格は不明である。

#### 7区2号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57311～57314・Y=-75554～-75557

重複 3号土坑と重複し、1号土坑と接する。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-36°-W

規模 長軸2.05m 短軸1.70m 深さ0.08m

検出・埋没状況 7区南端部の傾斜部に位置する。遺存状況は不良であり、断面確認により0.08mの深さを確認した。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 傾斜部に位置し、2号・3号土坑と一連の土坑とみられるが性格は不明である。

#### 7区3号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57312～57315・Y=-75555～-75557

重複 南側に2号土坑が重複する。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-36°-W

規模 長軸(1.30)m、短軸0.95m 深さ0.06m

検出・埋没状況 7区南端部の傾斜部に位置する。遺存状況は不良であり、断面確認により0.06mの深さを確認した。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 傾斜部に位置し、2号・3号土坑と一連の土坑とみられるが性格は不明である。

#### 7区4号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57299～57301・Y=-75546～-75548

重複 1号溝と重複するが、調査所見から本土坑が時期的に新しい。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 -

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

規模 長軸1.10m 短軸1.10m 深さ0.66m

検出・埋没状況 7区南端部傾斜部に位置し、1号溝と重複するが、検出状況から4号土坑が新しい。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 南端部の傾斜面に位置するが、用途を推定できるような調査所見は得られていない。鍋底状断面を呈することから、桶埋置土坑とは異なるとみられる。

### 7区5号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57298 ~ 57300・Y=-75543 ~ -75546

重複 13号土坑と接するが重複関係は生じていない。

平面形 d類溝形土坑

長軸方位 N-43° -E

規模 長軸2.13m 短軸0.57m 深さ0.20m

検出・埋没状況 南端部傾斜面に位置し、長軸方向は等高線に平行するような配置となる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に関する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

### 7区6号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57299 ~ 57300・Y=-75532 ~ -75535

重複 7号土坑と重複し、北壁部を切られている。

平面形 b類梢円形土坑

長軸方位 N-78° -E

規模 長軸1.30m 短軸0.85m 深さ0.13m

検出・埋没状況 4号溝に近接するが、重複関係は生じていない。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 浅い鍋底状断面を呈す土坑であるが、用途を推定できる調査所見は得られていない。

### 7区7号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57299 ~ 57301・Y=-75532 ~ -75534

重複 6号土坑と重複するが、本土坑が切っている。

平面形 b類梢円形土坑

長軸方位 N-78° -E

規模 長軸1.45m 短軸0.95m 深さ0.48m

検出・埋没状況 平面形は重複する6号土坑と同規模で

あり関連する可能性もあるが、深さは本土坑が深い。遺物等が認められず、用途を推定できる調査所見は得られていないため、不明である。

### 7区8号土坑(第15図 PL. 5)

位置 X=57298 ~ 57299・Y=-75546 ~ -75547

重複 重複関係は示さないが、2号土坑と接する。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-40° -W

規模 長軸0.85m 短軸0.75m 深さ0.20m

検出・埋没状況 1号溝と重複するが本土坑が新しい。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 規模に差はあるが、a類円形土坑の4号土坑と近接することから、関連性をうかがえるが遺物等が認められず用途等について推定できる調査所見は得られていない。

### 7区9号土坑(第15図 PL. 6)

位置 X=57295 ~ 57297・Y=-75530 ~ -75532

重複 3号溝と重複し、検出状況から本土坑が新しい。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-9° -W

規模 長軸1.30m 短軸1.20m 深さ0.51m

検出・埋没状況 ほぼ同規模の10号土坑と近接するため関連性があるものと思われるが、具体的に用途等を示す調査所見は得られていない。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 本土坑が深めであるが、10号土坑と並置することで機能を果たしたと推定される。平・断面には桶埋置の痕跡は認められていない。

### 7区10号土坑(第16図 PL. 6)

位置 X=57294 ~ 57296・Y=-75529 ~ -75531

重複 9号土坑の南東に接して並置する。

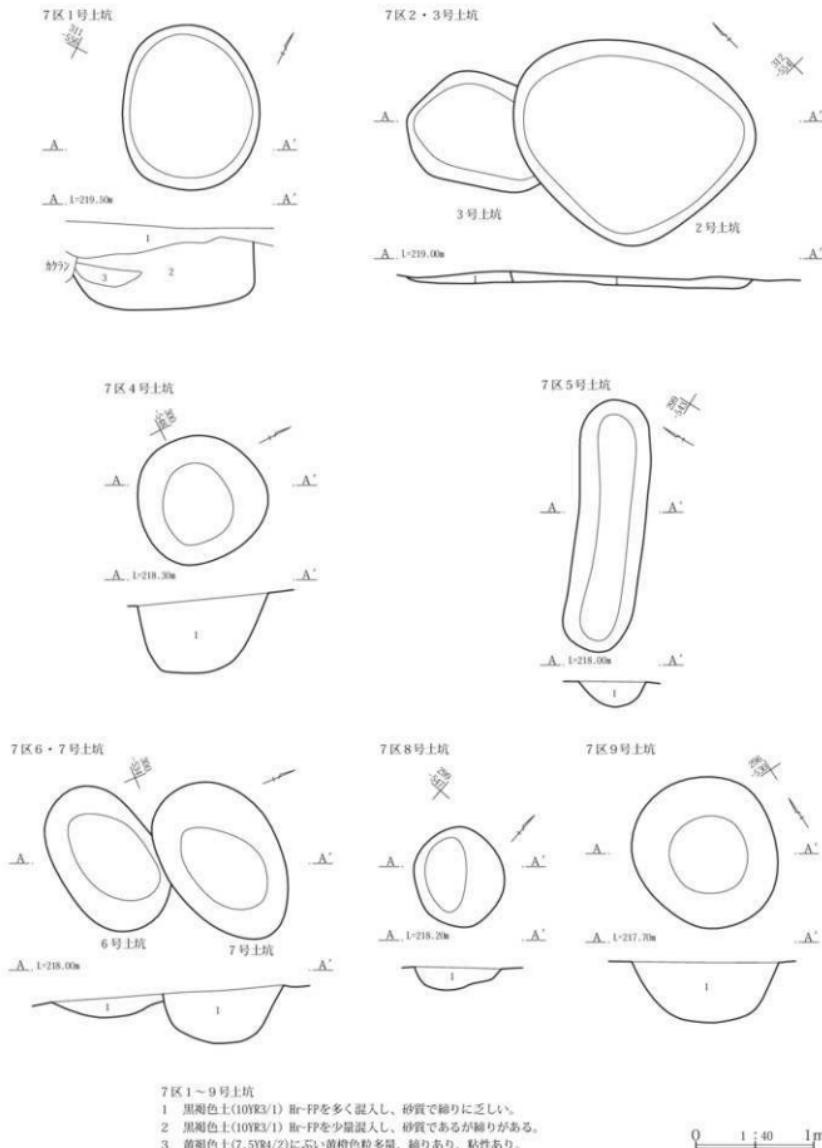
平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-82° -W

規模 長軸1.30m 短軸1.25m 深さ0.26m

検出・埋没状況 同規模の9号土坑と並置する位置関係にあり関連性がうかがわれ、対の土坑として機能を果たすことが推定できるが、用途は不明である。

#### 第4章 出土した遺構と遺物



第15図 7区1～9号土坑平面断面図

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 鍋底状断面を呈し、桶埋置痕跡は観察されていない。

#### 7区11号土坑(第16図 PL. 6)

**位置** X=57302 ~ 57304・Y=-75530 ~ -75531

**重複** 重複関係は示さないが、2号土坑と接する。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-69° - E

**規模** 長軸(0.85)m 短軸0.75m 深さ0.33m

**検出・埋没状況** ほぼ円形平面で、逆台形断面を呈するが、用途を示すような調査所見は得られていない。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 12号土坑が近接することから関連性がうかがわれる。7区南端部には、a類円形土坑、b類楕円形土坑が集中する傾向があるが、その分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区12号土坑(第16図 PL. 6)

**位置** X=57300 ~ 57303・Y=-75529 ~ -75531

**重複** 北に11号土坑、南に22号土坑が近接、関連性がうかがわれるが、有効な調査情報は得られていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** -

**規模** 長軸1.35m 短軸 - 深さ0.62m

**検出・埋没状況** 7区南端東壁部で検出されるため、東半部は不明である。箱形断面を呈し、埋設物は確認されていない。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 7区南端部にはa類円形土坑、b類楕円形土坑が集中傾向する分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区13号土坑(第16図 PL. 6)

**位置** X=57298 ~ 57300・Y=-75542 ~ -75544

**重複** 5号土坑に近接するが重複関係は生じない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-76° - E

**規模** 長軸0.80m 短軸0.60m 深さ0.32m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈するが、特徴的な検出

状況は示していない。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 7区南端部に認められるa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区14号土坑(第16図 PL. 6)

**位置** X=57291 ~ 57293・Y=-75530 ~ -75531

**重複** 南端部が搅乱される。

**平面形** c類長円形土坑

**長軸方位** -

**規模** 長軸(0.80) m 短軸0.50m 深さ0.29m

**検出・埋没状況** 南端傾斜部に位置し、南半部は搅乱を受けていることから形状がやや不規則である。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 7区南端部に認められるa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区15号土坑(第16図 PL. 6)

**位置** X=57291 ~ 57293・Y=-75528 ~ -75531

**重複** 14号土坑の東に近接し、南壁部は搅乱により遺失する。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-2° - E

**規模** 長軸(1.40)m 短軸1.30m 深さ0.70m

**検出・埋没状況** 円筒形断面を呈する円形土坑であるが、用途を示す調査所見は得られていない。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 7区南端部に認められるa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが、性格は不明である。北側に近接する9号・10号土坑とは同規模であることから、関連性がうかがわれるが有効な調査所見は得られていない。

#### 7区16号土坑(第16図 PL. 6・7)

**位置** X=57298 ~ 57299・Y=-75539 ~ -75541

**重複** 遺構間の重複は認められない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-79° - E

#### 第4章 出土した遺構と遺物

規模 長軸1.00m 短軸0.80m 深さ0.50m

検出・埋没状況 南端傾斜面に位置する。逆台形断面を呈するが、特徴的な検出所見はなく、用途を推定せるような情報も得られていない。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に認められるa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区17号土坑(第16図 PL. 7)

位置 X=57299 ~ 57301・Y=-75536 ~ -75538

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-61° - E

規模 長軸0.90m 短軸0.70m 深さ0.27m

検出・埋没状況 南端傾斜面に位置し、鍋底状断面を呈する。用途を示すような調査所見は得られず、用途を推定せるような情報は認められていない。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に認められるa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが、性格は不明である。

#### 7区18号土坑(第16図 PL. 7)

位置 X=57300 ~ 57302・Y=-75539 ~ -75541

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-19° - E

規模 長軸0.90m 短軸0.80m 深さ0.24m

検出・埋没状況 壁部がわずかに崩落するが、円形土坑であり、浅い鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

#### 7区19号土坑(第17図 PL. 7)

位置 X=57303 ~ 57304・Y=-75538 ~ -75540

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-56° - E

規模 長軸0.85m 短軸0.62m 深さ0.22m

検出・埋没状況 鍋底状断面を呈し、長軸は等高線に沿った状態を示している。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

#### 7区20号土坑(第17図 PL. 7)

位置 X=57302 ~ 57303・Y=-75548 ~ -75549

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-30° - W

規模 長軸0.50m 短軸0.42m 深さ0.40m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑で、埋没土上層に礫が含まれる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

#### 7区21号土坑(第17図 PL. 7)

位置 X=57302 ~ 57304・Y=-75549 ~ -75551

重複 1号溝と重複し、調査所見から本土坑が新しい。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-65° - E

規模 長軸1.17m 短軸1.05m 深さ0.37m

検出・埋没状況 鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

#### 7区22号土坑(第17図 PL. 7)

位置 X=57299 ~ 57301・Y=-75529 ~ -75531

重複 4号溝と重複し、西半部を喪失する。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-66° - E

規模 長軸 - 短軸0.87m 深さ0.43m

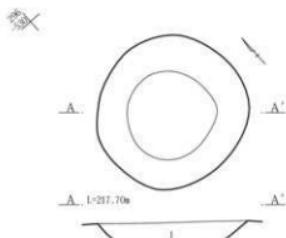
検出・埋没状況 鍋底状断面を呈し、長軸は等高線と直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

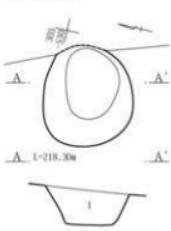
調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

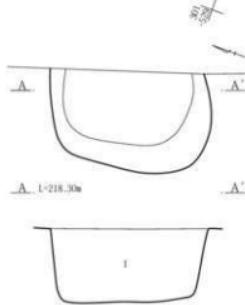
7区10号土坑



7区11号土坑



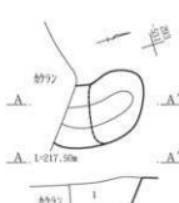
7区12号土坑



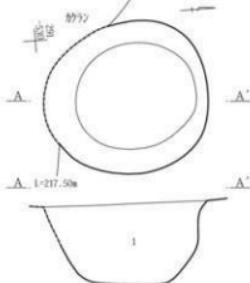
7区13号土坑



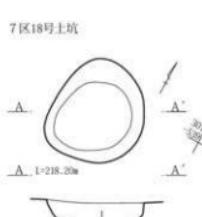
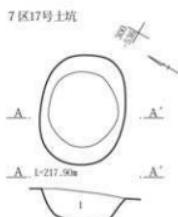
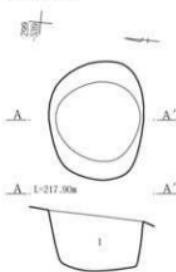
7区14号土坑



7区15号土坑



7区16号土坑



7区10～18号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを少量混入し、砂質であるが繊りがある。

0 1:40 1m

第16図 7区10～18号土坑平面図

#### 第4章 出土した遺構と遺物

円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

##### 7区23号土坑(第17図)

位置 X=57304～57306・Y=-75549～-75550

重複 遺構間の重複関係は認められない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 一

規模 長軸0.55m 短軸0.55m 深さ0.32m

検出・埋没状況 小型円形土坑で、類似する20号土坑に近接する位置であることから関連性がうかがわれる。柱痕等は確認されていないが、柱穴の可能性もある。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

##### 7区24号土坑(第17図 PL. 7)

位置 X=57304～57306・Y=-75547～-75549

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-18°-W

規模 長軸1.33m 短軸0.57m 深さ0.33m

検出・埋没状況 長軸は等高線に直交し、25号土坑の長軸と直角関係を示す。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区分に関連する土坑の可能性がある。

##### 7区25号土坑(第17図 PL. 8)

位置 X=57304～57306・Y=-75545～-75548

重複 遺構間の重複関係は認められない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-60°-E

規模 長軸2.25m 短軸0.85m 深さ0.36m

検出・埋没状況 長軸を等高線に平行する位置とする。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区分に関連する土坑の可能性がある。

##### 7区26号土坑(第17図 PL. 8)

位置 X=57305～57307・Y=-75543～-75545

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-26°-W

規模 長軸1.00m 短軸0.65m 深さ0.24m

検出・埋没状況 やや不整な鍋底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区南端部に偏在するa類円形土坑、b類楕円形土坑の集中分布域に位置するが性格は不明である。

##### 7区27号土坑(第17図 PL. 8)

位置 X=57307～57309・Y=-75554～-75555

重複 I号溝と重複し、調査所見から本土坑が新しい。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-28°-E

規模 長軸1.30m 短軸0.70m 深さ0.50m

検出・埋没状況 やや不整な鍋底状断面を呈し、長軸が傾斜方向に沿っている。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 7区西南部の傾斜面に位置する。平・断面形が不規則であることから、人為的な遺構ではない可能性もあるが特定できない。

##### 7区37号土坑(第18図 PL. 8)

位置 X=57364～57365・Y=-75556～-75557

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-53°-W

規模 長軸0.55m 短軸0.37m 深さ0.30m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

##### 7区38号土坑(第18図 PL. 8)

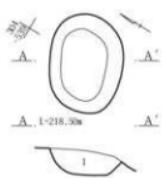
位置 X=57363～57364・Y=-75556～-75557

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

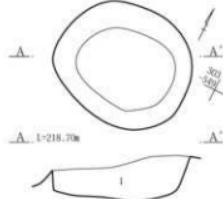
7区19号土坑



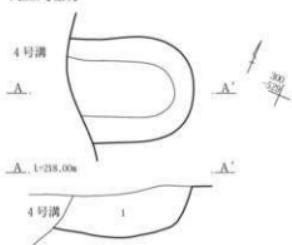
7区20号土坑



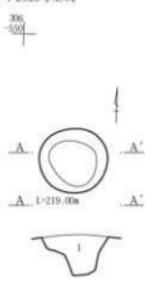
7区21号土坑



7区22号土坑



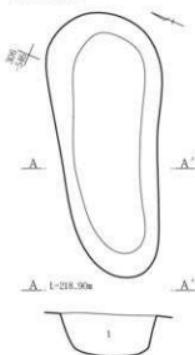
7区23号土坑



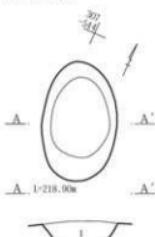
7区24号土坑



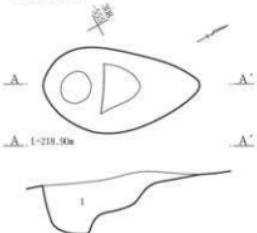
7区25号土坑



7区26号土坑



7区27号土坑



7区19～27号土坑  
1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。



第17図 7区19～27号土坑平面図

長軸方位 N-12° -W

規模 長軸0.55m 短軸0.50m 深さ0.24m

検出・埋没状況 鍋底状断面を呈する円形の小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 7区39号土坑(第18図 PL. 8)

位置 X=57361 ~ 57363・Y=-75556 ~ -75557

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 c類楕円形土坑

長軸方位 N-18° -W

規模 長軸0.87m 短軸0.50m 深さ0.25m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈する小型土坑で、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 7区40号土坑(第18図 PL. 8)

位置 X=57357 ~ 57359・Y=-75553 ~ -75555

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-71° -E

規模 長軸1.00m 短軸0.90m 深さ0.24m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈し、底面に桶底部埋置による端部痕跡が周溝状に残る。埋設物の痕跡が残る例は本土坑のみである。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 底面の状況から判断して桶埋置土坑である。他に出土遺物は認められないことから性格は特定できない。人骨及び副葬品が認められないことから墓の可能性は低いとみられ、耕作域に伴う肥料収納用もしくは便所等が想定される。

#### 7区41号土坑(第18図 PL. 8)

位置 X=57356 ~ 57357・Y=-75553 ~ -75554

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-35° -W

規模 長軸0.65m 短軸0.50m 深さ0.18m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈する小型土坑で、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 7区42号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57348 ~ 57349・Y=-75548 ~ -75550

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-9° -W

規模 長軸0.65m 短軸0.47m 深さ0.22m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 7区43号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57344 ~ 57345・Y=-75548 ~ -75549

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-74° -W

規模 長軸0.35m 短軸0.30m 深さ0.25m

検出・埋没状況 小型の土坑であり、規模から推定すると断面には痕跡は認められないが柱穴の可能性がある。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周囲には連続する土坑がないことから、柱穴の可能性を推定したが建物を構成するものではない。

#### 7区44号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57341 ~ 57344・Y=-75544 ~ -75546

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 (長円形土坑)

長軸方位 一

規模 長軸2.15m 短軸一 深さ0.73m

検出・埋没状況 鍋底状断面を呈し、西半部は調査区外となり全形は不明であるが、長円形土坑と推定される。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 長軸は等高線に直交し、耕作域の土地区画に

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

関連することが推定される。

### 7区49号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57369 ~ 57370・Y=-75566 ~ -75568

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-18° - W

規模 長軸0.90m 短軸0.70m 深さ0.86m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈し、土層には縱位の埋没断面が認められることから、柱が埋設されていた可能性が高い。周囲に関連する土坑は認められないことから建物を構成する可能性はないと思われる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 土層断面に柱痕が観察されるが、単独の柱穴ということになり、性格は不明である。

### 7区50号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57366 ~ 57368・Y=-75566 ~ -75568

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-71° - E

規模 長軸1.45m 短軸0.75m 深さ0.18m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈し、長軸が等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区画に関連する土坑の可能性がある。

### 7区51号土坑(第18図 PL. 9)

位置 X=57364 ~ 57365・Y=-75562 ~ -75564

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-63° - E

規模 長軸1.40m 短軸0.55m 深さ0.17m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈し、長軸が等高線に直交する。北側の50号土坑と平行関係が認められる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があ

り、耕作域の土地区画に関連する土坑の可能性がある。

### 7区52号土坑(第19図 PL. 9)

位置 X=57359 ~ 57361・Y=-75558 ~ -75559

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-62° - E

規模 長軸0.57m 短軸0.50m 深さ0.33m

検出・埋没状況 やや不規則な円筒形断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 同規模の56号土坑に近接することから、関連する可能性があるが、性格は不明である。

### 7区53号土坑(第19図 PL. 9)

位置 X=57358 ~ 57360・Y=-75557 ~ -75558

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-79° - E

規模 長軸0.53m 短軸0.35m 深さ0.20m

検出・埋没状況 細底断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 近接する位置にある同規模の52号・56号土坑と関連する可能性もあるが、性格は不明である。

### 7区54号土坑(第19図 PL. 9・10)

位置 X=57362 ~ 57364・Y=-75559 ~ -75561

重複 55号土坑に北東壁を切られる。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-13° - W

規模 長軸1.05m 短軸0.95m 深さ0.53m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈し、底面がやや不整となる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 形態や規模は桶理置土坑である40号土坑に類似するが、桶痕跡は認められていない。

### 7区55号土坑(第19図 PL. 9・10)

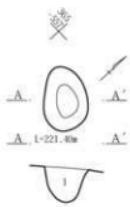
位置 X=57363 ~ 57364・Y=-75559 ~ -75561

重複 54号土坑と重複し、本土坑が新しい。

平面形 b類楕円形土坑

#### 第4章 出土した遺構と遺物

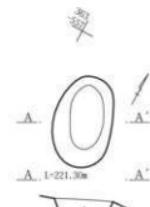
7区37号土坑



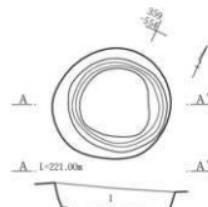
7区38号土坑



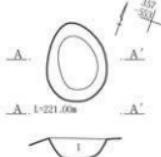
7区39号土坑



7区40号土坑



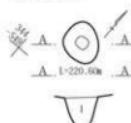
7区41号土坑



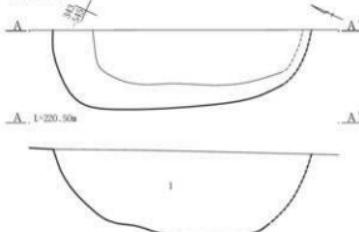
7区42号土坑



7区43号土坑



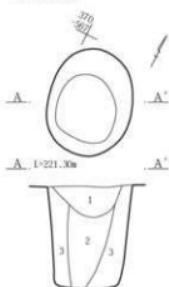
7区44号土坑



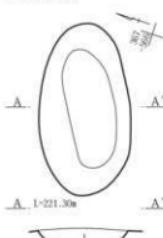
7区37～44号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。

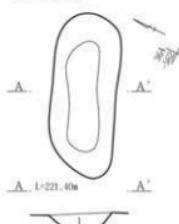
7区49号土坑



7区50号土坑



7区51号土坑



7区49～51号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを少量混入し、砂質であるが繊りがある。
- 3 黄褐色土(7.5YR4/2)に多い黄褐色粒多量、繊りあり、粘性あり。



第18図 7区37～44・49～51号土坑平断面図

**長軸方位** N-27° -W

**規模** 長軸0.55m 短軸0.45m 深さ0.25m

**検出・埋没状況** 鋼底状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

7区56号土坑(第19図 PL.10)

**位置** X=57360～57361・Y=-75558～-75559

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-44° -E

**規模** 長軸0.45m 短軸0.40m 深さ0.19m

**検出・埋没状況** 深鍋状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** ほぼ同規模の52号土坑に近接した位置であることから関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

7区57号土坑(第19図 PL.10)

**位置** X=57347～57350・Y=-75554～-75559

**重複** 58号土坑と重複し、本土坑が新しい。

**平面形** d類溝形土坑

**長軸方位** N-67° -E

**規模** 長軸4.05m 短軸0.75m 深さ0.23m

**検出・埋没状況** 深鍋状断面を呈し、長軸は等高線と平行関係をもつ。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に関連する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

7区58号土坑(第19図 PL.10)

**位置** X=57347～57349・Y=-75557～-75559

**重複** 西壁を57号土坑に切られる。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-30° -E

**規模** 長軸1.10m 短軸1.05m 深さ0.12m

**検出・埋没状況** 深鍋状断面を呈する土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 形態や規模は桶理置土坑である40号土坑に類似するが、桶痕跡は認められていない。

7区59号土坑(第19図 PL.10)

**位置** X=57356～57360・Y=-75561～-75563

**重複** 南端部に搅乱が認められ、長軸長は不明である。

**平面形** d類溝形土坑

**長軸方位** N-26° -W

**規模** 長軸(確認長3.0)m 短軸0.60m 深さ0.26m

**検出・埋没状況** 鋼底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に関連する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

7区61号土坑(第19図 PL.10)

**位置** X=57330～57332・Y=-75551～-75553

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** c類長円形土坑

**長軸方位** N-64° -E

**規模** 長軸1.95m 短軸0.70m 深さ0.41m

**検出・埋没状況** 深鍋状断面を呈し、長軸は等高線に平行する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区画に関連する土坑の可能性がある。

7区62号土坑(第20図 PL.10)

**位置** X=57332～57336・Y=-75548～-75550

**重複** 8号溝と重複し、本土坑が時期的に古いとの調査所見が得られている。

**平面形** d類溝形土坑

**長軸方位** N-12° -W

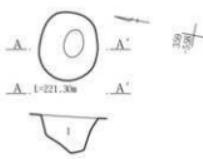
**規模** 長軸2.80m 短軸0.70m 深さ0.53m

**検出・埋没状況** 深鍋状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

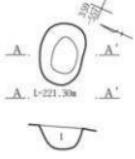
**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に関

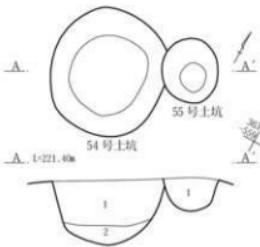
7区52号土坑



7区53号土坑



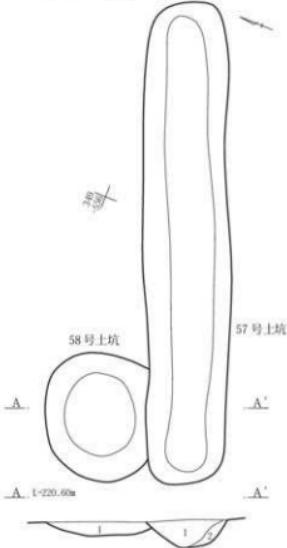
7区54・55号土坑



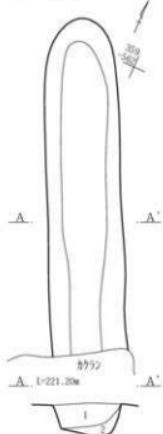
7区56号土坑



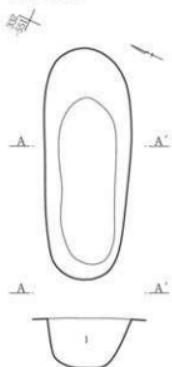
7区57・58号土坑



7区59号土坑



7区61号土坑



7区52～59・61号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。  
2 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを少量混入し、砂質であるが繊りがある。



第19図 7区52～59・61号土坑平面面図

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

連する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

### 7区63号土坑(第20図 PL.10)

位置 X=57337～57340・Y=-75550～-75552

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 d類溝形土坑

長軸方位 N-18°-W

規模 長軸2.60m 短軸0.65m 深さ0.24m

検出・埋没状況 鋼底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に連する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

### 7区64号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57335～57337・Y=-75550～-75552

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-69°-E

規模 長軸1.45m 短軸0.70m 深さ0.29m

検出・埋没状況 鋼底状断面を呈し、長軸は等高線に平行する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区画に連する土坑の可能性がある。

### 7区65号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57337～57338・Y=-75559～-75560

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類梢円形土坑

長軸方位 N-30°-W

規模 長軸0.85m 短軸0.62m 深さ0.25m

検出・埋没状況 逆三角状断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

### 7区66号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57336～57337・Y=-75558～-75559

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-82°-E

規模 長軸0.65m 短軸0.55m 深さ0.27m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

### 7区67号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57338～57341・Y=-75559～-75561

重複 68号土坑に北東壁を切られる。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-25°-E

規模 長軸(1.15)m 短軸1.05m 深さ0.15m

検出・埋没状況 浅い鋼底状断面を呈する土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 傾斜する壁部が底面に連続し、浅いくぼみ状の形態であることから、耕作等の影響による可能性もあるが、特定できない。

### 7区68号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57339～57341・Y=-75558～-75560

重複 67号土坑と重複し、本土坑が新しい。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-42°-W

規模 長軸1.35m 短軸1.15m 深さ0.20m

検出・埋没状況 深鍋状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 形態や規模は桶理置土坑である40号土坑に類似するが、桶痕跡は認められていない。

### 7区69号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57332～57335・Y=-75556～-75558

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-48°-E

規模 長軸1.35m 短軸1.30m 深さ0.39m

#### 第4章 出土した遺構と遺物

検出・埋没状況 鋼底断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 やや不規則な断面形であることから、壁部が部分的に崩落している可能性がある。

##### 7区70号土坑(第20図 PL.11)

位置 X=57331～57333・Y=-75562～-75565

重複 8号溝に接するが直接的な重複関係は認められない。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-34°-W

規模 長軸1.85m 短軸0.95m 深さ0.16m

検出・埋没状況 鋼底断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区分間に関連する土坑の可能性がある。

##### 7区71号土坑(第21図 PL.11)

位置 X=57327～57329・Y=-75552～-75557

重複 11号溝と重複し、本土坑が新しい。また、南半部は調査区外となるため、不明である。

平面形 d類溝形土坑

長軸方位 N-82°-W

規模 長軸(確認長3.70)m 短軸0.85m 深さ0.58m

検出・埋没状況 深鋼状断面を呈し、長軸は等高線にほぼ平行する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 d類溝形土坑の分布状況から、土地区分間に連する傾向が認められ、耕作域に作る保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

##### 8区1号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57293～57295・Y=-75571～-75572

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-20°-W

規模 長軸0.85m 短軸0.55m 深さ0.25m

検出・埋没状況 円筒状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号溝、1号道に挟まれた地点に確認された単独の土坑であり、性格については不明である。

##### 9区1号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57381～57382・Y=-75565～-75566

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-71°-E

規模 長軸0.50m 短軸0.40m 深さ0.34m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

##### 9区2号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57383～57385・Y=-75566～-75568

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-87°-E

規模 長軸0.60m 短軸0.50m 深さ0.36m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

##### 9区3号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57386～57388・Y=-75566～-75568

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-15°-E

規模 長軸0.70m 短軸0.55m 深さ0.12m

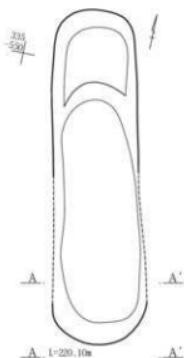
検出・埋没状況 浅い鋼底断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

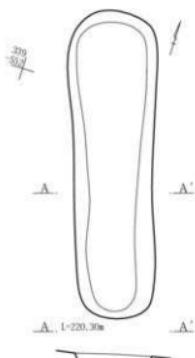
調査所見 周囲に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

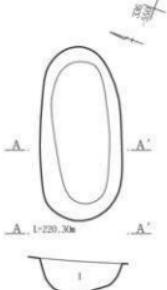
7区62号土坑



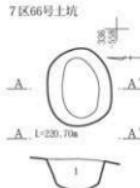
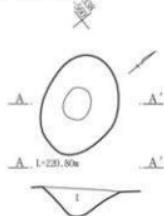
7区63号土坑



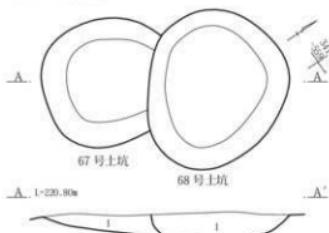
7区64号土坑



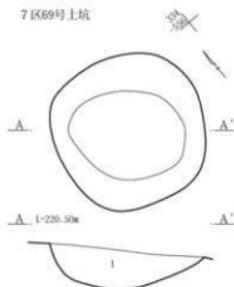
7区65号土坑



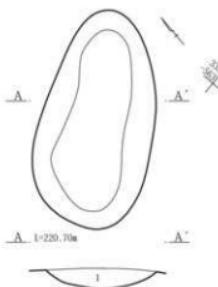
7区67・68号土坑



7区69号土坑



7区70号土坑



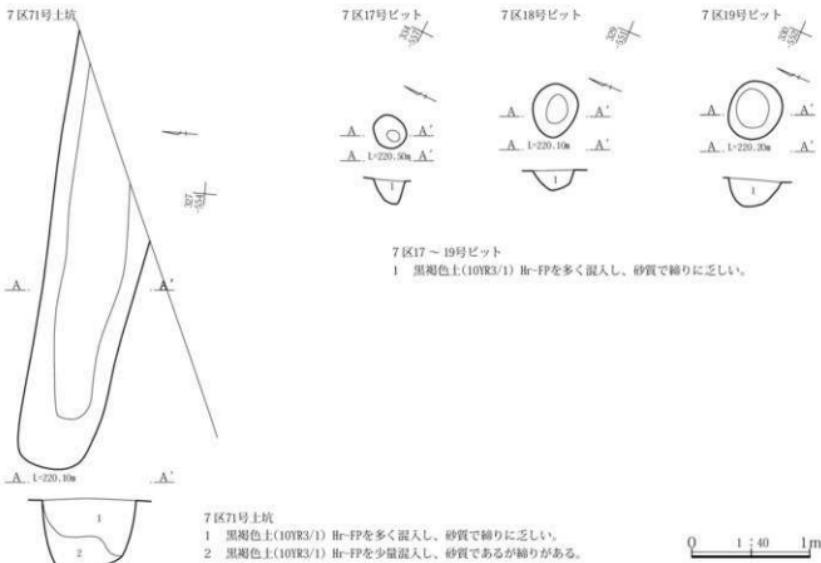
7区62～70号土坑

I 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。



第20図 7区62～70号土坑平面図

#### 第4章 出土した遺構と遺物



第21図 7区71号土坑・17～19号ビット平面断面図

#### 9区4号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57386～57390・Y=-75568～-75570

重複 5号土坑と接するが、直接的な重複関係は認められない。

平面形 d類溝形土坑

長軸方位 N-18° -W

規模 長軸3.00m 短軸0.90m 深さ0.30m

検出・埋没状況 鍋底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 d類溝形土坑の分布状況から、土地区画に関する傾向が認められ、耕作域に伴う保存・貯蔵目的の土坑(室)の可能性が推定できる。

#### 9区5号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57388～57389・Y=-75567～-75569

重複 4号土坑に接するが、直接的な重複関係は認められない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 —

規模 長軸0.70m 短軸0.70m 深さ0.44m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 底面周囲にやや不規則なくぼみが認められることから、桶埋置土坑の可能性が推定できるが遺存状態が不良で特定できない。

#### 9区6号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57386～57388・Y=-75569～-75571

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類格円形土坑

長軸方位 N-64° -W

規模 長軸1.18m 短軸0.95m 深さ0.10m

検出・埋没状況 浅い鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 確認深が浅いことから、かなり上層から掘削

された可能性が高いが、性格については不明である。

#### 9区7号土坑(第22図 PL.12)

位置 X=57385 ~ 57386・Y=-75569 ~ -75571

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 一

規模 長軸0.25m 短軸0.25m 深さ0.27m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 小規模であることから柱穴とも推定できるが、土層断面には柱痕の痕跡は認められない。仮に柱穴だとしても、周間に関連する土坑が認められないことから建物が存在する可能性は低い。

#### 9区8号土坑(第22図 PL.13)

位置 X=57383 ~ 57384・Y=-75569 ~ -75570

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 b類楕円形土坑

長軸方位 N-78° -E

規模 長軸0.45m 短軸0.32m 深さ0.18m

検出・埋没状況 円筒形断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区9号土坑(第22図 PL.13)

位置 X=57383 ~ 57384・Y=-75568 ~ -75570

重複 10号土坑と重複し、本土坑が新しい。

平面形 a類円形土坑

長軸方位 N-6° -W

規模 長軸0.60m 短軸0.55m 深さ0.49m

検出・埋没状況 U字状断面を呈する小型土坑で、埋没土中に礫が含まれる。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

#### 9区10号土坑((第22図 PL.13))

位置 X=57382 ~ 57384・Y=-75568 ~ -75570

重複 北壁を9号土坑に切られ、11号土坑を切っている。

平面形 (楕円形土坑)

長軸方位 一

規模 長軸 - 短軸0.55m 深さ0.47m

検出・埋没状況 U字状断面を呈する小型土坑。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周間に点在するほぼ同規模の小型土坑と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区11号土坑(第23図 PL.13)

位置 X=57382 ~ 57384・Y=-75568 ~ -75570

重複 10号土坑に切られている。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-80° -E

規模 長軸1.30m 短軸0.60m 深さ0.10m

検出・埋没状況 鋼底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 c類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区画に関連する土坑の可能性がある。

#### 9区12号土坑(第23図 PL.13)

位置 X=57381 ~ 57383・Y=-75566 ~ -75568

重複 東壁部が搅乱により遺失する。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-60° -E

規模 長軸(1.00)m 短軸0.65m 深さ0.19m

検出・埋没状況 浅い鋸底状断面を呈し、長軸は等高線に直交する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 類長円形土坑は、d類溝形土坑と共に長軸を等高線に直交もしくは平行する位置にする傾向があり、耕作域の土地区画に関連する土坑の可能性がある。

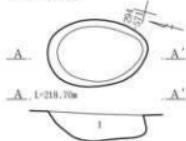
#### 9区13号土坑((第23図 PL.13))

位置 X=57383 ~ 57384・Y=-75567 ~ -75569

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

#### 第4章 出土した遺構と遺物

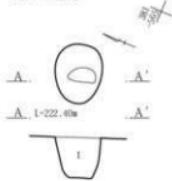
8区1号土坑



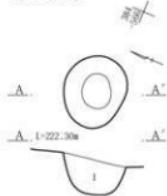
8区1号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。

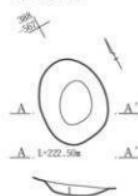
9区1号土坑



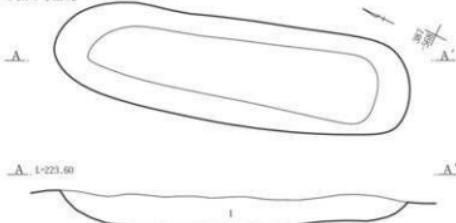
9区2号土坑



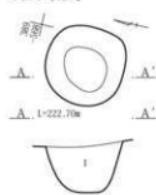
9区3号土坑



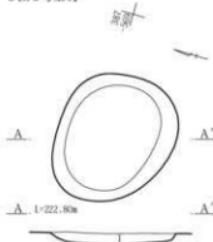
9区4号土坑



9区5号土坑



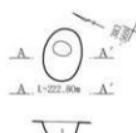
9区6号土坑



9区7号土坑



9区8号土坑



9区9・10号土坑



9区1～10号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。



第22図 8区1号土坑・9区1～10号土坑平面図

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-81° -E

**規模** 長軸0.60m 短軸0.40m 深さ0.30m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

**9区14号土坑(第23図 PL.13)**

**位置** X=57381 ~ 57382・Y=-75567 ~ -75569

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-34° -W

**規模** 長軸0.50m 短軸0.45m 深さ0.45m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

**9区15号土坑(第23図 PL.13)**

**位置** X=57379 ~ 57380・Y=-75567 ~ -75568

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-82° -W

**規模** 長軸0.50m 短軸0.40m 深さ0.35m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

**9区16号土坑(第23図 PL.13)**

**位置** X=57378 ~ 57380・Y=-75567 ~ -75570

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北西部が調査区外となる。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-21° -W

**規模** 長軸1.55m 短軸(1.40)m 深さ0.27m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

**9区17号土坑(第23図 PL.13)**

**位置** X=57379 ~ 57381・Y=-75569 ~ -75570

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、西壁部が調査区外となるため、形状が特定できない。

**平面形** (円形土坑)

**長軸方位** -

**規模** 長軸(0.75)m 短軸0.60m 深さ0.69m

**検出・埋没状況** 円筒状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

**9区18号土坑(第23図 PL.14)**

**位置** X=57377 ~ 57379・Y=-75566 ~ -75568

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-30° -W

**規模** 長軸0.45m 短軸0.40m 深さ0.23m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 1号・2号・9号・13号・14号・15号・18号土坑については規則的な配列が認められることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。9区1号掘立柱建物とする。

**9区19号土坑(第23図 PL.14)**

**位置** X=57383 ~ 57385・Y=-75575 ~ -75577

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北西部が調査区外となる。

**平面形** -

**長軸方位** -

**規模** 長軸1.50m 短軸 - 深さ0.20m

#### 第4章 出土した遺構と遺物

**検出・埋没状況** 浅い鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区20号土坑(第23図 PL.14)

**位置** X=57384～57385・Y=-75574～-75576

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北西壁部が調査区外となる。

**平面形** (楕円形土坑)

**長軸方位** N-45° -W

**規模** 長軸(0.60)m 短軸0.45m 深さ0.14m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区21号土坑(第23図 PL.14)

**位置** X=57383～57385・Y=-75574～-75575

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、20号土坑に接する。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-10° -E

**規模** 長軸0.40m 短軸0.30m 深さ0.14m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区22号土坑(第23図 PL.14)

**位置** X=57381～57382・Y=-75573～-75575

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-8° -W

**規模** 長軸0.45m 短軸0.35m 深さ0.10m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈し、埋没土中に砾を含む。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区23号土坑(第23図 PL.14)

**位置** X=57381～57383・Y=-75575～-75577

**重複** 不規則なくぼみが存在するが、遺構でなく自然地形である。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-52° -W

**規模** 長軸1.05m 短軸0.90m 深さ0.23m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区24号土坑(第24図 PL.14)

**位置** X=57381～57382・Y=-75574～-75576

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-54° -E

**規模** 長軸0.65m 短軸0.55m 深さ0.48m

**検出・埋没状況** 円筒底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区25号土坑(第24図 PL.14)

**位置** X=57380～57382・Y=-75574～-75576

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-26° -W

**規模** 長軸0.55m 短軸0.45m 深さ0.36m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周間に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区26号土坑(第24図 PL.14)

**位置** X=57380～57382・Y=-75573～-75574

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

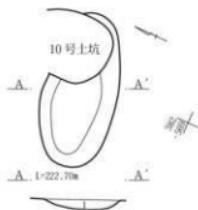
**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-36° -E

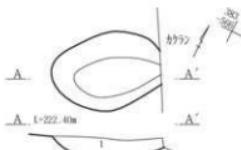
**規模** 長軸0.65m 短軸0.45m 深さ0.18m

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

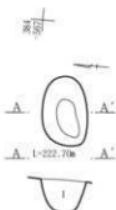
9区11号土坑



9区12号土坑



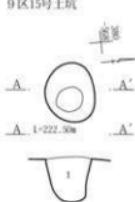
9区13号土坑



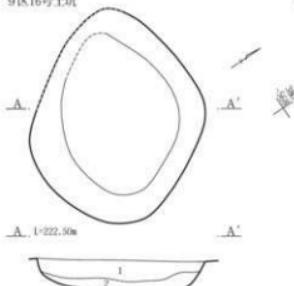
9区14号土坑



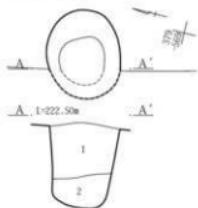
9区15号土坑



9区16号土坑



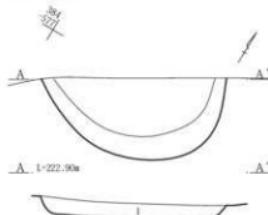
9区17号土坑



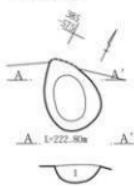
9区18号土坑



9区19号土坑



9区20号土坑



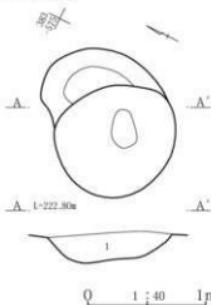
9区21号土坑



9区22号土坑



9区23号土坑



9区11～23号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを少量混入し、砂質であるが繊りがある。

0 1 : 40 1m

第23図 9区11～23号土坑平面図

#### 第4章 出土した遺構と遺物

**検出・埋没状況** 浅い鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区27号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57380～57381・Y=-75575～-75576

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-79°-E

**規模** 長軸0.30m 短軸0.25m 深さ0.32m

**検出・埋没状況** 円筒状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区28号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57378～57381・Y=-75572～-75574

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北東部が調査区外となる。

**平面形** -

**長軸方位** -

**規模** 長軸1.80m 短軸 - 深さ0.83m

**検出・埋没状況** 箱状断面を呈し、底面は平坦となる。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区29号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57378～57379・Y=-75574～-75575

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** b類楕円形土坑

**長軸方位** N-15°-W

**規模** 長軸0.40m 短軸0.30m 深さ0.16m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する小型土坑。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区30号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57376～57379・Y=-75572～-75575

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、東壁部が調査区外となる。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** N-65°-E

**規模** 長軸1.55m 短軸1.45m 深さ0.40m

**検出・埋没状況** 鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区31号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57381～57383・Y=-75576～-75577

**重複** 他遺構との重複関係は認められていない。

**平面形** a類円形土坑

**長軸方位** -

**規模** 長軸0.30m 短軸0.30m 深さ0.11m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区32号土坑(第24図 PL.15)

**位置** X=57375～57377・Y=-75578～-75580

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北壁部が調査区外となる。

**平面形** c類長円形土坑

**長軸方位** N-64°-E

**規模** 長軸(1.70)m 短軸0.70m 深さ0.41m

**検出・埋没状況** 円筒状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性もあるが、性格については不明である。

#### 9区33号土坑(第24図 PL.15)

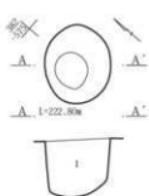
**位置** X=57378～57380・Y=-75578～-75580

**重複** 他遺構との重複関係は認められていないが、北壁部が調査区外となる。

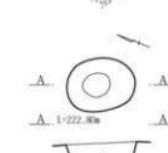
**平面形** -

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

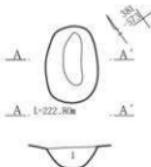
9区24号土坑



9区25号土坑



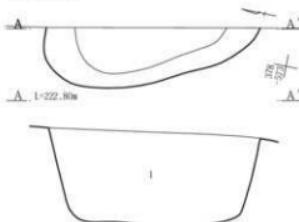
9区26号土坑



9区27号土坑



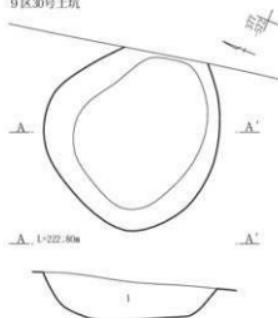
9区28号土坑



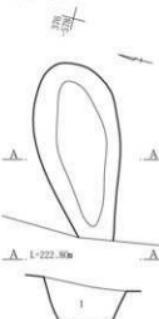
9区29号土坑



9区30号土坑



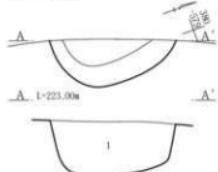
9区32号土坑



9区31号土坑



9区33号土坑



9区34号土坑



9区24～34号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。



第24図 9区24～34号土坑平面図

長軸方位 —

規模 長軸(1.05)m 短軸 — 深さ0.45m

検出・埋没状況 箱状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性

もあるが、性格については不明である。

9区K34号土坑(第24図 PL.15)

位置 X=57375 ~ 57377・Y=-75573 ~ -75576

重複 1号道と重複するが、新旧関係は不明である。南東壁部が調査区外となる。

平面形 c類長円形土坑

長軸方位 N-87° - E

規模 長軸(2.00)m 短軸(0.95)m 深さ0.42m

検出・埋没状況 鋼底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 周囲に点在する土坑群と関連を有する可能性  
もあるが、性格については不明である。

2. 掘立柱建物

9区1号掘立柱建物(第22・23・25図 PL.12 ~ 14)

位置 X=57377 ~ 57385・Y=-75565 ~ -75570

主軸方位 N-20° - W

建物構造 桁行3間(5.80)m、梁行2間(2.20)m規模の  
掘立柱建物と考えられる。東南隅に存在すると推定され  
る柱穴が確認されていないため確定できない。柱間は下  
記のとおりである。

1号土坑-2号土坑 3.00m

9号土坑-14号土坑 2.20m

14号土坑-15号土坑、15号土坑-18号土坑 1.80m

2号土坑-13号土坑、13号土坑-9号土坑 1.10m

重複 南西隅柱穴(9号土坑)が切る状態で10号・11号土  
坑と重複する。

検出・埋没状況 第1面の遺構検出により土坑として確  
認・調査された後に図上で検討したところ1号・2号・  
9号・13号・14号・15号・18号土坑について規則的な配  
列が観察されたため、掘立柱建物として報告する。

上部・壁構造 柱穴の平面確認のみであり、上屋に関連  
する情報は得られていない。

柱穴 土坑で報告したが、円形平面、鋼底状もしくはU

字状横面を呈する。柱痕は確認されていない。構成土坑  
の規模(長径×短径×深さ)は下記のとおり。

1号土坑 0.50m×0.40m×0.34m

2号土坑 0.60m×0.50m×0.36m

9号土坑 0.60m×0.55m×0.49m

13号土坑 0.60m×0.40m×0.30m

14号土坑 0.50m×0.45m×0.45m

15号土坑 0.50m×0.40m×0.35m

18号土坑 0.45m×0.40m×0.23m

床面 確認されていない。

遺物と出土状況 伴出遺物は確認されていない。

調査所見 東南隅部にあたる柱穴が確認されていない点  
及び9区東端部に近接し掘立柱建物東辺が調査区外に延  
長する可能性もあることから、建物規模については特定  
できないため、確認規模としておく。

3. ピット

ピットとして記録した遺構は径30 ~ 50cm程度の小穴  
で、形状から柱穴の可能性を想定したものである。埋没  
土坑面では、柱痕の存在は確認されていないため特定で  
きない。7区中央部に点在している。

7区17号ピット(第21図 PL.55)

位置 X=57333 ~ 57335・Y=-75557 ~ -75559

重複 69号土坑に近接するが、重複関係は生じない。

平面形 楕円形

長軸方位 N-25° - E

規模 長軸0.30m 短軸0.27m 深さ0.20m

検出・埋没状況 U字状断面を呈し、Hr~FPを混入する  
黒褐色土が埋没する。

遺物と出土状況 出土遺物は認められない。

調査所見 柱穴の可能性があるが、建物構成は確認でき  
ない。

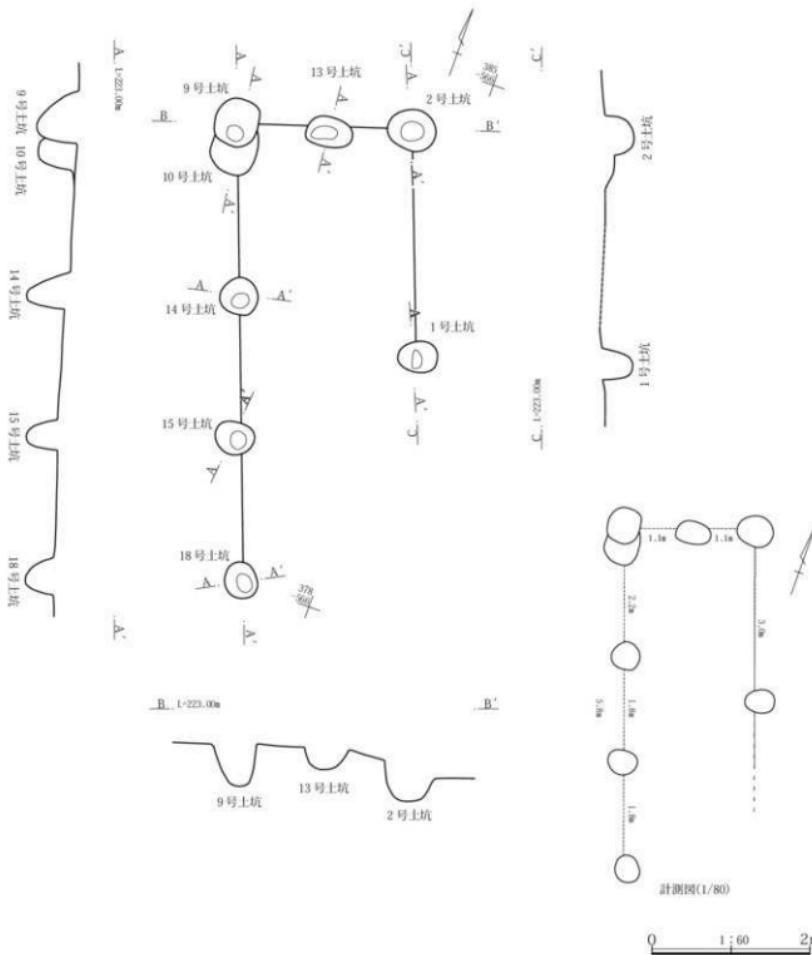
7区18号ピット(第21図 PL.56)

位置 X=57329 ~ 57330・Y=-75551 ~ -75553

重複 19号ピットに近接するが、周囲には関連ピットは  
確認されない。

平面形 楕円形

長軸方位 N-72° - E



第25図 9区1号柱立柱建物平面図

**規模** 長軸0.45m 短軸0.38m 深さ0.17m

**検出・埋没状況** U字状断面を呈し、Hr-FPを混入する黒褐色土が埋没する。

**遺物と出土状況** 出土遺物は認められない。

**調査所見** 柱穴の可能性があるが、建物構成は確認できない。

7区19号ピット(第21図 PL.56)

**位置** X=57329～57331 Y=-75552～-75554

**重複** 19号ピットに近接するが、周囲には関連ピットは確認されない。

**平面形** 楕円形

**長軸方位** N-74° -W

#### 第4章 出土した遺構と遺物

**規模** 長軸0.50m 短軸0.45m 深さ0.23m  
**検出・埋没状況** U字状断面を呈し、Hr-FPを混入する黒褐色土が埋没する。  
**遺物と出土状況** 出土遺物は認められない。  
**調査所見** 柱穴の可能性があるが、建物構成は確認できない。

#### 4. 溝

7区及び9区で確認されている。分布状況から次の類別が可能である。

A群 東西方向に直線的に延長し、等高線に直交するように走行する溝で、7区7号・8号・9号・10号溝が該当する。生活に伴う区画溝の可能性が推定できるが、性格は特定できない。c類長円形土坑、d類溝形土坑の長軸方位とも一致する傾向があることから、土地区画に関する溝の可能性は高いとみられる。

B群 地形の傾斜に沿って走行する溝群で、一時的な水流等の影響により形成されたとみられる。傾斜部分に確認され、走行が安定しない溝もあり、人為的な掘削ではなく自然の營力によるものも含まれると思われる。7区1号～5号溝、14号溝、8区1号溝が該当する。

C群 確認長が短く、傾向が読み取りにくいもので、7区11号～13号溝が該当する。11号・13号溝は等高線に直交しながら並列し、南端部は完結した状態で延長しないことから、溝ではなくd類溝形土坑の可能性もある。12号溝は弧状部が確認され、延長部が不明のため溝として判断できるかは特定できない。

##### 7区1号溝(第26図 PL.60)

**位置** X=57294～57314・Y=-75544～-75563  
**重複** 2号・5号溝と接するが、重複部分が不明瞭のため詳細は不明である。  
**走行方位** N-45° -W  
**規模** 調査長25.80m 幅0.30～1.30m 深さ0.10～0.38m  
**調査所見** 傾斜に沿ってやや蛇行しながら走行する。水流を示す砂層の堆積は不明確であることから、常時ではなく限定された時期の水路とみられる。

##### 7区2号溝(第26図 PL.60)

**位置** X=57295～57303・Y=-75545～-75556  
**重複** 1号溝と接するが、重複部分が不明瞭のため詳細は不明である。

**走行方位** N-52° -W

**規模** 調査長11.50m 幅0.28～0.68m 深さ0.08～0.29m

**調査所見** 傾斜に沿ってやや蛇行しながら走行する。水流を示す砂層の堆積は不明確であることから、常時ではなく限定された時期の水路とみられる。

##### 7区3号溝(第27図 PL.60)

**位置** X=57292～57297・Y=-75526～-75535  
**重複** 9号・10号土坑と重複する。

**走行方位** N-58° -W

**規模** 調査長8.10m 幅0.40～0.84m 深さ0.11～0.26m

**調査所見** 傾斜に沿ってやや蛇行しながら走行する。水流を示す砂層の堆積は不明確であることから、常時ではなく限定された時期の水路とみられる。

##### 7区4号溝(第27図 PL.60)

**位置** X=57294～57307・Y=-75527～-75536  
**重複** 22号土坑を切っている。

**走行方位** N-34° -W

**規模** 調査長13.70m 幅0.50～1.28m 深さ0.36～0.85m

**調査所見** 傾斜に沿ってやや蛇行しながら走行する。水流を示す砂層の堆積は不明確であることから、常時ではなく限定された時期の水路とみられる。

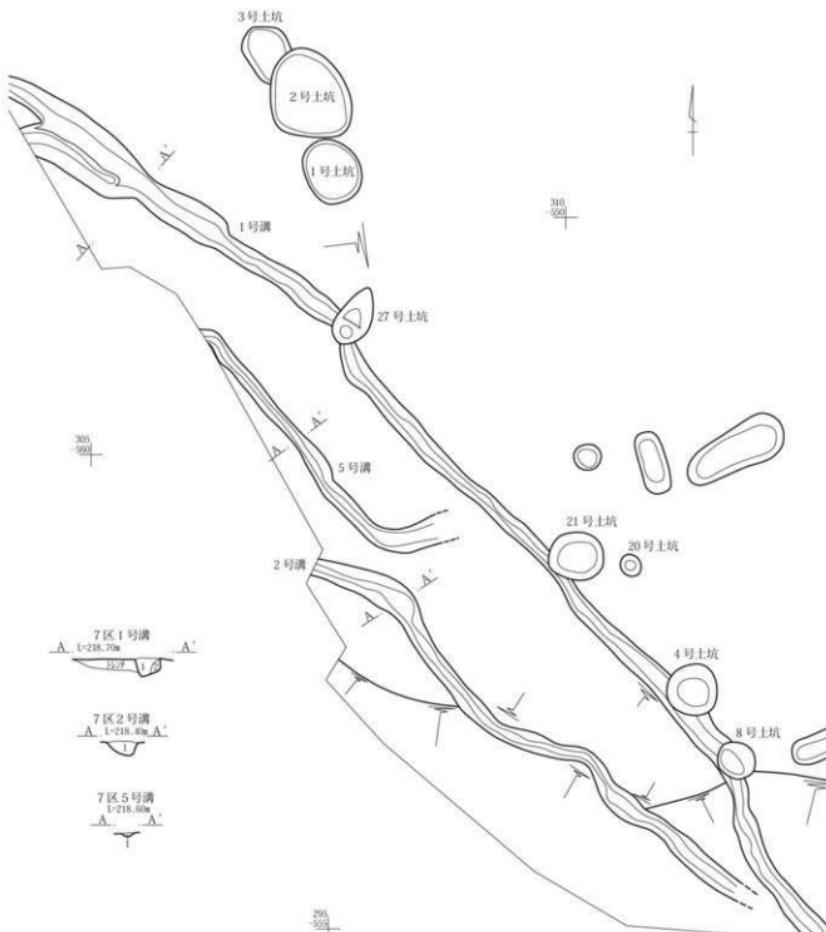
##### 7区5号溝(第26図 PL.60)

**位置** X=57300～57308・Y=-75550～-75558  
**重複** 1号溝に接するが、重複部分が不明瞭のため詳細は不明である。

**走行方位** N-51° -W

**規模** 調査長6.75m 幅0.28～0.60m 深さ0.09～0.12m

**調査所見** 水流を示す砂層の堆積は不明確でなることから、常時ではなく限定された時期の水路とみられる。



7区1・2・5号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/1)砂質。1cmのFP軽石、黄色粒子を含む。
- 2 黄褐色土(7.5YR4/2)砂質。1~2cmのFP軽石を多量に含む。

0 1:100 5m

第26図 7区1・2・5号溝断面図

#### 第4章 出土した遺構と遺物

##### 7区7号溝(第27図 PL.60・61)

位置 X=57352 ~ 57355・Y=-75555 ~ -75562

重複 模様により部分的に遺失する。

走行方位 N-70° - E

規模 調査長(6.00)m 幅0.78 ~ 0.89m 深さ0.42 ~ 0.47m

調査所見 東西方向に直線的に延長するが、東半部が未確認のため、溝として連続するかについて特定できない。区画に伴う溝の可能性を考えれば、完結することも想定できる。

##### 7区8号溝(第28図 PL.60・61)

位置 X=57329 ~ 57336・Y=-75541 ~ -75567

重複 62号土坑に切られる。

走行方位 N-75° - E

規模 調査長25.00m 幅1.00 ~ 2.20m 深さ0.21 ~ 0.55m

調査所見 東西方向に延長する。この溝は東側に調査区である5区には確認されていないことから、調査区外で完結もしくは屈曲する可能性もある。区画に伴う溝であると考えれば、いずれの場合も想定できる。

##### 7区9号溝(第28図 PL.61)

位置 X=57330 ~ 57333・Y=-75550 ~ -75554

重複 8号溝に東端部を切られる。

走行方位 N-67° - E

規模 調査長3.20m 幅0.34 ~ 0.48m 深さ0.07 ~ 0.10m

調査所見 東西方向に走行し、西端部で途切れるが10号溝に延長すると考えられる。

##### 7区10号溝(第28図 PL.61)

位置 X=57327 ~ 57331・Y=-75556 ~ -75564

重複 14号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走行方位 N-68° - E

規模 調査長8.35m 幅0.60 ~ 1.15m 深さ0.28 ~ 0.41m

調査所見 9号溝と連続し、東西方向に走行する。埋没土から寛永通宝が出土した。

##### 7区11号溝(第28図 PL.61)

位置 X=57327 ~ 57330・Y=-75556 ~ -75558

重複 10号溝と重複するが、新旧関係を有するか、併存するかについては不明である。

走行方位 N-19° - W

規模 調査長2.30m 幅0.40 ~ 0.58m 深さ0.07 ~ 0.11m

調査所見 南北方向に走行し、南端部は完結し、連続しない。13号溝と並列するように位置する。

##### 7区12号溝(第28図 PL.61・62)

位置 X=57326 ~ 57329・Y=-75556 ~ -75563

重複 13号溝を切り、10号溝に切られる。

走行方位 N-74° - W

規模 調査長5.46m 幅0.50 ~ 1.00m 深さ0.12 ~ 0.31m

調査所見 溝の渦曲部が確認されたが、南には確認されていないことから連続しない可能性もある。

##### 7区13号溝(第28図 PL.61・62)

位置 X=57326 ~ 57329・Y=-75559 ~ -75561

重複 10号・12号溝に切られる。

走行方位 N-5° - W

規模 調査長1.86m 幅0.40 ~ 0.46m 深さ0.15 ~ 0.17m

調査所見 等高線に直交し、南北方向の走行を示す。南端部は完結し、連続しない。11号溝と並列することから、関連するものとみられる。

##### 7区14号溝(第28図 PL.62)

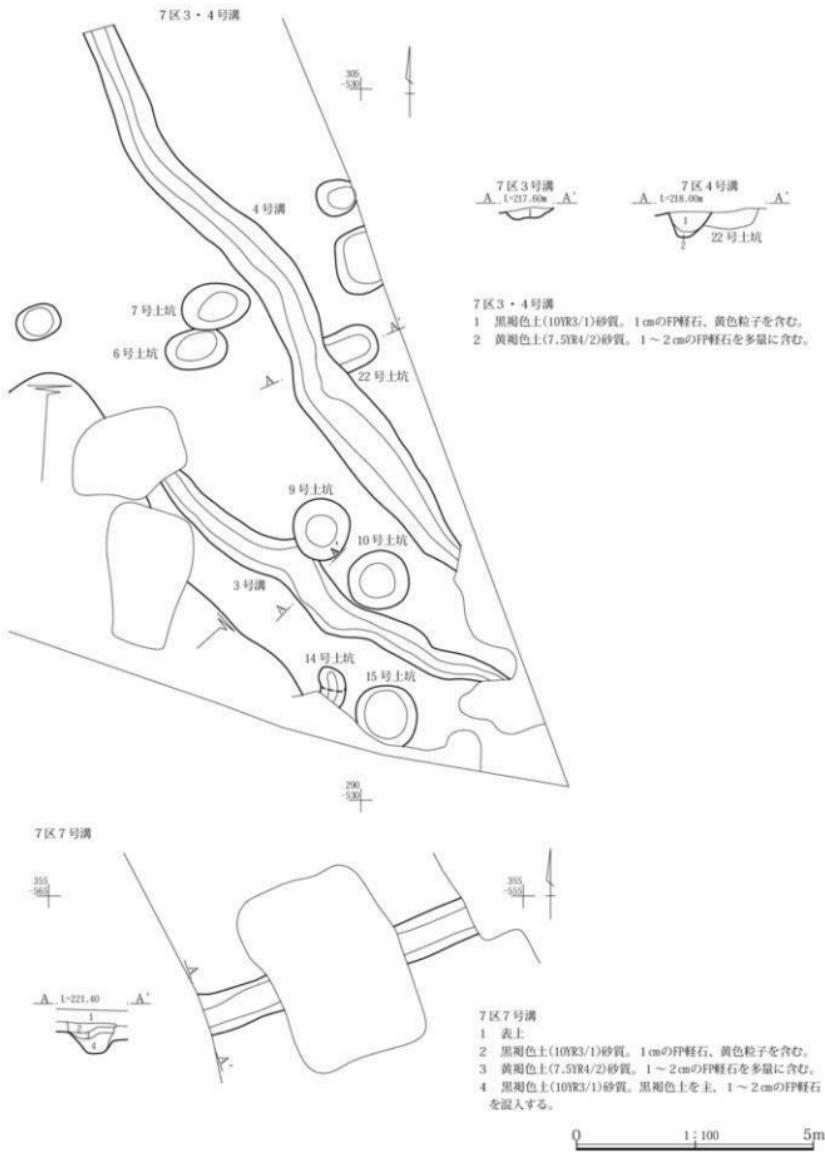
位置 X=57323 ~ 57329・Y=-75561 ~ -75567

重複 10号溝と重複する。

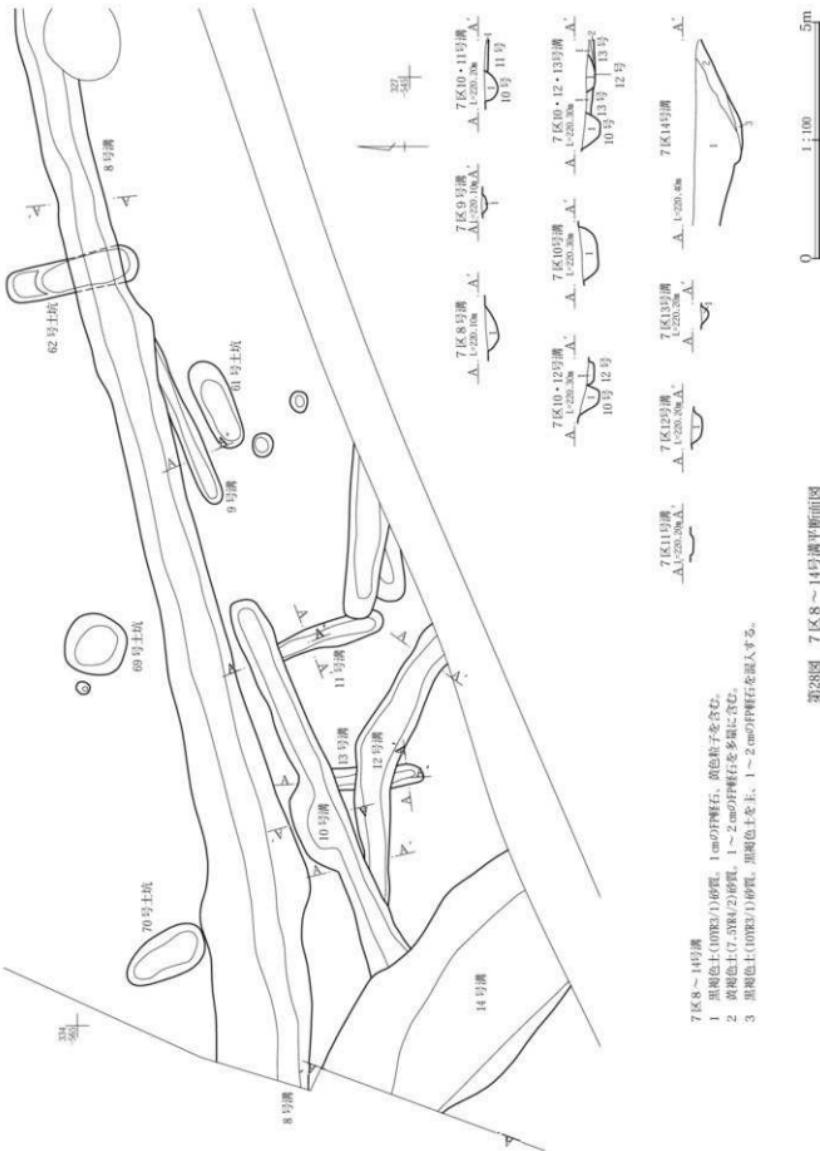
走行方位 N-47° - W

規模 調査長6.00m 幅2.90 ~ 3.30m 深さ0.52 ~ 0.93m

調査所見 確認幅3.5m前後の大規模な溝であるが、部分的な確認に留まる。傾斜方向の走行であるが、流路であるとしてもHr-FP上のみの確認で、下層には存在しない。時期は特定できないが、近世以降に形成された溝といえる。



第27図 7区3・4・7号溝断面図



第28図 7 K 8 ~ 14号溝平面断面図

## 第2節 第1面(Hr-FP上面)の調査内容

### 8区1号溝(第29図)

位置 X=57296 ~ 57306 · Y=-75566 ~ -75576

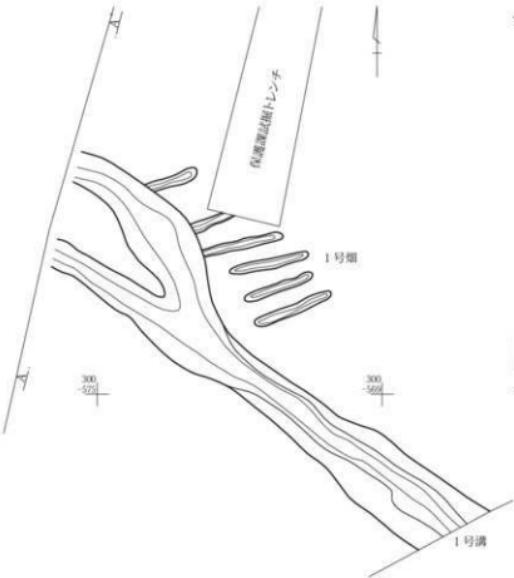
重複 1号畠を切っている。

走行方位 N-46° -W

規模 調査長11.35m 幅0.50 ~ 1.52m 深さ0.14 ~

0.57m

**調査所見** 傾斜に沿った走行を示し、一部で分岐する。自然流路の可能性もあるが、砂層堆積等は不明瞭で継続的な水流ではなく、限定された期間に形成されたものと推定される。



### 5. 道

第1面で確認された道は8区1号道、9区1号道の2条である。

### 8区1号道(第30図、PL63)

位置 X=57292 ~ 57301 · Y=-75571 ~ -75578

重複 無し。

形状 直線的で一部に分岐が認められる。

長軸方位 N-32° -W

規模 調査長8.50m 幅2.70 ~ 3.00m



### 8区1号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/1) FP軽石を混入する。砂質で、粘性なし。旧表土。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)砂質。3 ~ 5cm FP軽石、礫を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)砂質。1cmと3 ~ 5cm程のFP軽石を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)砂質。3 ~ 5cm程のFP軽石を多量に含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)砂質。1 ~ 3cmのFP軽石を多量に含み、2 ~ 3cmの礫も混入する。
- 6 灰黄色土(2.5Y5/2)砂質。河川堆積層。2 ~ 3cmのFP軽石を多量に含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)砂質。5cm以下のFP軽石を多量に、2 ~ 3cmの礫も含む。
- 8 暗灰黄色土(2.5Y5/2)砂質。ラミナ状にFPの堆積が認められる。

0 1:100 5m

第29図 8区1号溝断面図

**検出・埋没状況** 硬化面が形成された傾斜部に位置する道で、河川堆積物によって埋没したとの調査所見がある。地形傾斜に沿って走行する。

**調査所見** 近世以降の生活道であろう。

#### 9区1号道(第30図 PL.63)

**位置** X=57374 ~ 57376 • Y=-75575 ~ -75580

**重複** 34号土坑に接する。

**形状** 直線的に延長する。

**長軸方位** N-85° - E

**規模** 調査長3.90m 幅0.28 ~ 0.34m

**検出・埋没状況** 9区南西隅部に検出され、東西方向の走行を示す。

**調査所見** c類長円形土坑、d類溝形土坑の長軸方向と同様の走行を示すことから、土地区画に沿って形成された生活道と考えられる。

#### 6. 番

#### 8区1号畠(第31図 PL.15)

**位置** X=57301 ~ 57305 • Y=-75570 ~ -75574

**重複** 1号道に一部重複し、畠が切られる。

**形状** 短冊状

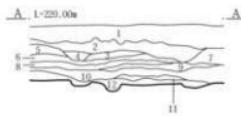
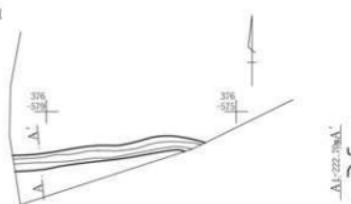
**規模** (確認規模) 2.5m × 3.8m

**検出・埋没状況** 第1面精査によって畠間のさく列が検出され、畠の存在が把握された。畠はすでに平夷され平坦面となっている。

8区1号道



9区1号道



#### 8区1号道

- 1 黒褐色土(10YR3/2)表土。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FPを含み、粘性に乏しい。鉄滓の混入が認められる。
- 3 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)河川堆積層。軽石を含み、粘性に乏しい。砂鉄を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)砂礫、軽石を含む。
- 5 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)河川堆積層。砂層、軽石を少量含む。砂鉄を含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)軽石を多量に含む。砂質層。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)軽石を多量に含む。砂質層。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 1~2cm程度の軽石を含む。砂質層。
- 9 暗黄褐色土(2.5Y4/2)軽石を含み、砂層中に砂鉄を混入する。鉄滓の混入が認められる。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2)砂礫、軽石を含み、砂層を認められる。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2)軽石を多量に含む。砂質層。
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2) 1~2cm程度の軽石を含む。砂質層。

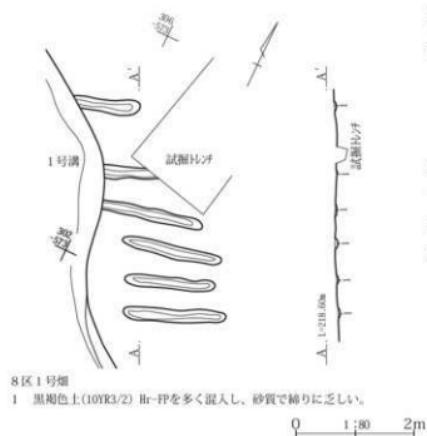
0 1:100 5m

第30図 8区1号道・9区1号道断面図

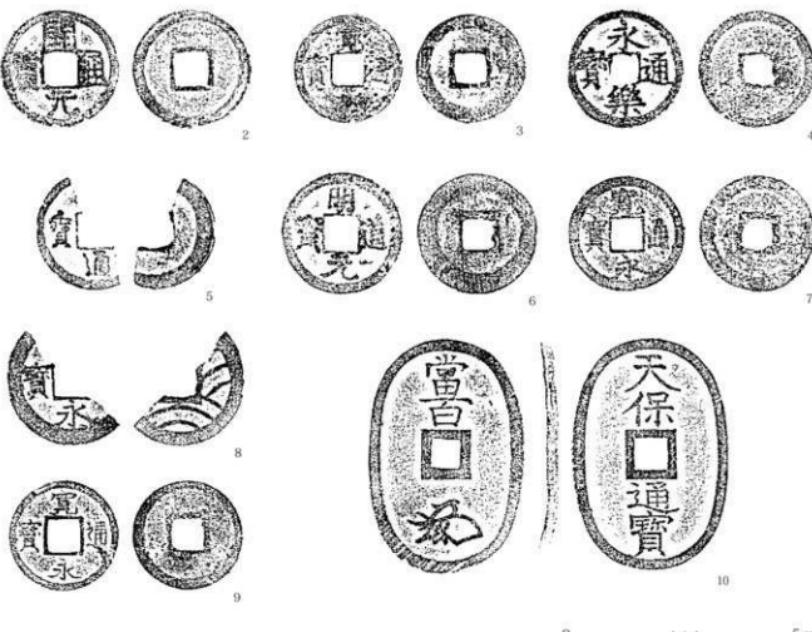
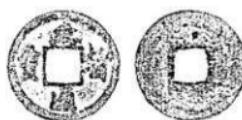
調査所見 遺存状態は不良であるが、小規模な耕作域であったと推定される。

## 7. 遺構外の遺物(第32図 PL.65)

表土掘削および第1面遺構検出作業に伴い、古銭等の遺物が出土している。この層位では近現代の陶器類片も含まれることから、連続的な擾乱による影響で混在したものである。いずれも遺構に伴うものではないが第1面出土遺物として報告しておく。



第31図 8区1号烟平面図



第32図 7区第1面遺構外出土遺物図

### 第3節 第2面(Hr-FP下面)の調査内容

Hr-FPに被覆された旧地表面であり、時期的にはHr-FA堆積以降、6世紀中葉の間ということになる。

確認された遺構は、焼土、道及び馬蹄跡である。少なくとも区画が居住域としては利用されていなかったものといえる。道が存在し、馬蹄跡も分布することから生活域となっていたことは確実であり、馬生産に関わることも推定できる。

#### 1. 焼土

7区1号焼土(第33図 PL.59)

位置 X=57294 ~ 57295・Y=-75529 ~ -75530

重複 他遺構との重複関係は認められていない。

長軸方位 N-23° -W

規模 長軸0.50m 短軸0.36m

**検出・埋没状況** FP被覆面で確認された小規模遺構で、焼土を混入する暗褐色土で埋没している。底面、壁も部分的に赤化し、炭化物も認められることから、くぼみ状とした場で燃焼行為が行われたものと思われる。

**調査所見** 遺構内には焼土、炭化物、暗褐色土が埋没するが燃焼目的を推定させる情報は得られていない。

#### 2. 道

7区1号道(第36・37図 PL.63)

位置 X=57296 ~ 57331・Y=-75543 ~ -75564

重複 3号道と重複し、1号道が切られるという調査所見が得られている。

長軸方位 N-30° -W

規模 調査長37.50m 幅0.53 ~ 3.50m



7区1号焼土

1 黒色土(10YR2/1)灰少量、焼土を少量含む。

0 1:60 2m

第33図 7区1号焼土断面図

**検出・埋没状況** Hr-FPに埋没する道である。堆積状況から Hr-FP降下時まで機能していたものとみられる。

傾斜面に対して直交する走行を示し、北西-南東方向にはほぼ直線的に延長する。7区中央付近の平坦面では幅0.40m前後のくぼみ状の道となるが、南側の傾斜部では地表面をV字状に掘削し、谷部に向かう道として連続し、掘削土は両側に盛土状に廃土されている。また、傾斜部には階段状の整形も行われることから、人の通行目的の道と考えられる。

**調査所見** この道は南東側は谷部に向かうが、北西側は直線的に延長する。生活道と考えれば北西方向に生活域が形成されていたと推定できる。

この地域のHr-FA後の生活利用については不明な点もあるが、少なくとも1号道にみられる直線的な走行を持ち、部分的に掘削を伴うような計画的道の設営を伴う生活域の形成が行われていた可能性が認められる。

7区2号道(第36・37図)

位置 X=57307 ~ 57325・Y=-75548 ~ -75557

重複 1号道の部分を形成する道。

長軸方位 N-28° -W

規模 調査長14.30m 幅0.58 ~ 2.40m

**検出・埋没状況** 1号道から弧状に分岐する部分について2号道としているため、一連の道と考えられるものである。直線的な走行を示す1号道が主たる通路として機能し、2号道は迂回部分として利用された可能性を考えられる。

**調査所見** 1号道と連続し、迂回部分を形成するとみられる。このように想定すると、複数の人数による通行が生じていた可能性もある。

7区3号道(第36・37図)

位置 X=57322 ~ 57335・Y=-75546 ~ -75564

重複 1号道に重複し、一部で馬蹄跡が道を横断する。

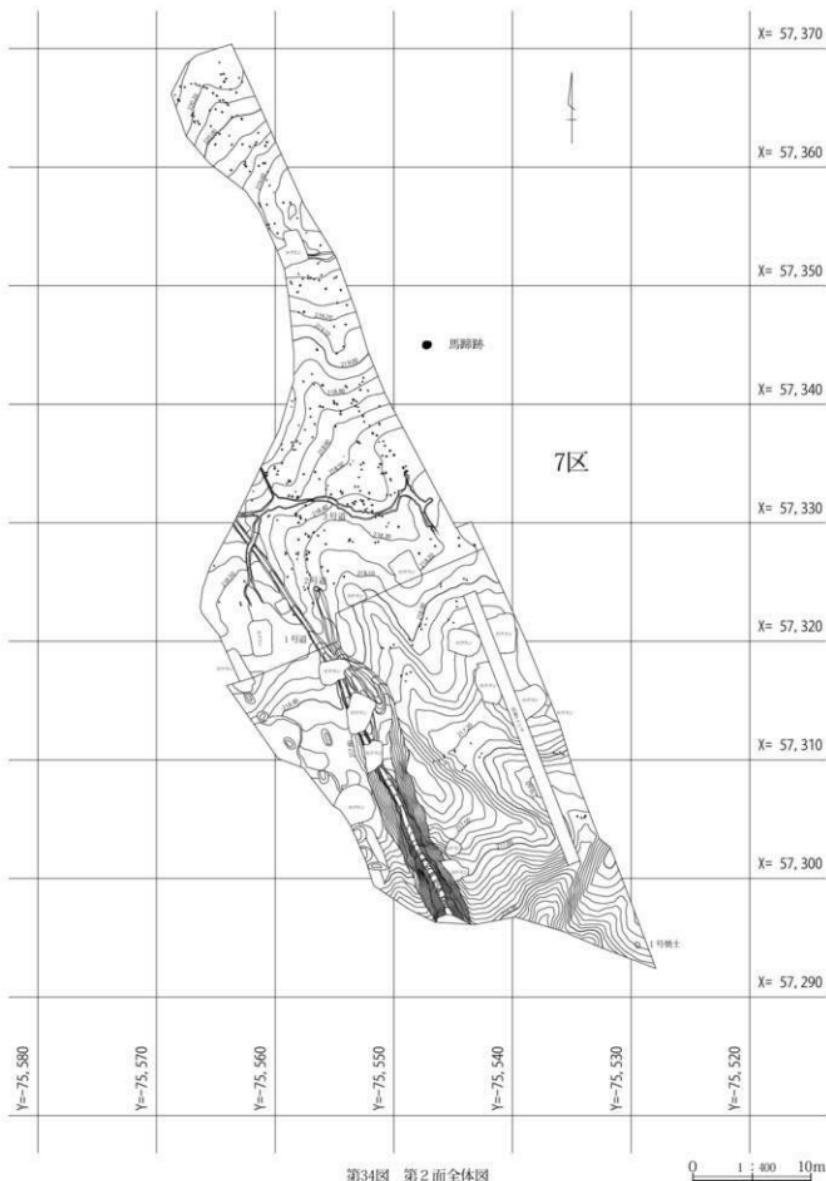
長軸方位 —

規模 調査長25.80m 幅0.22 ~ 0.92m

**検出・埋没状況** Hr-FPに埋没する道で、浅い溝状を形成し、底面に硬化面が確認された。東西方向に蛇行しながら走行し、部分的に分岐部の存在が観察されている。

1号道と重複する部分では、3号道が切っていると観察

第3節 第2面(Hr-FP下面)の調査内容



され、周囲には馬蹄跡が分布する。

**調査所見** 直線的に設置される1号道と相違し、3号道は踏み分け状に蛇行する。分岐部が複数認められることから、周辺に人の往来があったことと、往来を必要とする生活上の理由があったことになる。

### 3. 馬蹄跡(第38～40図 PL.47・48 第6表)

Hr-FPに被覆された旧地表面上に馬蹄跡が確認されている。

傾斜面を形成する7区南半部ではやや分布が希薄で、平坦面を形成する北半部に集中する傾向が認められる。

南半部では東西方向を示す列状分布が3か所で認められることから単体の歩行痕跡とみられる。最南部の分布は4馬蹄跡(5～8)のみの確認であり歩行痕跡の一部が遺存するが、他2か所は1号道から調査区東端部間で確認される列状痕跡である。1～4・9～20の列状分布

では馬蹄跡が南西もしくは西方向を示す観察所見がることから、東から西方向への移動が推定できる。21～39の列状分布では、北西、北、西、南と一定した観察結果が得られていないことから、移動方向は特定しにくい。検出状況からみて、前記の9～20による歩行分布に連続することも考えられる。

一方、北半部では調査区全域に分布する傾向が認められる。列状の分布が観察される部分もあるが、歩行状態は特定できない。分布状況は密集するものではないことから、馬の存在は少数頭に留まるものとみられる。

金井遺跡群では、これまでにもHr-FP下で馬蹄跡が確認されている。どのような状態で馬が存在したのかについては不明な部分もあるが、吾妻川対岸の白井遺跡群における放牧地の存在を考えれば、やはり人の関与は必然だと推定できる。



1. 7区第2面1号道全景(西から)



2. 7区第2面1号道調査状況(北東から)



3. 7区第2面3号道と馬蹄跡(北東から)



4. 7区第2面馬蹄跡の調査状況(南西から)

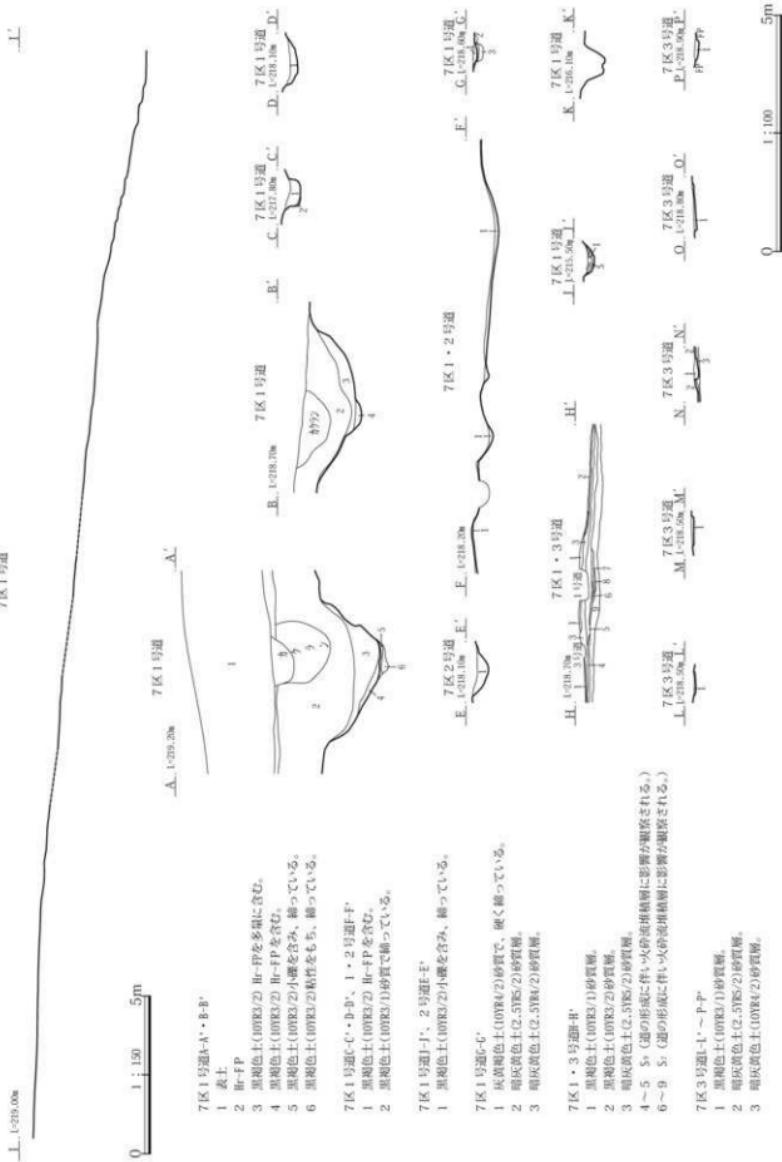
第35図 第2面調査状況



第36図 7区1~3号道平面図

0 1 100 5m

7区1号地



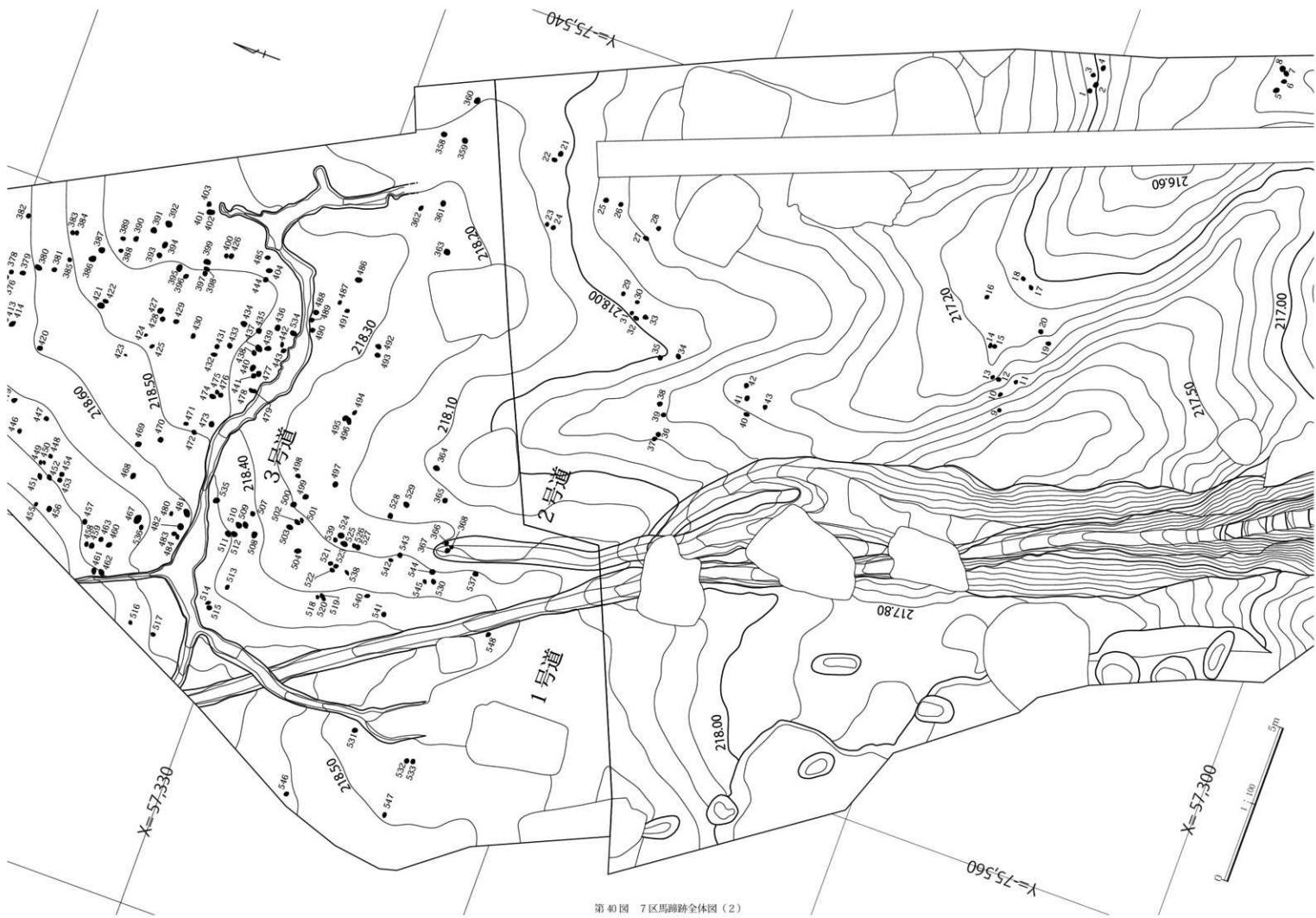
第37図 7区1~3号道断面図



第38図 7区馬跡全体図



第39图 7区馬跡全体図(1)



第40图 7区馬跡全体図(2)

## 第4節 第3面(Hr-FA/S<sub>3</sub>面)の調査内容

黄褐色砂質細粒火山灰(S<sub>3</sub>)面を調査面とするが、部分的にS<sub>1</sub>と観察される降下火山灰の堆積が確認されていることから、連続した火山噴出物の堆積があったものとみられる。S<sub>3</sub>上層は土壤化しながら第2面に相当する腐食土層に連続することから、Hr-FA層序が遺失したものといえる。

この調査面では、土器片、獸骨片、炭化材片等が散発的に出土する以外は遺構等の存在は認められていない。火山噴火継続中であることから、人等の行動痕跡も確認されていない。

## 第5節 第4面(Hr-FA/S<sub>3</sub>面)の調査内容

一連のHr-FAで最大規模の火碎流で、この地域に甚大な被害を及ぼした堆積物であるS<sub>3</sub>を調査面としている。この地域の古墳集落はS<sub>1</sub>・S<sub>2</sub>降下後のS<sub>3</sub>により被災するが、その後のS<sub>1</sub>により埋没する経過を辿っている。すなわち、集落の最終埋没状態がこの調査面に遺存する可能性が高いことは、これまでの金井遺跡群の調査事例で想定されていた。

遺構が火山堆積物に被覆されるのではなく、堆積物の層中に立体的な遺構情報として遺存することが想定されることになる。さらに、建物等の遺構のみではなく、人・馬等の生物痕跡も可能性が存在することに注意をする必要がある。

このような前提で調査を進めたが、火碎流により流出した土器片、獸骨片等の細片がわずかに出土したが、遺構の存在は確認されなかった。

## 第6節 第5面(Hr-FA/S<sub>3</sub>面)の調査内容

この地域の古墳社会に直接的な被害を与えた火碎流堆積物で、「甲を着た古墳人」や馬はこの火碎流により被災し、囲い状遺構の網代垣も倒壊・炭化させている。

S<sub>3</sub>は粗粒火山灰層と細粒火山灰層のユニットにより構成され、灰雲サージ堆積物による3波が継起的に発生し、流走したと考えられている。また、火山弾等の飛来による衝撃痕が残されているが、S<sub>3</sub>に伴う痕跡の可能性が高

い。

倒木痕が1か所で確認されているが、この周辺での確認例は少ない。集落形成に関連して立木類は除去されたことを示しているのかも知れない。

### 1. 衝撃痕(第44～48図 PL.64)

S<sub>3</sub>面上で検出された火山痕跡として、線状衝撃痕及び円状衝撃痕が存在する。いずれもS<sub>3</sub>の流下による衝撃の影響でS<sub>3</sub>面上に固形物の衝突痕として残存する。

このような火山痕跡は、金井東裏遺跡の調査で検出され、金井下新田遺跡でも同様の痕跡が確認されている。

7区検出の衝撃痕には、これまでとは異なる形態が含まれるが形成要因は同様と考えられる。

検出された衝撃痕は、第5表に一覧するとおりである。

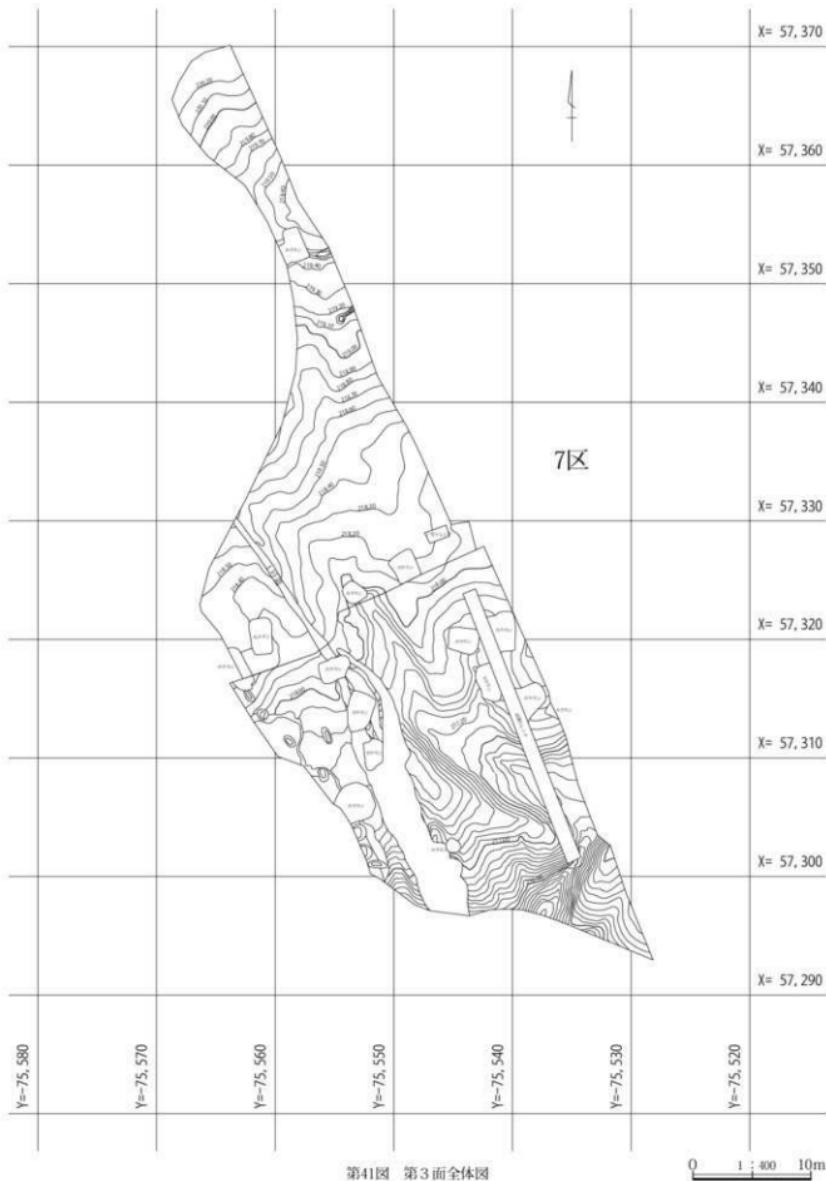
#### a 線状衝撃痕

これまで確認してきた火山痕跡で、不整な梢円形状平面を呈する衝撃痕である。

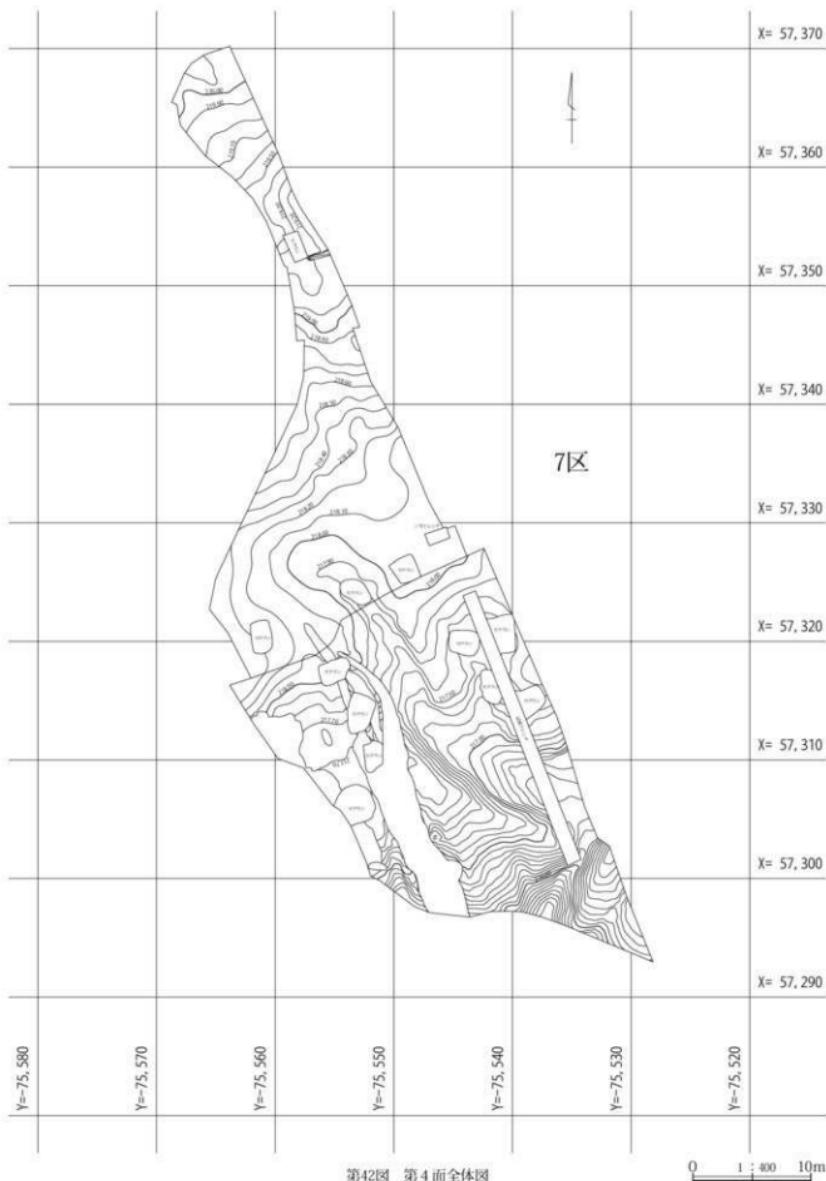
7区で検出された線状衝撃痕は、長軸が1.20m前後で短軸は0.30m前後～1.0m前後と幅がある。火碎流に含まれる火山弾もしくは濃度の高い火山ガス等の固形体が地表面に衝突した際に生じる痕跡であり、長軸方向が火碎流の流下方向と一致するものといえる。短軸幅の大小は衝突する固形体の規模に影響されるものと考えることができる。固形体の衝突状態は不明だが、線状痕跡を残すことから地表面に対し角度を持たずに接した結果と推定される。固形体の流下途中での衝突痕跡と考えれば、痕跡端部に固形体痕跡が残存しないこととも一致する。線状痕跡は、固形体の移動状態が地表面に残されたと考えることもできる。1号～15号、17号、20号～23号線状衝撃痕が該当する。

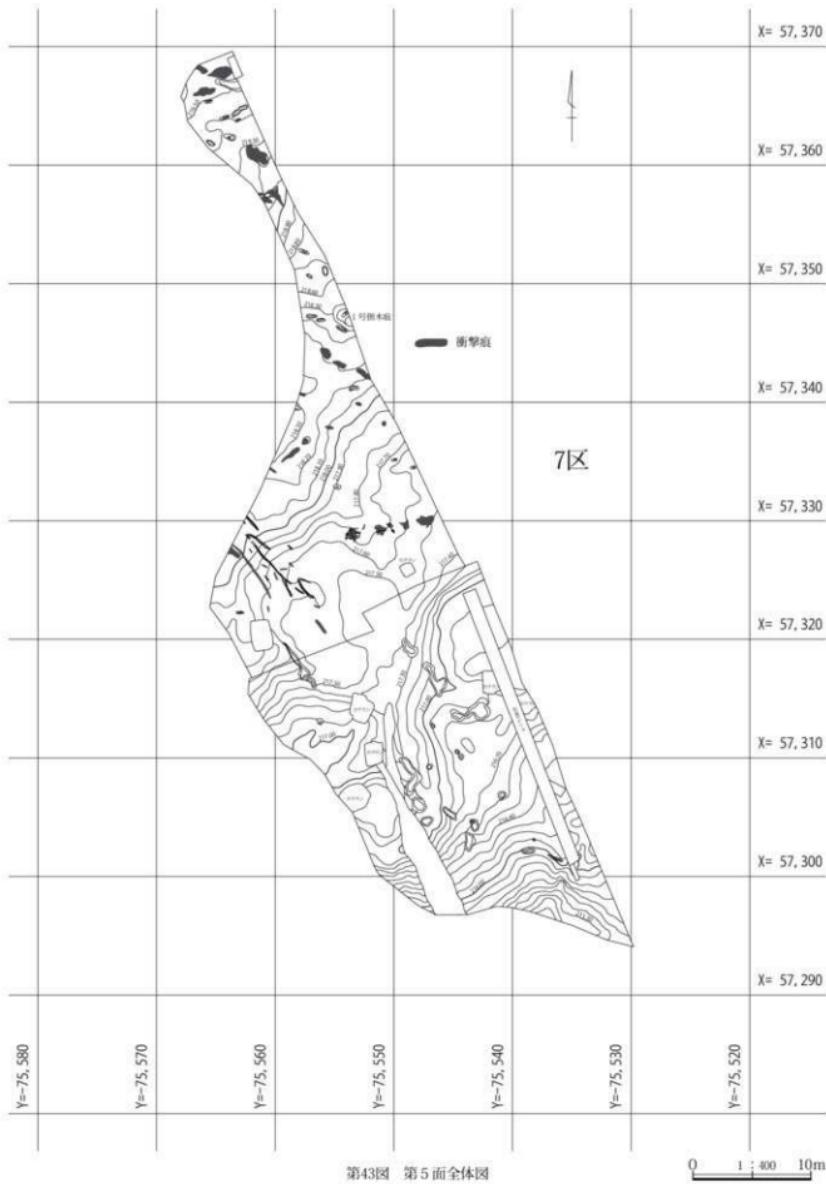
#### b 円状衝撃痕

東西方向に並んだ状態で検出された衝撃痕であり、先行調査事例による線状衝撃痕とは形態上異質であり、類例が認められない一群である。形態上の最大の相違は衝突痕跡が梢円状を呈するのではなく不正な円状を形成する点にある。この不正な円状痕跡はS<sub>3</sub>に伴う固形体が地表面に対し、垂直方向に近い角度で接することにより形成されることが推定できる。さらに、衝突面上に残る亀

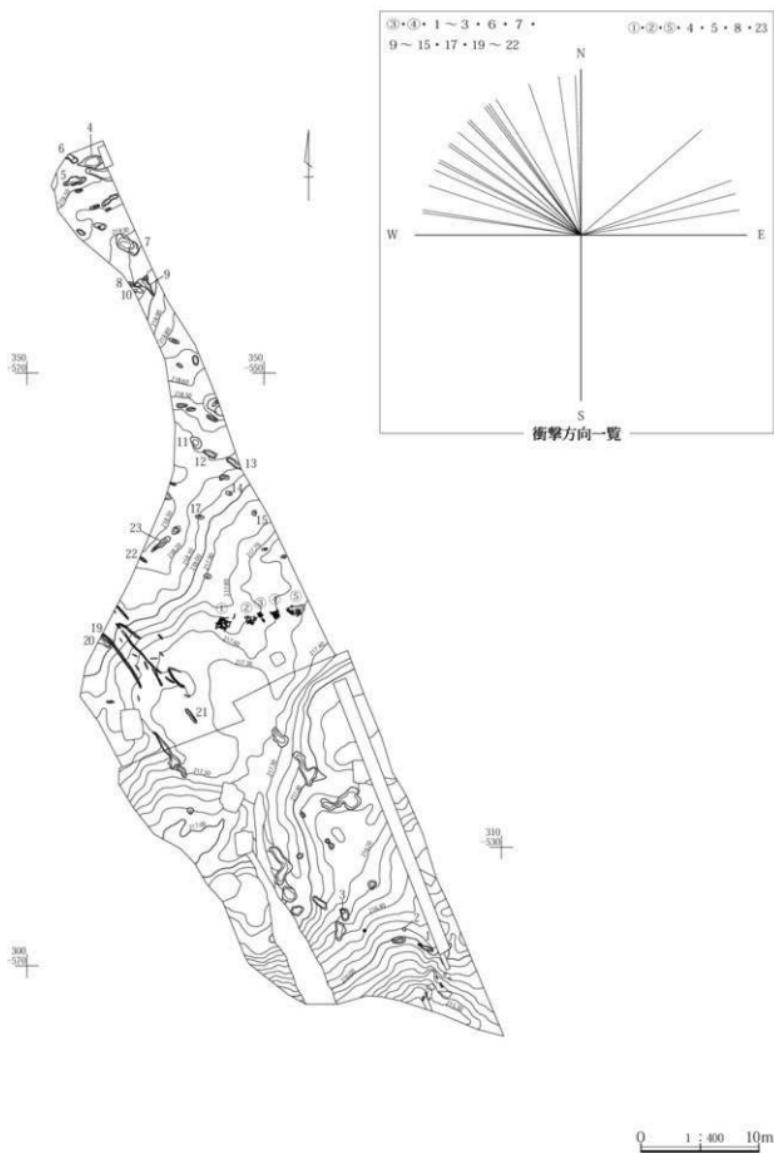


第5節 第4面(Hr-FA/S面)の調査内容

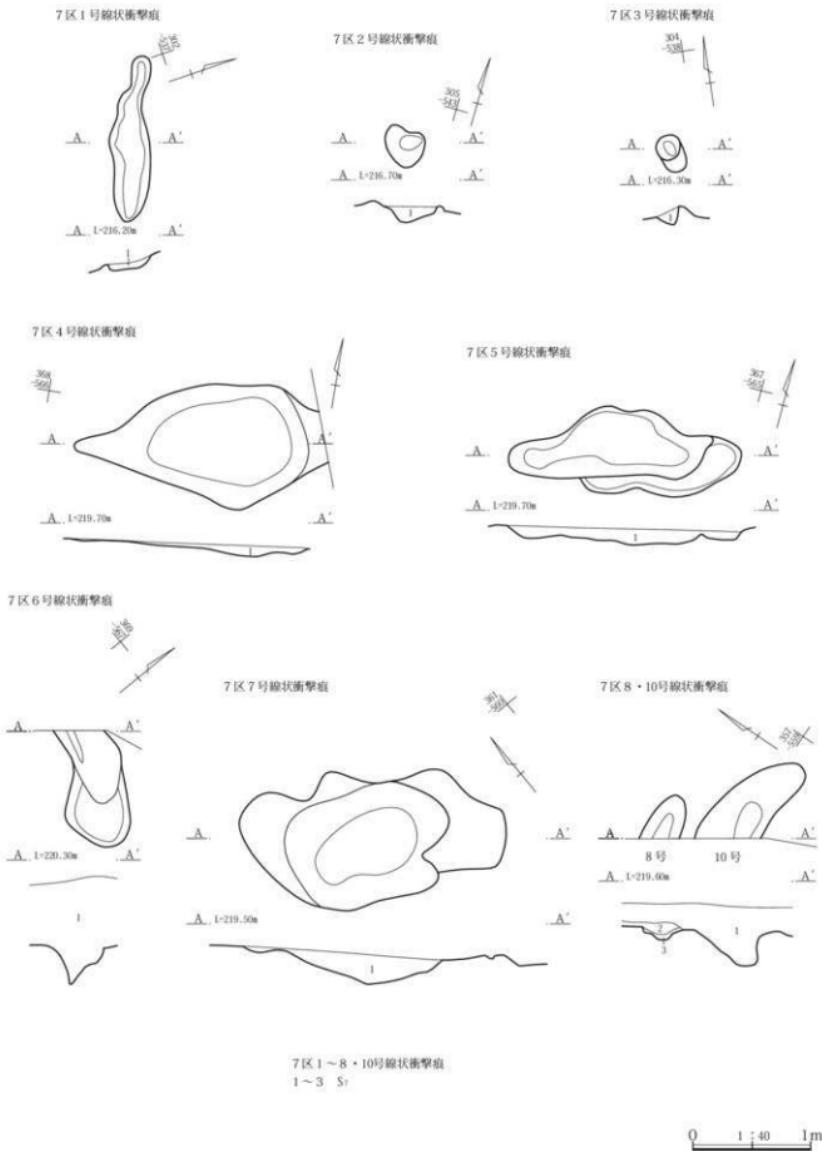




第6節 第5面(Hr-FA/S面)の調査内容

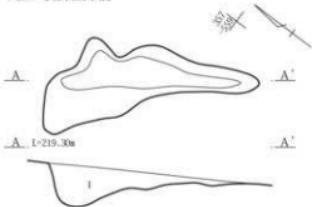


第44図 7区衝撃症全体図



第45図 7区 1～8・10号線状衝撃痕断面図

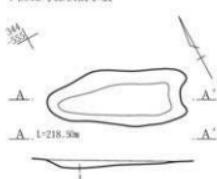
7区9号線状衝撃痕



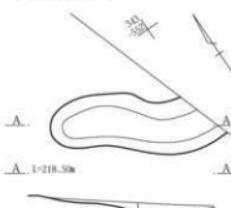
7区11号線状衝撃痕



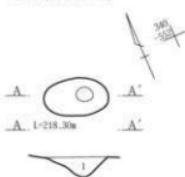
7区12号線状衝撃痕



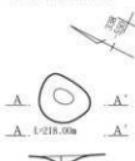
7区13号線状衝撃痕



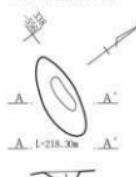
7区14号線状衝撃痕



7区15号線状衝撃痕



7区17号線状衝撃痕

7区9・11～15・17号線状衝撃痕  
I S:

0 1 : 40 1m

第46図 7区9・11～15・17号線状衝撃痕断面図

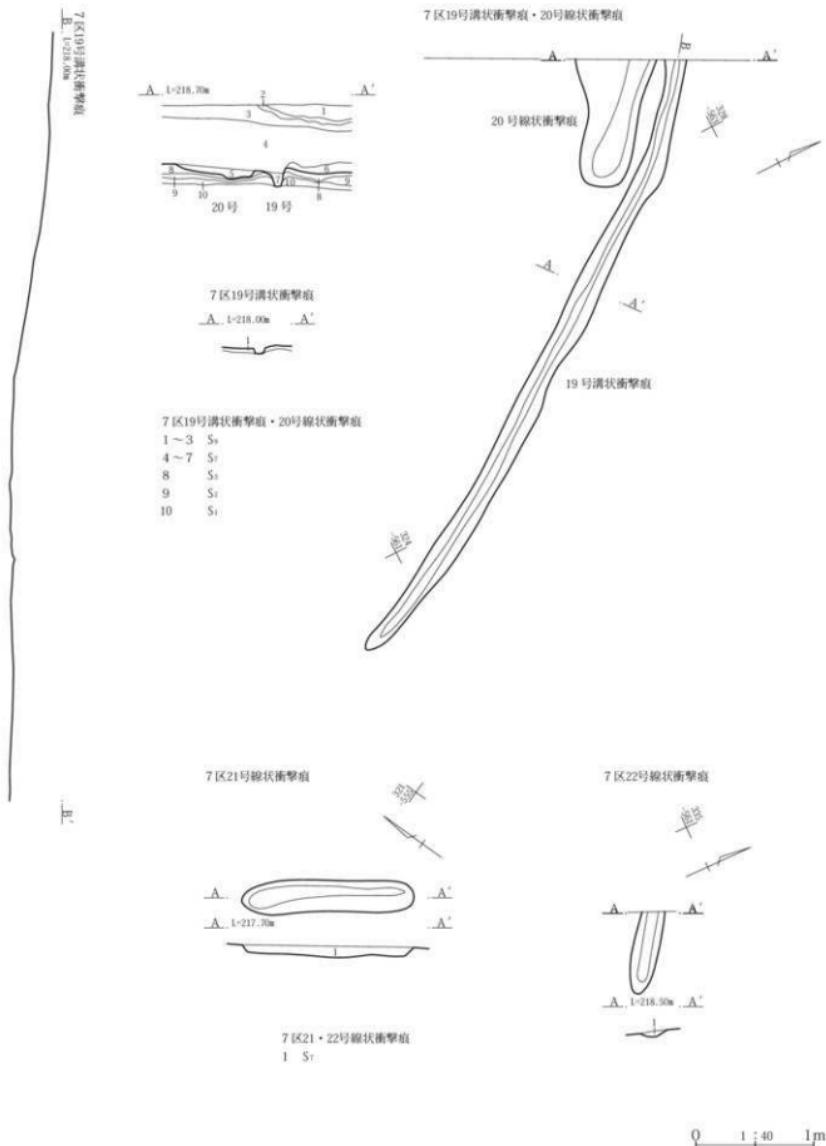
裂は固体体が衝突した衝撃で生じるものであり、固体体の形態は不明であるが線状衝撃痕とは地表面への衝突角度が相違することを示している。また、並列状態で分布することから、同一時間経過で形成された可能性が推定できる。火碎流下現象の中で生じた火山痕跡といえるが、そのメカニズムは不明である。1号～5号円状衝撃痕が該当する。

### c 溝状衝撃痕

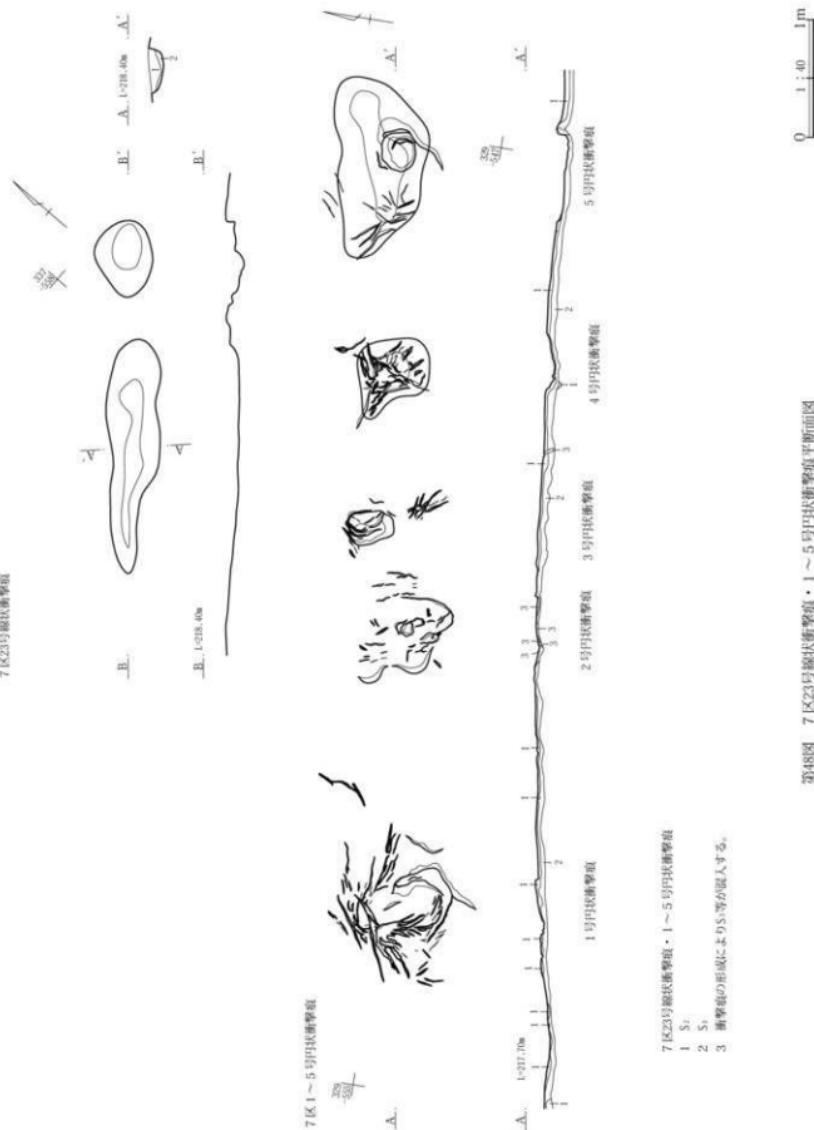
線状衝撃痕と共に確認された火山痕跡であり、火碎流

流下に伴う固体体の影響により形成された衝撃痕の類例と思われる。衝撃痕の走行は線状衝撃痕長軸方向と一致し、やはりS:火碎流の流下に伴い形成されたものと判断される。

形態的に前記の線状・円状衝撃痕とは相違し、溝状に長く連続する特徴を有している。19号衝撃痕は北西部が調査区外となるが、確認長で5.5m以上を計測する。断面は溝状のくぼみが連続し、縦断面は地形に沿って走行する。円状衝撃痕と同様に類例がなく、その形成経過については不明であった。



第47図 7区19号溝状衝撃痕・20～22号線状衝撃痕断面図



第48図 7区23号縦坑面断面・1～5号井出露断面図

この調査状況について、群馬大学若井明彦教授の指導により火砕流に伴う固体体が地表面を回転(もしくは直線的移動)しながら移動した痕跡ではないかとの助言をいただいた。

横・縦断面形状等を含めた検出状態からも、若井教授の指導内容に一致するものと考えられることから、火砕流に伴う固体体の移動により形成されたものと理解してきたい。

このような形成経過による衝撃痕跡を溝状衝撃痕と呼称しておきたい。なお、火山学での先行研究が存在した場合はその時点で検討が必要である。

## 2. 倒木痕

### 7区1号倒木痕(第49図 PL.64・65)

位置 X=57345 ~ 57349 • Y=-75553 ~ -75558

重複 遺構間の重複はないが南東部が調査区外になる。

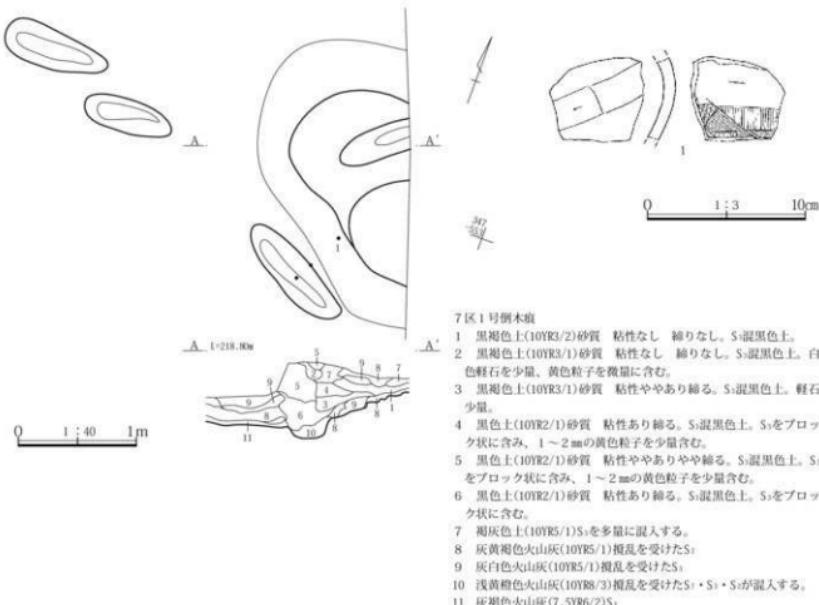
平面形 不整椭円形

### 長軸方位 一

規模 長軸(2.5)m 短軸(1.6)m 深0.65m

検出・埋没状況 S<sub>1</sub>面精査に伴い逆転土層である黒色土及び火山噴出物の擾乱状態が観察され、倒木痕と認識された。周辺には線状衝撃痕等の火山痕跡が分布することから、同様にS<sub>1</sub>火砕流の影響による倒木痕であると理解された。断面調査により平面的に検出された黒色土はHr-FA下に堆積する土層であることが確認され、倒木による逆転層であることがわかると共に、周囲には流入層としてS<sub>1</sub>、S<sub>2</sub>、S<sub>3</sub>が混在し、S<sub>1</sub>が流入することも認められた。遺物と出土状況 土器片が混入している。

調査所見 Hr-FA下の立木がおそらくS<sub>1</sub>の影響を受けたと思われるが、最終的にはS<sub>1</sub>により倒木したものといえる。長軸方向が線状衝撃痕と同傾向を示すことから、流下の影響を受けながら継起的に発生したものと考えられる。



第49図 7区1号倒木痕平面図・出土遺物図

## 第7節 第6面(Hr-FA/S<sub>2</sub>面)の調査内容

細粒火山灰層により構成されるS<sub>2</sub>は遺跡全域を被覆する降下火山灰層であり、金井遺跡群の調査でも人足跡、馬蹄跡の行動痕跡が多数確認されている。

7区では南端部に西から東に移動する人足跡、中央部にやはり西から東に移動する馬蹄跡が確認されている。

S<sub>2</sub>は水分を多く含む火山灰といわれており、これまでにも「泥潤状」という表現もされていた。その上層に堆積するS<sub>2</sub>は成層する灰色、灰褐色、桃白色、褐色細粒火山灰である。痕跡は足跡形状がプリントされたように明瞭に残ることから、S<sub>2</sub>はかなりきめ細かい火山灰であり、粘性ではなく、乾燥気味でしまがあり、形態保持性の高い性質の火山灰層といえる。人や馬はこのS<sub>2</sub>面を移動することで歩行痕跡が残ることになる。足跡の周囲には踏み込むことで生じた亀裂が同心円状に残る。雪上もしくは乾燥気味の泥上を歩行した際に生じる亀裂と同様の軌跡である。足跡は上方からほぼ垂直に踏み込み、移動に伴う歩行時には足跡を破損することなく歩を進めている。すなわち、踏み込んだ痕跡が保持されるような歩行により遺存することになる。模式的にいえば、垂直に踏み込み、垂直に足を上げ歩行を進める、ということを繰り返しながら移動していることになる。一足づつ踏みしめるよう歩を進めて移動していることが、足跡から判断することができる。このような移動状態は人足跡ばかりではなく馬蹄跡も同様であることが痕跡から理解できる。

確認された人足跡、馬蹄跡はそれぞれ列状の移動痕跡であるが、異なる位置に移動痕跡が認められている。S<sub>2</sub>面の移動であることから、無関係の行動とは考え難い。火山噴火に伴う避難行動として、何らかの関係性があると考えることは可能だろう。

なお、この時点ではHr-FA下で耕作される1号畠の痕跡が確認されている。

### 1. 人足跡(第51～53図 PL.51 第7表)

位置 X=57296～57298・Y=-75530～-75536

検出・埋没状況 7区南東部にあたる傾斜部で計48個の人足跡を確認した。埋没しているが、この火碎石の影響による変形や損壊は認められないことから、地表面を覆いつくすように流下したとみられる。人足跡は西から東

方向に移動しているが、傾斜面を上の方向に歩行していることになり、調査区西側に移動始点があったことになる。もしくは西側の沢沿いの道を移動経路としたことも推定できるが、噴火時点で西に人が存在する環境であったことは事実であろう。

検出された人足跡は第7表に一覧するが、検出状況から2人ないし3人程度が東へ移動した痕跡であろうとみられる。また、足跡からは履物による痕跡も観察できる。痕跡からは履物形態は不明だが、足裏形状に即したように踵側が細く、つま先側に広くなるという形態を示していることがわかる。足裏を包み込むような履物のように考えられる。また、履物素材の痕跡も確認できないことから、編み込むような素材による履物ではないとみられる。痕跡面が平滑面と観察される状態からは革製による履物の可能性もあるだろう。

人足跡はこの部分でのみ検出されているが、Hr-FA下に当時の道は確認されていないため、埋没後の通路を辿ったわけではない。この部分を歩行したのは避難経路として最もふさわしい位置、すなわち目的地への最短距離を選択したものと考えることができる。

### 2. 馬蹄跡(第51・54・55図 PL.49・50 第7表)

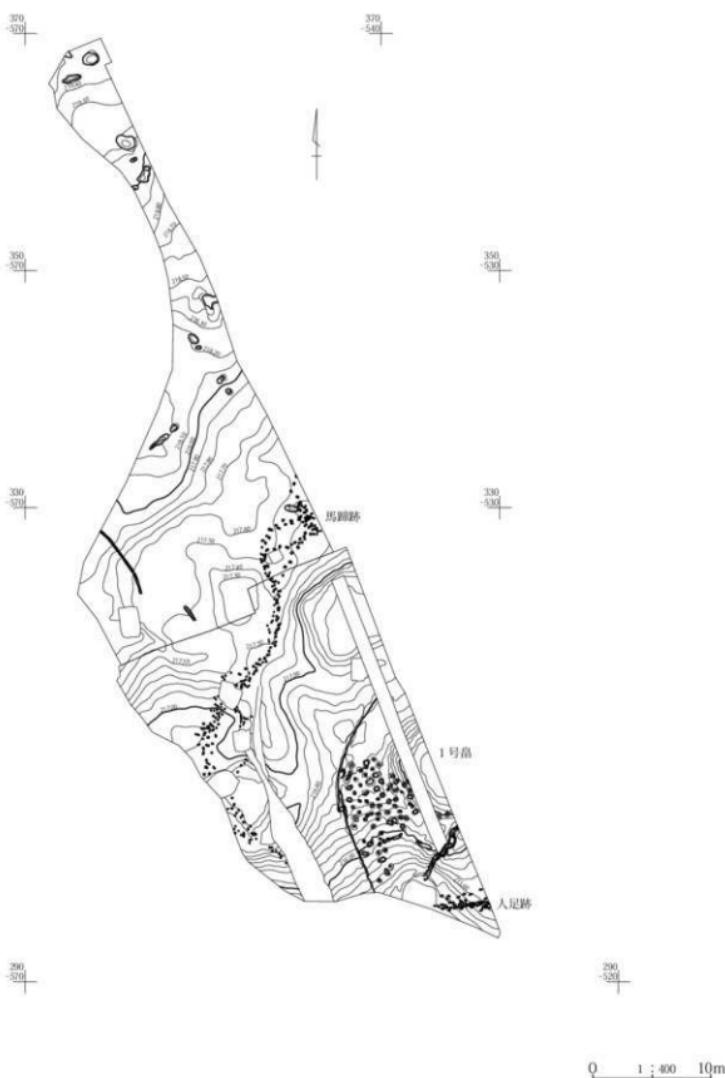
位置 X=57300～57333・Y=-75545～-75556

検出・埋没状況 すでに金井下新田遺跡5区の発掘調査成果により馬蹄跡が7区に連続することは想定されていた。5区検出の馬蹄跡は東方向に移動しながら祭祀遺構群を経由し、囲い状遺構南辺に沿うようにさらに東へ移動することが確認されている。頭数は確定されていないが2頭から3頭程度とみられる。歩行状態を保ちながら移動し、人足跡は認められないことから馬のみでとみられるが、騎乗の可能性も推定できるが確定できない。

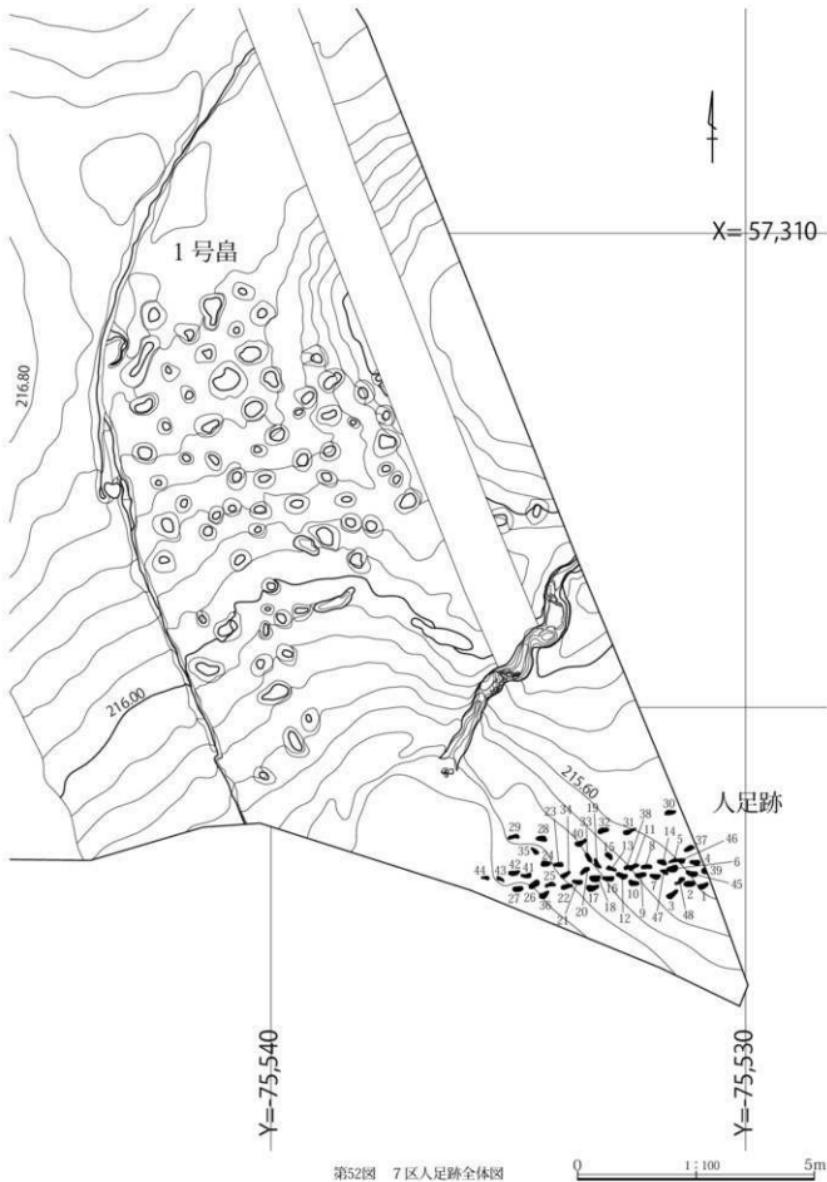
7区の馬蹄跡は計305個検出された。第2面で調査した1号道付近から南に移動し、下層に埋没する3号・4号竪穴建物のくぼみ部を横切り、北東方向から東方向に向きを変え調査区外に延長する。直線的な移動軌跡ではなく、緩やかに蛇行しながら歩行していることがわかる。この延長で5区の馬蹄跡に連続することになる。なお、この歩行経路をみると、移動始点は谷側にあることが想定される。この方向に噴火前に馬が存在する環境があ



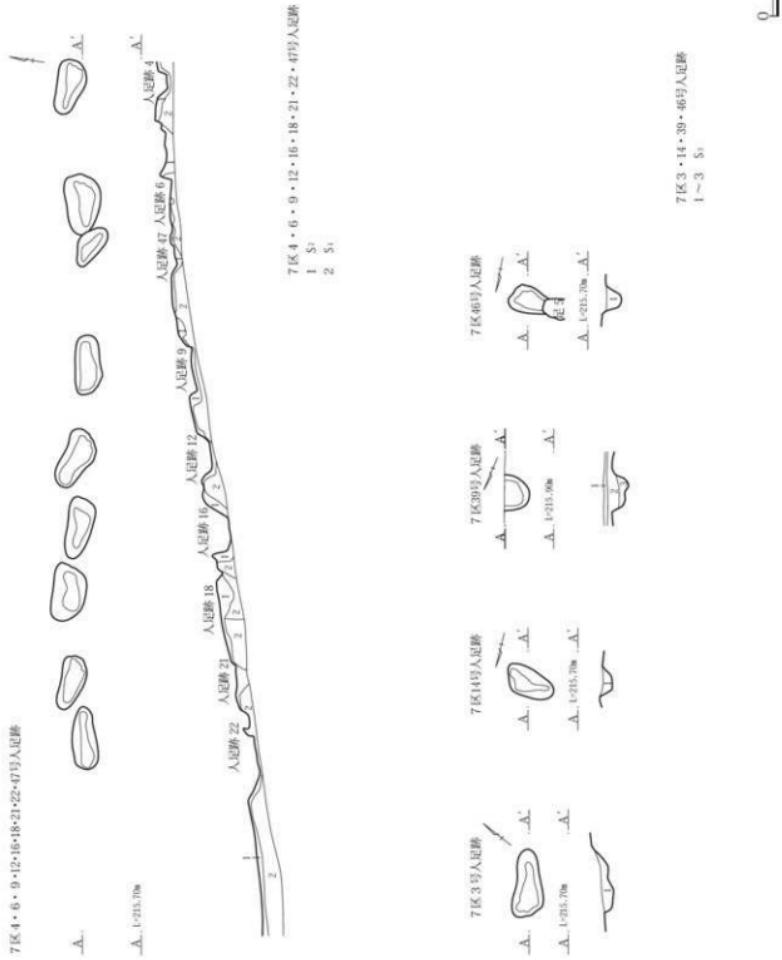
第50図 第6面全体図



第51図 7区人足跡・馬蹄跡全体図

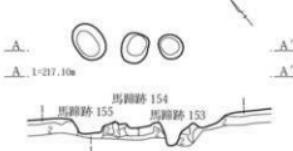


第52図 7区人足跡全体図

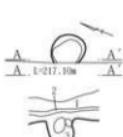


第53図 7区3・4・6・9・12・14・16・18・21・22・39・46・47号人足跡断面図

7区153～155号馬蹄跡



7区241号馬蹄跡



7区563・564号馬蹄跡



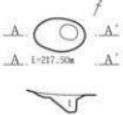
7区573・579・582号馬蹄跡



7区579号馬蹄跡



7区580号馬蹄跡



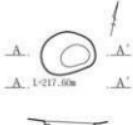
7区576・578・580・583号馬蹄跡



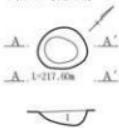
7区583号馬蹄跡



7区627号馬蹄跡



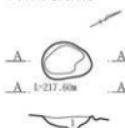
7区629号馬蹄跡



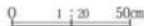
7区633～637号馬蹄跡



7区641号馬蹄跡

7区153～155号馬蹄跡 573・579・582号馬蹄跡  
576・578・580・583号馬蹄跡 635～637号馬蹄跡1 S<sub>1</sub>2 S<sub>1</sub>

3 黒褐色土(10TR2/1)馬蹄の影響で形成される不規則な層。

7区241・563・564・579・580・583・627・629・641号馬蹄跡  
1～3 S<sub>1</sub>

第54図 7区153～155・241・563・564・573・576・578～580・582・583・627・629・635～637・641号馬蹄跡断面図

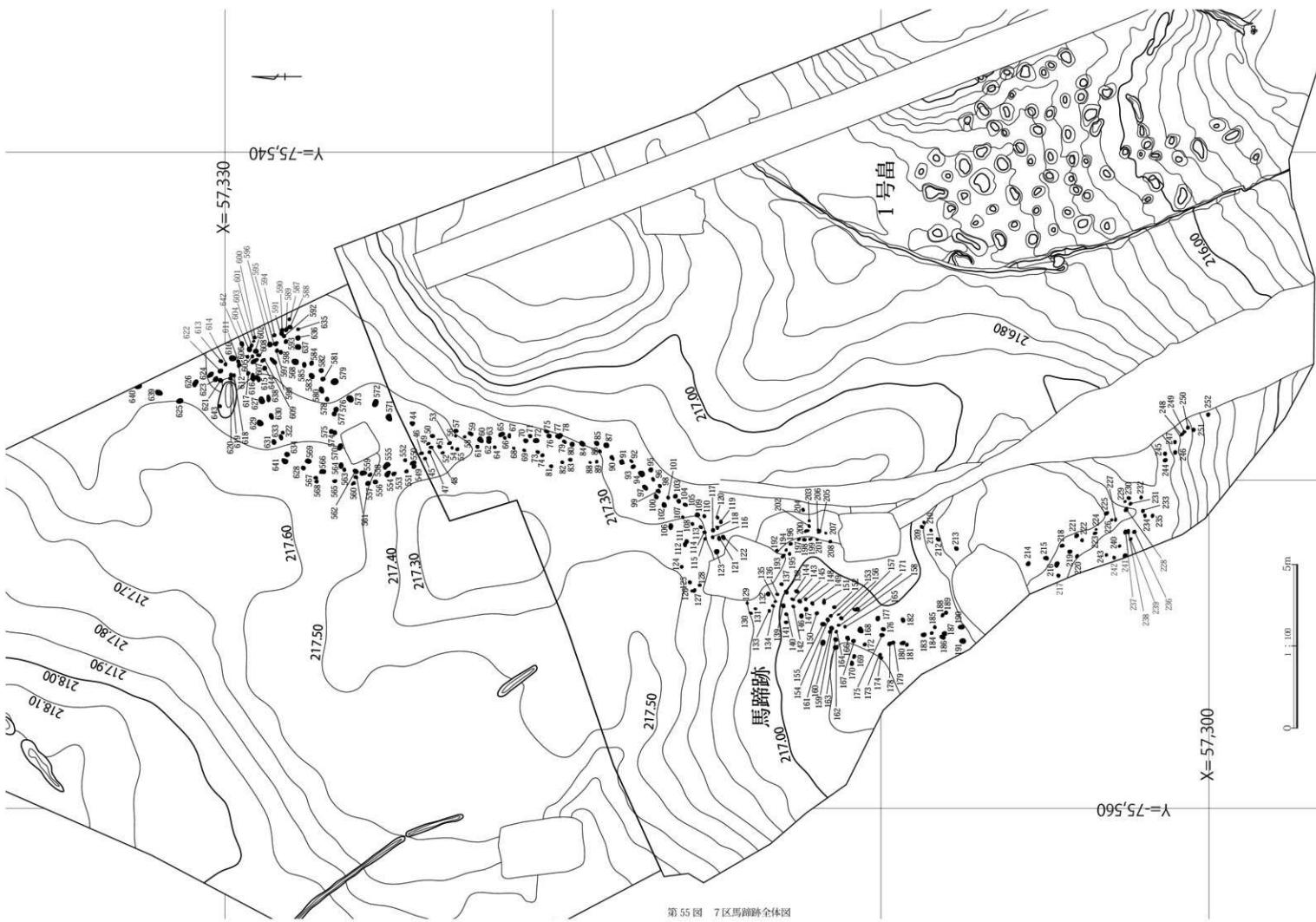
たことになる。また、前記の人足跡とは歩行地点がことなるが、移動始点を考えると比較的近距離の可能性が看取される。すなわち南もしくは西側に移動始点となる場が存在したのであろうか。

## 第8節 第7面(Hr-FA/S<sub>1</sub>面)の調査内容

Hr-FA最初の噴火による降下火山灰で、水分を多く含む流動性のある火山灰層といわれている。確かに、旧地表面存在する小動物の巣である地中孔にS<sub>1</sub>が流入したよ

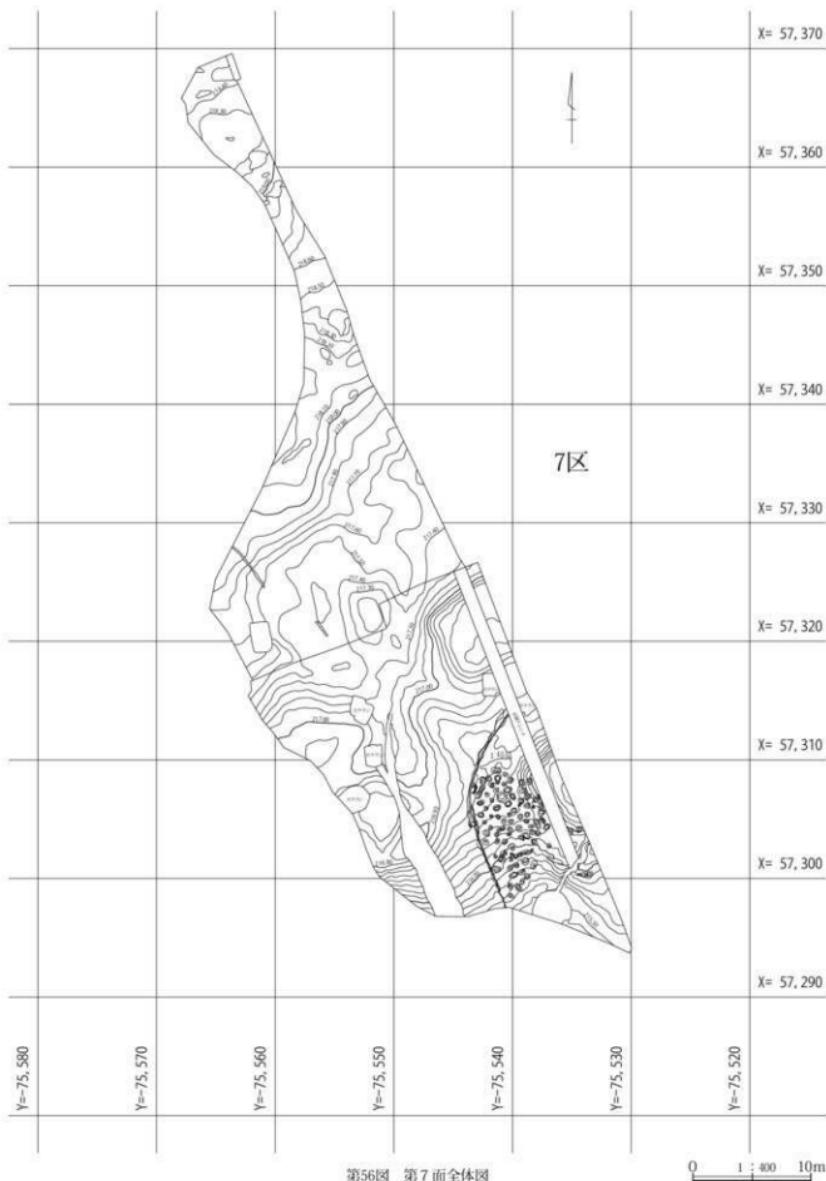
うに確認される場合がある。このことをみれば、流動性が高いことも想定できる。

S<sub>1</sub>面には人足跡、馬蹄跡が検出されたが、S<sub>1</sub>面での行動痕跡の有無について状況確認を実施した。噴火後の行動として最も早い段階での痕跡はS<sub>1</sub>面に残存することになるといえるが調査の結果、人足跡や馬蹄跡の痕跡は認められなかった。すなわち、最初期の噴火による火山灰降下時点では人や馬の移動には至らなかったものと推定できる。



第 55 図 7 区馬蹄跡全体図

第8節 第7面(Hr-FA/S面)の調査内容



第56図 第7面全体図

## 第9節 第8面(Hr-FA/S下面)の調査内容

S:に被覆された古墳時代の地表面であり、火山灰降下直前の状況を留める面である。東側の調査区で発見された匂い状遺構及び各種祭祀遺構群もこの調査面と同一面で検出されたものである。これら的重要遺構が確認されたことから、西に連続する本調査区も注目されたが遺構としては祭祀遺構、壇、ピットの他、遺物集中、焼土が点在することが確認された。匂い状遺構と同時期である1号祭祀や1号壇も匂い状遺構という地域の拠点施設を補完するような有意性をもつ可能性があるだろう。

### 1. 祭祀

7区1号祭祀(第58～69図 PL.52・53・65～69)  
位置 X=57330～57334・Y=-75552～-75556  
規模 長軸3.2m 短軸2.2m

長軸方位 N-65° - E 重複 -

検出・埋没状況 第5面(S<sub>1</sub>)調査に伴い、土師器甕及び礫の一部が認められたことで下層に遺物集積の存在が想定された。その第6面(S<sub>2</sub>)精査により同地点に土器類、礫の集中分布が認められ祭祀関連遺構として調査を進めた。第8面(S<sub>3</sub>:埋没面)の検出により、Hr-FA直下に形成された遺物集積による祭祀遺構であることが確認された。S<sub>3</sub>面上に露出していた甕類等については、S<sub>3</sub>の影響により破損する場合も認められ、器内にS<sub>3</sub>が流入する個体も存在する。この状態は、S<sub>3</sub>面上でも確認されているが、遺構形成期も土器、礫が地表面に露出していたことになる。

礫は分散せず、面的に並置しながらも礫端部は接する、もしくは重複する等不規則に設置されている。第8面の旧地表面で確認できるが、全形はさらに黒色土中に埋没することが特徴的である。

土器類も同様に旧地表面上に露出するものも存在するが、一部が露出した状態で大部分は土中に埋没する例が多数観察される。黒色土を掘り下げながら調査を進めると、旧地表面で観察される土器量より多量の出土が認められることからも、土中に土器類が含まれることが特徴となっている。また、土中には白玉も多量に出土することも確認されている。なお、土器類は礫上に出土する傾向が看取されることから、礫の配置-土器の集積という

関係が考えられる。

すなわち、礫、土器及び白玉という遺構構成遺物が地表面から土中に分布していることになり、この形成過程を理解することが遺構の性格を探るために必要なものといえる。調査所見から推定できる遺構形成過程について報告しよう。

調査は上層から記録するが、形成過程を推定するには下層の調査状況から考えていくことになる。

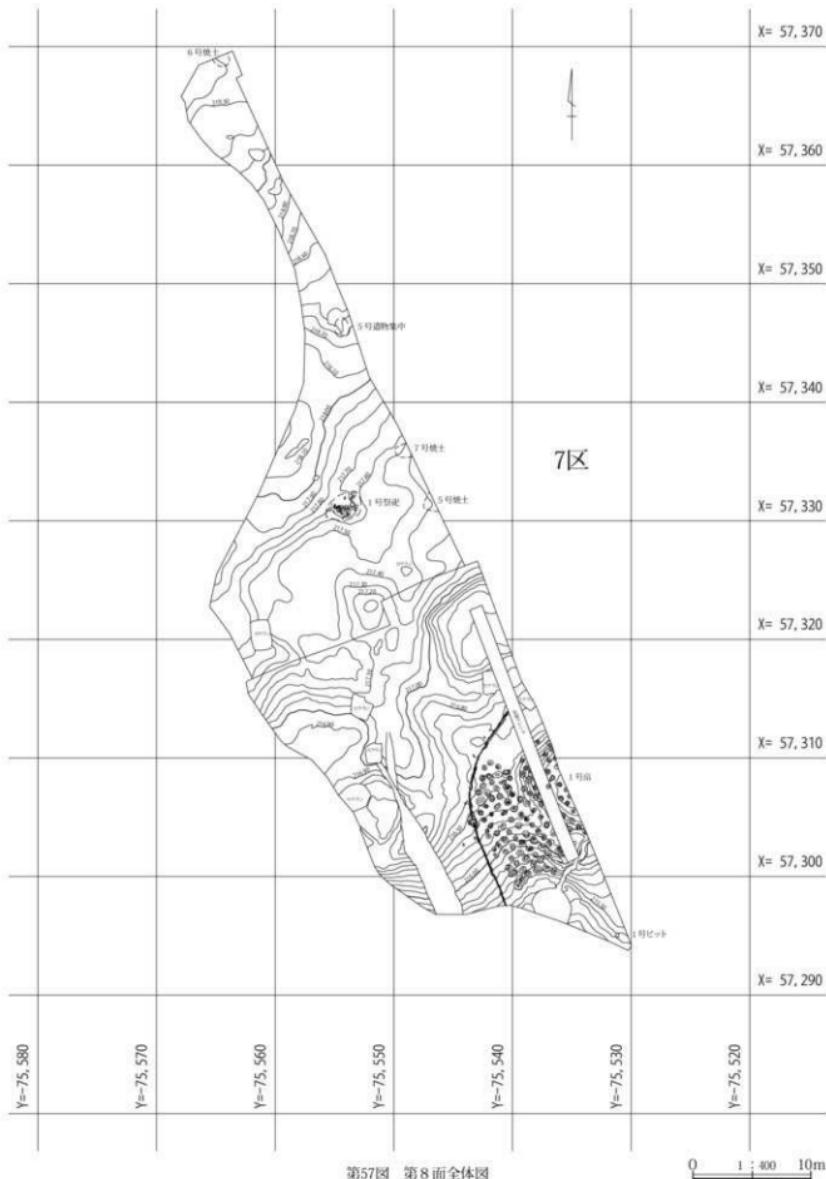
礫が土中から検出されることから考えて、礫配置のための設置面を形成する必要がある。調査所見ではわずかなくぼみの存在が見いだされているが、これを前提にすれば浅い掘り込みを設けた後、礫を埋置していることになる。掘り込みは長軸3.2m、短軸2.2m程度の楕円形平面であるが、明確な遺構形状が把握される規模とはいえない。掘り込み底面、壁面等は不明確で礫や土器の検出状況と共に検出されたものである。この状況から土坑状の掘方を目的にしたとは理解できず、場の設定としての掘起こし行為に伴う掘り込みといえるかもしれない。この掘り込み部に礫が置かれるが、ほぼ東西方向に長軸をもつように並置する。平面的には礫が並列するよう観察されるが、配置される礫面が平坦面を形成する状態ではなく起伏を有する。この点が配置に不規則性が認められる要因となっている。列状配置が看取されるが、壇状施設を設置する意図によるものかは特定できない。仮に壇状施設だとすればこの場が祭祀を執行した場であることが考えられる。この点は遺構の性格についての可能性の一つの選択肢といえる。

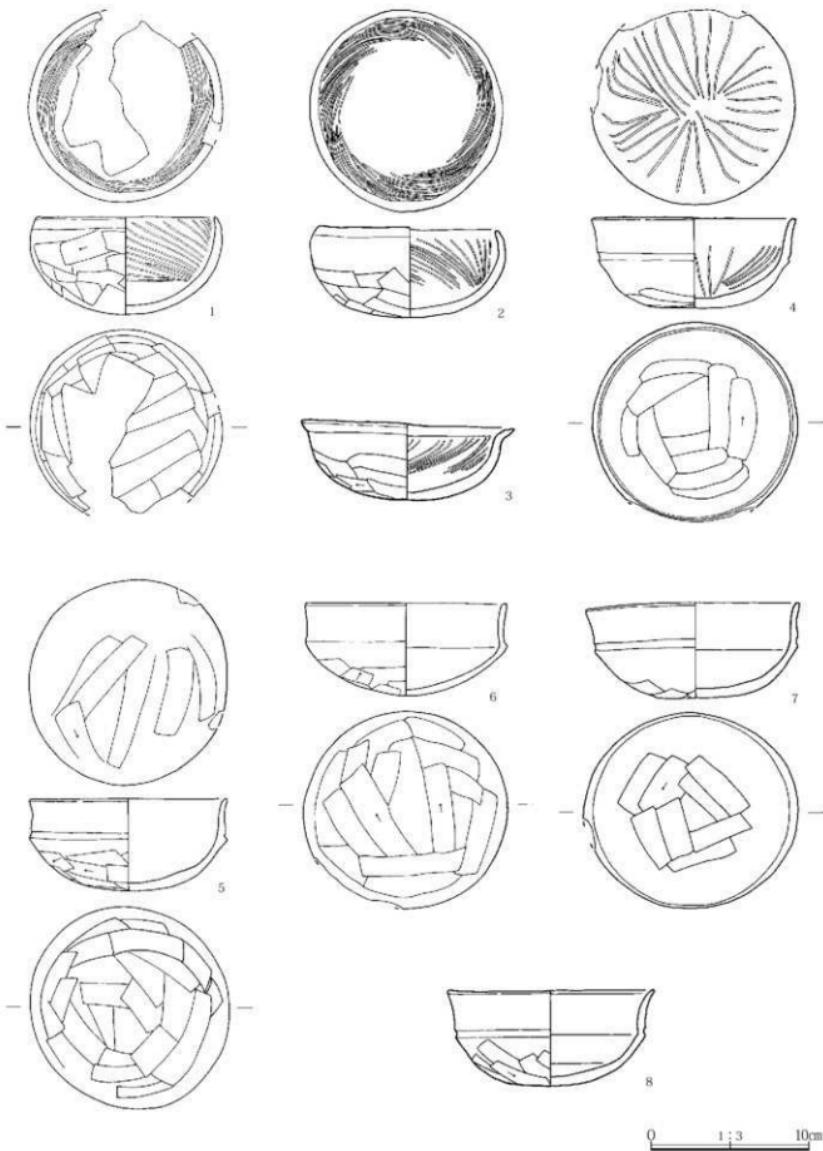
礫を設置した後、杯、高杯、甕、壺等が集積される。破片も多く含まれるが、完形に近い個体も認められる。ほとんどが破損例であるが、人為的もしくは自然的要因かについては有効な調査所見は得られていない。同一個体の破片が集中し、この場で破碎されたような状態がみられることから、人為的な行為を推定させる。

土器類は、器内に黒色土が堆積する例が多い。自然堆積による黒色土の流入を想定することも可能であるが、土器の出土状況は継続的な形成過程が認められ、連続する時間経過によるものと考えられる。土中に分布する白玉も連続する行為により出土するものと考えられ、人為的な土の被覆、埋土と共に白玉の散布行為も推定できる。

以上のことから、1号祭祀は一連の祭祀行為の最終段

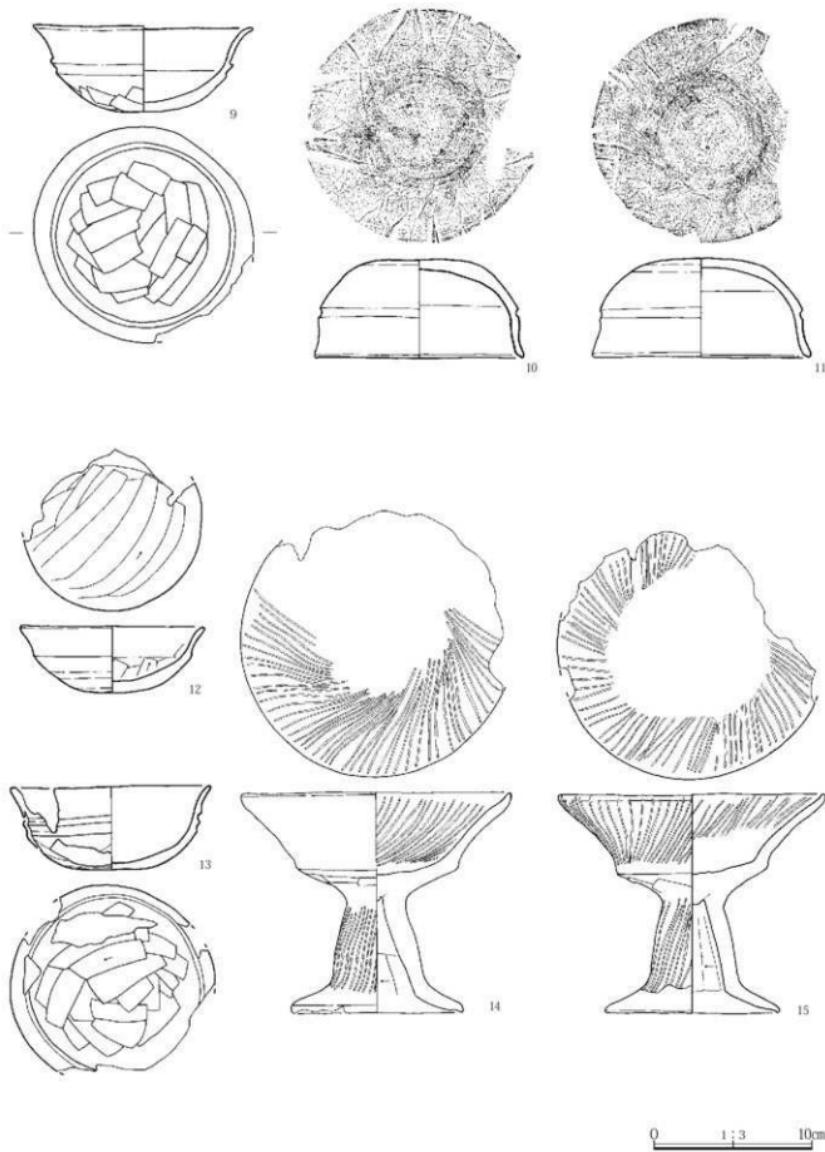
第9節 第8面(Hr~FA/S)下面の調査内容



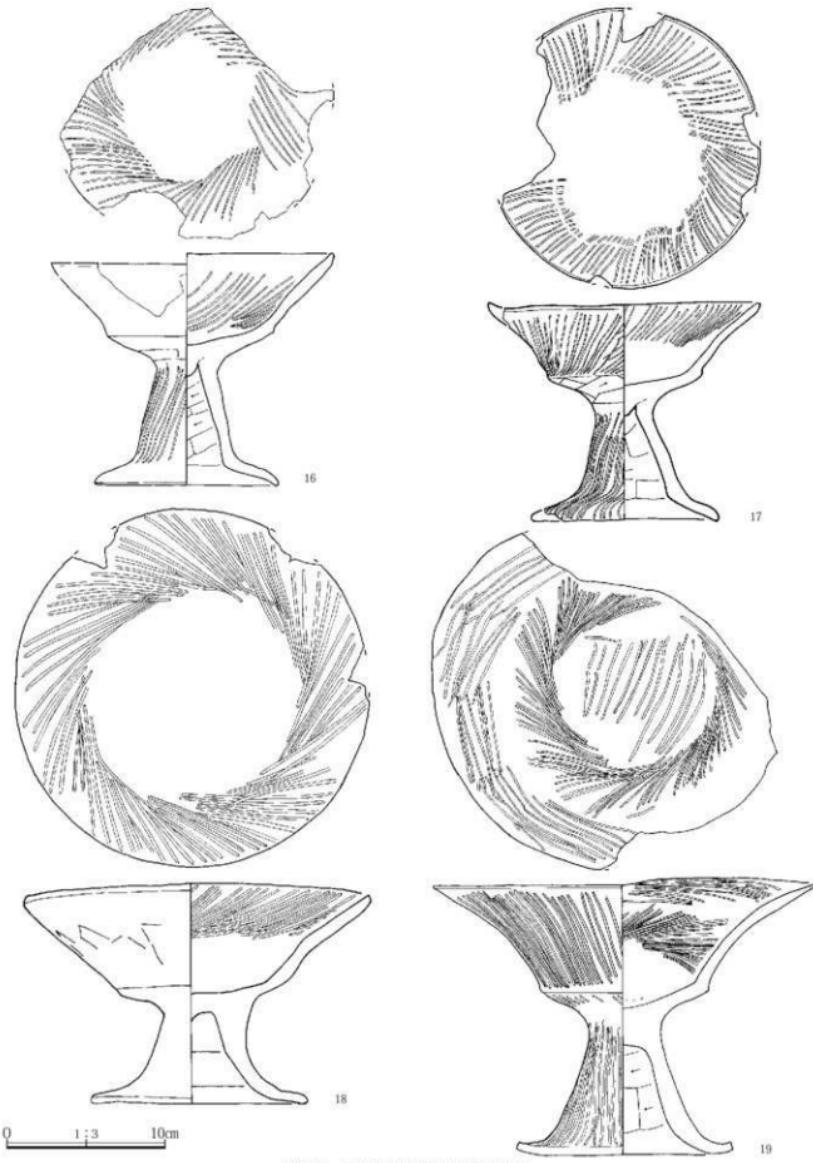


第58図 7区1号祭祀出土遺物図(1)

第9節 第8面(Hr~FA/S)下面の調査内容



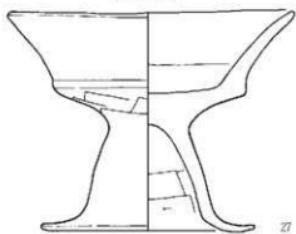
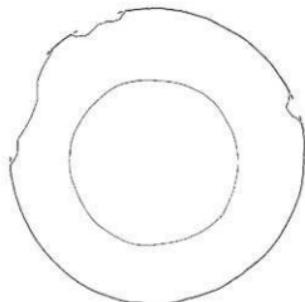
第59図 7区1号祭祀出土遺物図(2)



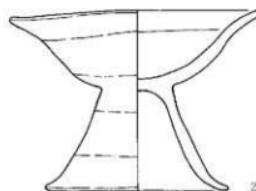
第60図 7区1号祭祀出土遺物図(3)



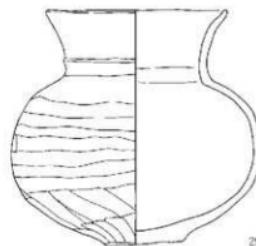
第61図 7区1号祭祀出土遺物図(4)



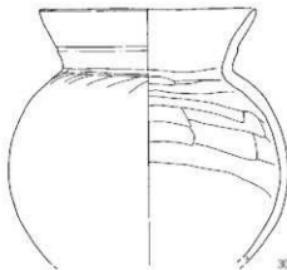
27



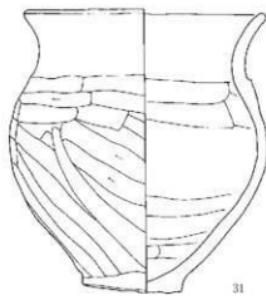
28



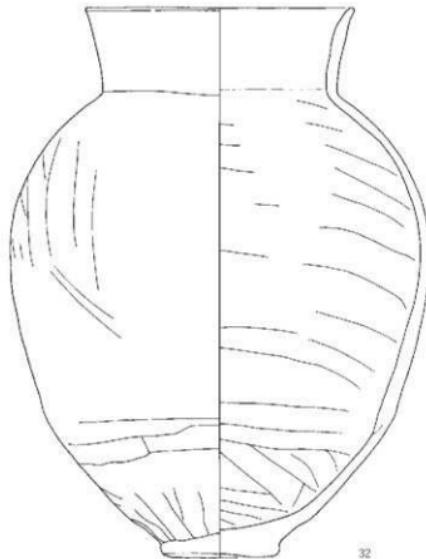
29



30



31

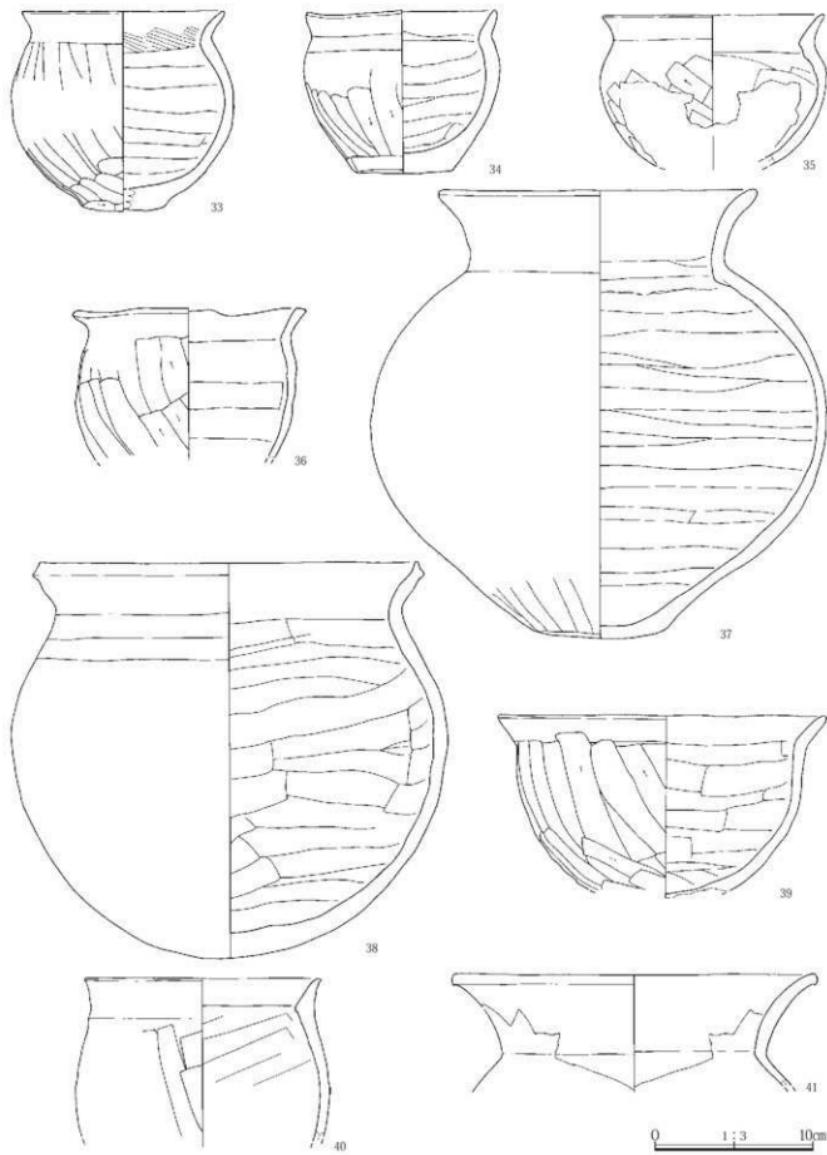


32

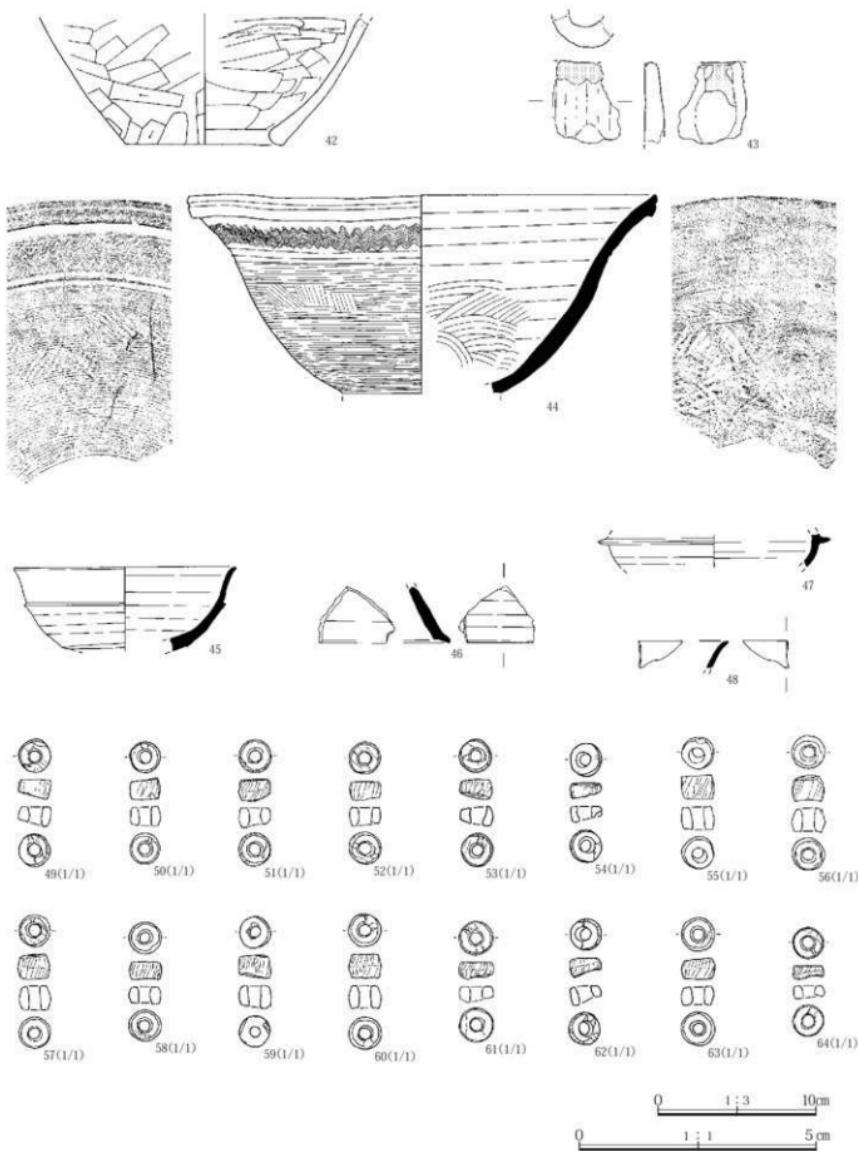
第62図 7区1号祭祀出土遺物図(5)

0 1:3 10cm

第9節 第8面(Hr-FA/S)下面の調査内容



第63図 7区1号祭祀出土遺物図(6)

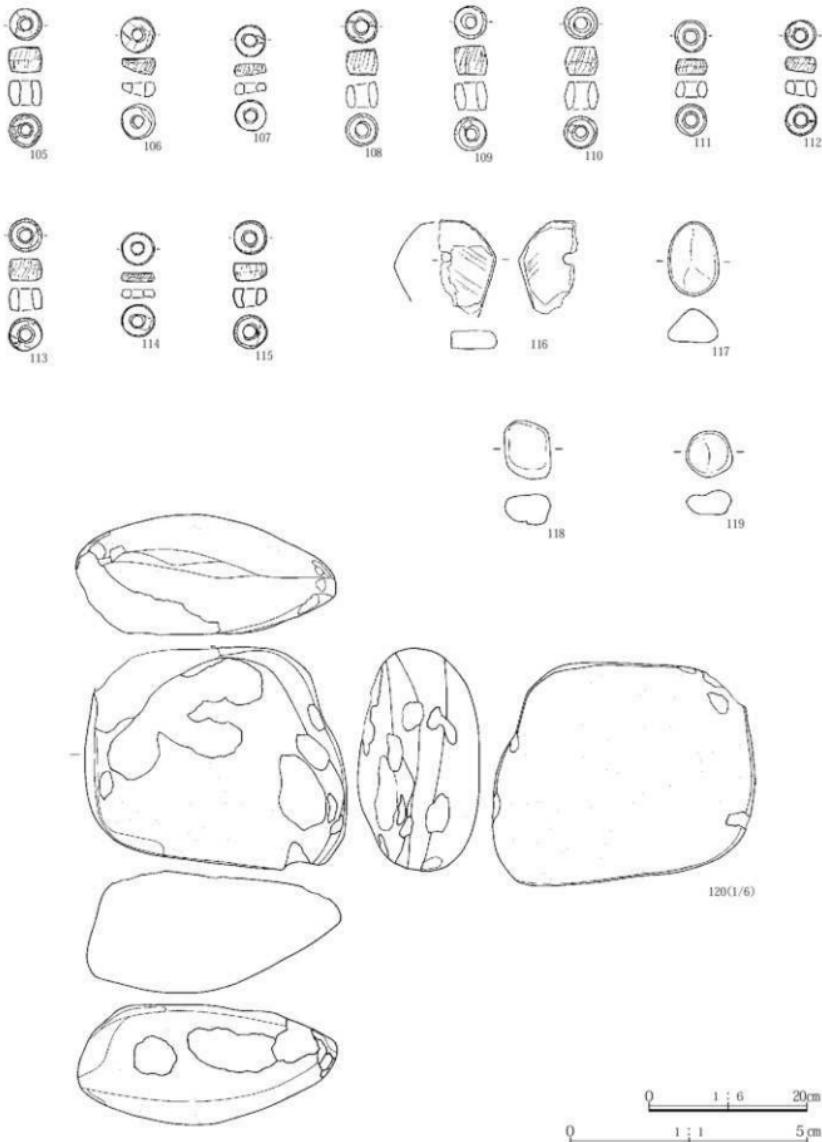


第64図 7区1号祭祀出土遺物図(7)

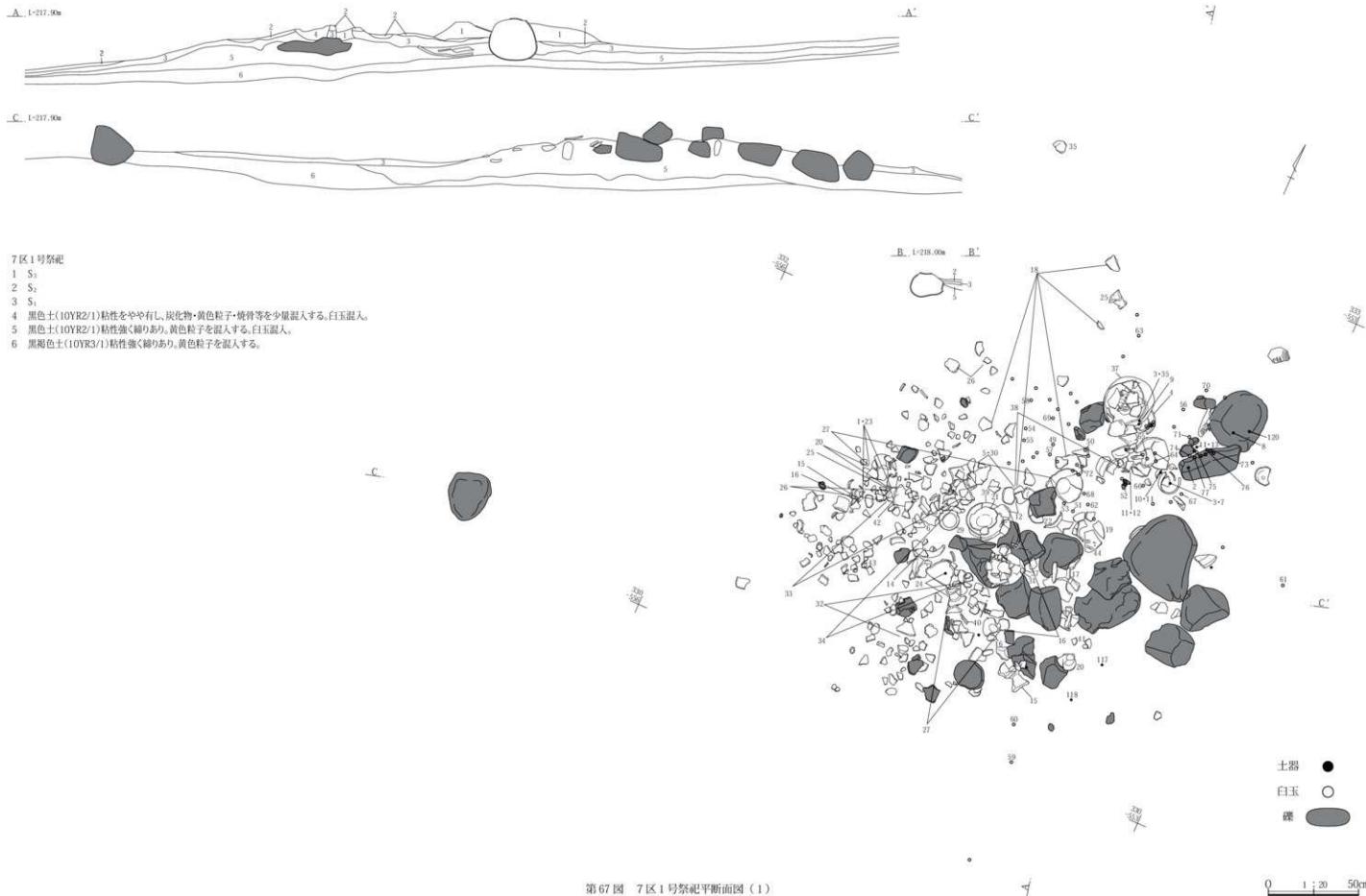


0 1 : 1 5 cm

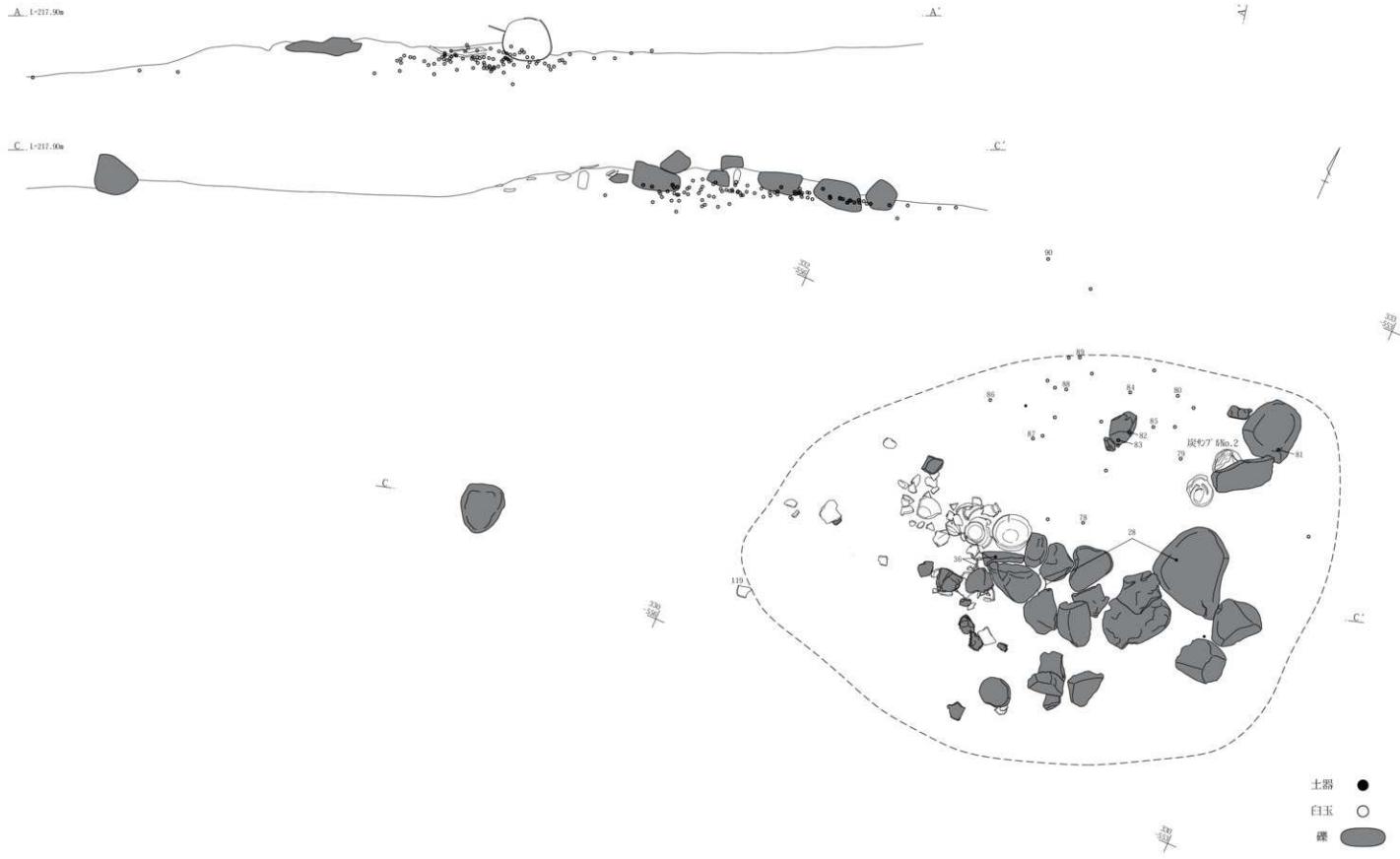
第65図 7区1号祭祀出土遺物図(8)



第66図 7区1号祭祀出土遺物図(9)



第67図 7区1号祭祀平面図(1)



第68图 7区1号祭祀平面图(2)

0 1 20 50cm

階の状態を示すものと考えられる。いわゆる撤下の状態といえる。

**遺物と出土状況** 杯、高杯、壺、甕等の土師器が主体的な土器類で、須恵器が客体的に伴う。白玉は地表面及び土中に分布する。遺構全域に出土するが特に北部域に集中する。祭祀関連遺構に伴う石製模造品についてはほとんど出土していない。

**調査所見** 碑については、祭祀の場を形成する壇状施設の構築材の可能性も考えられる。そうみると、この場で祭祀が執り行われたことも推定可能であるが、この出土状況からは判断できない。いずれにしても、祭祀行為の最終的な状態だと推定できることから、祭祀の場が撤下の場となったか、別の場で行われた祭祀後に、この場に撤下されたということになるが、特定できる情報は得られていない。

なお、白玉については観察表の記載によるが分類については、篠原祐一(1995)、『金井東裏遺跡《古墳時代編》』(2019)に掲っているが、①側面形は、厚さの傾向により細分している。分類は下記による。

#### ①側面形

B類 壺玉(太鼓)は中央に明瞭な張りを持つもの。

B1類 厚さ 6 mm程度

B2類 厚さ 4 mm程度

C類 弱い壺玉

G類 高さが直径1/3以下のもの(平玉形)

H類 一方の面が傾斜するもの(片傾斜形)

H1類 厚い側が 5 mm程度

H2類 厚い側が 4 mm程度

H3類 厚い側が 2 mm程度

#### ②側面研磨状況

2類 斜め方向

3類 縦方向

4類 研磨方向不明

5類 研磨無し

#### ③孔面研磨状況

a類 斜め方向

b類 片面研磨

c類 研磨無し

#### ④穿孔方向

I 両面方向

II 片面穿孔 錐先穿孔

III 片面穿孔 裏面押圧剥離貫通

IV 片面穿孔 錐先端削れ

V 片面穿孔 両面に穿孔時の割れあり

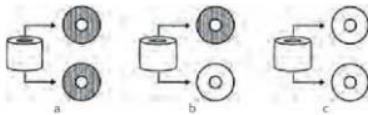
ただし、IIとIVの区別は困難

#### ①側面形



B 壺玉形(太鼓) C 弱い壺玉形 G 平玉形 H 片傾斜形

#### ③孔面研磨状況(擦痕)



a b c

#### ②側面研磨状況



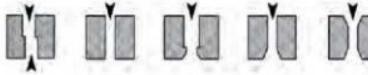
2

3

4

5

#### ④穿孔方向



第69図 白玉分類図

## 2. ピット

7区1号ピット(第70図 PL.55)

位置 X=57294 ~ 57296・Y=-75531 ~ -75532

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 楕円形

長軸方位 N-5°-W

規模 長軸0.37m 短軸0.29m 深さ0.48m

検出・埋没状況 7区南端傾斜面で確認され、1号畠から7.0m南側に位置するが、耕作に関連するピットであるかは不明である。調査区端部であり、周囲に関連ピットの存在も確認されていない。第6・7面の調査では未確認であることから、S1降下時点では埋没していたものとみられる。逆円錐形断面を呈するが、柱痕は不明である。

遺物と出土状況 出土遺物は認められない。

調査所見 穴の可能性があるが、建物を構成するものか、単独ピットであるかは不明である。

## 3. 畠

7区1号畠(第71・72図 PL.54・69)

位置 X=57297 ~ 57315・Y=-75533 ~ -75545

重複 くぼ地状に埋没した2号竪穴建物域に立地される。

形状 寄畠タイプで、東側は調査区外のため全形は不明だが、竪穴埋没域の竪穴部及び周堤部に作出される。さらに楕円形状の垣に囲まれる。

規模 12.8m×12.2m

検出・埋没状況 S<sub>2</sub>、S<sub>3</sub>精査時点で畠(寄畠)が認められた。畠はS<sub>1</sub>に直接被覆した状態で、寄畠形状が連続し

て認められることからS<sub>1</sub>降下段階では作物植栽状態であったと考えられる。畠頂部には、S<sub>1</sub>等が落ち込んだような円状のくぼみがみられる部分もあり、地上部の作物茎の腐朽により流入した可能性がある。また、畠の断面観察でも土中に植物茎状の痕跡が確認できる部分もあり、耕作継続中であったものといえる。なお、遺構調査及び耕作土の自然科学分析により作物種の推定を試みたが、良好な結果は得られていない。土中に作物痕跡を残していく種類であるということなのであろうか。このタイプの畠は金井東裏遺跡9区、金井下新田遺跡1区等で確認され、古墳時代の特徴的な畠と考えられている。

寄畠タイプの畠は、畠が径30~50cm程度で土盛り状に連続する点が特徴である。畠間がくぼむため、高さは一定しないが10cm程度の土盛りが連続する。これは個々に土を寄せることで形成されるものと考えられ、一寄畠に一株が植栽されるとみられる。

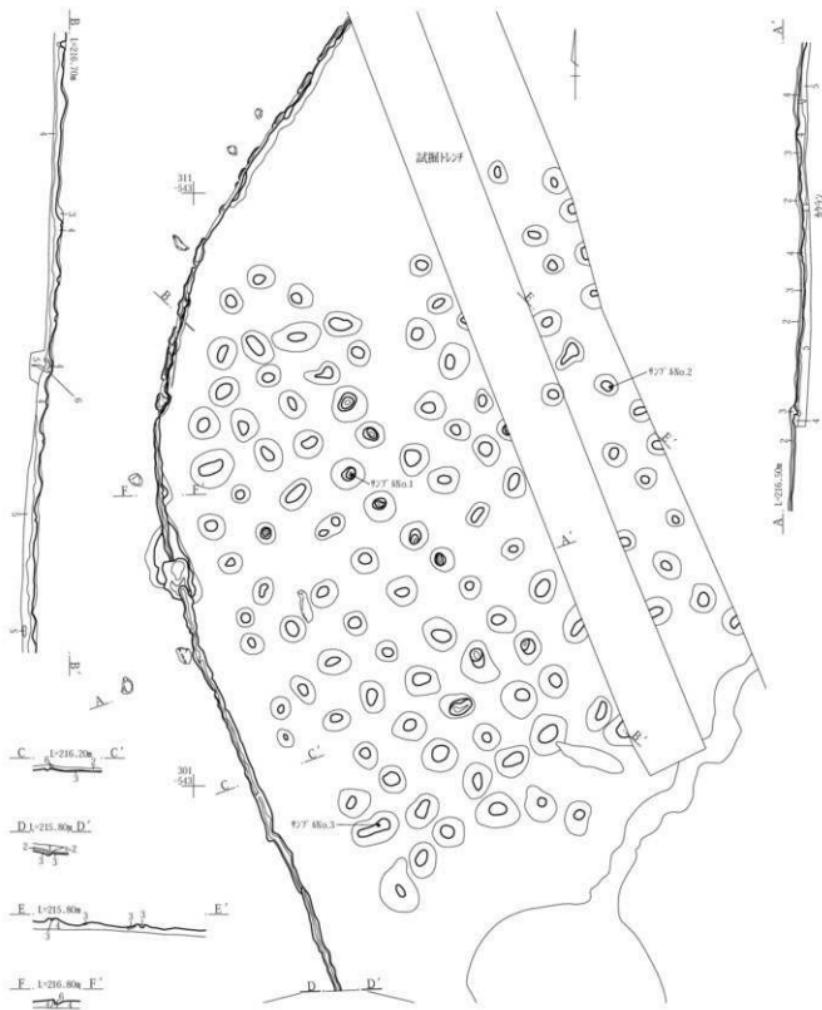
この寄畠は、列状に並ぶことが看取され畠間30~40cm前後で、北西→南東方向の畠列を構成する。寄畠が連続する畠になれば、短冊状の畠と同様の形態となるといえる。

畠は埋没した竪穴建物のくぼみから周堤部の高まり部まで広がりをもち、周囲に植物茎による垣を巡らせる。垣は火砕流により流出するが、垣設置部に小溝が確認されている。設置のための柱等は認められることから、支柱程度の支えにより囲われたものとみられる。

調査所見 1号畠は、畠の遺存状態からHr-FA降下時点では耕作中であったものと推定される。すなわち、隣接場所で囲い状遺構が解体される段階でも、畠として機能していたことになる。



第70図 7区1号ピット平断面図



7区1号墓

1 Si

2 Si

3 Si

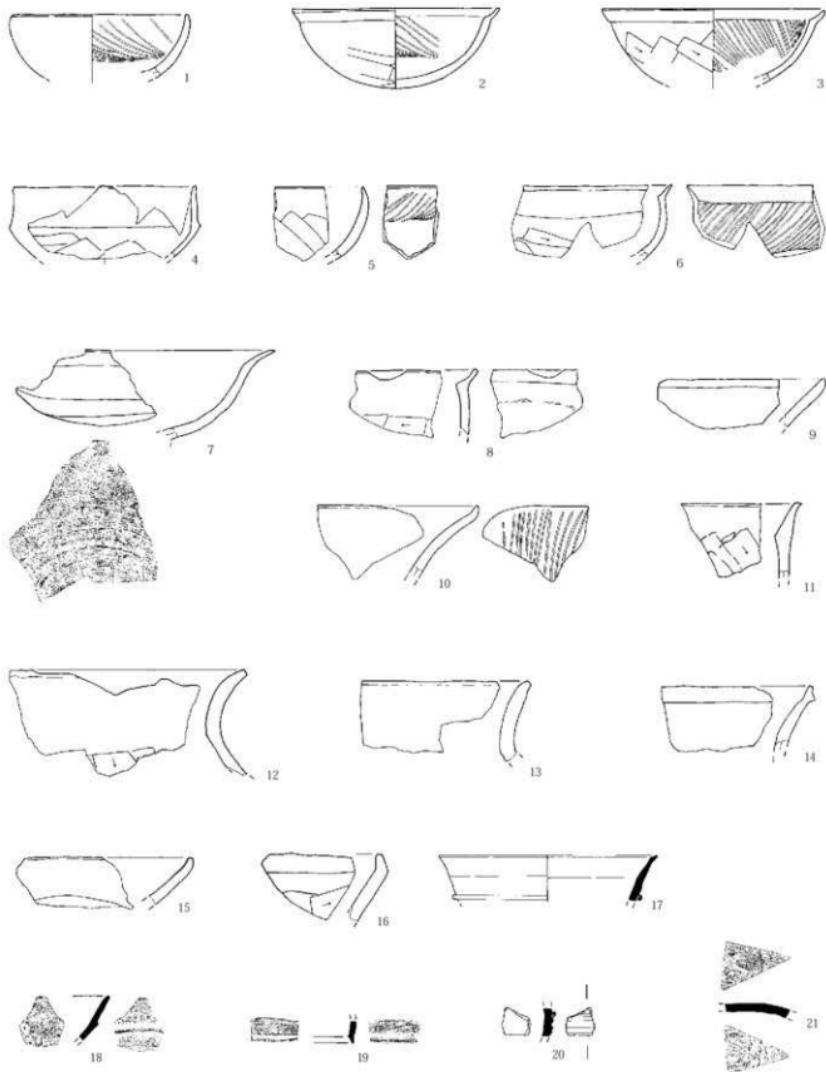
4 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒子・ロームブロック(中)多量、炭化物少量混 粘性・繊りやや強い。

5 黒色土(10YR2/1)黄色粒子・炭化物少量混 粘性・繊りやや強い。

6 植物痕跡 有機物腐朽痕に火山灰等が混入する。

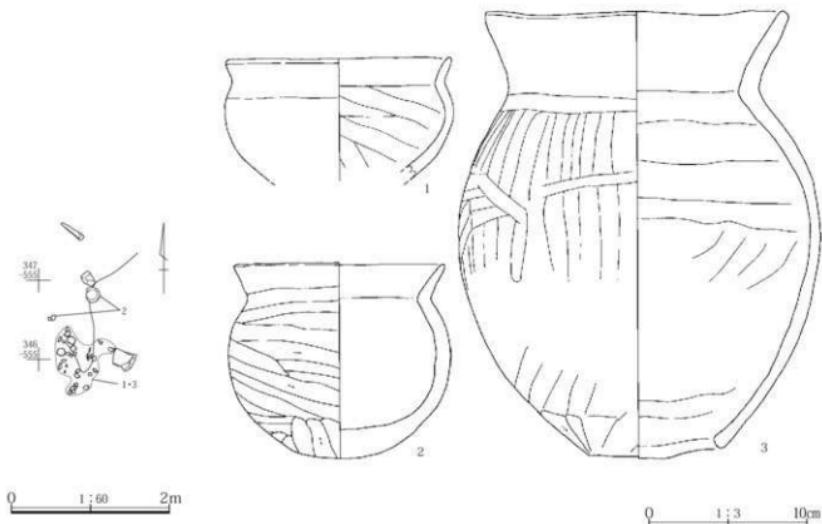
0 1:80 2m

第71図 7区1号墓断面図



0 1:3 10cm

第72図 7区1号墓出土遺物図



第73図 7区5号遺物集中平面図・出土遺物図

#### 4. 遺物集中

7区5号遺物集中(第73図 PL.58-70)

位置 X=57345 ~ 57348・Y=-75553 ~ -75556

重複 1号倒木痕と部分的に重複する。いずれもS1降下時点に存在することから、関連するものと考えられる。立木に接した位置に5号遺物集中が形成されたとみられる。

平面形 不整梢円形

長軸方位 N-12° - E

規模 長軸1.40m 短軸0.90m 深さ -

検出・埋没状況 S1に被覆され、S2面上に遺物が部分的に露出した状態で検出された。杯・甕・壺等の上器類や板状碟等が集中分布する一群である。小規模な祭祀関連遺構ともみられ、立木に接した場に形成されることからも何らかの祭祀行為に伴う可能性があるが、伴出遺物に石製模造品、白玉、粒状碟等の祭祀遺物が出土しないことから判断しにくい。

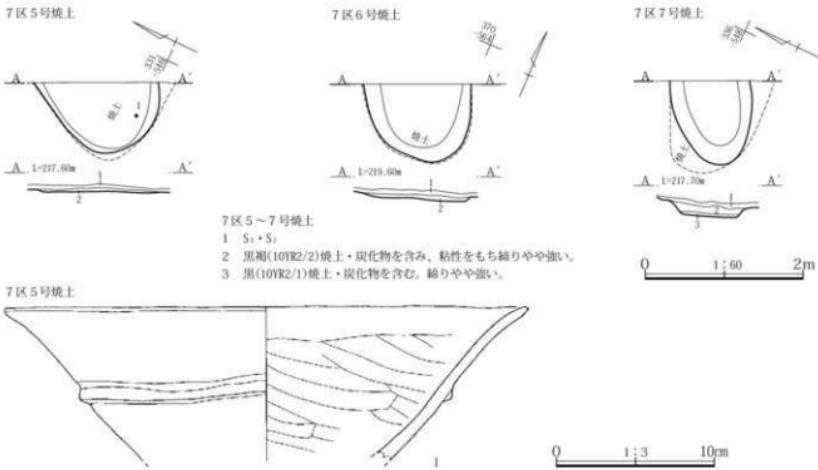
遺物と出土状況 Hr-FAに被覆された旧地表面に形成される。地表面に露出した状態で遺物が集中するが完形もしくは完形に近い土器と共に破片も分布する。焼土、炭

化物等については確認されていない。

調査所見 遺物集中に際して土坑状の掘り込みは伴わず、地表面に分布している。なお、土器片には土中に分布するものが存在するが、時間的経過による自然堆積によるものではなく、遺物集中形成過程で生じたものと推定される。性格は特定できないが、生活に伴う廃棄行為によるものではなく、祭祀行為に関連して最終的な行為により残されたものと思われる。

#### 5. 焼土

焼土の分布が3か所で確認されている。Hr-FAに被覆された旧地表面に形成されたものであるが、焼土ブロック、焼土粒及び炭化物が集中し、5号焼土には土器片も出土している。皿状もしくは鍋底状にわずかにくぼむが、この場で燃焼行為が行われたものとみられる。炭化材は確認されず炭化物が分布する程度であり、焼土も土中に散在し、壁面等に被熱痕が認められないことから小規模、短時間の燃焼であったものと推定される。燃焼行為の目的を判断できる調査所見は得られていない。



第74図 7区5~7号焼土平面図・5号焼土出土遺物図

7区5号焼土(第74図 PL.59-70)

位置 X=57330 ~ 57333・Y=-75546 ~ -75548

重複 7区東端部に接し、東半部は調査区外となる。

平面形 不整橢円形

長軸方位 一

規模 長軸(0.98)m 短軸1.80m 深さ0.06m

検出・埋没状況 Hr-FAに被覆された旧地表面に形成された焼土で、皿状のわずかなくぼみが確認されている。

遺物と出土状況 焼土形成に伴う遺物は確認されていないが、焼成域から土器片が出土していることから、5号焼土出土遺物として掲載した。

調査所見 燃焼行為により形成されたものと考えられるが、目的は不明である。

7区6号焼土(第74図 PL.59)

位置 X=57368 ~ 57370・Y=-75563 ~ -75566

重複 7区北端部に接し、北半部は調査区外となる。

平面形 不整橢円形

長軸方位 一

規模 長軸(1.00)m 短軸1.38m 深さ0.10m

検出・埋没状況 Hr-FAに被覆された旧地表面に形成された焼土で、皿状のわずかなくぼみが確認されている。

遺物と出土状況 伴出遺物は認められない。

調査所見 燃焼行為により形成されたものと考えられるが、目的は不明である。

7区7号焼土(第74図 PL.59)

位置 X=57335 ~ 57337・Y=-75548 ~ -75550

重複 調査区東端部に接し、東半部は調査区外となる。

平面形 不整橢円形

長軸方位 一

規模 長軸(1.16)m 短軸1.32m 深さ0.22m

検出・埋没状況 Hr-FAに被覆された旧地表面に形成された焼土で、鍋底状断面の掘方が確認されている。

遺物と出土状況 伴出遺物は認められない。

調査所見 燃焼行為により形成されたものと考えられるが、目的は不明である。

## 第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容

Hr-FA降下時点ではすでに埋没した状態で凹状に残る埋没豊穴建物が確認されることで、黒色土層中の遺構の存在が確認された。

第8面の調査終了後、遺構確認作業により随時検出された遺構群で、豊穴建物、土坑、遺物集中、焼土を調査している。

### 1. 豊穴建物

豊穴建物は8棟確認したが6棟は重複関係を有すると共に近接例もあることから、3時期以上の時期にわたることが推定できる。火山堆積物に被覆された遺構面と異なり、すでに旧地表面は遺失していることになる。これらの豊穴建物は既調査の5区で確認された古墳集落に連続する一群となる。

7区1号豊穴建物(第76～80図 PL.18・19・70・71)

位置 X=57316～57325・Y=-75540～-75548

重複 下層に5号豊穴建物、6号豊穴建物が存在する。

平面形 豊穴東側が調査区外になるため、全形は不明であるが、柱穴配置が長方形配置となることから豊穴平面形も北東方向に長軸をもつ長方形平面と推定される。

規模 長軸一短軸6.35m 最大壁高0.70m

床面積 一 主軸方位 N-54° -E

検出・埋没状況 S1・S2降下段階で凹地状を呈し、黒褐色土により弧状に埋没した状態で検出された。埋没形態は豊穴形状を反映し隅丸方形を示すが周囲から中央部に向かってなだらかに埋没する状態から、特定の方向から埋没土が流入したのではなく、周囲からほぼ均等に堆積したものとみられる。

S2面上でも同様であるが、黒褐色土面でも堆積層面のみが観察されている。上屋構造に伴う痕跡は確認されていないことから、埋没時点では建築部材は撤去もしくは遺失していたものとみられる。

なお、埋没土面上および断面にわずかであるが円状の起伏が観察される。不明瞭であり特定できないが、南接する2号豊穴建物埋没土上面で確認された崩(寄)の痕跡の可能性が考えられる。

また、埋没土層断面にはロームブロックを含む黒褐色

土が層状に堆積することから、周堤構成土の流入が推定できる。

**周堤** 豊穴周囲にわずかな高まりが認められるが、縁辺部に向かって地表面と連続することから範囲は把握できない。豊穴埋没土は、周堤が流入したものとみられる。

**上屋構造・壁構造** 豊穴埋没段階で上屋に伴う建築部材は撤去もしくは遺失しているため、不明である。

壁構造についても、掘方壁面が検出されたのみで豊穴壁に関する痕跡は認められていない。

**床面** ロームを含む暗褐色土による掘方埋土上面に床が形成され、P1～P8の外周部を主として硬化面が認められている。継続的な利用により硬化面が形成されたものとみられる。P8周辺部では南壁に接した位置まで硬化面が認められることから、P8を含め出入口施設の可能性が高い。なお、他周辺部には硬化面は認められていない。床面小溝が設置される部分にも硬化面はみられないが、根太設置による床板の存在も推定できる。

**柱穴** 床面上でP1～P7のピットを確認した。このうち、P1～P6には木質は残存しないが、埋没土断面に柱痕状の縱位堆積が確認されたことから柱穴の可能性が高い。配置から推定してP1～P4が主柱穴として掘立柱を構成したとみられる。P1～P2およびP2～P3間が1.8m、P3～P4間が2.7mとなるが、南北隅の柱穴は調査区外のため未確認である。なお、P2に対応する柱穴が認められないが、P5が関連する主柱となる可能性もある。P6は床面小溝の延長線上に位置し、P7もその延長にある。P6は埋没土断面に柱痕状の縱位土層が認められ、P7は浅い窪み状であるが、間仕切りに関わるピットかも知れない。

P1～P6の断面土層には柱痕状の痕跡が確認されたが、豊穴埋没土層および被覆するS2面には柱痕跡は認められていない。このことは豊穴が埋没する段階で柱穴部のみに柱が遺存していたことを推定させる。すなわち、埋没時点では上屋は存在せず、柱は根元で切断されていたということを示している可能性がある。

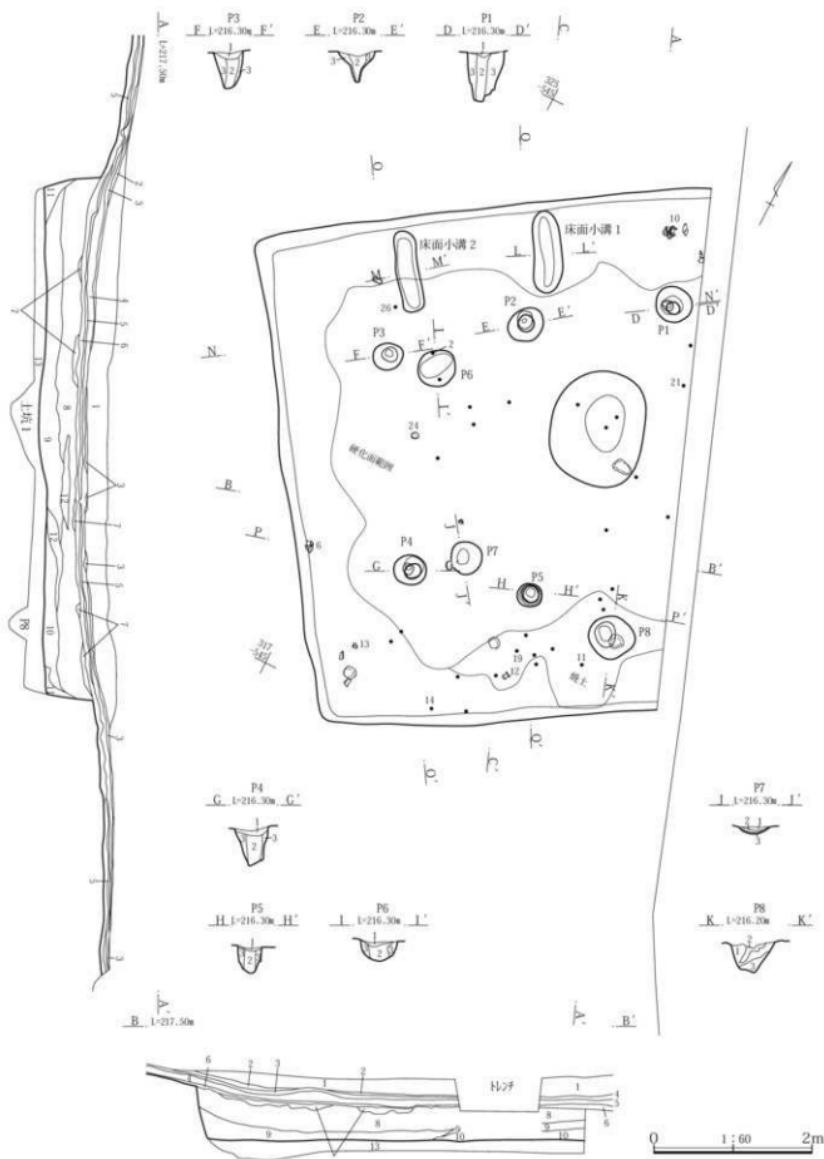
なお、床下調査により豊穴南壁に接した位置にP8が検出された。埋没土断面には斜行する堆積層が認められていることから出入口に伴う施設痕跡の可能性が推定できる。確認されたピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.46m 短径0.46m 深さ0.63m

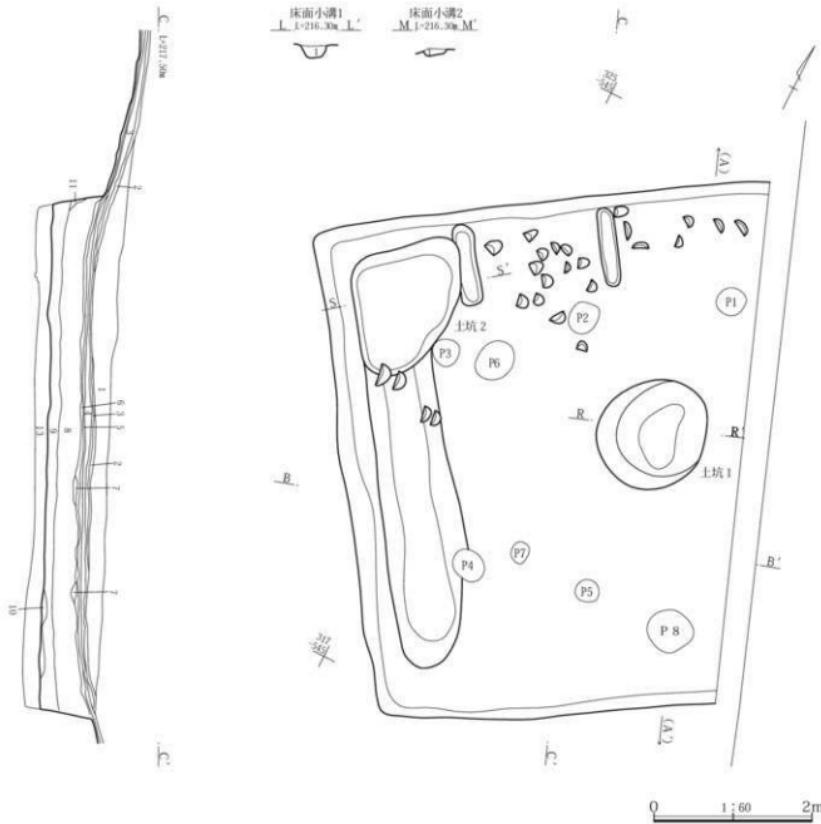


第75図 第9面全体図

第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容



第76図 7区1号壁穴建物平断面図(1)



7区1号堅穴建物a-a' ~ c-c'

- 1 Si
- 2 Si (粗粒火山灰)
- 3 Si (細粒火山灰)
- 4 Si (粗粒火山灰)
- 5 Si
- 6 Si
- 7 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色細粒を少量含み、粘性強く繊りあり。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色細粒を少量の他、炭化物片、暗褐色土を含み、粘性強く繊りあり。
- 9 黒褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色細粒を多く含み、粘性を有し繊りあり。
- 10 黒褐色土(2.5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含み、粘性をもつ。
- 11 黒褐色土(2.5Y3/1)灰白色細粒を少量含み、粘性を有し繊りあり。
- 12 黒色土(10YR2/1)ロームブロックを含み、粘性を有し繊りあり。
- 13 黒褐色土(2.5Y3/1)灰白色細粒少量、繊り強で硬化、粘性あり、上面が床面。

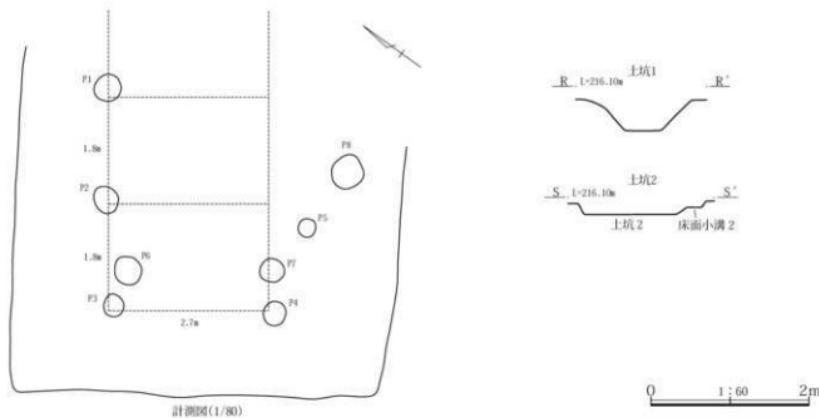
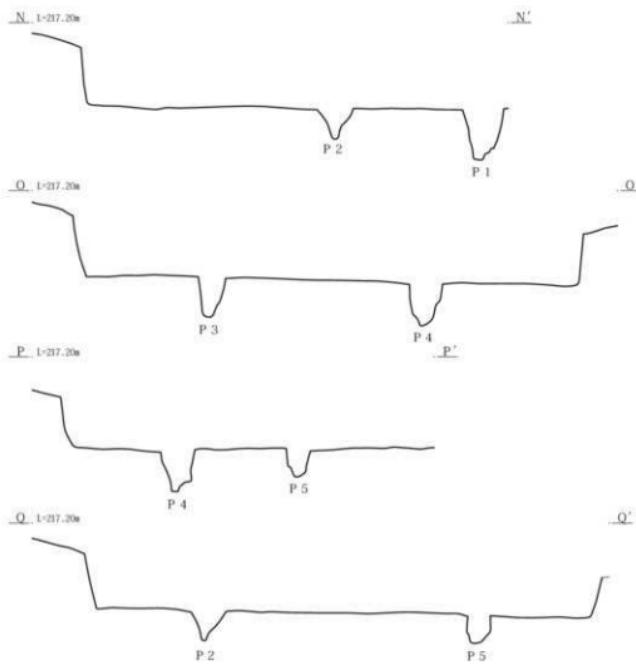
7区1号堅穴建物P 1 ~ P 8

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック、にぶい黄褐色粒を含み、粘性を有し繊りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームを含み、粘性を有す。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を少量の他、ロームを含む。粘性を有し繊りあり。

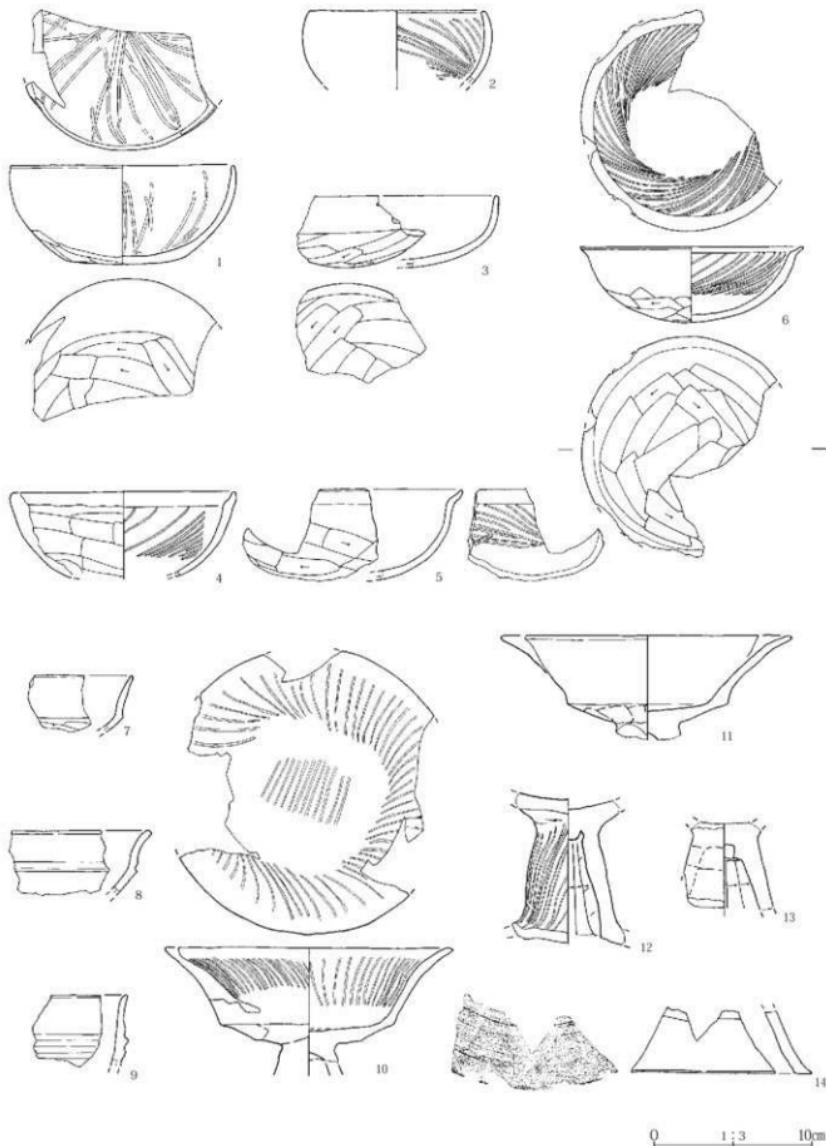
7区1号堅穴建物床面小溝1・2

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。

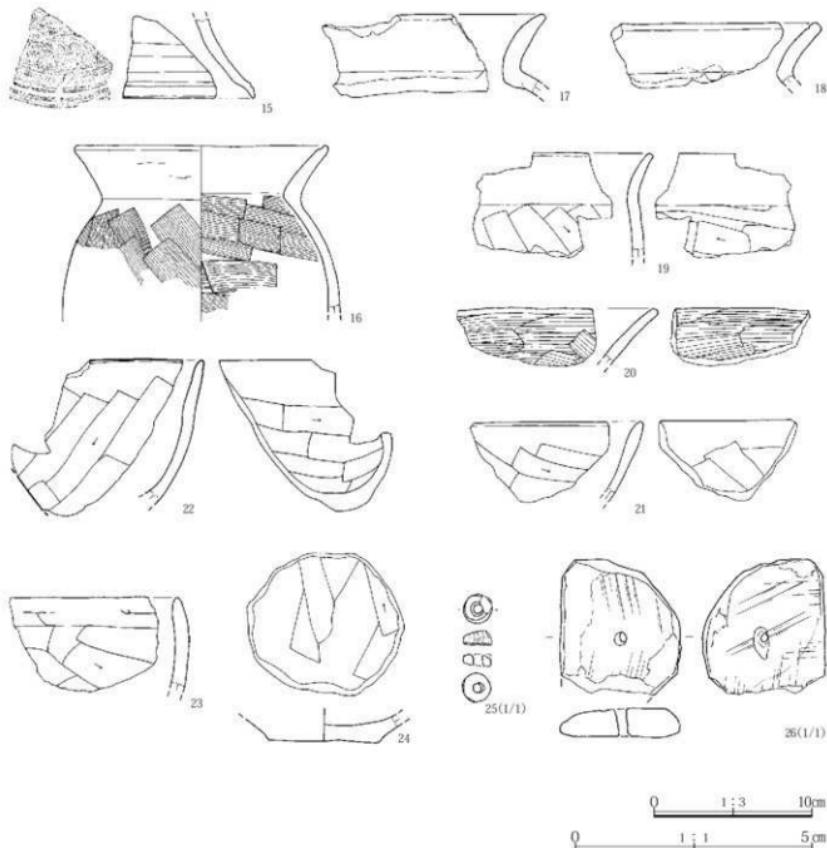
第77図 7区1号堅穴建物断面図(2)



第78図 7区1号竪穴建物断面図



第79図 7区1号窯穴建物出土遺物図(1)



第80図 7区1号堅穴建物出土遺物図(2)

P 2 長径0.49m 短径0.40m 深さ0.40m

P 3 長径0.39m 短径0.34m 深さ0.48m

P 4 長径0.41m 短径0.38m 深さ0.50m

P 5 長径0.32m 短径0.30m 深さ0.36m

P 6 長径0.51m 短径0.47m 深さ0.28m

P 7 長径0.42m 短径0.39m 深さ0.10m

P 8 長径0.60m 短径0.55m 深さ0.39m

竈 調査範囲では認められていない。

貯蔵穴 調査範囲では認められていない。

壁際溝 認められない。

床面小溝 北壁に接して2か所で確認された。幅0.30m前後、深さ0.10m前後で、1.80m間隔で並列する。床面小溝2の延長上にはP 6、P 7が位置することから、関連ピットの可能性がある。

掘方 床面下0.1～0.2m程度掘り下げられ、暗褐色土が埋土される。掘方がローム層に達する部分には幅15cm前後の掘削痕が認められる。シャープな鋸先痕が遺存する状態から掘方掘削後、短時間で埋土されているものと

推定される。

**床下土坑** 竪穴建物中央および北西隅部の2か所で認められた。掘方掘削時に掘り込まれたもので、掘方埋土により埋没する。

**遺物と出土状況** 土器は破片類が床面に接した位置から埋没土下部に散布する。東半部が未調査であり竪穴設置状態も不明であるが、建物使用時に伴う土器類については遺存していない。のことから、竪穴建物廃絶時に移動され、大半は埋没土から出土している。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の建物と考えられる。竪穴建物が埋没する段階では、上屋は遺失もしくは撤去され、主柱は根元から切断されていた可能性を推定した。火災痕跡は認められていないことから、人為的撤去の可能性が高い。

#### 7区2号竪穴建物(第81～83図 PL.20・21・71)

**位置** X=57303～57312・Y=-75533～-75540

**重複** 竪穴建物埋没土上面に畠が形成され、下層に1号掘立柱建物、36号土坑等が存在するが、竪穴建物の重複は認められない。

**平面形** 竪穴北西隅部分側を検出した。南西側に湾曲気味の屈曲部が認められ、南西隅部と推定される。東半部は調査区外のため全形は不明である。

**規模** 西壁長(7.0m) 最大壁高0.65m

**床面積** — **主軸方位** —

**検出・埋没状況** S1・S2降下段階で凹地状を呈し、黒褐色土により弧状に埋没した状態で検出された。周囲から中央部に向かってなだらかに埋没する状態から、特定の方向から埋没土が流入したのではなく、周囲からほぼ均等に堆積したものとみられる。

なお、埋没土面上には畠が確認され、竪穴埋没域が耕作地として利用されていることがわかる。寄戻と呼称した畠形態であり、金井遺跡群ではS1下に点在している特異な畠である。周堤部から竪穴に向かって緩やかな凹地状に埋没するが、耕作によりこの埋没形状を変形させることがないとみられることから、耕作行為は短時間、限定期的な行為であったことが推定できる。

埋没土層は、ロームブロックを含む暗褐色土の堆積が認められることから、周堤構成土の流入が推定できる。

また、埋没層下部には炭化材が出土し、床面上には焼

土も認められ、焼失建物と考えられる。

**周堤** 竪穴周囲に沿って幅3～4m前後の範囲に高まりが認められる。竪穴内への流入等により変形し、端部は不明瞭となっている。周堤上にも寄戻が確認され、耕作域となっている。

**上屋構造・壁構造** 炭化材および炭化物が出土し、床面近くに焼土が広く散布することから、焼失建物と考えられる。炭化材は竪穴周辺部に確認されるが、上屋構造を推定できるほどの出土量はなく断片的である。焼土は内部側に分布し、不明瞭ながら炭化物の散布も確認される。この焼土が屋根材と仮定すれば、上屋構造材は炭化材として遺存せず、燃えつきてしまった可能性がある。しかし、焼失材の残存量や痕跡が少ないため、どのような状態で焼失したのかについては不明である。炭化物には自然科学分析によりイネ科植物が検出されることから、焼失した屋根材の可能性が考えられる。(「第6章自然科学分析」参照)

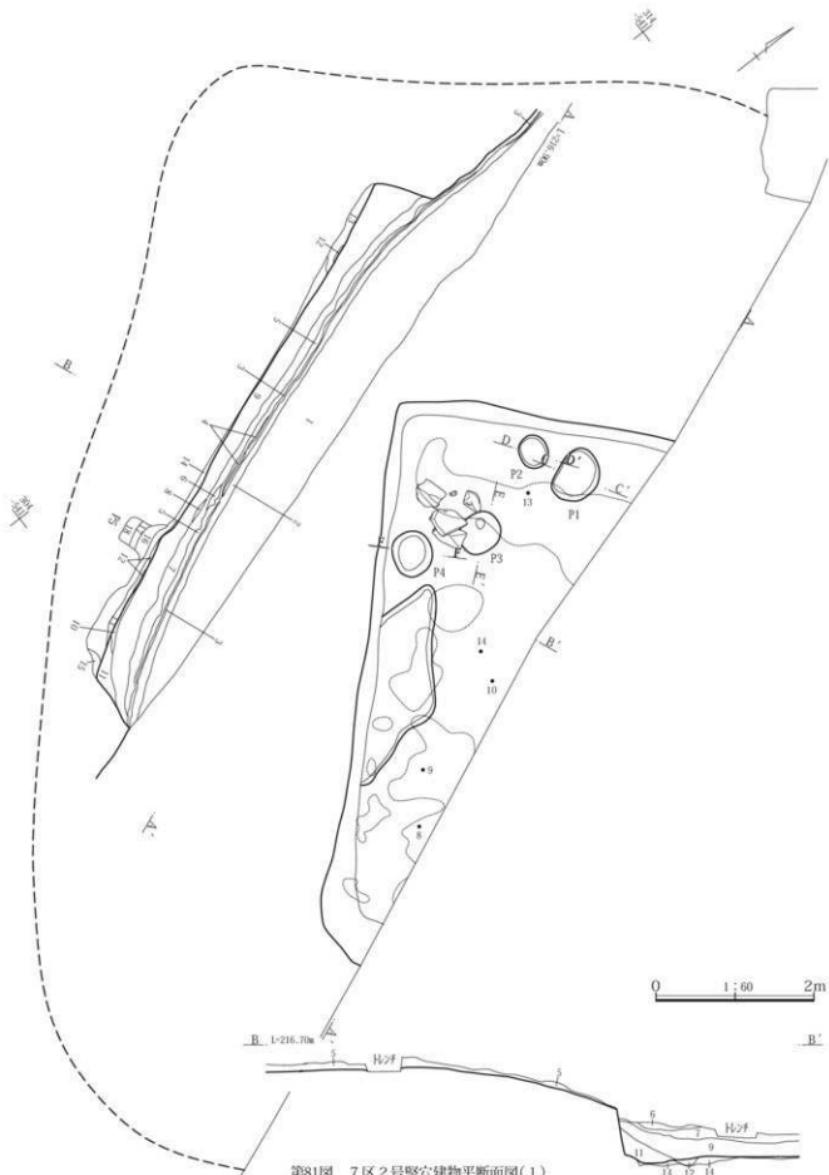
壁構造についても、掘方壁面が検出されたのみで竪穴壁に関する痕跡は認められていない。

**床面** ロームを含む暗褐色土による掘方埋土上面に床が形成され、竪穴中央部に硬化面が認められている。

**柱穴** 床面上でP1～P4のピットを確認した。P1、P2、P4は小規模であり、配置に規則性は認められないが、P3は竪穴対角線上に位置するように考えられることから柱穴の可能性が高い。しかし、埋没土層面では横位堆積が観察され柱痕は認められていないため特定はできない。柱穴とした場合、建物埋没段階では柱は撤去されていたと考える必要が生じるが、建物焼失との関係に整合性がないことになる。また、掘方調査時に確認されたP5も平面的にはP3に対応する位置で、同様の規模であることから柱穴の可能性が考えられる。しかし、埋没土層では上層に焼土が被覆し、横位堆積層で柱痕は認められずP3と共に通する検出状況を示す。P3、P5の埋没土層や焼失建物との関係からは柱穴とは特定できないが、竪穴内の位置としては柱穴と推定できる位置といえる。結論できないが、竪穴建物の一部の調査であることから、判断するには情報不足としておきたい。なお、P3～P5間は3.60mとなる。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.70m 短径0.54m 深さ0.10m

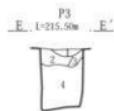
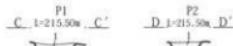


第81図 7区2号墳穴建物断面図(1)

#### 第4章 出土した遺構と遺物

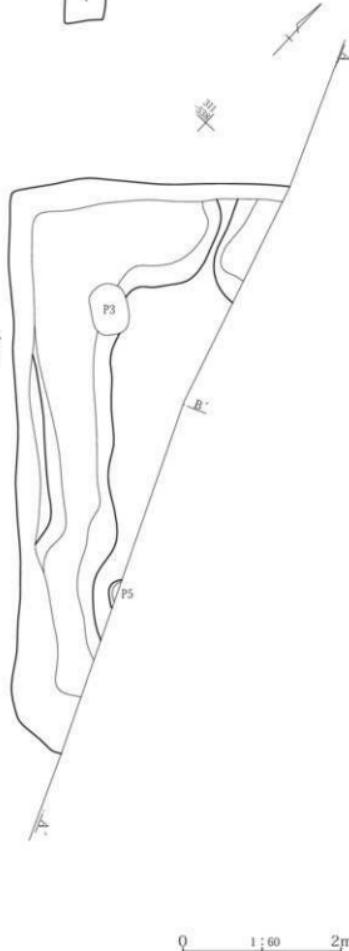
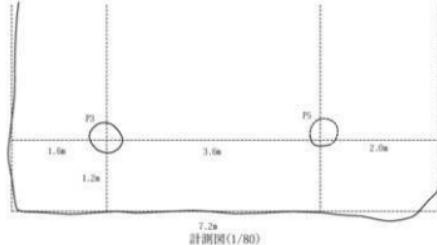
##### 7区2号堅穴建物A-A'・B-B'

- 1 Si
- 2 Si
- 3 Si
- 4 Si
- 5 Si
- 6 黒褐色土(10YR2/2)地上粒、ローム粒、粘土粒等を少量含み、粘性強く繊りあり。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含み、粘性強く繊りあり。
- 8 黑褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含み、粘性を有し繊りあり。
- 9 黑褐色土(2.5Y3/2)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 10 黑褐色土(2.5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含み、粘性をもつ。
- 11 黑褐色土(10YR3/1)地上塊(約0.5～1.0cm)を含み、粘性をもつ。
- 12 黑褐色土(2.5Y3/2)灰白色粒を少量含み、粘性をもつ。上面は硬化し床面を形成する。
- 13 黑褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 14 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。
- 15 黑褐色土(10YR3/1)灰白色粒少量、暗褐色土粒を少量含み、粘性を有し繊っている。遺物も混入する。
- 16 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック、にぶい黄褐色粒を含み、粘性を有し繊っている。
- 17 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 18 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ローム粒を少量含み、粘性を有し繊っている。

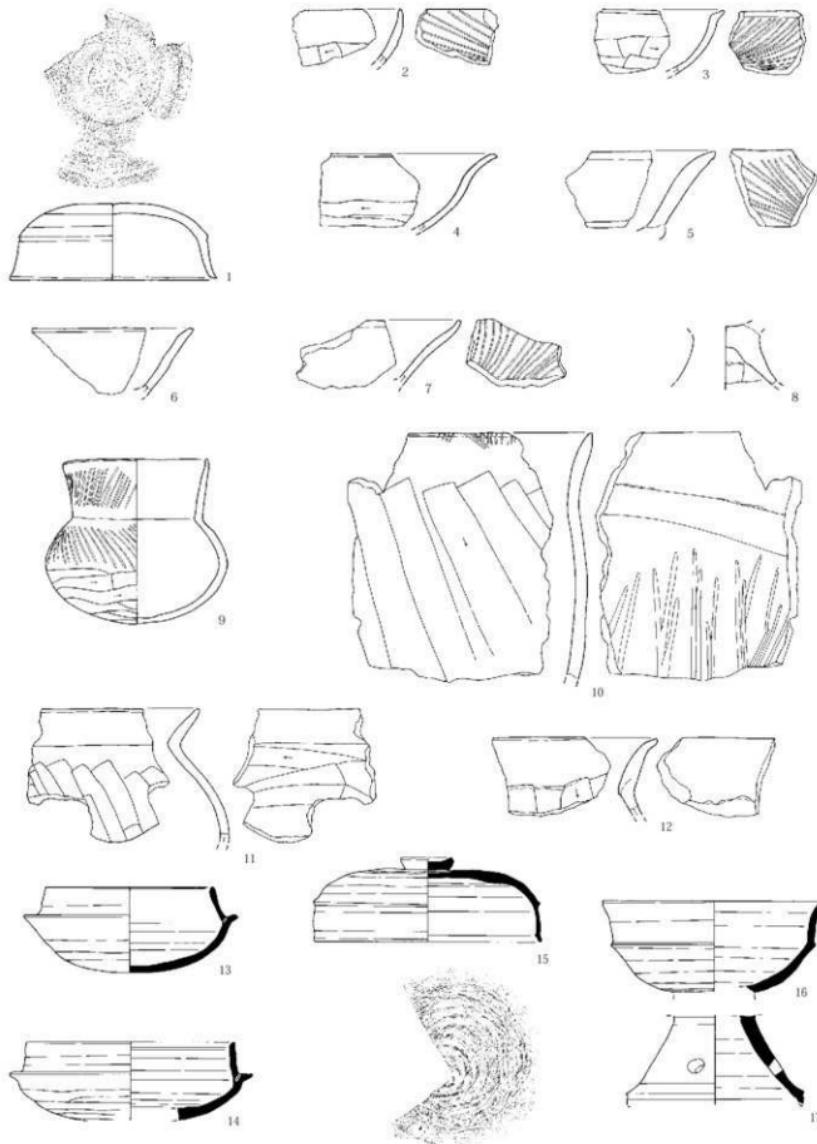


##### 7区2号堅穴建物P1～P4

- 1 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック、にぶい黄褐色粒を含み、粘性を有し繊っている。
- 3 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 4 黑褐色土(10YR3/4)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。



第82図 7区2号堅穴建物平断面図(2)



第83図 7区2号竪穴建物出土遺物図

0 1:3 10cm

P 2 長径0.43m 短径0.37m 深さ0.09m  
P 3 長径0.55m 短径0.49m 深さ0.79m  
P 4 長径0.58m 短径0.52m 深さ0.10m  
P 5 長径(0.38)m 短径(0.12)m 深さ0.42m

**竈** 調査範囲では認められていない。

**貯蔵穴** 調査範囲では認められていない。

**壁際溝** 認められない。

**床面小溝** 認められていない。

**掘方** ローム層まで達し、竪穴縁辺部を0.20m前後掘削し、中央部分(P 3 - P 5 の範囲)を掘り残し床面とする。掘方には暗褐色土が埋土され、上面に床面が形成される。掘方面であるローム面上には掘削に伴う工具痕が明瞭に残る。掘方掘削から埋土、床面形成が一連の行為として行われたものとみられる。

**床下土坑** 調査範囲が限定されていることから、確認されていない。

**遺物と出土状況** 土器は破片類が床面および焼土面に散布する。なお、P 3に接して礫片が出土している。打割礫であり、竈構築礫の可能性もあるが未調査部があり特定できない。なお、埴が床面に接した状態で出土している。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の建物と考えられる。炭化材、焼土が確認されることから焼失建物と考えられる。焼土は床面付近に広がりをもつが炭化材は残存量が少なく、どのような状態で焼失したのか理解しづらい。少なくとも、廃絶段階で焼失が行われた後、周堤構成土の流入により凹地状のくぼみが形成されたことになる。その後、寄畠による耕作域として利用され、S1に被覆されるという経過が認められる。

#### 7区3号竪穴建物(第84～87図 PL.22・72)

**位置** X=57307～57317・Y=-75551～-75561

**重複** 4号竪穴建物、8号竪穴建物と重複関係はないが近接することから時間的前後関係を有するものとなる。なお、4号竪穴建物周堤が3号竪穴建物上層に及ぶという調査所見が得られているから、3号竪穴建物が時間的に古いことが推定できる。竪穴建物北西隅部30号・31号・32号・34号土坑、南西壁に接して33号土坑が重複する。このうち31号土坑は床面下で確認され、建物内で完結することから掘方に伴う可能性がある。他土坑は、3号竪

穴建物より新しいものと観察される。

**平面形** 竪穴北半部分を検出し、北西および北東隅が直角に屈曲する方形平面を形成するが南半部が調査区外のため全形は不明である。

**規模** 北壁長8.60m 最大壁高0.6m

**床面積** 一 **主軸方位** N-18° - E

**検出・埋没状況** S1・S2降下段階で凹地状を呈し、黒褐色土により弧状に埋没した状態で検出された。周囲から中央部に向かってなだらかに埋没する状態から、特定の方向から埋没土が流入したのではなく、周囲からほぼ均等に堆積したものとみられる。埋没面と地表面との差は少なく、S2降下下面を移動する馬蹄跡は竪穴西侧部を通過していることから、火山灰堆積後の馬の移動の妨げにならない程度のくぼみであったといえる。

埋没土層は、ロームブロックを含む暗褐色土が弧状に堆積することから、周堤構成土が主要な埋没土であったものと推定される。

また、床面上には焼土、灰が建物縁辺部に沿って分布する。床面上および埋没土下部には炭化材が確認されていないが、建物の焼失による可能性が高いものと考えられる。

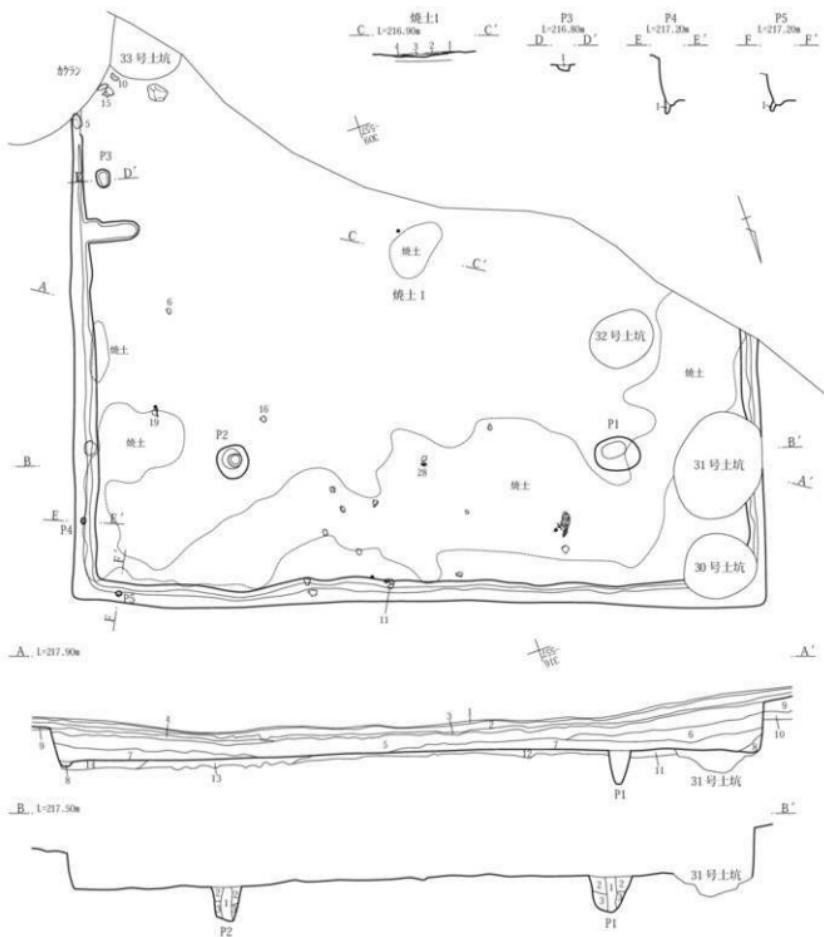
**周堤** 竪穴周囲にわずかに高まりが認められる程度で、周堤は建物への流入等によりほとんど失われたため、規模は不明である。

**上屋構造・壁構造** 上屋構造を推定する建築部材の出土が認められないことから不明である。床面上の焼土検出状況から焼失建物の可能性があるが、炭化建築部材がほとんど遺存しないことから、完全燃焼したことを推定される。なお、柱穴P 1・P 2の上層断面には中央に幅10cm程度の縦位層が認められ、柱痕とみられることから、柱は撤去されない状態だったことがわかる。P 2には柱痕断面にわずかに炭化材が認められる。焼失の影響により掘方に埋置される柱が一部炭化した可能性も推定できるが、焼失材の残存量や痕跡が少ないため、どのような状態で焼失したのかについては不明である。

壁構造についても、掘方壁面が検出されたのみで竪穴壁に関する痕跡は認められていない。なお、ほぼ垂直の壁面が形成されている。

**床面** ロームを含む暗褐色土による掘方埋土上面に床が形成される。特徴的な硬化面は観察されていないが、ほ

第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容



7区3号竖穴建物A-A'

- 1 Si
- 2 Si
- 3 Si
- 4 黒褐色土(10YR2/2)燒土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含み。粘性強く繊りあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含み、粘性強く繊りあり。
- 6 黒褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を多く含み、粘性を有し繊りあり。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/2)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含み、粘性をもつ。

- 9 黒褐色土(10YR2/1)粘性が強く、繊っている。黄褐色粒子を含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/1)粘性が強く、繊っている。
- 11 黒褐色土(2.5Y3/1)灰白色颗粒を少量含み、粘性をもつ。上面は硬化し床面を形成する。
- 12 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。
- 13 黒褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。上面は硬化し床面を形成する。
- 14 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。

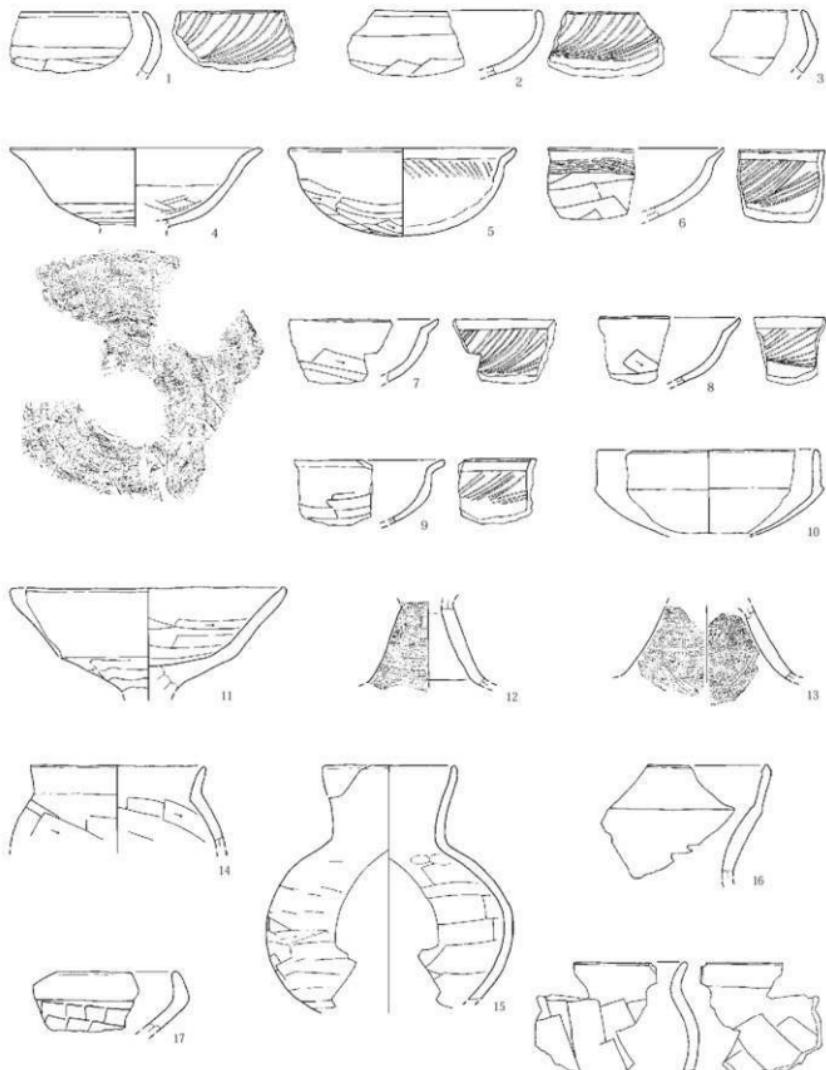
第84図 7区3号竖穴建物平面図



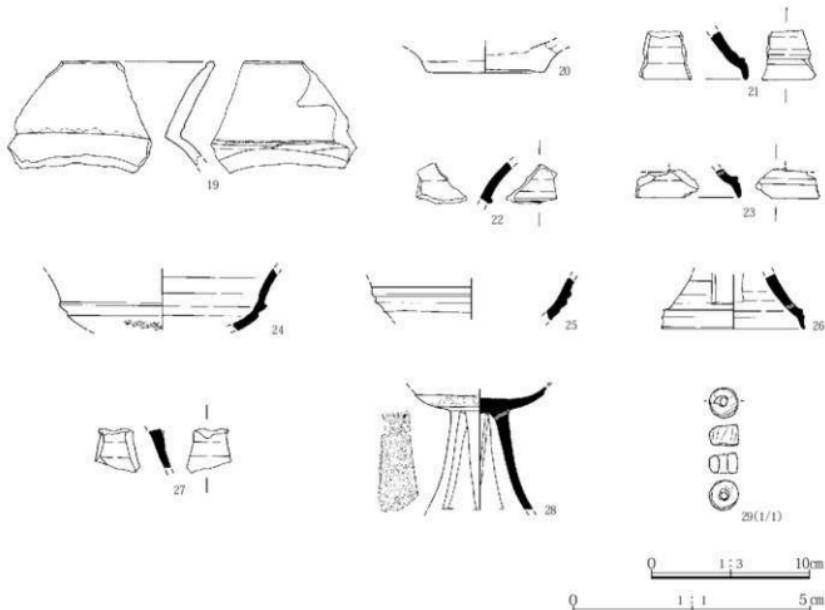


第85図 7区3号堅穴建物掘方平面図

第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容



第86図 7区3号堅穴建物出土遺物図(1)



第87図 7区3号竪穴建物出土遺物図(2)

ほぼ水平な平坦面が形成されている。

**柱穴** 建物北壁から1.8m内側を基準に、西壁から1.9mの位置にP1、東壁から2.0mの位置にP2が設置される。両柱穴とも掘方は円形で、断面土層中央に幅10cm程度の柱痕が観察され、少なくとも掘方部分の柱は撤去されずに埋設状態を保ったまま埋没したものとみられる。埋土はロームを含む暗褐色土により深さは45cm前後で、柱間は4.7mを計測する。

なお、南半部は調査区外であるが、P2の南延長部分には柱穴は確認されていないことから、南側柱穴の間隔もP1-P2間と同様の4.7mの位置に設置される可能性が考えられる。この竪穴建物北半部の規模から9号竪穴建物とほぼ同程度と推定すれば、方形平面が推定できる。この推定規模から柱穴位置を確認すると、建物対角線上に配置されることになる。なお、東壁に接してP3が認められた。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.58m 短径0.43m 深さ0.47m

P2 長径0.43m 短径0.41m 深さ0.44m

P3 長径0.24m 短径0.17m 深さ0.08m

**炉** 床面上に炉と推定される1号焼土が確認されている。1号焼土は90cm×50cmのやや不整な楕円形平面を呈し、深さ5cm程度の浅い鍋底状断面を呈する。明確な掘方が認められないが、灰、炭化物を含む焼土が堆積する地床炉を形成する。伴う遺物は確認されていない。建物内の位置は、北壁長軸線上に設置され、方形平面を推定すれば柱穴同様に建物対角線上、建物中央部にあたることになる。なお、鍛冶関連工房に伴う炉の可能性もあると思われることから、鍛造剝片等の検出も注意したが認められていない。また、羽口、台石等鍛冶関連遺物も出土していない。

**貯蔵穴** 調査範囲では認められていない。

**壁際溝** 竪穴壁に沿って幅20cm程度、深さ5~10cm程度の溝が巡る。底面には溝に直行する工具痕が認められ

るが、溝幅はこの工具刃先幅と一致するものである。

**床面小溝** 東壁に接して、幅20cm、長さ70cmの溝が認められた。なお、北東隅付近の溝内にP4、P5を確認した。2か所のみの確認であるが、掘方壁面の保護材を固定するため杭の打設痕の可能性がある。

**掘方** ローム層まで達し、竪穴縁部を10~15cm程度掘削し、中央部分はやや高まる。掘方には暗褐色土が埋土され、上面に床面が形成される。掘方面であるローム面上には掘削に伴う工具痕が明瞭に残る。刃先は幅20cm前後で、掘方掘削から埋土、床面形成が一連の行為として行われたものとみられる。

**床下土坑** 掘方面に土坑状、溝状の痕跡が認められるが、不定形であることから床下土坑として特定できない。

**遺物と出土状況** 土器は破片類が埋没土中に出土したが、床面上では確認されていない。竪穴建物に伴う遺物は遺存していないとみられ、建物廃絶時に移動している可能性が高い。埋没土下位から出土した土器類を図化、掲載している。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の建物と考えられる。床面上に灰や炭化物を含む焼土が確認されることから焼失建物の可能性が高い。建築部材に関する炭化材がほとんど認められていないことについては疑問も残る。どのような状態で焼失したのか理解しづらい。なお、北半部のみの確認であるが、規模を比較すると9号竪穴建物と類似するものとみられる。

#### 7区4号竪穴建物(第88~93図、PL.23・24・72・73)

**位置** X=57302~57310・Y=-75548~-75554

**重複** 3号竪穴建物と近接するが、重複部分に攪乱が存在するため遺構間の切り合い関係は不明である。しかし、4号竪穴建物周堤が3号竪穴建物上に延長するという調査所見があり、4号竪穴建物がより新しいものといえる。  
**平面形** 竪穴南西隅側が調査区外になるとともに攪乱があるため、一部不明であるがほぼ正方形平面を呈する竪穴建物である。

**規模** 長軸4.6m 短軸4.6m 最大壁高0.65m

**床面積(17.76)m<sup>2</sup>** **主軸方位** N-38°-E

**検出・埋没状況** S1・S2:降下段階で凹地状を呈し、黒褐色土により弧状に埋没した状態で検出された。高低差は少なく、緩やかな凹地を形成している。S3:降下後にはこ

の埋没竪穴上を馬が横断するが、歩行に支障がない程度のくぼみであったものといえる。なお、旧地表面を基準にすれば竪穴部はほとんど埋没している状態であるものとみられ、高低差は最大でも15cm程度であったと推定できる。緩やかな凹地は残存する周堤を含め形成される埋没状況であるといえる。

埋没土層は、ロームブロックを含む黒褐色土を主とするが、最下層には焼土、炭化物(材)、灰等が出土することから、焼失建物であることが確認された。なお、焼土は埋没土とは明らかに分離されると共に炭化材、灰と集合状態を示すことから埋没時の堆積ではなく、建物焼失時に形成されたものと考えられる。

なお、建物上屋が焼失、崩落した後に埋没土が堆積したものと観察される。埋没土層および上層中には炭化した建物建築部材等の痕跡は認められていない。上屋が燃え落ちた後に堆積、埋没したものであるが、この堆積層の形成が自然流入によるのか、人為的影響によるものかについては、判断できる情報が得られていない。

**周堤** 竪穴周囲に高まりが認められる。崩落流出していることから、形態は変化しているが最頂部で高さ30cm、幅3m前後が観察されている。外縁への崩落もあるだろうが、大半は竪穴建物内へ流入堆積したものとみられる。竪穴埋没土であるロームを含む黒褐色土は周堤構成土層と推定される。

**上屋構造・壁構造** 建物床面上に炭化材、焼土、灰等焼失痕跡が一面に遺存する。炭化材の出土状況では建物外周から内側に向かって炭化した垂木が確認されている。下端部は竪穴内に落ち込み炭化し、中央部分では認められない。垂木炭化材が認められない範囲は、P1~P4で囲まれる範囲と一致することから、主柱間に設置した梁に垂木を懸架していたことが推定できる。なお、炭化材等の焼失面でこのP1~P4の主柱痕跡が穴状に検出されているが、炭化柱材は認められていない。このことから、床面上の主柱が焼失し、柱穴中の柱材は腐朽分解したものとみられ、上屋が燃え落ちた後に柱材痕跡が空洞化したものと考えられる。

なお、炭化材について樹種同定を実施したところ「サクラ属、クリ、コナラ属コナラ節」が確認されている。(「第6章自然科学分析」参照)

壁構造については部分的に炭化物が付着するが、大半

は掘方壁面が露出するのみであるため壁の養生施設もしくは保護状況は不明である。

なお、竪穴壁は黒褐色土層に形成されローム面に達した時点で床面形成位置としている。建物建設時には竪穴深度も予定されたであろうが、調査状況からはローム面が深度基準になっていたことを推定できる。

**床面** ロームを含む黒褐色土による掘方埋土上面に床が形成される。床面はほぼ水平で、P 1～P 4 の主柱範囲は特に硬質面が形成される。なお、火災による床の使用情報は確認されていない。

また、出入口に関する遺構も未確認であるが可能性としては攪乱を受けた北西壁西側部分に可能性がある。柱穴 床面上で P 1～P 4 のピットを確認した。この主柱穴は竪穴建物対角線上に位置し、建物中央に配置される。主柱間隔は 2 m × 2 m の正方形で、竪穴建物と相似形を示し高い規格性をもつことがわかる。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

P 1 長径(0.23)m 短径0.19m 深さ0.45m

P 2 長径0.36m 短径0.31m 深さ0.43m

P 3 長径0.32m 短径0.32m 深さ0.68m

P 4 長径0.33m 短径0.32m 深さ0.54m

**竈** 南西壁中央南寄りに設置される。掘方は幅50cm、奥行き25cm程度で壁をほぼ垂直に掘り込み、袖部とする基部はわずかな高まりとして掘り残されている。掘方燃焼部には小穴が確認されるが、支脚を設置するための固定用である。調査段階ですでに天井部は遺失しているが、幅25cm前後、長さ80cm前後の袖部は残存する。残存する竈の規模は、奥行き110cm、焚口幅25cm、燃焼部幅28cmを計測する。袖端部には礫、土器が芯材として使用され、ローム、粘質土等により成形される。燃焼部には灰層が堆積と共に、残存する内側壁面は被熱による赤化が著しいことから継続的な使用が行われたものとみられる。支脚は棒状礫が用いられるが、この礫には杯部を欠く高杯脚部が被せられた状態で出土している。被せられた脚部端部も灰層に被覆され、竈天井部棄損による壁体崩落土により被覆されることから、竈棄損時に行われたのではなく使用段階での状態を示すものと考えられる。また、竈内から炭化種実が出土したため種実同定を実施したところ「モモ」であることが確認された。（『第6章自然科学分析』参照）

**貯蔵穴** 竪穴建物対角線上に位置し、南東隅部に設置される。開口部65cm × 60cm、底部25cm × 25cm、深さ75cmの規模である。壁面には掘削時の工具痕が認められる。貯蔵穴周囲には土堤状の高まりが認められるが、区画もしくは蓋を置く際の土台として利用されたとも考えられる。床面検出時の貯蔵穴確認段階では、遺構形状が方形状に確認されている。貯蔵穴は円形平面であるが、縁辺部の高まりが方形状を呈しているものとみることができる。板状の蓋を置く際の土台であったため、方形平面を形成していた可能性があるだろう。内部には土器等の出土は認められていない。埋没土はロームを含む黒褐色土が堆積するが、中層付近に焼土の流入が認められる。埋没土上層には炭化物は顯著ではないが、開口部付近にも炭化材の痕跡が認められることから、貯蔵穴下半部はすでに黒褐色土が堆積した状態で建物焼失という経過を辿ったものと推定される。

**壁際溝** 幅10cm、深さ5cm程度の溝が北東壁から北西壁に確認され、南東壁にも部分的に存在する。焼失建物であるため壁部の構造を含め観察したが、壁際溝の機能を推定できるような情報は得られていない。

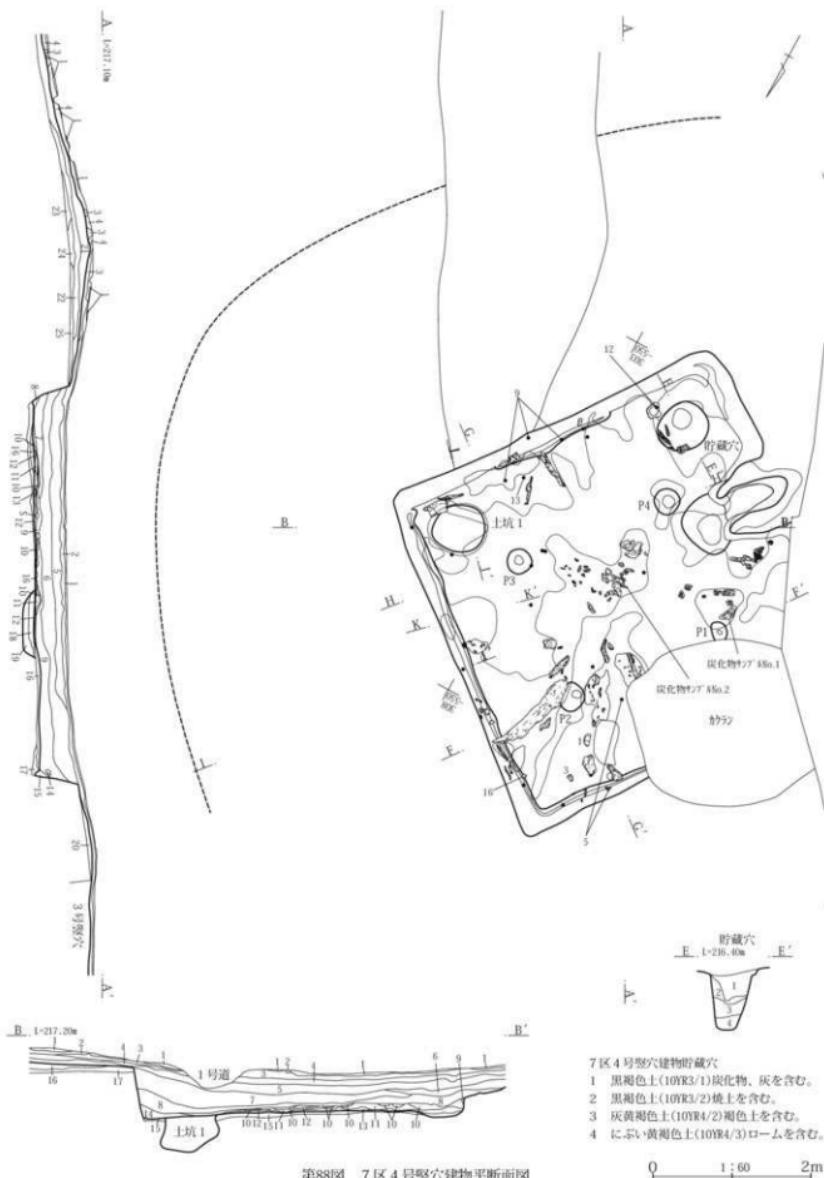
**床面小溝** 認められていない。

**掘方** 黒褐色土層を掘り下げ竪穴建物とするが、ローム層に達した時点で掘方面とする。ローム面には掘削に伴う工具痕が観察される。掘方は、床面下5～15cm前後掘り下げられるが、建物周辺部がやや深めとする傾向がある。さらに深さ10cm前後の土坑状の掘り込みが認められる。

**床下土坑** 竪穴建物中央付近に鍋底状断面の円形土坑が認められる。掘方掘削に伴うものとみられ、ロームを含む黒褐色土で埋土され、上面に床が形成される。

**遺物と出土状況** 焼失建物であるが、床面に接する位置から出土した遺物は少ない。伴出土器としては、竈構築に使用された甕および竈支脚の礫上に被せるように出土した高杯が確実であるが、他には貯蔵穴に接して出土した土器片類がある。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の焼失竪穴建物である。垂木と考えられる建物部材が竪穴外周に沿って放射状に認められることから、上屋ごと焼失し梁が燃え落ち、同時に垂木も建物内に倒れ込んだものとされる。炭化材と共に灰も堆積することから、屋根材とした植物の燃焼



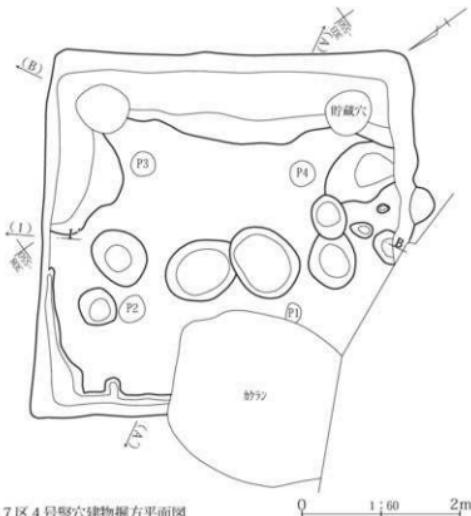
第88図 7区 4号整穴建物断面図

- 7区 4号整穴建物貯藏穴  
 1 黒褐色土(10YR3/1)炭化物、灰を含む。  
 2 黒褐色土(10YR3/2)堆土を含む。  
 3 灰黄褐色土(10YR4/2)褐色土を含む。  
 4 に赤い黄褐色土(10YR4/3)ロームを含む。

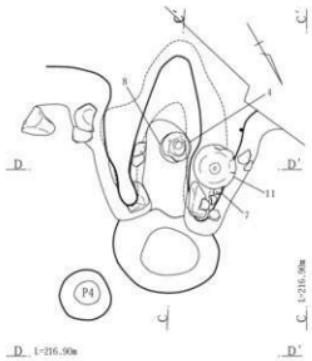
#### 第4章 出土した遺構と遺物

7区4号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 Si
- 2 Si
- 3 Siがやや不規則に堆積する。
- 4 Siにやや乱れがみられる。
- 5 黒褐色土(10YR2/3)燒上粒、ローム粒等を少量含む。
- 6 黑褐色土(10YR2/2)燒上粒、ローム粒等を少量含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2)に少い黄褐色粒、炭化物片を含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)に少い黄褐色粒を多く含む。
- 9 黑褐色土(2,5Y3/1)焼上色粒を多く含む。
- 10 黑褐色土(2,5Y3/2)黄褐色粒、燒上、炭化材片を含む。
- 11 黑褐色土(10YR2/1)燒上ブロック、炭化材を含む。
- 12 黑褐色土(2,5Y2/1)灰白色細粒、燒上、炭化材片を含む。
- 13 黑褐色土(10YR2/1)、燒上、炭化材片、黄褐色粒を含む。
- 14 燃上ブロック
- 15 黑褐色土(10YR2/2)黄褐色粒、ローム粒を含む。
- 16 黑褐色土(10YR3/1)灰白色粒、暗褐色土粒を含む。
- 17 暗褐色土(10YR2/3)ロームブロック、黄褐色粒を含む。
- 18 黑褐色土(10YR3/2)に少い黄褐色粒を少額含む。
- 19 黑褐色土(10YR3/2)に少い黄褐色粒、ローム粒を含む。
- 20 黑褐色土(10YR3/1)灰白色粒、ローム粒、炭化物を含む。
- 21 黑褐色土(10YR2/2)燒上色粒、燒上、炭化物片を含む。
- 22 黑褐色土(10YR2/2)黄褐色粒、炭化物片を含む。
- 23 暗褐色土(10YR3/3)燒上粒、炭化物片を含む。
- 24 黑褐色土(10YR2/1)黄褐色粒を含む。
- 25 黑褐色土(10YR3/2)暗褐色土、褐色粒を含む。



第89図 7区4号竪穴建物掘方平面図

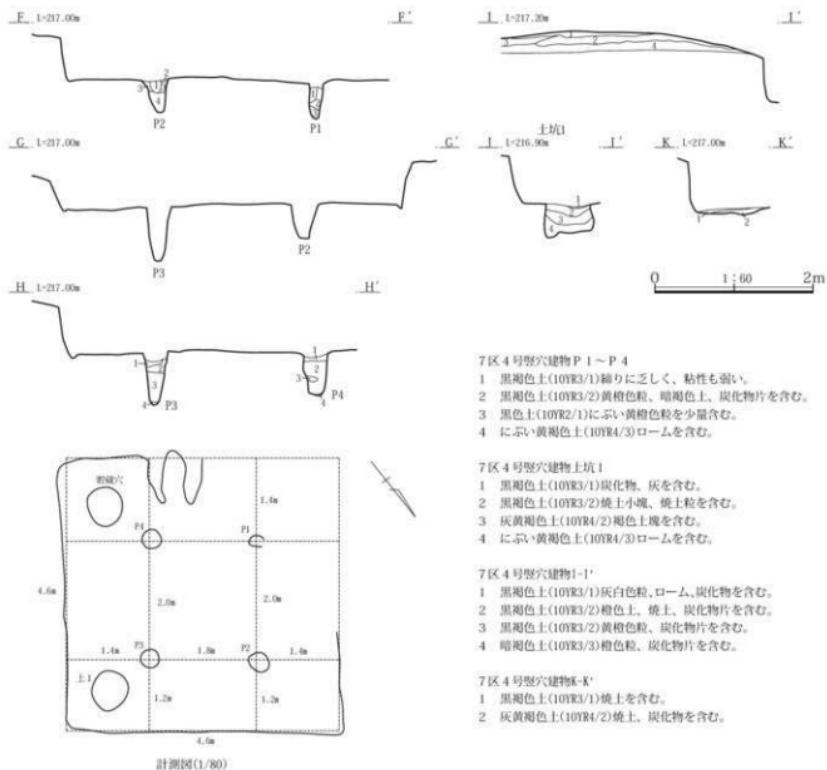


7区4号竪穴建物掘方

- 1 黑褐色土(10YR3/1)燒上を含む。
- 2 灰黃褐色土(10YR4/2)燒上、ローム、炭化物片を含む。
- 3 灰黃褐色土(2,5Y3/2)多量の灰と燒上を含む。
- 4 黄褐色土(2,5Y3/1)灰、炭化物、燒土を含む。
- 5 明赤褐色土(5YR5/8)燒上、灰を含む。
- 6 褐灰色土(5YR4/1)灰、炭化物、燒土を含む。
- 7 黑褐色土(10YR3/1)ローム、灰を含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/2)ローム、燒上、炭化物を含む。
- 9 褐灰色土(10YR4/1)燒上、黑色土、灰、炭化物を含む。
- 10 黑褐色土(10YR2/1)ローム、燒上を含む。
- 11 暗赤褐色土(5YR3/2)粘質土、黑色土、ローム、燒土を含む。
- 12 黑褐色土(10YR2/1)燒上塊を含む。
- 13 黑褐色土(7,5YR3/1)ローム、暗赤褐色燒土を含む。

第90図 7区4号竪穴建物掘方断面図





第91図 7区 4号竖穴建物断面図

痕跡と考えられる。さらに、炭化材、灰を覆うように焼土の堆積が観察される。焼土は炭化材や灰と混在する部分もあり、同様の焼失経過により形成されたものと考えられる。この調査状況から植物材による屋根上に土を被覆していた「土屋根」の堅穴建物である可能性が高いと判断される。建物内部での燃焼が進み、上屋が燃え落ちた段階で土屋根が崩落し、その土の被覆により酸素の供給が遮断されることで建築部材が炭化したものと考えることができる。

7区 8号坚穴建物(第94～102図 PL.25～28・56・73・74)  
位置 X=57316～57331・Y=-75551～-75564

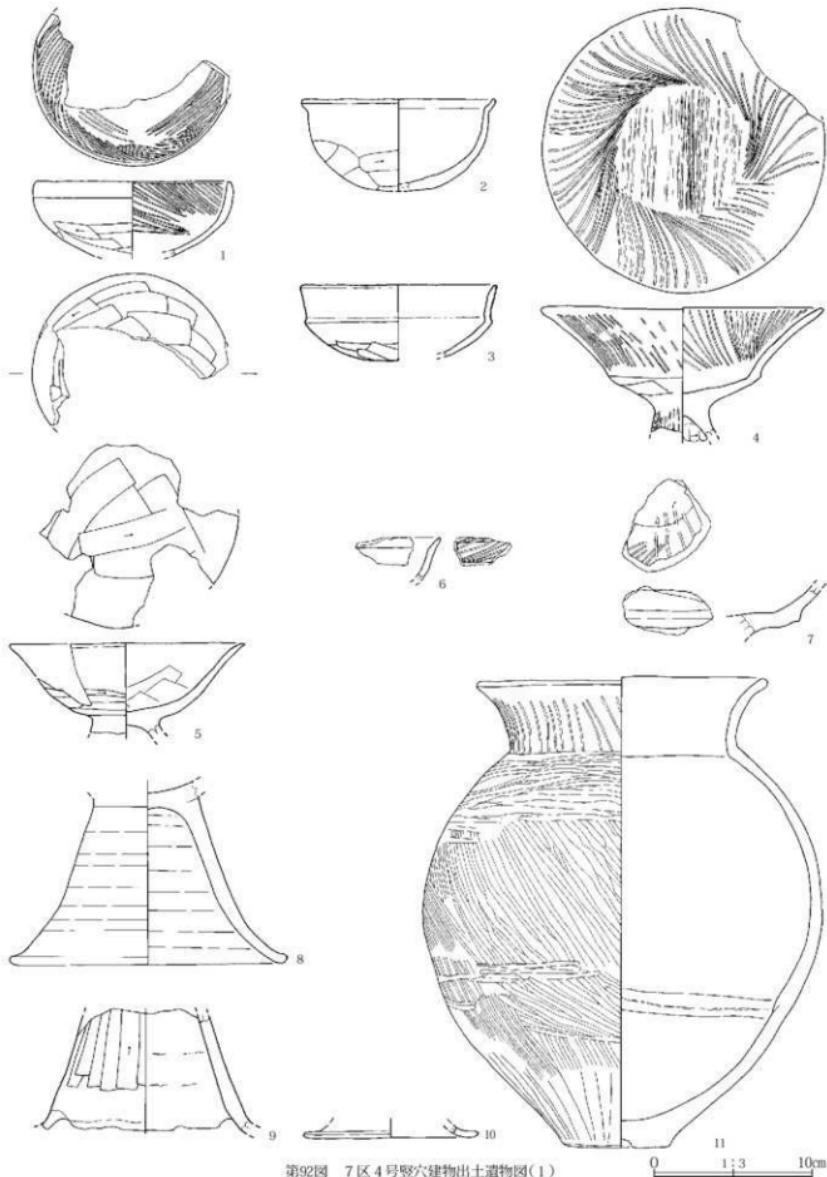
**重複** 本堅穴建物の東隅を10号堅穴建物、西側縁辺を搅乱により遺失する。また西側は11号堅穴建物、北側は9号堅穴建物と重複し、両者とも8号堅穴建物よりも古い。

**平面形** 東隅以外の隅は直角に屈曲し、各壁も直線的に連続する整然とした方形平面を呈する。

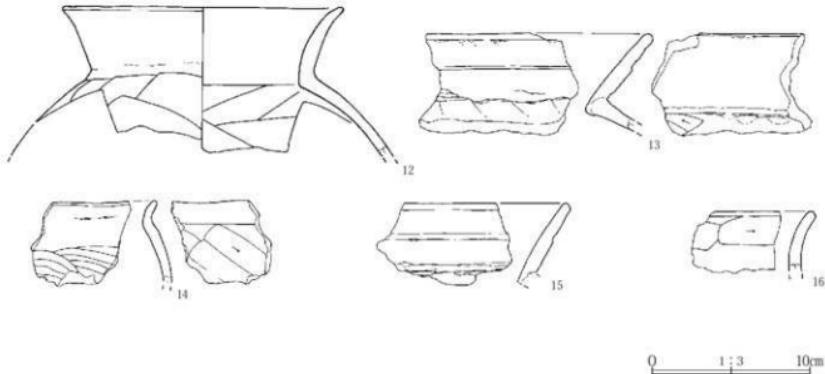
**規模** 西壁長9.9m 最大壁高0.60m

**床面積** (71.82) m<sup>2</sup> **主軸方位** N-62°-E

**検出・埋没状況** 第8面の遺構確認時に、本堅穴建物の平面プランが確認された。本堅穴建物は、黒色土中に構築された建物で、覆土も黒色土を主体としていた。覆土は、周堤からの流入土で構成されたと考えられる。黒色土中には、堅穴建物を構築した段階で生じたローム質の



第92図 7区4号竪穴建物出土遺物図(1)



第93図 7区4号竪穴建物出土遺物図(2)

黄色土をブロック状に堆積していた。周堤上は、比較的残存していた北西隅で217.45mを測り、確認面から床面との高低差は1.0mを測ることから、本来は150cm程度あつたと推測される。

**周堤** 周堤は、西側隅以外は10cmほどの高まりが残るのみで残存状況は良好ではない。西側隅では、50cmほどの高まりを有しているが、付近に15号竪穴建物が構築されているため、本竪穴建物に帰属するかは断定できない。

周堤覆土は、ローム質の黄色土をブロック状に含んでおり、竪穴建物を構築する際に生じた土砂で形成されたと考えられる。

**上屋構造・壁構造** 建物床面上に炭化材、焼土、灰等焼失痕跡が一面に遺存する。炭化材の出土状況では建物外周から内側に向かって炭化した垂木が確認されている。下端部は竪穴内に落ち込み炭化し、中央部分では認められない。垂木炭化材が認められない範囲は、P 1～P 7で囲まれる範囲と一致することから、主柱間に設置した梁に垂木を懸架していたことが推定できる。なお、炭化材等の焼失面でのP 1～P 4の主柱痕跡が穴状に検出されているが、炭化柱材は認められていない。このことから、床面上の主柱が焼失し、柱穴中の柱材は腐朽分解したものとみられ、上屋が燃え落ちた後に柱材痕跡が空洞化したものと考えられる。

壁構造については部分的に炭化物が付着するが、大半は掘方壁面が露出するのみであるため壁の養生施設もし

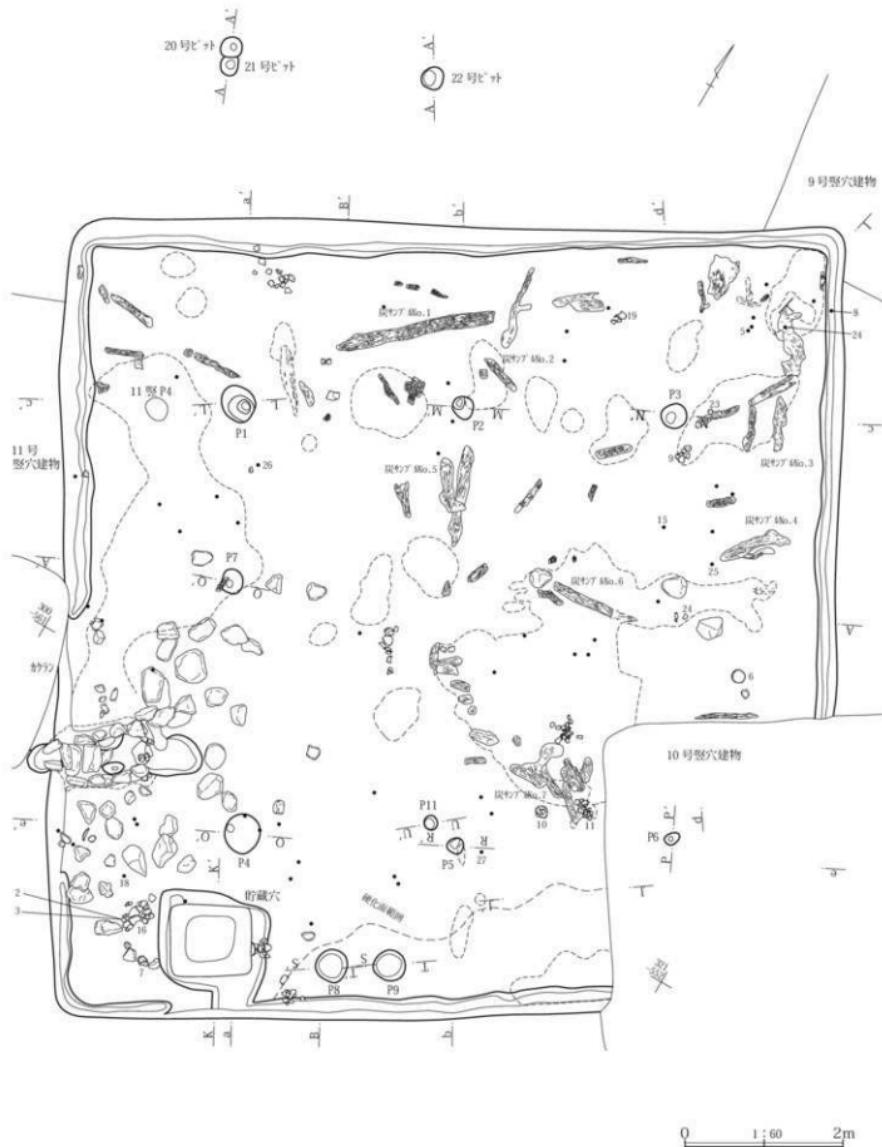
くは保護状況は不明である。

なお、竪穴壁は黒褐色土層に形成されローム面に達した時点で床面形成位置としている。建物建設時には竪穴深度も予定されたであろうが、調査状況からはローム面が深度基準になっていたことも推定できる。

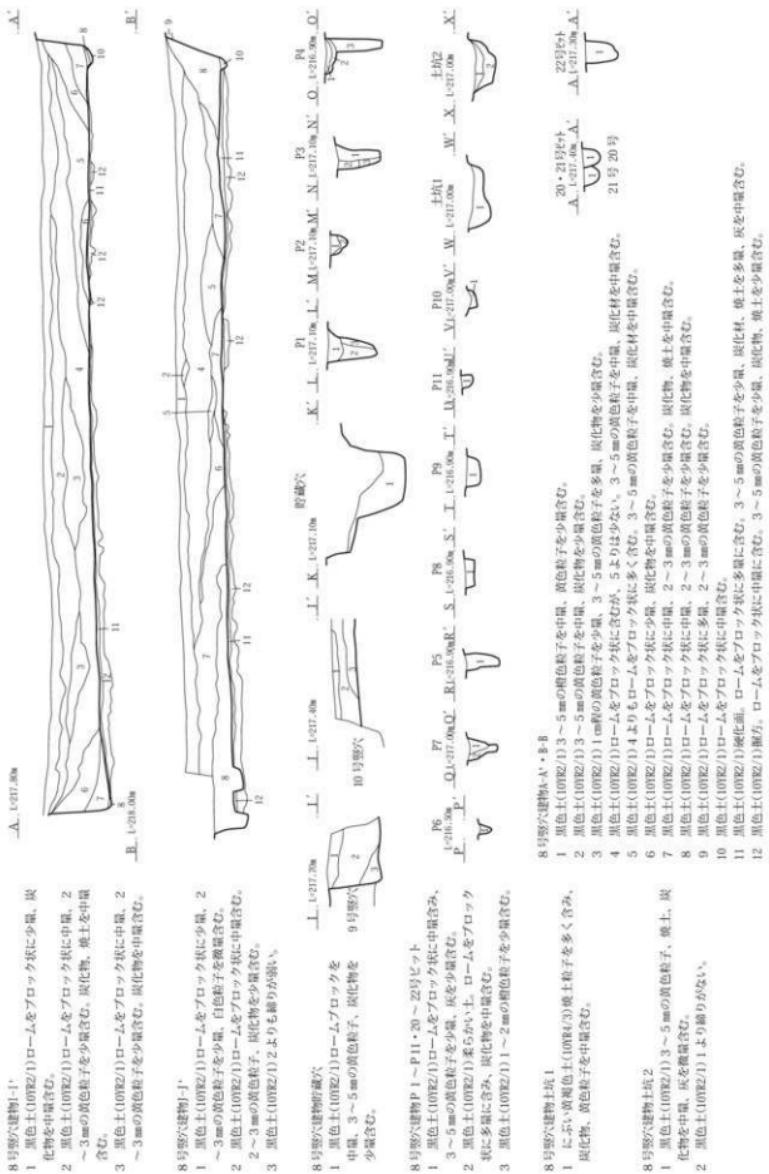
**床面** ロームを含む暗褐色土による掘方埋土上面に床が形成され、P 1～P 7の外周部に主として硬化面が認められている。継続的な利用により硬化面が形成されたものとみられる。P 8周辺部では南壁に接した位置まで硬化面が認められることから、P 8を含め出入口施設の可能性が高い。なお、他周辺部には硬化面は認められていない。床面小溝が設置される部分にも硬化面はみられないが、根太設置による床板の存在も推定できる。

**柱穴** 床面上でP 1～P 5、P 7～P 9が、堀方調査時にP 10～P 11、P 6は10号竪穴建物堀方調査時に確認した。P 1～P 7は埋没土断面に柱痕状の縦維堆積が確認されたことから、主柱穴と判断される。主柱穴は東側をコの字形に開口する形の掘立柱を構成する。一辺5.4mを測り、柱穴間は2.7mを測る。南壁際には、壁に平行する形でP 8とP 9が構築されている。断面形態は箱形を呈し、同一時期に構築されたと考えられ、入口施設の可能性も考えられる。

堀方調査時には、竪の北側と西隅で土坑を確認した。土坑1は、西隅に確認され、P 10に隣接する。形態は、不整形を呈し、覆土中にロームが混在していた。床面か

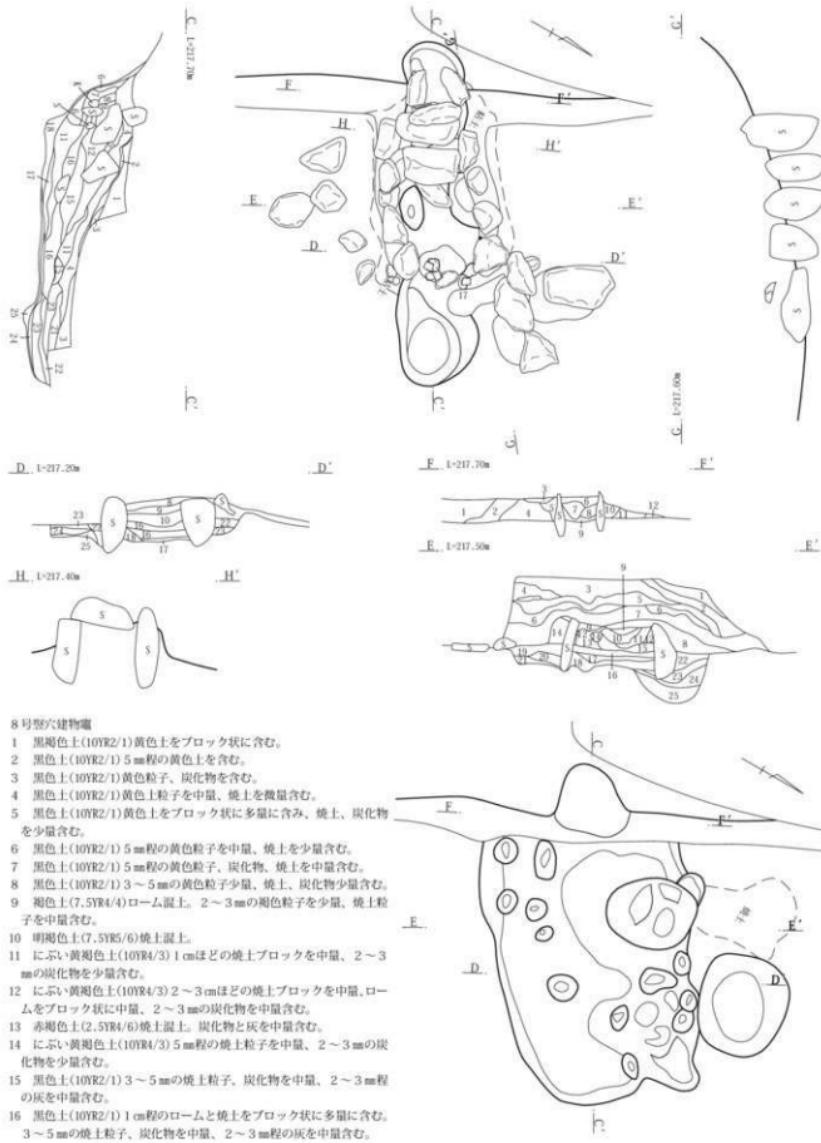


第94図 7区8号竖穴建物平面図

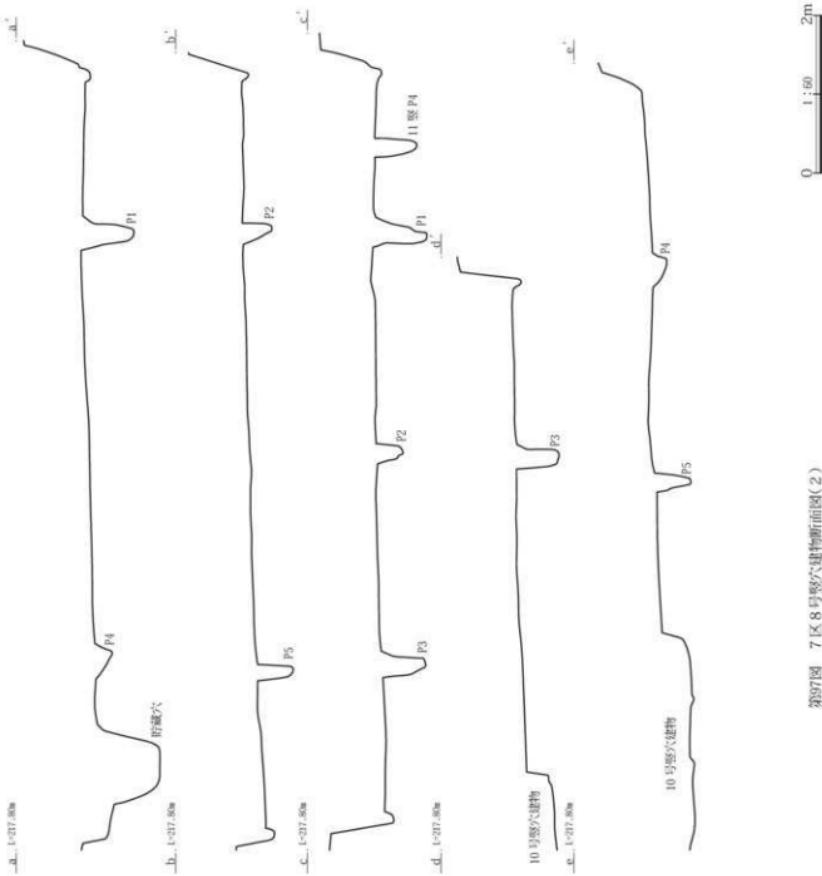


第95図 7区8号鉢穴地植物断面図(1)

0 1 60 2m

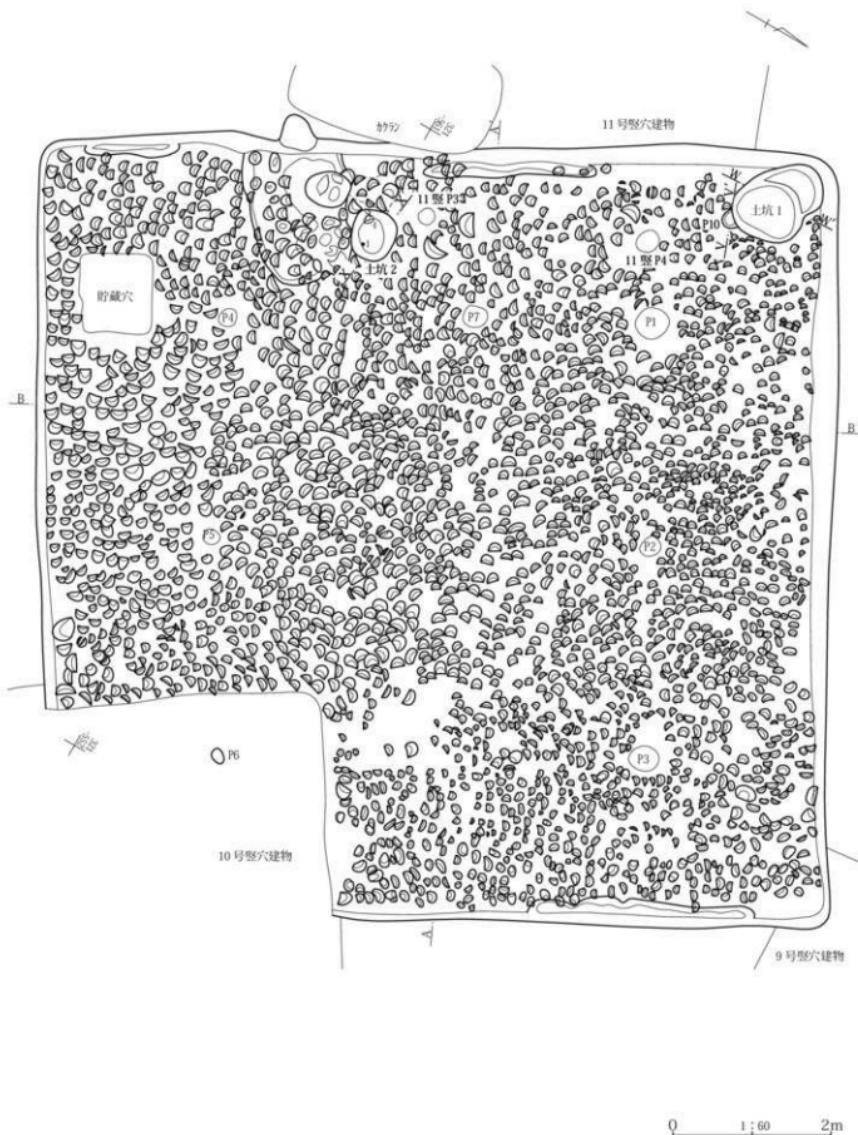


第96図 7区8号竖穴建物断面図

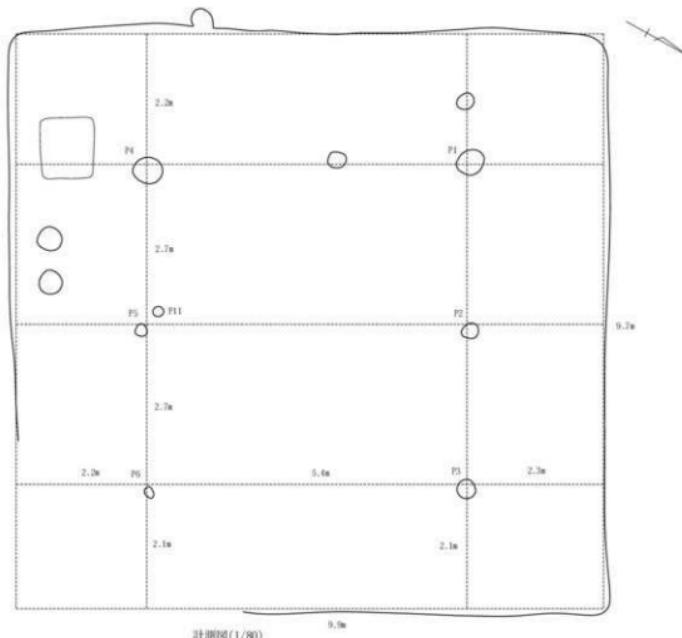


## 8号施設物

- 17 黒色土(10YR2/1)1cm程のロームをブロック状に中量に含み。焼土をブロック状に8よりも少なく含む。3~5mm炭化物を中量含む。
- 18 黒色土(10YR2/1)ロームブロックを中量含み炭化材を少量含む。
- 19 黒褐色土(10YR3/1)焼土、ロームをブロック状に中量、灰、炭化物を少量含む。
- 20 黒色土(10YR2/1)焼土、ロームをブロック状に少量含む。
- 21 褐色土(7.5YR4/3)焼土をブロック状に多量に含み、炭化物を少量含む。
- 22 黑褐色土(10YR2/1)ロームをブロック状に少量、5mmの燒土粒子を少量、炭化物を中量含む。
- 23 黑褐色土(10YR3/1)焼土をブロック状に多量、ロームをブロック状に中量含む。5mm程の炭化物を中量、灰を少量含む。
- 24 黑褐色土(10YR2/1)焼土、ロームを少量、5mm程の炭化物、灰を少量含む。
- 25 灰褐色土(10YR4/2)焼土をブロック状に主体を含め、ロームをブロック状に中量、5mm程の炭化物、灰を少量含む。



第98図 7区8号堅穴建物掘方平面図



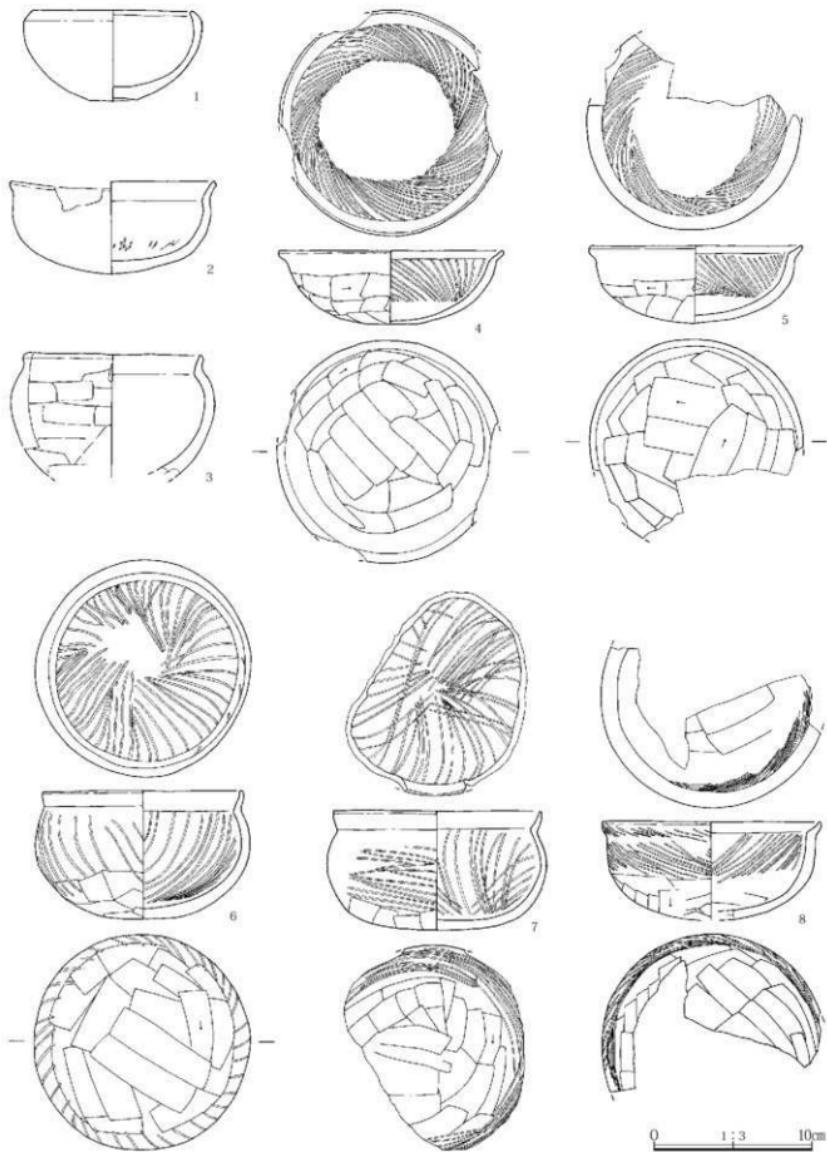
第99図 7区8号竪穴建物計測図

らは確認できず、周辺建物との切り合い関係ではないことから、本竪穴建物の床面造成時に構築されたものと想定される。土坑2は、竪北側に隣接して確認された。11号竪穴建物の貯蔵穴の可能性も考えられたが、想定される壁よりも内側に入り込んでいるため、断定はできない。床面調査時には、確認できなかったが、竪との位置関係や堆積状況を踏まえると、竪に隣接した施設と判断される。土坑内からは、土師器杯が斜位の状態で確認されている。本建物の北側周堤部上面に20号～22号ピットが構築されている。柱穴とも並びが同じことから、本建物に付属すると考えられ、外梁と推定される。確認された柱穴、土坑の計測値は下記の通りである。

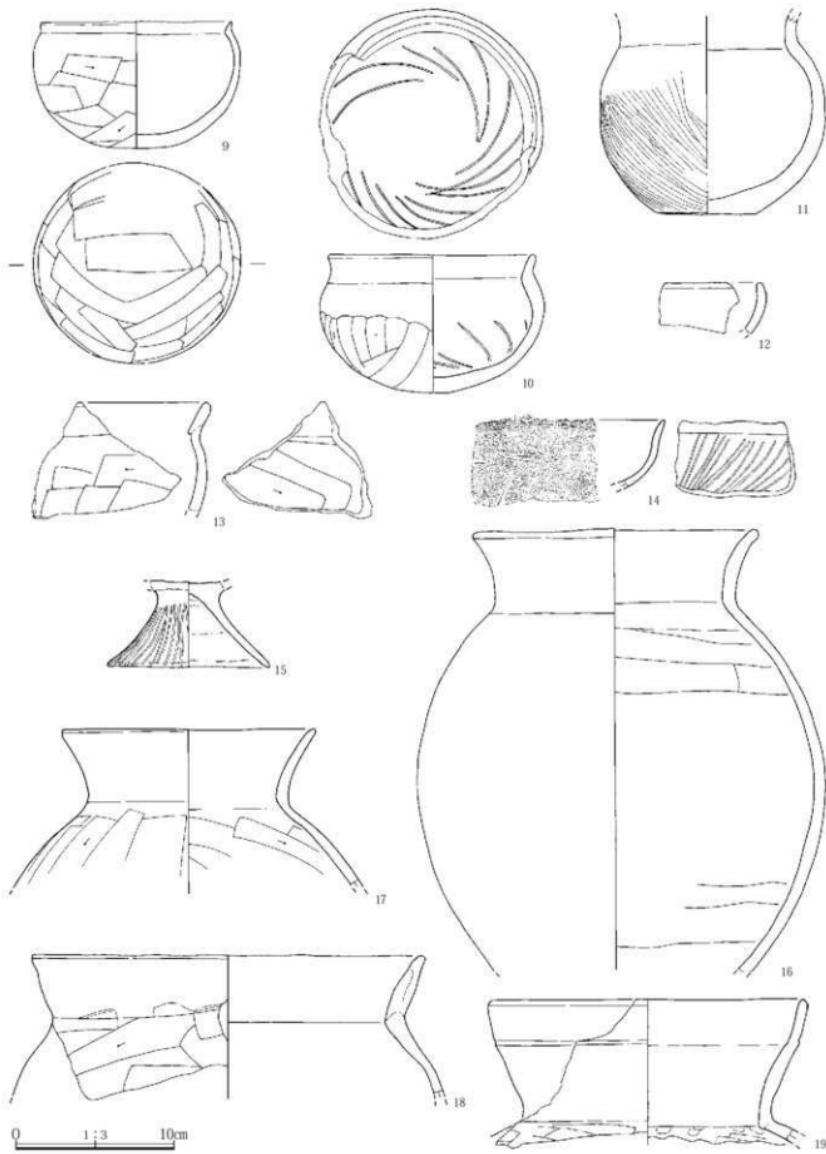
- P 1 長径0.47m 短径0.42m 深さ0.62m
- P 2 長径0.30m 短径0.27m 深さ0.22m
- P 3 長径0.33m 短径0.32m 深さ0.57m
- P 4 長径0.52m 短径0.44m 深さ0.73m
- P 5 長径0.22m 短径0.21m 深さ0.45m
- P 6 長径0.20m 短径0.15m 深さ0.17m
- P 7 長径0.30m 短径0.27m 深さ0.38m
- P 8 長径0.41m 短径0.40m 深さ0.14m
- P 9 長径0.42m 短径0.40m 深さ0.20m
- P 10 長径(0.16)m 短径0.22m 深さ0.13m
- P 11 長径0.20m 短径0.17m 深さ0.16m

- 土坑1 長径1.18m 短径0.90m 深さ0.30m
- 土坑2 長径0.64m 短径0.56m 深さ0.35m

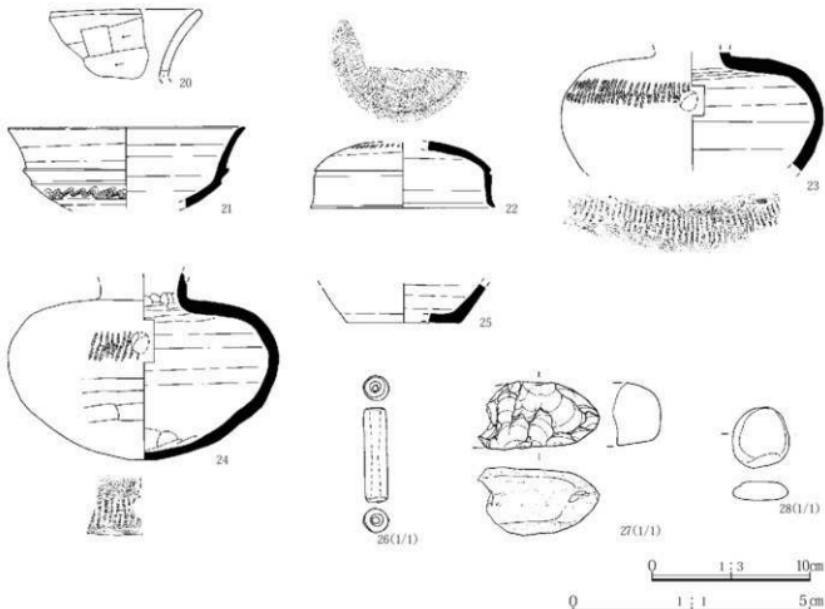
**竪** 西側壁の南側寄りに敷設されていた。残存する竪の規模は、確認長2.18m、屋外長0.60m、燃焼部長0.80m、焚口幅0.50m、煙出し幅は0.40mを測る。粘土貼り付け袖構造下部は左1.00m、右1.13mを測り、屋内に張り出し、基部が残存していた。両袖とも構築粘土の全体に30～40cmの角礫を芯として利用しており、礫面が竪燃焼部として機能していた。竪天井石は、2個残存していて、



第100図 7区8号整穴建物出土遺物図(1)



第101図 7区8号竪穴建物出土遺物図(2)



第102図 7区8号堅穴建物出土遺物図(3)

周囲にも天井石とみられる礫が散在しており、燃焼部から煙道にかけて天井石が敷設されていたとみられる。燃焼部と焚き口部の境に15cm程の礫が縦位に配置されており、支脚として利用された支脚礫と考えられる。支脚礫付近には、甕の破片が散在しており、煮沸具として利用されていた土器の残滓と考えられる。焚き口部は不整形を呈し、炭化物と灰が交互に堆積し、焼土が混在していた。焚き口の北側には、礫が散在している。配列は不規則であり、天井石の崩落石と判断した。燃焼部も焚き口と同じく、炭化物と灰と焼土が交互に堆積し、袖石は火熱によって赤く変色していた。煙出し部は、扁平な角礫をハの字状に配置し、内側は、灰と炭化物が多量に堆積していた。

**貯蔵穴** 堅穴建物の南隅、南壁より中段部分を含めると、南北0.9m、東西1.0m、深さ0.80mに構築されていた。貯蔵穴の周囲は、方形形状に区画され、区画部分を含めると、南北1.4m、東西1.2mを測る。底面は、方形区

画のほぼ中央部に位置し、60cm四方に掘り詰められ、底面は比較的平坦に掘削されている。南側は壁際溝に連続する形態を呈しており、長さ30cm、幅50cmを測り、断面は溝状を呈する。堆積土層中は、ローム質黄色土をブロック状に含み、炭化物を多量に含有していた。出土遺物は、覆土中に甕の破片が出土するのみであった。

**壁際溝** 幅20cm、深さ10cmの壁際溝が竈と貯蔵穴の西側以外で全周する形で確認された。本堅穴建物は、焼失建物のため、壁際の構造を含め観察したが、壁際溝の機能を推定できるような情報は得られていない。

**床面小溝** 認められていない。

**掘方** 黒褐色土層を掘り下げ堅穴建物とするが、ローム層に達した時点で掘方面とする。ローム面には掘削に伴う工具痕が観察され、時計回り状に掘削されていたと考えられる。掘方は、床面下5~15cm前後掘り下げられるが、建物周辺部をやや深めとする傾向がある。さらに深さ10cm前後の土坑状の掘り込みが認められる。

**床下土坑** 認められていない。

**遺物と出土状況** 出土遺物は、竈付近に集中した。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の焼失竪穴建物である。垂木と考えられる建物部材が竪穴外周に沿って放射状に認められることから、上屋ごと焼失し梁が燃え落ち、同時に垂木も建物内に倒れ込んだものとみられる。炭化材と共に灰も堆積することから、屋根材とした植物の燃焼痕跡と考えられる。さらに、炭化材、灰を覆うように焼土の堆積が観察される。焼土は炭化材や灰と混在する部分もあり、同様の焼失経過により形成されたものと考えられる。この調査状況から植物材による屋根上に土を被覆していた「土屋根」の竪穴建物である可能性が高いと判断される。建物内部での燃焼が進み、上屋が燃え落ちた段階で土屋根が崩落し、その土の被覆により酸素の供給が遮断されることで建築部材が炭化したものと考えることができる。出土遺物は、竈付近を除いて、破片のものが多く、埋没過程で流れ込んだものが大半を占めたため、焼失時にはすでに廃絶していた可能性も考えられ、人為的に失火させたことも想定される。

7区9号竪穴建物(第103～108図 PL.29・30・56・74・75)

**位置** X=57329～57340・Y=-75546～-75557

**重複** 本竪穴建物の南東隅を切る形で8号竪穴建物が隣接する。8号竪穴建物よりも古い。

**平面形** 東側は調査区外にあたるため、不明であるが、残存する北西、南東隅は直角に屈曲し、各壁も直線的に連続する整然とした方形平面を呈する。

**規模** 西壁長9.0m 最大壁高1.00m

**検出・埋没状況** 第8面の遺構確認時に、本竪穴建物の平面プランが確認された。本竪穴建物は、黒色土中に構築された建物で、覆土も黒色土を主体としていた。覆土は、周堤からの流入土で構成されたと考えられ、黒色土中には、竪穴建物を構築した段階で生じたローム質の黄色土がブロック状に堆積していた。周堤は、周囲がほぼ平坦な状態を呈しており、流出したかあるいは、隣接する8号竪穴建物によって壊されたと想定される。確認面から床面との高低差は、1.0mを測ることから、遺存状態の良好な8号竪穴建物を踏まえると、本来は150cm程度あったと推測される。

**竈** 確認されていない。東側の調査区外に構築されてい

ると考えられ、東側の貯蔵穴に隣接した部分の壁際溝が調査区に向かって外側へ若干屈曲することから、竈に近いと想定される。

**周堤** 周堤は、確認できなかった。流出したかあるいはほかの竪穴建物に壊されたと考えられる。

**上屋構造・壁構造** 覆土中及び床面からは、炭化材など上屋構造を確認するものはないことから判断する材料はない。壁構造は、壁際に若干の炭化材が認められたが、構造が判断される材料は確認できなかった。

**床面** 最大15cm幅でローム質の黄色土が混在した床が確認された。貯蔵穴周辺と竪穴建物中央部に部分的に硬化面が確認された。特に貯蔵穴の周辺50cmほどの範囲に硬化面が確認できており、継続的な利用が想定される。床面小溝が設置される部分にも硬化面はみられないが、根太設置による床板の存在も推定できる。柱穴付近は、硬化面が確認されていない。

**柱穴** 床面上でP1～P11を床面調査時に確認した。P5～P10は埋没土断面に柱痕状の縦位堆積が確認されたことから、主柱穴と判断される。主柱穴は北側をコの字状に開口する形の掘立柱を構成する。P4とP6間は2.2m、P6とP7間は3m幅を測り、P4～P7間は、5.2mを測る。P7～P9は、5.1mを測り、P7とP8、P8とP9は2.55mを測る。P9とP10は3mを測り、P4～P7の規模と同じと考えられるが、調査区外によって不明である。P7とP9の間にはP8が構築され、北側をコの字状に開口する形で並列する。西壁際には、壁に平行する形でP1・P3が構築されている。断面形態は箱形を呈しており、柱穴とは考えにくい。ピット下部にはすだれ状の小溝が確認されており、関連した施設と想定される。本建物の西側周堤部上面に25号・26号ピットが構築されている。柱穴とも並びが同じことから、本建物に付属すると考えられ、外梁と推定される。

P1 長径0.36m 短径0.33m 深さ0.19m

P2 長径0.42m 短径0.38m 深さ0.18m

P3 長径0.50m 短径0.48m 深さ0.18m

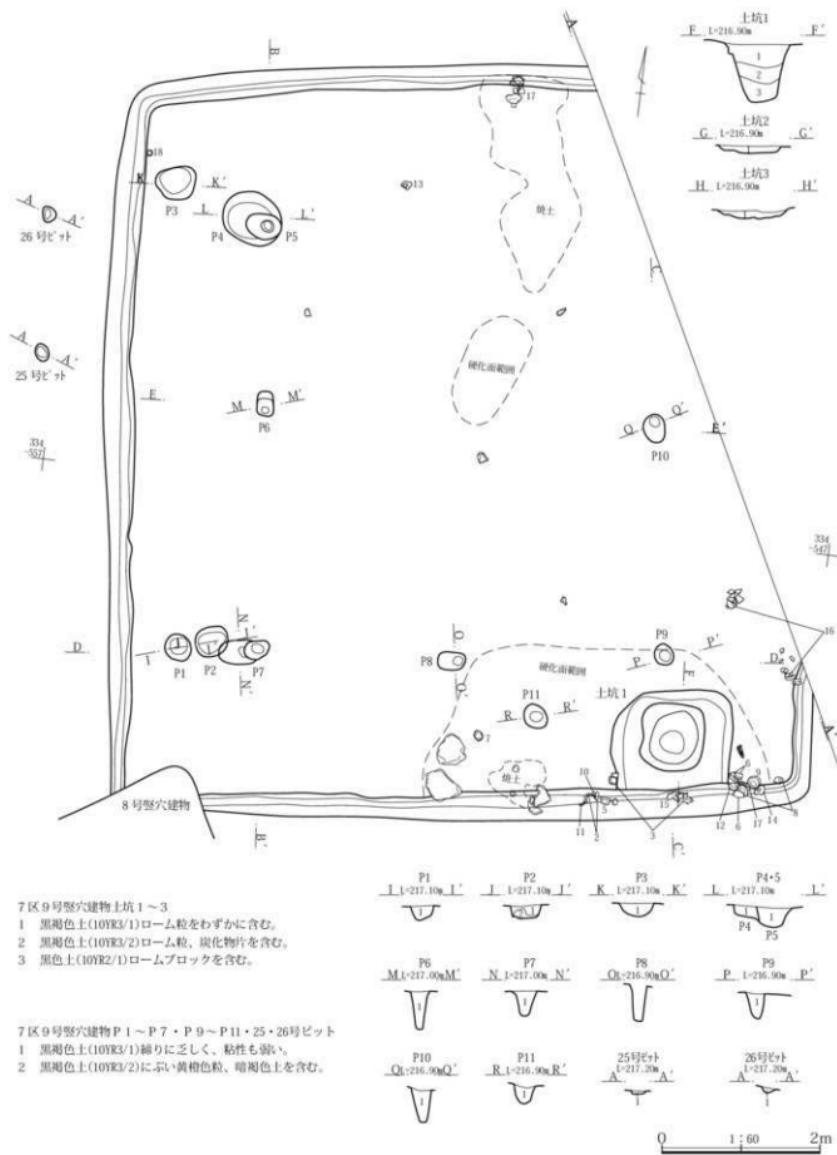
P4 長径0.78m 短径0.64m 深さ0.18m

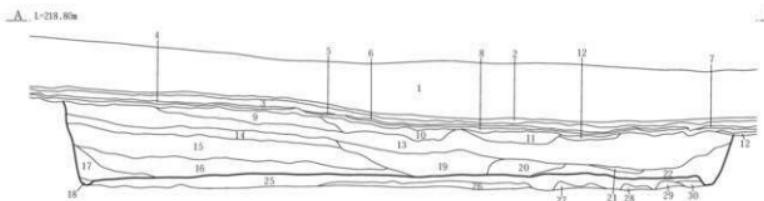
P5 長径0.45m 短径0.33m 深さ0.45m

P6 長径0.32m 短径0.21m 深さ0.48m

P7 長径0.62m 短径0.31m 深さ0.32m

P8 長径0.35m 短径0.23m 深さ0.47m





7区9号堅穴建物A-A'

- 1 Si
- 2 Si
- 3 Si
- 4 Si
- 5 Si
- 6 Si
- 7 Si
- 8 Si
- 9 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、暗褐色土を含む。
- 10 黑褐色土(10YR2/2)地土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含む。
- 11 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含む。
- 12 黑褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含み、粘性を有し縮りあり。
- 13 黑褐色土(2,5Y3/1)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 14 黑褐色土(2,5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含む。
- 15 黑褐色土(2,5Y3/1)粘性が強く、縮っている。黄褐色粒子を含む。
- 16 黑褐色土(10YR2/1)粘性が強く、縮っている。
- 17 黑褐色土(2,5Y3/1)灰白色細粒を少量含み、粘性をもつ。
- 18 黑褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 19 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含む。
- 20 黑褐色土(10YR2/2)地土粒、ローム粒を少量含む。
- 21 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、暗褐色土を含む。
- 22 黑褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含む。
- 23 黑褐色土(2,5Y3/1)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 24 黑褐色土(10YR2/3)地土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含む。
- 25 黑褐色土(2,5Y3/2)にぶい黄褐色粒を含み、上面は硬化し床面を形成する。
- 26 黑褐色土(10YR3/1)地土粒を含み、粘性をもつ。
- 27 黑褐色土(2,5Y3/1)灰白色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 28 黑褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を含み、粘性をもつ。
- 29 黑褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒、ローム粒を含み、粘性をもつ。
- 30 黑褐色土(10YR3/1)灰白色粒少量、暗褐色土粒を少量含む。

B-B', L=218.10m

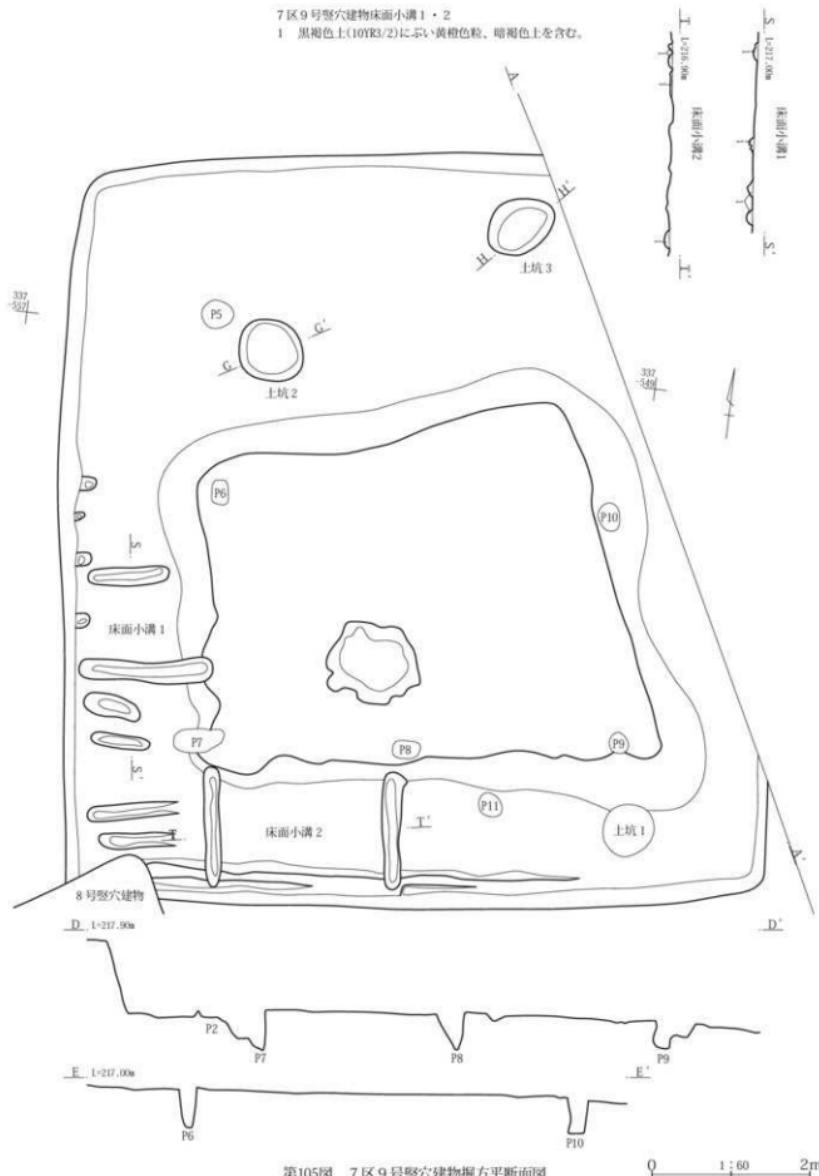
P5  
P6  
P7

C-C', L=217.60m

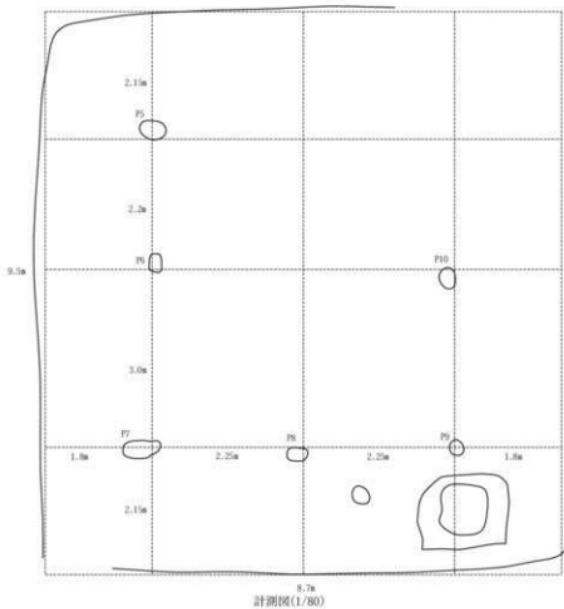
P10  
P9  
P8  
上坑1

0 1:60 2m

第104図 7区9号堅穴建物断面図



第105図 7区9号墳穴建物掘方平面図



第106図 7区9号竪穴建物計測図

P 9 長径0.28m 短径0.24m 深さ0.35m

P 10 長径0.36m 短径0.28m 深さ0.44m

P 11 長径0.33m 短径0.28m 深さ0.25m

**貯蔵穴** 土坑1が貯蔵穴に相当すると考えられる。

竪穴建物の南東隅、南壁よりに中段部分を含めると、南北0.8m、東西0.8m、深さ0.80mに構築されていた。貯蔵穴の周囲は、方形状に区画され、区画部分を含むと、南北1.3m、東西1.5mを測る。底面は、方形区画のほぼ中央部に位置し、60cm四方に掘り窪められ、底面は比較的平坦に掘削されている。南側は壁際溝に連絡する形態を呈しており、堆積土層中は、ローム質黄色土をブロック状に含み、炭化物を多量に含有していた。出土遺物は、覆土中に表の破片が出土するのみであった。

**壁際溝** 幅10cm深さ15cmの断面形態がV字状を呈する形で壁際を全周するが、機能を示すものは確認されていない。

**床面小溝** 西壁に6本、南壁に2本確認されている。長

さ150cm、幅20cmを測り、規則的に構築されている。

**掘方** ロームを20cm掘り込んで構築されており、不明瞭であるが、掘削する際の工具痕が確認されている。中央部6m四方は方形の皿状に若干掘り窪められていた。

**床下土坑** 堀方調査時北側で2基確認されている。土坑は深さ40cmを測り、床下土坑の可能性が考えられるが、土坑2・3は浅いため、床形成時のものと考えられる。

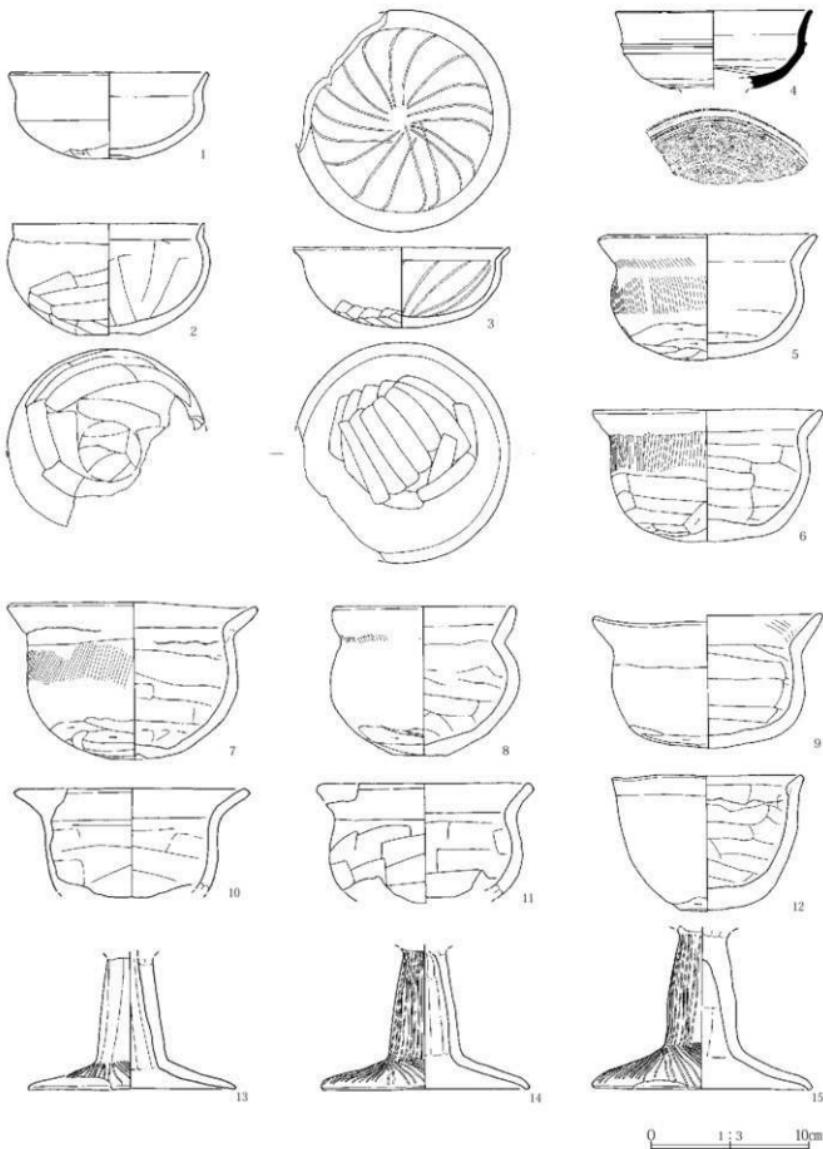
**遺物と出土状況** 貯蔵穴付近に杯が多く確認された。

**調査所見** 北壁付近に長さ2.8mに渡って焼土の範囲を確認したが、床面に炭化材等出土しておらず、壁面から流出した状態で確認されていることから、廃絶時に収入したものと判断される。

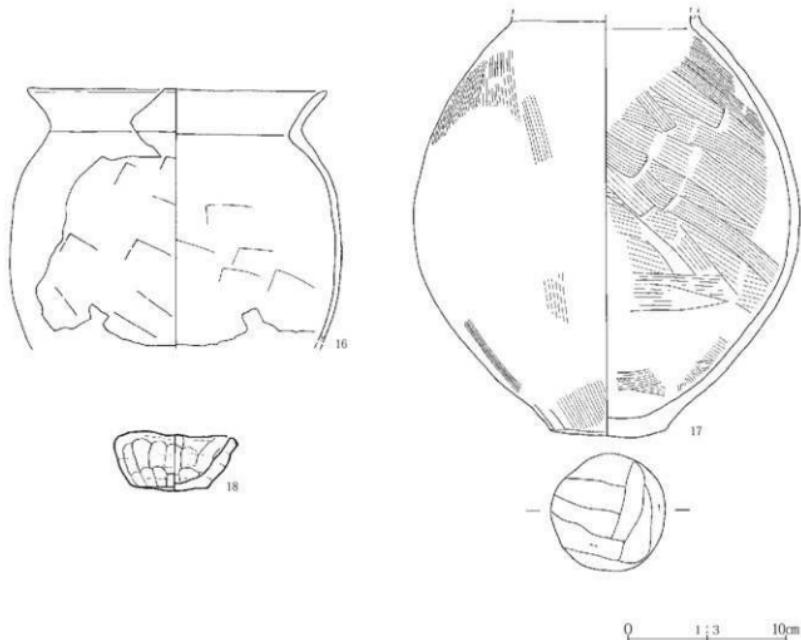
7区10号竪穴建物(第109～111図 PL.31～33・75)

**位置** X=57319～57326・Y=-75548～-75555

**重複** 本竪穴建物の西側に8号竪穴建物の東隅を壊す形で位置しており、8号竪穴建物よりも新しいと判断され



第107図 7区9号整穴建物出土遺物図(1)



第108図 7区9号竪穴建物出土遺物図(2)

る。

**平面形** 北、西側は、直角に屈曲する形で、形成されているが、南隅が外へ若干出っ張ることによって、東隅は外側へ出っ張り、南隅は内角に窄まる形で形成されている。平面形は、各隅が丸みを帯びた形状を呈しており、隅丸方形状に構築されていた。

**規模** 北西壁長3.95m 南西壁長4.45m

南東壁長3.60m 北東壁長3.60m

**床面積** 17.28m<sup>2</sup>      **主軸方位** N-55° - E

**検出・埋没状況** 第8面の遺構確認時に、本竪穴建物の平面プランが確認された。本竪穴建物は、黒色土中に構築された建物で、覆土も黒色土を主体としていた。覆土は、周堤からの流入土と考えられ、竪穴建物を構築する際に生じたローム質黄色土をブロック状に多く含有していた。

**周堤** 本竪穴建物の北東から南東にかけて周堤と思われ

る高まりが確認できるものの、周辺の1号竪穴建物、9号竪穴建物に付随する可能性が高い。西側では、周堤と思われる高まりは確認できなかった。竪穴建物の第8面相当の地表面から床面までは、北西壁で、1.0m前後を測っており、竪穴建物の規模からも50cm程の高さを有する周堤が構築されていたと想定される。

**上屋構造・壁構造** 建物床面上に炭化材、焼土、灰等焼失痕跡が部分的に遺存する。炭化材の出土状況では建物外周から内側に向かって炭化した垂木が確認されている。下端部は竪穴内に落ち込み炭化し、中央部分では認められない。垂木炭化材が認められない範囲は、P1・P2・P7・P8で囲まれる範囲と一致することから、主柱間に設置した梁に垂木を懸架していたことが推定できる。なお、炭化材等の焼失面で主柱痕跡が穴状に検出されているが、炭化柱材は認められていない。このことから、床面上の主柱が焼失し、柱穴中の柱材は腐朽分解

したものとみられ、上屋が燃え落ちた後に柱材痕跡が空洞化したものと考えられる。P12付近では、上屋材とみられる繊維状の炭化材が確認されており、灰が混在することから土屋根が焼失した際に崩落したものと考えられる。壁面には、若干の炭化物の残存が確認できたが、壁構造の特定には至らなかった。

**床面** 床面の高さは、216.25～216.37mを測り、ほぼ平坦面を形成している。最大15cm幅でローム質の黄色土が混在した床が確認された。建物中央部、直径1.2mの範囲に硬化面が確認された。硬化面は、長期間使用されたことで、形成されたと考えられ、下部には床下土坑が構築されていることから、関連性が想定される。

**柱穴** 床面調査時にP1～P13を確認した。P1、P2、P7、P8は柱痕状の縦位堆積が確認されたことから、主柱穴と判断される。主柱穴は、方形の掘立柱を構成する。P1とP2、P2とP7間は1.6mを測る。P2とP7間には、P4とP5が50～60cm間隔で構築されていた。性格としては、入り口施設と考えられる。P8の南側には、P9とP10が北東壁に併行する形で、構築されている。深さは6cmと浅く、形状は円形を呈する。P10の上面には、炭化材が出土しており、柱材が敷設されていたと類推されることから、上屋構造の強度を補う性格を持っていたと考えられ、P6やP12、P13も同様の性格を有していたと考えられる。柱穴の規模は下記の通りである。

P 1	長径0.18m	短径0.15m	深さ0.27m
P 2	長径0.48m	短径0.45m	深さ0.60m
P 4	長径0.22m	短径0.21m	深さ0.30m
P 5	長径0.32m	短径0.22m	深さ0.38m
P 6	長径0.29m	短径0.26m	深さ0.37m
P 7	長径0.36m	短径0.27m	深さ0.42m
P 8	長径0.27m	短径0.24m	深さ0.49m
P 9	長径0.38m	短径0.37m	深さ0.09m
P 10	長径0.34m	短径0.25m	深さ0.08m
P 11	長径0.34m	短径0.33m	深さ0.17m
P 12	長径0.20m	短径0.17m	深さ0.06m
P 13	長径0.44m	短径0.43m	深さ0.19m

**竈** 北東壁の中央に位置に敷設されていた。残存する竈の規模は、確認長0.80m、幅0.70m、燃焼部長0.36m、幅0.40m、煙道部長0.20mを測る。燃焼部は浅く掘られ、

高杯が逆位に配置されていた。高杯は火熱を受け赤く変色し、燃焼面は焼土、灰、炭化物が多量に堆積していた。燃焼部両側面部には、袖が構築されており、左袖は長さ0.74m、幅0.24m、高さ0.20m、右袖は長さ0.80m、幅0.22m、高さ0.22mを測る。袖は黄色粘土を使用し、まだらに火熱によって赤く変色していた。燃焼部入口部には、両袖部に軸として30cm程の砾を縦位配置し、これらの石の上に横位に角礫を架けていた。石は特に内側が火熱によって赤く変色していた。焚き口部は、B断面をみると、若干皿状に掘り窪められているように見受けられるが、明確な掘り込みは確認できなかった。煙道部は、長さ20cmに渡って確認でき、7層が本体と思われ、上屋は、粘土で作られており、火熱で赤く変色していた。煙道の勾配は、70°を測る。煙出し部分は確認できなかった。竈の堀方は長さ0.70m、幅0.80mの方形を呈し、深さ10cm前後である。

**貯蔵穴** 本竪穴建物の北東隅に構築された土坑1が貯蔵穴に該当する。方形を呈し、中央部は円形に掘られている。中段部は深さ4cm、中央部は40cmを測る。堆積土は黒色土を主体として、焼土を含有する。

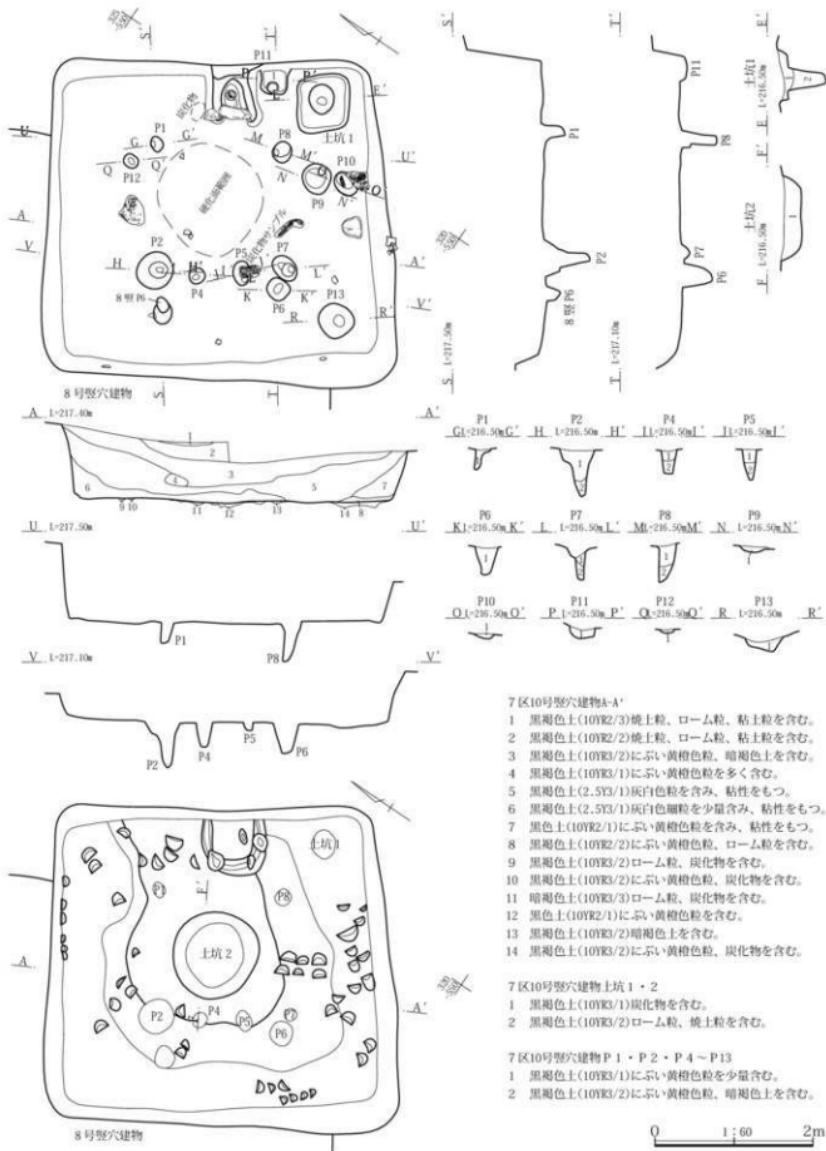
**壁際溝** 確認されていない。

**掘方** ローム面を5～10cmと浅く掘られ、部分的に掘削の際に生じた工具痕を有する。工具痕に規則性はなく、平坦面を形成する為にある程度掘削したと考えられる。

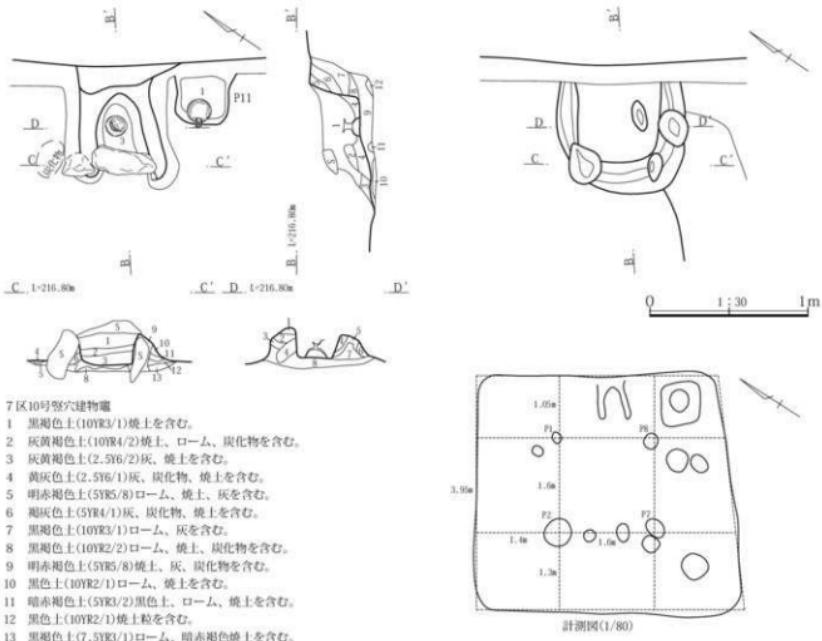
**床下土坑** 堀方調査時に本竪穴建物の中央部に確認した硬化面したから土坑2を確認した。規模は1.1×1.1mの円形を呈し、深さ25cmを測った。

**遺物と出土状況** 貯蔵穴付近に杯が多く確認された。堆積土は、ロームブロックを主体としたが、性格は確認できなかった。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の焼失竪穴建物である。垂木と考えられる建物部材が竪穴外周に沿って放射状に認められることから、上屋ごと焼失し梁が燃え落ち、同時に垂木も建物内に倒れ込んだものとみられる。炭化材と共に灰も堆積することから、屋根材とした植物の燃焼痕跡と考えられる。さらに、炭化材、灰を覆うように焼土の堆積が観察される。焼土は炭化材や灰が混在する部分もあり、同様の焼失経過により形成されたものと考えられる。この調査状況から植物材による屋根上に土を被覆していた「土屋根」の竪穴建物である可能性が高いと



第109図 7区10号型穴建物平面図



第110図 7区10号堅穴建物図

判断される。建物内部での燃焼が進み、上屋が燃え落ちた段階で土屋根が崩落し、その土の被覆により酸素の供給が遮断されることで建築部材が炭化したものと考えることができる。出土遺物は、竈付近を除いて、破片のものが多く、埋没課程で流れ込んだものが大半を占めたため、焼失時にはすでに廃絶していた可能性も考えられ、人為的に火させたことも想定される。

また燃焼部の支脚として、高杯を使用しており、竈の構造を知る上で、評価できる。

#### 7区11号堅穴建物(第112～116図 PL.34-76)

位置 X=57318～57326・Y=-75558～-75566

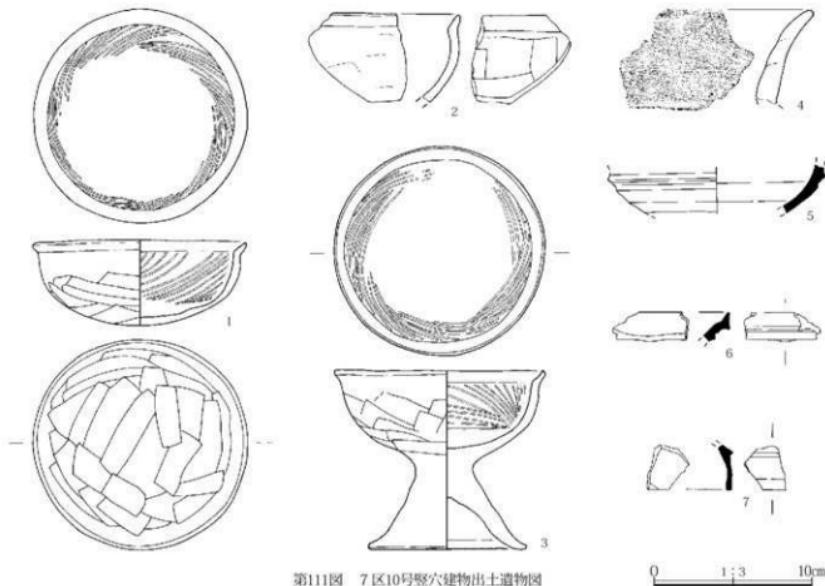
**重複** 東側半分を8号堅穴建物によって、壊されていることから、本堅穴建物が古くと判断される。また本堅穴建物の南側の竈、床面の一部を擾乱によって消失している。

**平面形** 東側は8号堅穴建物、南隅は調査区外にあるため、全体の約1/3のみ調査が及んでいないことから、全体像は不明確である。西隅は直角に屈曲する形で構築され、残存する北壁、西壁も直線的に構築されていることから、方形を呈していたと判断される。

**規模** 壁面が、部分的にしか残っていないため、不明確であるが、残存する壁面から、東西5.5m、南北5.2m程度と推測される。

**検出・埋没状況** 第8面の遺構確認時に、本堅穴建物の平面プランが確認された。本堅穴建物は、黒色土中に構築された建物で、覆土も黒色土を主体としていた。覆土は、周堤からの流入土と考えられ、堅穴建物を構築する際に生じたローム質黄色土をブロック状に多く含有していた。

**周堤** 本堅穴建物の南側にかけて周堤と思われる高まりが確認できるものの、周辺の8号堅穴建物に付随する可



第111図 7区10号竪穴建物出土遺物図

能性が高い。北側では、周堤と思われる高まりは確認できなかった。竪穴建物内に流入したと考えられる。竪穴建物の第8面相当の地表面から床面までは、北西壁で、60cm前後を測っており、8号竪穴建物の影響を考えれば、床面までの高さは1m前後になったと考えられ、周堤は竪穴建物の規模からも、60cm程の高さを有する周堤が構築されていたと想定される。

**上屋構造・壁構造** 建物の床面上南側において炭化材、焼土、灰等焼失痕跡が部分的に遺存する。炭化材の出土状況では建物外周から内側に向かって炭化材が確認され、垂木と想定される。壁面には、若干の炭化物の残存が確認できたが、壁構造の特定には至らなかった。

**床面** 全面に硬化した部分が認められた。掘方面から5cm程の厚さで貼り床がされていた。貼り床は、ローム質の黄色土で、竪穴建物構築時に生じた土を使用したものと判断される。床面直上には、焼土と炭化材が集中していた。竪付近のものは、竪使用の際に生じたものと考えられ、その他床面のものは、焼失時に発生したものと考えられる。

**柱穴** 床面調査時にP1、P2を確認した。本竪穴建物の東側半分は、8号竪穴建物によって壊されており、P4は8号竪穴建物の壊方調査時に確認された。8号竪穴建物のP12として調査した柱穴は、位置的に11号竪穴建物の柱穴と判断されることから、本竪穴建物の柱穴(P4)として扱った。確認された柱穴には、柱状の縦位堆積が確認されたことから、主柱穴と判断される。

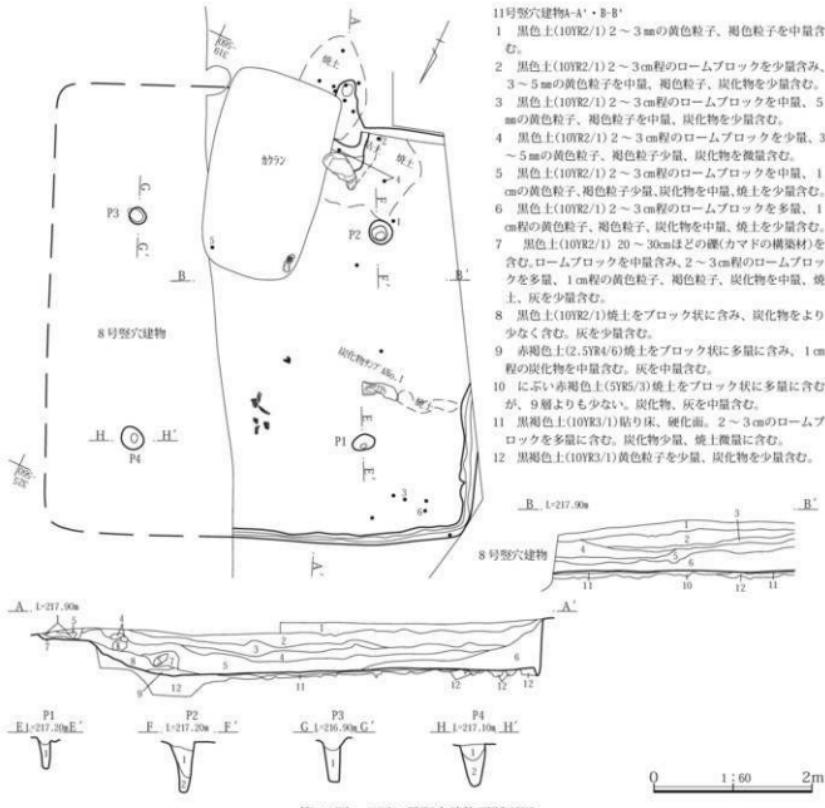
P1 長径0.30m 短径0.20m 深さ0.45m

P2 長径0.32m 短径0.29m 深さ0.67m

P3 長径0.22m 短径0.22m 深さ0.51m

P4 長径0.31m 短径0.26m 深さ0.53m

**竪** 南東壁の中央に敷設されていた。残存する竪の規模は、確認長1.20m、燃焼部長0.60m、幅0.40m、煙道部長0.60mを測る。東側は、擾乱によって壊されており、不明である。燃焼部は浅く掘られ、天井石が袖に架かった状態で確認できた。天井石は50cm程の川原石を横位に据え、表面は火熱を受け、変色していた。燃焼面は焼土、灰、炭化物が多量に堆積していた。燃焼部右側面部には、袖が構築されており、右袖は長さ0.80m、幅0.22m、高



第112図 7区11号堅穴建物断面図

さ0.22mを測る。左袖も同様の形状だったと想定される。袖は黄色粘土を使用し、まだらに火熱によって赤く変色していた。燃焼部入口部には、両袖部に軸として30cm程の礫を縱位配置し、これらの石の上に横位に角礫を架けていた。石は特に内側が火熱によって赤く変色していた。煙道の勾配は、60°を測る。煙出し部分は確認できなかつた。竈の堀方は長さ0.70m、不整形を呈し、最大深さ10cm程に掘られていた。

#### 貯藏穴 確認されていない。

壁際溝 堪穴建物の重複や調査区外にかかっているため、北西部のみ確認できた。幅は10cm、深さ15cm、皿状

#### 11号窓穴建物A'-B'・B''

- 1 黒色土(10YR2/1)2~3mmの黄色粒子、褐色粒子を中量含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)2~3cm程のロームブロックを少量含み、3~5mmの黄色粒子を中量、褐色粒子、炭化物を少量含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)2~3cm程のロームブロックを中量、5mmの黄色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)2~3cm程のロームブロックを少量、3~5mmの黄色粒子、褐色粒子少量、炭化物を微量含む。
- 5 黒色土(10YR2/1)2~3cm程のロームブロックを中量、1cmの黄色粒子、褐色粒子少量、炭化物を中量、焼土を少量含む。
- 6 黒色土(10YR2/1)2~3cm程のロームブロックを多量、1cmの黄色粒子、褐色粒子、炭化物を中量、焼土を少量含む。
- 7 黒色土(10YR2/1)20~30cmほどの中層(カマドの構築材)を含む、ロームブロックを中量含み、2~3cm程のロームブロックを多量、1cm程の黄色粒子、褐色粒子、炭化物を中量、焼土を少量含む。
- 8 黒色土(10YR2/1)焼土をブロック状に含み、炭化物をより少なく含む。灰を少量含む。
- 9 赤褐色土(2.5YR4/6)焼土をブロック状に多量に含み、1cm程の炭化物を中量含む。灰を中量含む。
- 10 に赤い赤褐色土(5YR5/3)焼土をブロック状に多量に含むが、9層よりも少ない。炭化物、灰を中量含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1)貼り床、硬化面。2~3cmのロームブロックを多量に含む。炭化物少量、焼土微量に含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/1)黄色粒子を少量、炭化物を少量含む。



#### の断面形態を有する。

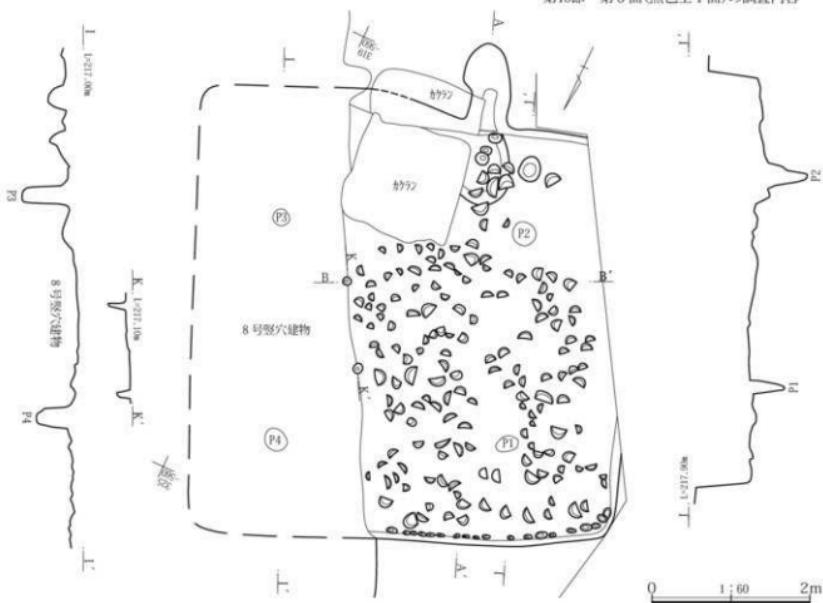
**掘方** 床面から5cm程掘り下がった面で確認できた。掘り方面には、工具痕が全面に確認できたが、規則性はない。

#### 床下土坑 確認されていない。

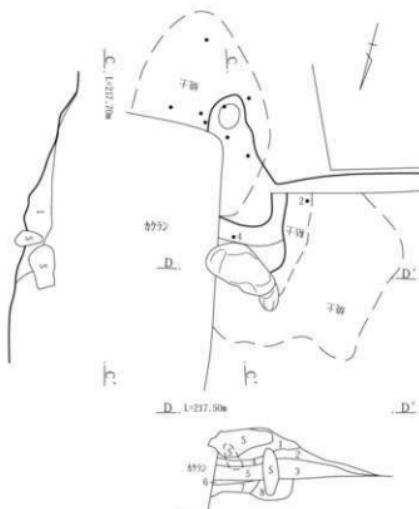
#### 遺物と出土状況 窟周辺に確認された。

**調査所見** 調査状況などから、消失建物と判断される。遺物は窺周辺から出土しており、5世紀末の堪穴建物と判断される。

#### 時期 5世紀末



第113図 7区11号窓穴建物掘方断面図



第114図 7区11号窓穴建物窓断面図

## 11号窓穴建物 P 1

1 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを含み、黄色粒子を少量、黃色粒子を含む。

## 11号窓穴建物 P 2

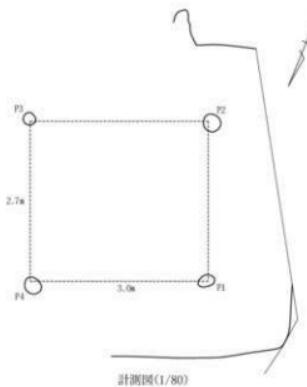
1 黒褐色土(10YR3/1) 5 mmの黄色粒子中量、炭化物を少量含む。  
2 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロック多く含む。

## 11号窓穴建物 P 3・P 4

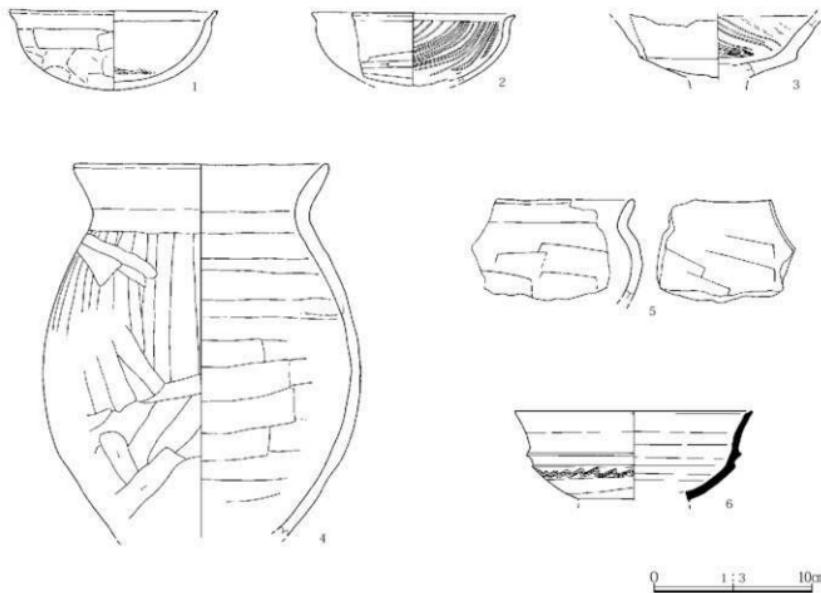
1 黒褐色土(10YR3/1) 5 mmの黄色粒子中量、炭化物を少量含む。  
2 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを含み、黄色粒子を中量含む。

## 11号窓穴建物窓

- 1 黒色土(10YR2/1) 5 mm～1 cm程に焼土をブロック状に含み、5 mm程の炭化物を中量、黄色粒子をブロック状に少量含む。
- 2 褐色土(17.5YR4/3)ロームを主体に含み、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土(15YR3/4)ブロック状に焼土、黄色粒子を中量含み、炭化物を中量、灰を少量含む。
- 4 暗赤褐色土(15YR3/3)焼土主体、炭化材と灰を中量含む。
- 5 灰黃褐色土(110R5/2)ロームブロックを多量に含み、炭化物を少量含む。
- 6 黒色土(110YR2/1) 5 mm黄色粒子、炭化物を少量含む。
- 7 黒色土(110YR2/1) 1 cmのロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。
- 8 黑色土(110YR2/1) 3～5 mmの焼土、炭化物を少量含む。



第115図 7区11号竪穴建物計測図



第116図 7区11号竪穴建物出土遺物図

## 2. 土坑

7区30号土坑(第117図 PL.16)

位置 X=57315 ~ 57317・Y=-75559 ~ -75560

重複 3号竪穴建物、34号土坑と重複関係をもつ。

平面形 楕円形

長軸方位 N-69° -W

規模 長軸0.90m 短軸0.83m 深さ0.13m

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物より新しいとの調査所見を得ている。34号土坑底面で検出されているが、新旧関係は特定できていない。検出状況からは同一土坑の可能性もある。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 底面はやや起伏をもつ皿状断面を呈するが、34号土坑と関連をもつ可能性がある。

7区31号土坑(第117図 PL.16-76)

位置 X=57313 ~ 573316・Y=-75559 ~ -75561

重複 3号竪穴建物と重複するが、建物の床下土坑の可能性もある。

平面形 楕円形

長軸方位 N-38° -E

規模 長軸1.39m 短軸1.10m 深さ0.30m

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物床面下で検出された土坑で、竪穴掘方内で完結することから床下土坑の可能性がある。

**遺物と出土状況** 埋没土から土器片が出土している。

**調査所見** 有段土坑で底面は平坦面となる。土坑壁は竪穴壁に連続し、一連の掘削行為により形成されたことが考えられる。

7区32号土坑(第117図 PL.16)

位置 X=57312 ~ 57313・Y=-75558 ~ -75560

重複 3号竪穴建物床面を切っている。

平面形 楕円形

長軸方位 N-77° -E

規模 長軸0.83m 短軸0.67m 深さ0.08m

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物床面を掘り込む状態で検出された。浅い皿状断面を呈し、底面は渦曲気味の小規模土坑である。竪穴建物埋没後に掘り込まれた土坑か、竪穴廃絶時に伴うものかについては有効な情報が得られ

ていない。

**遺物と出土状況** 埋没土から土器片が出土している。

**調査所見** 床面を切った状態で確認されているが、建物との時間的関係は不明である。

7区33号土坑(第117図 PL.16)

位置 X=57306 ~ 57308・Y=-75554 ~ -75556

重複 3号竪穴建物と重複し南西壁は調査区外になる。

平面形 楕円形

長軸方位 -

規模 長軸1.07m 短軸 - 深さ0.67m

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物埋没土層を切った状態で確認された。円筒形断面を呈し、開口部が広がる形態を示すが、用途については不明である。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 土坑上部は広がりを有するが、ローム層を掘り込む下部は円筒形に掘削される。底面は平坦で比較的深度は深い土坑であるが、地下水が湧出するものではない。貯蔵用として機能した可能性もある。

7区34号土坑(第117図 PL.16)

位置 X=57315 ~ 57317・Y=-75558 ~ -75561

重複 3号竪穴建物、30号・31号土坑と重複する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-52° -E

規模 長軸2.08m 短軸1.80m 深さ0.62m

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物埋没土層を切った状態で確認された。円筒形断面を呈し、ほぼ垂直に立ち上がる。用途については不明である。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 黒色土層に構築され、底面はローム層となるが、機能を示す調査所見は得られていない。

7区72号土坑(第117図 PL.16)

位置 X=57318 ~ 57319・Y=-75559 ~ -75560

重複 3号竪穴建物と重複する。

平面形 楕円形

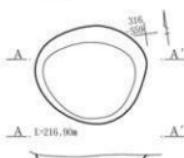
長軸方位 -

規模 長軸0.52m 短軸 - 深さ0.65m

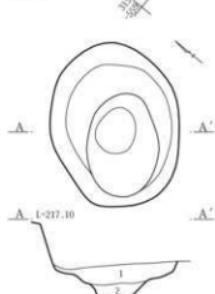
**検出・埋没状況** 8号竪穴建物西壁面で確認された土坑

#### 第4章 出土した遺構と遺物

7区30号土坑

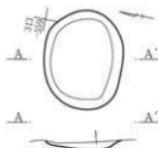


7区31号土坑



0 1 : 3 10cm

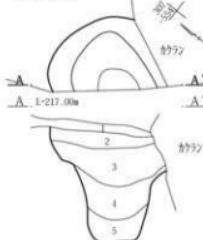
7区32号土坑



7区30～32号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)指頭大のロームブロック。ローム粒を混入し、粘性やや弱く  
繊りに乏しい。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)拳大のロームブロックを多く含み、粘性を有し繊っている。

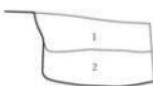
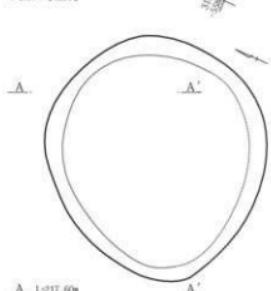
7区33号土坑



7区33号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック、ローム粒を混入する4号堅穴建物周堤盛上。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を少量含み、粘性をもつ。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒含み、粘性をもつ。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロック、ローム粒を含み、繊りに乏しい。
- 5 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック、ローム粒を多く含み、繊りに乏しい。

7区34号土坑



7区34号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) ローム粒を少量含み、粘性を有し繊っている。
- 2 黒色土(10YR1.7/1)ロームブロック。ローム粒を少量含み、粘性をもつ。

7区72号土坑



7区72号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPを多く混入し、砂質で繊りに乏しい。

0 1 : 40 1m

第117図 7区30～34・72号土坑平面面図・31号土坑出土遺物図

で、円筒形壇断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていないが、角礫(30cm大)が埋没土中から出土した。

**調査所見** 8号竪穴建物有壁面で断面確認された土坑であり、新旧関係は特定できていない。

### 3. 遺物集中

第9面遺構調査に伴い、遺構外において遺物集中地点が確認されている。

検出地点は、いずれも竪穴建物に近接するが竪穴建物造営もしくは廃絶に伴い形成された可能性も考えられるが、その関連性については不明である。

### 7区1号遺物集中(第118図 PL.58-76)

**位置** X=57314～57318・Y=-75552～-75557

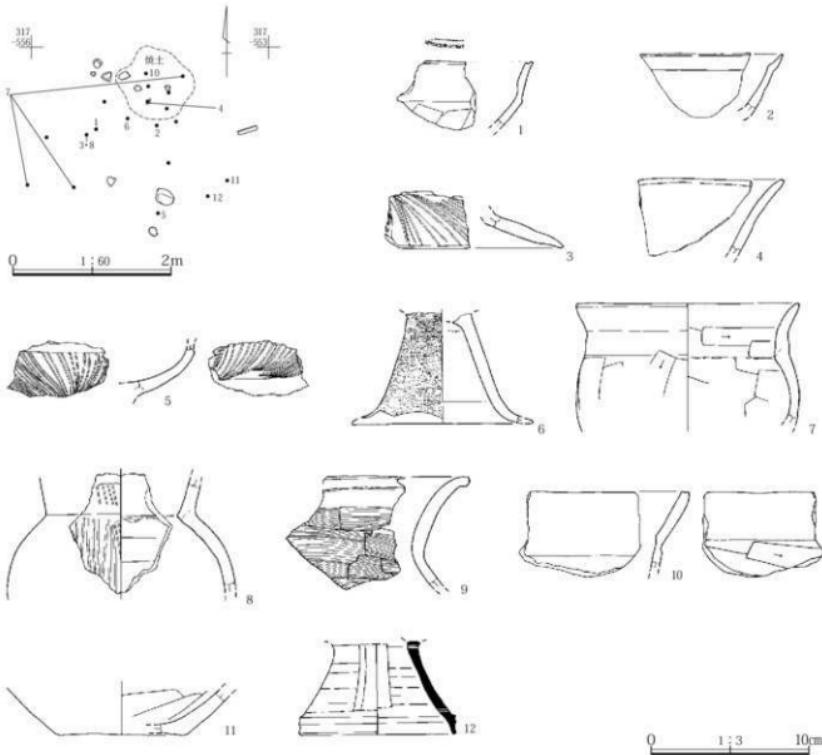
**重複** 3号竪穴建物北壁部に接するが、時間的前後関係に関しては不明である。

**平面形** 不整橢円形 **長軸方位** N-76° -E

**規模** 3.1m×2.4m前後の範囲に集中する。

**検出・埋没状況** 黒色土中に検出され土器片と共に焼土の散布も確認される。なお、焼土は確認されるが、燃焼材もしくは炭化物はほとんど認められることから、この場での燃焼行為によるものかについては特定できない。

**遺物と出土状況** 土師器甕、壺、高杯、杯類の破片が散布する。



第118図 7区1号遺物集中平面図・出土遺物図

**調査所見** 土器類の破片散布と焼土の検出により遺物集中として資料化したが、性格については不明である。白玉等の祭祀具の検出はないことから、祭祀的意味は少ないと思われるが、特定はできない。

7区2号遺物集中(第119・120図 PL.58-76-77)

位置 X=57301～57307 Y=-75539～-75543

重複 2号竪穴建物西側周堤端部に接するが、時間的前後関係に關しては不明である。

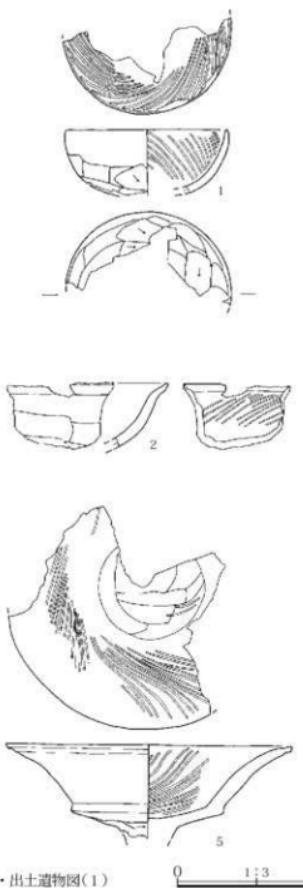
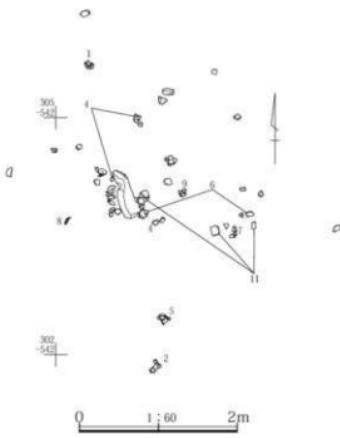
平面形 不整椭円形 長軸方位 N-11°-W

規模 4.8m×3.8m前後の範囲に集中する。

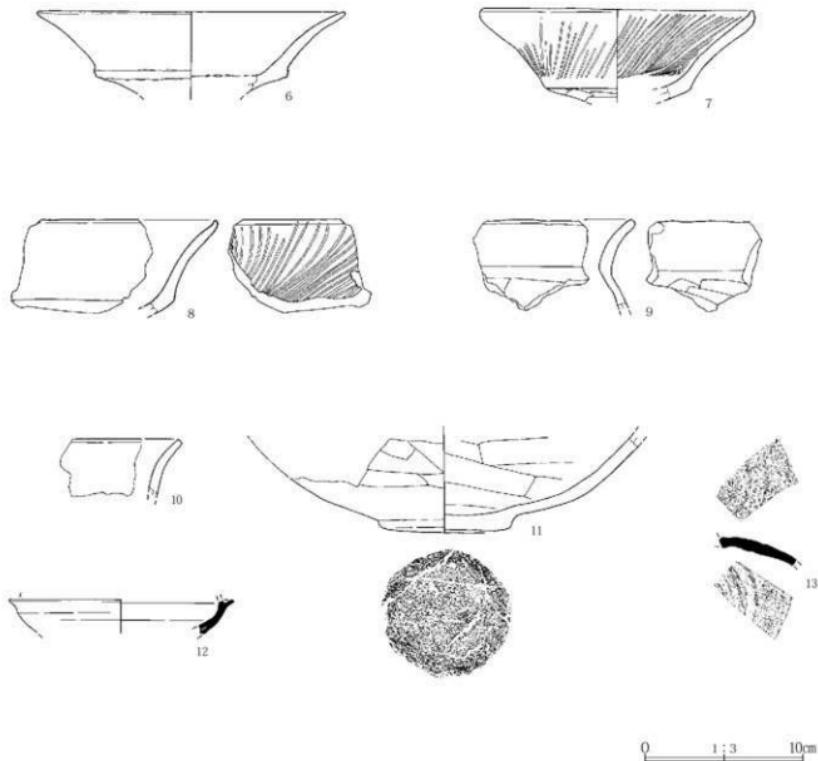
検出・埋没状況 2号竪穴建物西側周堤端部にあたる黒色土中に検出され土器片と共に礫も確認される。

遺物と出土状況 磚の周間に甕、高杯、杯等の土器片が集中することで、遺物集中地点として記録した。面的に散布するが性格は不明である。2号竪穴建物に接するが、時間的前後関係および関連性も特定できない。

**調査所見** 土器類の破片散布と礫の検出により遺物集中



第119図 7区2号遺物集中平面図・出土遺物図(1)



第120図 7区2号遺物集中出土遺物図(2)

として資料化したが、性格については不明である。白玉等の祭祀具の検出はないことから、祭祀的意味は少ないとみられるが、特定はできない。

#### 7区3号遺物集中(第121・122図 PL.58-77)

**位置** X = 57302 ~ 57305 • Y = -75545 ~ -75548

**重複** 3号竪穴建物南西側周堤端部に接するが、時間的前後関係に関しては不明である。

**平面形** 不整梢円形 **長軸方位** N-10°-W

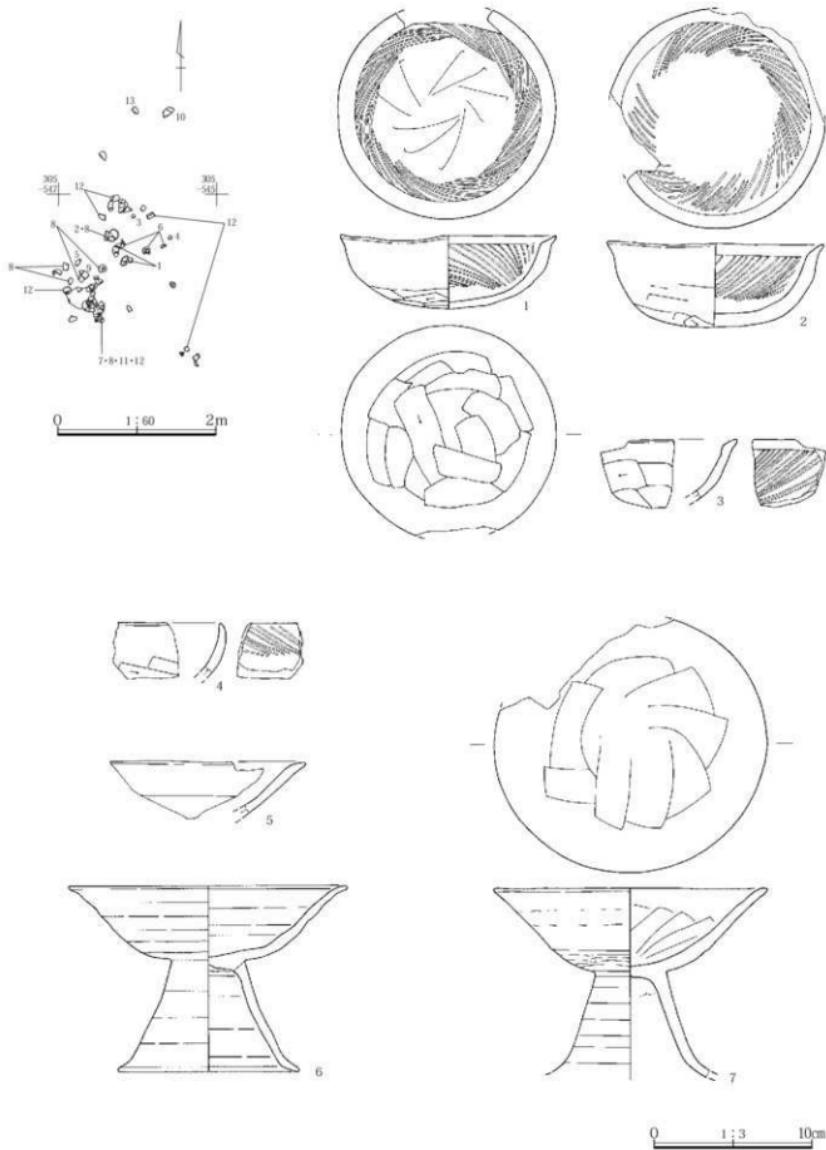
**規模** 4.3m × 2.2m 前後の範囲に集中する。

**検出・埋没状況** 3号竪穴建物南西側周堤端部にあたる

黒色土中に検出され土器類の集中散布が確認された。

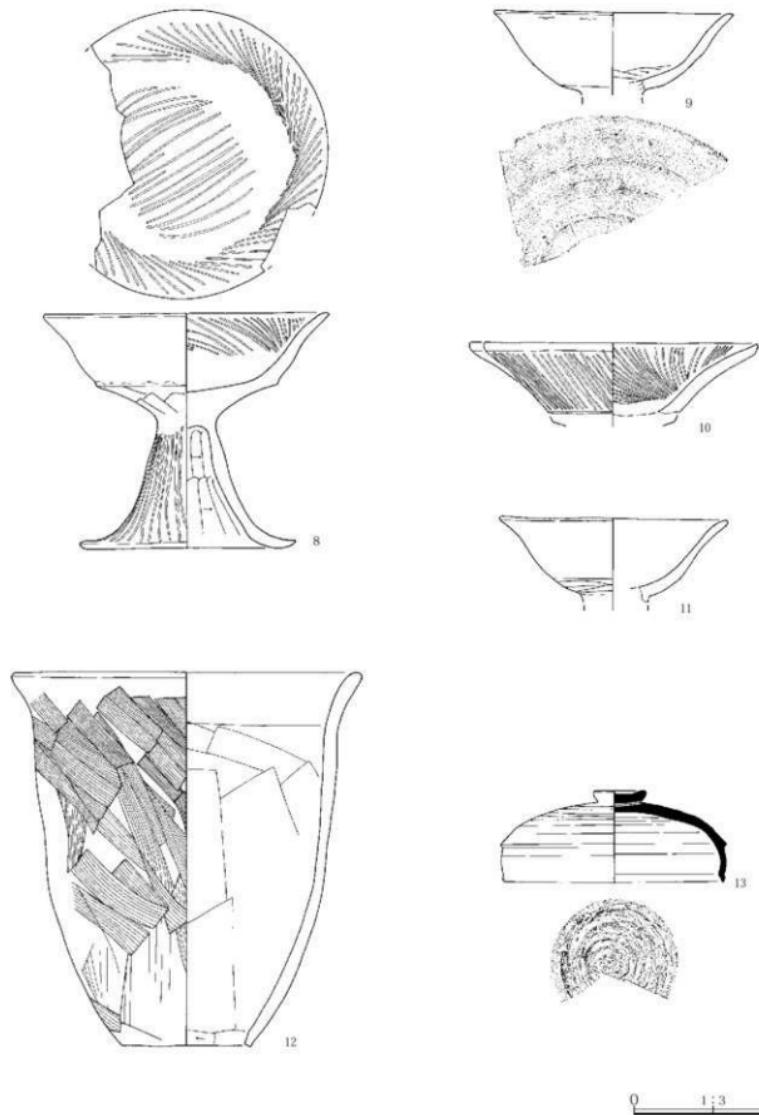
**遺物と出土状況** 杯、高杯、壺等の土師器を主体として平面的に集中散布していたことから、遺物集中として記録した。なお、焼土の散布は認められていない。3号竪穴建物周堤部に接するが、時間的前後関係および関連性も特定できない。

**調査所見** 土器類の破片散布により遺物集中として資料化したが、性格については不明である。白玉等の祭祀具の検出はないことから、祭祀的意味は少ないとみられるが、特定はできない。

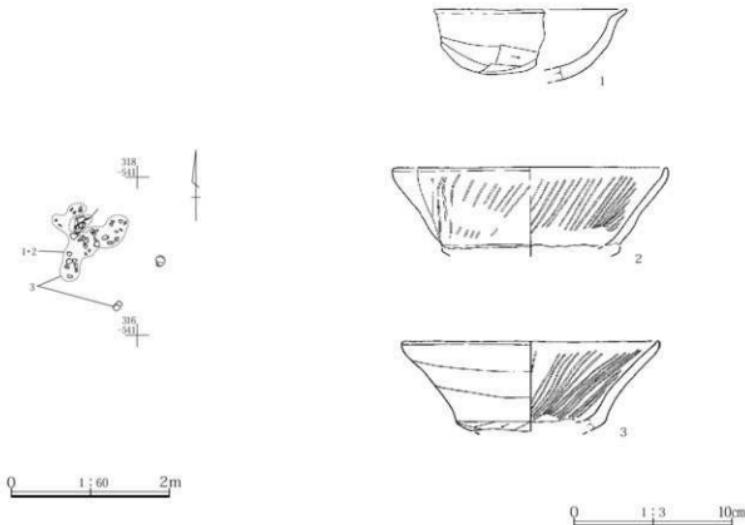


第121図 7区3号遺物集中平面図・出土遺物図(1)

第10節 第9面(黒色土1面)の調査内容



第122図 7区3号遺物集中出土遺物図(2)



第123図 7区4号遺物集中平面図・出土遺物図

## 7区4号遺物集中(第123図 PL.58・78)

**位置** X=57316 ~ 57317・Y=-75540 ~ -75542

**重複** 1号竪穴建物南壁部に接するが、時間的前後関係に関しては不明である。

**平面形** 不整橢円形 **長軸方位** N-47° -W

**規模** 1.70m×1.35m前後の範囲に集中する。

**検出・埋没状況** 1号竪穴建物西南壁に接した黒色土中に検出された。土師器片を主体に集中するが、竪穴建物との関連性は不明である。

**遺物と出土状況** 杯、高杯等の土器片が集中することで、遺物集中地点として記録した。面的に散布するが性格は不明である。1号竪穴建物に接するが、時間的前後関係および関連性も特定できない。

**調査所見** 土器類の破片散布により遺物集中として資料化したが、性格については不明である。白玉等の祭祀具の検出はないことから、祭祀の意味は少ないと思われるが、特定はできない。

## 4. 焼土

第9面の調査に伴い小規模な焼土が検出されている。燃焼材もしくは炭化物等の痕跡はほとんど認められないが、灰の散布は確認できることから、何らかの燃焼行為が行われたものと考えられる。

2号焼土、3号焼土は接近した位置に確認され、さらに1号竪穴建物および4号遺物集中にも近接するが、関連性については不明である。

## 7区2号焼土(第124図 PL.59・78)

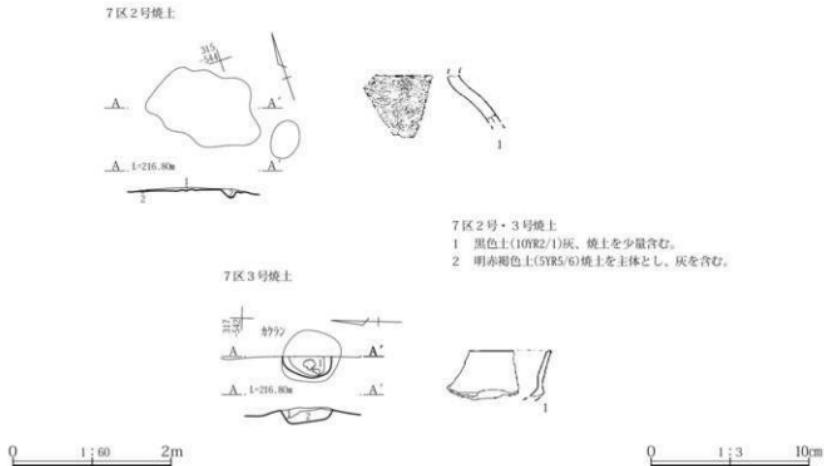
**位置** X=57313 ~ 57316・Y=-75543 ~ -75546

**重複** 直接的に影響をもつ遺構間重複ではないが、1号竪穴建物周堤内に位置するが、時間的前後関係は不明である。

**平面形** 不整橢円形 **長軸方位** N-72° -W

**規模** 1.50m×1.00m

**検出・埋没状況** 焼土が面的に広がりをもち、薄い層を形成し、この場での燃焼行為により形成されたものとみ



第124図 7区2・3号焼土断面図・出土遺物図

られる。

**遺物と出土状況** 焼土形成に伴う遺物は確認されないが、土器片が出土していることから2号焼土出土遺物として掲載した。

**調査所見** 燃焼行為により形成されたものとみられるが、性格については不明である。近接する1号竪穴建物の造営もしくは廻縁に関する可能性の考えられるが特定できる調査所見は得られていない。

#### 7区3号焼土(第124図 PL.59・78)

**位置** X=57315～57317・Y=-75542～-75543

**重複** 直接的に影響をもつ遺構間重複はないが、1号竪穴建物および4号遺物集中と近接した位置に存在する。また、2m前後南西側に2号焼土が位置することから、関連する可能性はあるが、特定できる調査所見は得られない。

なお、1号竪穴建物周堤内に位置するが時間的前後関係は不明である。4号遺物集中とも近接したことから関係を有する可能性が高いが、調査では別遺構として記録化している。

**平面形** 楕円形 **長軸方位** N-33°-W

**規模** 0.78m×0.70m

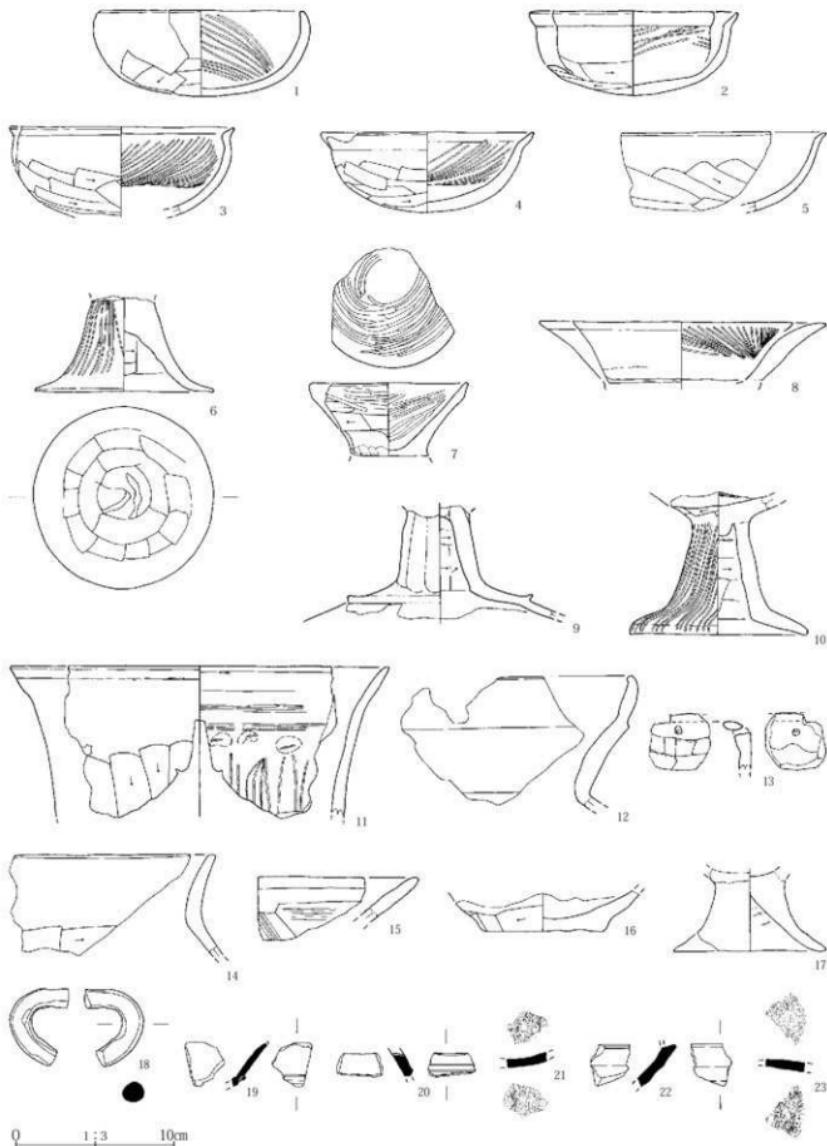
**検出・埋没状況** 焼土が面的に広がりをもつと共に層を形成し、この場での燃焼行為により形成されたものとみられる。

**遺物と出土状況** 焼土形成に伴う遺物は確認されないが、土器片が出土していることから3号焼土出土遺物として掲載した。

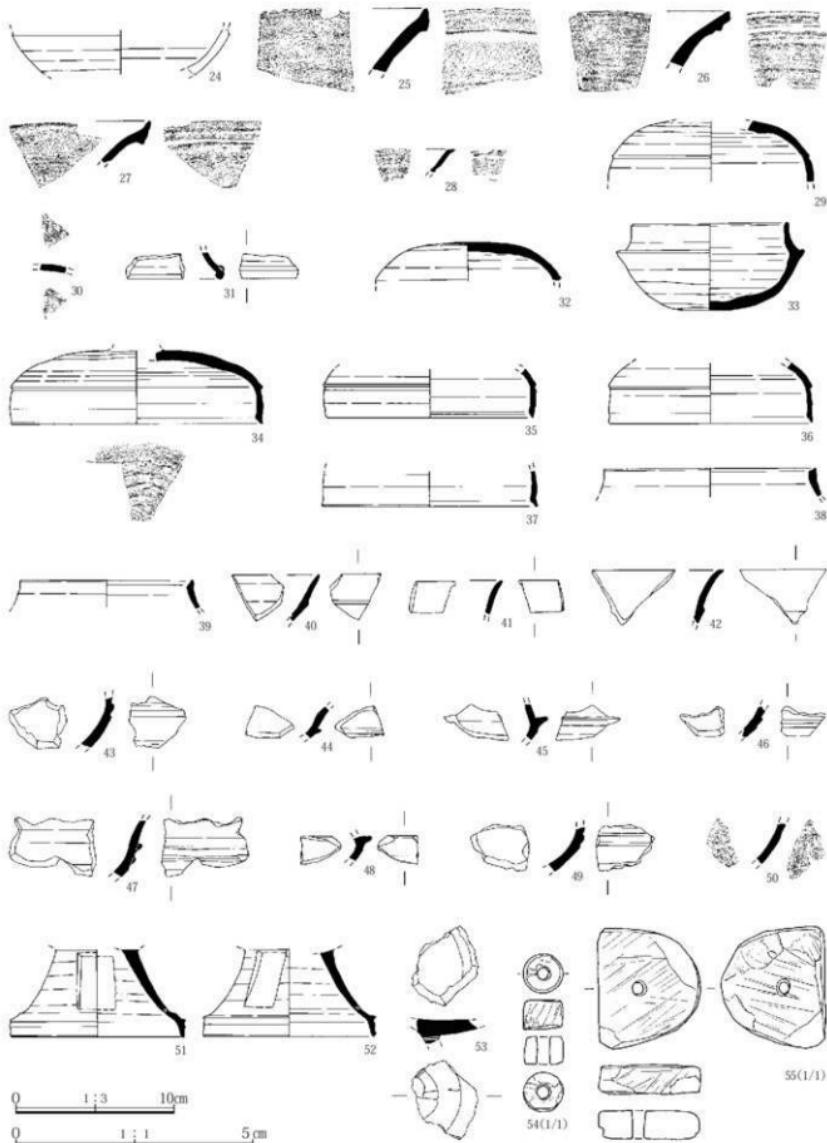
**調査所見** 燃焼行為により形成されたものとみられるが、性格については不明である。近接する1号竪穴建物および4号遺物集中と関連する可能性が高いが、特定できる調査所見は得られていない。

#### 5. 遺構外の遺物(第125・126図 PL.78・79)

第8面調査後、黒色土中の遺構検出に伴い第9面とした遺構群が確認されたが、その過程で土器類が出土している。遺構に伴出する出土状態ではなく、黒色土中から検出されたものである。第8面下層の黒色土層には、第9面および第10面とした遺構群が存在するが、各遺構の離れた造営に伴う擾乱の影響で、黒色土中に散逸したものとみられる。すなわち、第9面、第10面と関連する遺物の混在状況が示される遺物群といえる。これらについて、遺構外の遺物として一括して報告する。



第125図 7区遺構外出土遺物図(1)



第126図 7区遺構外出土遺物図(2)